

子どもの生活実態調査報告書
【結果版】

平成30年6月

八王子市

【集計方法など】

- 本報告書においては、クロス表の掲載の際には、 χ^2 二乗検定^{※1}によって分布が統計的に有意である^{※2}かを検定している（特段の記述が無い限りは、無回答を除いて検定している）。その結果、1%範囲で有意である^{※3}場合は表頭などに「***」、5%で有意の場合は「**」、10%で有意の場合は「*」、有意でない場合は「X」を付している。また、比率(母集団内)検定と平均(母集団内)の両側検定をしており、それぞれ、1%範囲で有意である場合は値の前に「▲、▼」、5%で有意の場合は「△、▽」、10%で有意の場合は「∴、∴」を付している。
- 世帯タイプは、保護者票の子どもと同居している状況の回答から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない場合もある。
- n 値が表示されている図表は、分析において必要だと判断した場合に限る。
- 本報告書は、調査票の設問順にはなっていないが、各項目で、下記のとおり、設問番号を表記している。
 - 例) 小学生票・中学生票共通の設問 ⇒ 「子：設問●●」
 - 小学生票のみの設問 ⇒ 「小：設問●●」
 - 中学生票のみの設問 ⇒ 「中：設問●●」
 - 保護者票のみの設問 ⇒ 「保：設問●●」
- 掲載している図表の値は、それぞれ少数第二位を四捨五入して、少数第一位まで表示しているため、合計で100にならない場合もある。
- クロス軸の分類や質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。
 - 例) 「ひとり親（二世代）」と「ひとり親（三世代）」を統合して《ひとり親》。
- 掲載している図表と付表との値は、作表条件等の違いにより、一致しない場合もある。

※1. 本報告書では、主に生活困難度別（一般層、周辺層、困窮層）や世帯タイプ別（ひとり親世帯、ふたり親世帯）にグループ分けをして、分析者の主観ではなく、統計的手法を用いて検定している。

※2. 「有意である（有意な差がある）」とは、上記検定により差があった、あるいは関連が認められたという解釈が可能である場合に用いる、いわゆる定型表現である。その逆は「有意でない（有意な差がみられない）」となる。本報告書では、原則「有意である」場合を中心に言及する。

※3. 「1%範囲で有意である」とは、「有意である」と判断する場合において、誤って差や関連がないものを、差や関連があると判断してしまう可能性が1%範囲であることを表している。

内容

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収率	2
第2章 回答者の属性	3
1 子どもの性別	3
2 回答者の子どもとの関係.....	3
第3章 分析の視点	4
1 生活困難度	4
2 世帯タイプ	7
第4章 調査結果の概要	9
第5章 子どもの家庭環境及び家計	12
1 親の就労状況	12
(1)母親の就労状況（保:問11）.....	12
(2)父親の就労状況（保:問10）.....	15
(3)一世帯あたりの子ども数.....	16
2 家計の状況	19
(1)食料を買えなかった経験（保:問28）.....	19
(2)衣類を買えなかった経験（保:問29）.....	20
(3)公共料金の滞納経験（保:問30）.....	21
(4)家計の収支の状況（保:問27）.....	23
3 住宅の状況（保:問9）.....	24
4 親と子の孤立	26
(1)親の相談相手の有無（保:問42）.....	26
(2)子どもの会話（子:問15・問4）.....	28

第6章 食・健康・医療	30
1 子どもの食と栄養.....	30
(1)朝食の摂取状況 (子:問 16).....	30
(2)食品群別の摂取状況 (子:問 19).....	32
2 子どもの自己肯定感と夢.....	38
(1)自己肯定感 (子:問 32).....	38
(2)夢 (子:問3).....	43
3 子どもの健康状態 (保:問 14-2)	44
4 子どもの虫歯 (保:問 16)	46
5 保護者の健康状態 (保:問 14-1)	47
6 保護者の抑うつ傾向 (保:問 18)	49
7 医療機関への受診状況等.....	51
(1)医療サービスの受診抑制 (保:問 15).....	51
(2)定期予防接種 (保:問 17).....	53
第7章 学び	54
1 子どもの体験 (保:問 24)	54
2 授業の理解度と分からなくなってきた時期.....	58
(1)小学5年生.....	58
(2)中学2年生.....	59
3 学校外での学習の状況.....	61
(1)小学5年生.....	61
(2)中学2年生.....	64
4 学習環境(勉強する場所・勉強机・本・インターネットなど) (子:問 2)	67
5 親の進学期待 (保:問 13)	71
6 学習関連の支援事業の利用状況と利用意向.....	73
(1)静かに勉強ができる場所の利用意向 (子:問 34D).....	73
(2)大学生による学習支援の利用意向 (子:問 34E).....	74
(3)学習支援に関する保護者の利用状況 (保:問 40G・H).....	75
(4)学習支援に関する保護者の利用意向(複数回答) (保:問 40-1).....	78
第8章 子どもの居場所	80
1 放課後の過ごし方.....	80
(1)平日の放課後に過ごす場所 (子:問7).....	80
(2)放課後子ども教室 (小:問9).....	86
(3)クラブ活動 (中:問9).....	87

2	運動（子：問 13）	88
3	読書（子：問 14）	90
4	家事負担（子：問 12E）	92
5	夕方以降の留守番（子：問 33）	94
6	居場所支援・相談事業の利用意向（子：問 34）	96
第 9 章 公的支援の利用と周知		98
1	子どもの施策に関する情報の受け取り方法（保：問 39）	98
	（1）全体	98
	（2）現在の受け取り方法	99
	（3）今後、受け取りたい方法	100
2	支援制度の利用状況・認知状況・利用意向	101
	（1）金銭的な支援制度の利用状況（保：問 41）	101
	（2）支援制度の利用状況（保：問 40）	106
	（3）保護者の支援制度の利用意向（保：問 40-1）（複数回答）	113
3	相談窓口の利用状況・認知状況（保：問 43）	116

第1章 調査の概要

1 調査目的

本調査は、本市の学齢期の子どもがいる家庭の経済状況及び子ども・保護者の生活実態や困りごと等を具体的に把握し、今後の子ども及び子育て世帯に係る施策に資することを目的とする。

2 調査対象

本調査の調査対象は、市立小学校に在籍する全ての小学5年生の児童及びその保護者並びに市立中学校に在籍する全ての中学2年生の生徒及びその保護者である。

【調査対象】

対象者（全数調査）	対象人数	市内の該当年齢※の子どもの数	市立学校の在籍率
市立小学校5年生	4,813名	4,941名	97.4%
市立小学校5年生の保護者	4,813名		
市立中学校2年生	4,388名	4,951名	88.6%
市立中学校2年生の保護者	4,388名		

※ 平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれ（10～11歳）

平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ（13～14歳）

3 調査期間

平成29年7月18日 ～ 平成29年9月12日（ただし、平成29年9月26日までに市に届いたものを有効回答とした。）

4 調査方法

調査票は、学校を通じて児童及び生徒に配付し、自宅にて子ども本人と保護者にそれぞれの調査票に記入してもらい、互いの回答を見ることがないように別々の回答用封筒に封入したうえで、それらを提出用封筒に入れ、本市へ郵送してもらった。

5 回収率

子ども票の対象人数を母数として算出した回収率は、下記の表のとおりである。調査票は、分析をするうえで、世帯ごとに、子ども票と保護者票で一对になることを基本としている。子ども票、又は保護者票のみ回収された場合は、欠如する保護者票若しくは子ども票の回答部分をすべて無回答として、分析した。

八王子市の回答数(上段)および回収率(下段)

	子ども票	保護者票	(うち)親子のマッチング ができた票	分析対象
全年齢層	2,872	2,879	2,866	2,885
	31.2%	31.3%	31.1%	31.4%
小学5年生	1,618 (うち子ども票のみ2票)	1,623 (うち保護者票のみ7票)	1,616	1,625
	33.6%	33.7%	33.6%	33.8%
中学2年生	1,254 (うち子ども票のみ4票)	1,256 (うち保護者票のみ6票)	1,250	1,260
	28.6%	28.6%	28.5%	28.7%

第2章 回答者の属性

1 子どもの性別

図表 2-1-1 子どもの性別(上段)および回収率(下段)

	男子	女子	答えたくない (中学2年生のみ)	無回答	合計
小学5年生	668	824	-	133	1,625
	41.1%	50.7%	-	8.2%	100%
中学2年生	509	627	20	104	1,260
	40.4%	49.8%	1.6%	8.2%	100%

2 回答者の子どもとの関係

図表 2-2-1 回答者の子どもとの関係(上段)および回収率(下段)

	父親	母親	祖父	祖母	兄弟 姉妹	その他	施設 職員	無回答	合計
小学5年生	138	1463	1	3	0	0	2	18	1625
	8.5%	90.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	1.1%	100%
中学2年生	107	1127	0	8	0	1	6	11	1260
	8.5%	89.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.1%	0.5%	0.9%	100%

第3章 分析の視点

近年、将来の日本を支える子どもたちに目を向けるとき、福祉だけでなく、教育など、さまざまな分野で「子どもの貧困」が注目されている。国においては、平成25年に「子どもの貧困対策推進法」を制定し、国を挙げてその対策に取り組んでいる。経済的に厳しい家庭環境の子どもが、生まれ育った環境に左右されることなく、自分の可能性を信じて、意欲や将来への希望を失わないよう必要な支援の充実が求められている。しかし、日本における「子どもの貧困」の多くは、毎日の食事にも事欠く状況であるとか、常に不衛生な衣服をまとっているというような、「目に見える」状況ではなく、実態が把握しづらいという問題がある。

そこで、本調査の分析にあたり、本市と包括連携協定を結んでいる首都大学東京に設置されている「子ども・若者貧困センター」の阿部彩教授に分析を依頼し、同教授が先行して行っている他自治体の調査と同様、経済的影響が子どもに与える体験の欠如なども指標に取り込んだ「生活困難度」に着目した。

また、「ひとり親」の貧困率は、50.8%（平成27年度 厚生労働省）と国全体で見ても非常に厳しい状況にあることから、「世帯タイプ」についても分析軸とした。

1 生活困難度

首都大学東京「子ども・若者貧困研究センター」では、子どもの「生活困難」を、①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如、の3つの要素に基づいて分類しているが、本市も同じ定義を使用した。（図表3-1-1）

なお、①低所得の定義については、「平成28年国民生活基礎調査」（厚生労働省）を用いた。

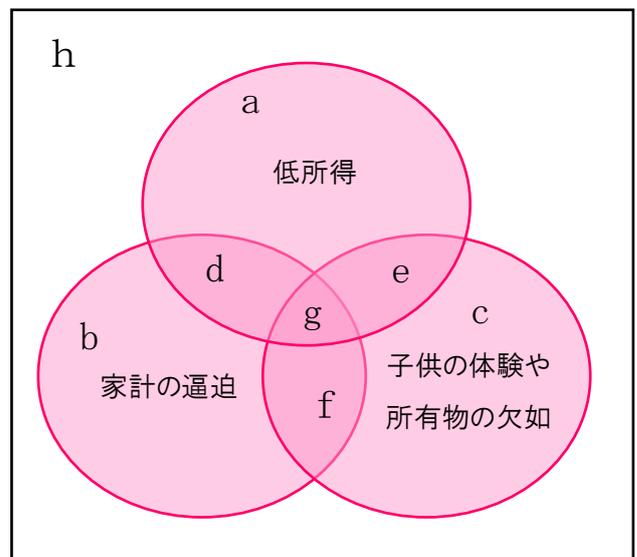
3つの要素のうち、2つ以上の要素に該当した場合を「困窮層」、1つのみに該当した場合を「周辺層」、いずれの要素にも該当しない場合を「一般層」とし、「困窮層」と「周辺層」を合わせて「生活困難層」と定義した。（図表3-1-2）

図表 3-1-1 生活困難の3要素

① 低所得	③ 子どもの体験や所有物の欠如
<p>世帯所得(勤労収入、事業収入等+社会保障給付)を、世帯人数の平方根で割り算した値(=等価世帯所得)が、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準></p> <p style="text-align: center;">世帯所得の中央値 428 万円÷ √平均世帯人数(2.47 人)×50% =136.2 万円</p> <p>二人世帯の場合=192.6 万円 四人世帯の場合=272.3 万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する 15 項目のうち、<u>経済的な理由で</u>、欠如している項目が 3 つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューに行く 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月おこづかいを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる 9 学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう) 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子供の年齢に合った本 14 子供用のスポーツ用品・おもちゃ 15 子供が自宅で宿題(勉強)をすることができる場所
② 家計の逼迫	
<p>経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験などの 7 項目のうち、1 つ以上が該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電話料金 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃 6 家族が必要とする食料が買えなかった 7 家族が必要とする衣類が買えなかった 	

図表 3-1-2 生活困難層(困窮層・周辺層)、一般層

生活困難層	困窮層+周辺層(a+b+c+d+e+f+g)
困窮層	2つ以上の要素に該当(d+e+f+g)
周辺層	いずれか1つの要素に該当(a+b+c)
一般層	いずれの要素にも該当しない(h)

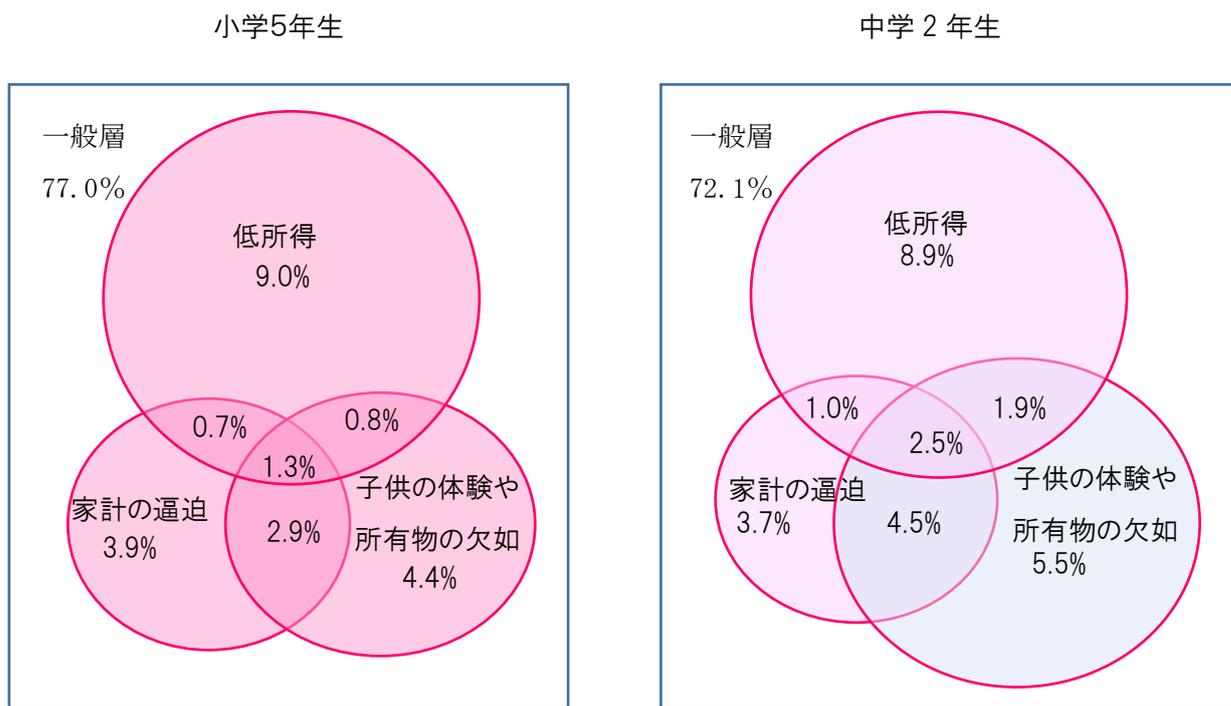


- 約4世帯に1世帯について、生活困難度を判別できず（判別するための変数の一つ以上が無回答）、このようなアンケート調査では、判別できないケースは貧困に偏る傾向がみられるため、生活困難を抱える世帯は報告値よりも増える可能性がある。（図表3-1-3）
- 小学5年生において、「困窮層」は5.7%、「周辺層」は17.3%、「一般層」は77.0%となっている。（図表3-1-5）
- 中学2年生において、「困窮層」は9.9%、「周辺層」は18.0%、「一般層」は72.1%となっている。（図表3-1-5）

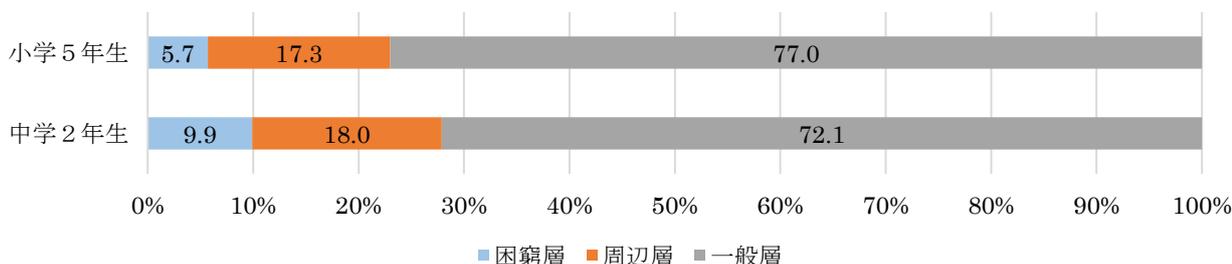
図表 3-1-3 生活困難層割合集計結果(不明含む)(割合:上段 人:下段)

		困窮層	周辺層	一般層	不明
小学5年生	100.0%	4.2%	12.6%	56.2%	27.0%
	1,625	68	205	914	438
中学2年生	100.0%	7.5%	13.7%	54.6%	24.3%
	1,260	94	172	688	306

図表 3-1-4 生活3要素:小学5年生、中学2年生



図表 3-1-5 生活困難層割合:小学5年生、中学2年生



2 世帯タイプ

保護者票の設問をもとに、子どもの家庭の状況を、父母両方がいる世帯（以下「ふたり親」と父母が片方のみの世帯（以下「ひとり親」に分類し、さらに同居の祖父母がいる世帯（以下「三世代」と同居の祖父母がいない世帯（以下「二世帯」とに分類し、分析を行った。

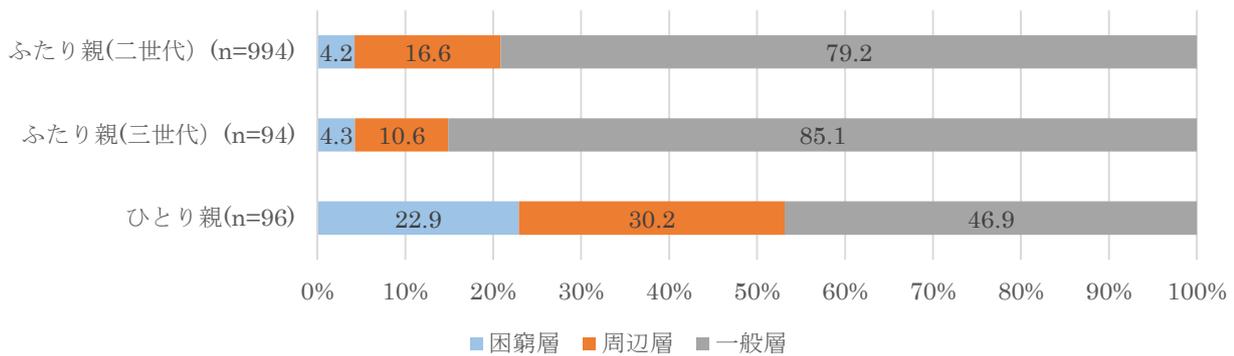
- 全体で見ると、「ふたり親（二世帯）」は、小学5年生で81.9%、中学2年生で77.6%となっており、ともに最も多くなっている。次いで、「ふたり親（三世代）」は、小学5年生で8.9%、中学2年生で10.7%となっており、ともに2番目に多い世帯タイプとなっている。
- 小学5年生において、「ひとり親（二世帯）」(6.2%)と「ひとり親（三世代）」(2.2%)を合わせた「ひとり親」は8.4%となっている。
- 中学2年生において、「ひとり親（二世帯）」(8.4%)と「ひとり親（三世代）」(2.2%)を合わせた「ひとり親」は10.6%となっている。

図表 3-2-1 世帯タイプ(小学5年生、中学2年生)

世帯類型	回答数(割合):小学5年生	回答数(割合):中学2年生
	八王子市	八王子市
ふたり親(二世帯)	1,331 件(81.9%)	978 件(77.6%)
ふたり親(三世代)	144 件(8.9%)	135 件(10.7%)
ひとり親(二世帯)	100 件(6.2%)	106 件(8.4%)
ひとり親(三世代)	35 件(2.2%)	28 件(2.2%)
その他	15 件(0.9%)	13 件(1.0%)
合計(n)	1625 件	1260 件

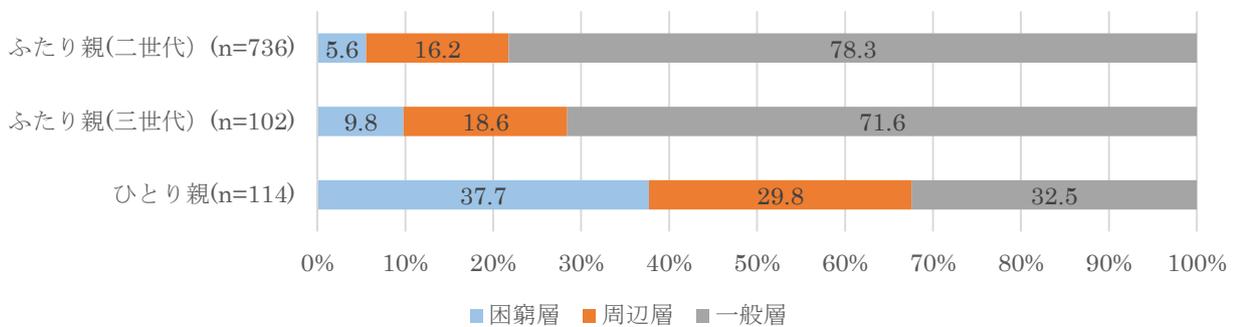
- 世帯タイプ別に生活困難層の割合をみると、小学5年生において、ふたり親（二世代）の「困窮層」は4.2%、「周辺層」は16.6%、ふたり親（三世代）の「困窮層」は4.3%、「周辺層」は10.6%、ひとり親（二世代）とひとり親（三世代）を合わせた《ひとり親》の「困窮層」は22.9%、「周辺層」は30.2%となっている。
- 《ひとり親》の「生活困難層」(53.1%)は5割を超えている。
- 中学2年生において、《ひとり親》の「生活困難層」は67.5% (37.7%+29.8%) となっている。

図表 3-2-2 八王子市の生活困難層(小学5年生):世帯タイプ別(***)



※ひとり親はサンプル数が少ないため、二世代と三世代を合わせて集計している。

図表 3-2-3 八王子市の生活困難層(中学2年生):世帯タイプ別(***)



※ひとり親はサンプル数が少ないため、二世代と三世代を合わせて集計している。

第4章 調査結果の概要

【生活困難】

- 本調査では、約4世帯に1世帯について、生活困難度を判別できず（判別するための変数の一つ以上が無回答）、このようなアンケート調査では、判別できないケースは貧困に偏る傾向がみられるため、生活困難を抱える世帯は報告値よりも増える可能性がある。
- 八王子市の「ひとり親」の困窮層の割合は、小学5年生では22.9%、中学2年生では37.7%となっている。
- 困窮層においては、食料が買えない、衣類が買えない、公共料金の支払いが滞る、といった状況が2割～3割の世帯で見られる。
- 「スポーツ観戦や劇場・音楽会」「遊園地やテーマパーク」については、困窮層の約半数が「金銭的な理由で」過去1年間に体験していない。

【世帯タイプ】

- 両学年ともに、約8割の子どもは「ふたり親（二世帯）」であり、いわゆる両親が揃った核家族である。
- 両学年ともに、約1割の子どもが「ひとり親」に育っている。この割合は中学2年生の方が小学5年生よりも高い。

【親の就労状況】

- 母親の就労は、非正規が約半数、正規が約2割、無職が2～3割となっている。
- 父親の就労は、約8割半は正規雇用の職についており、自営・家業・その他は1割、非正規雇用、無職は1～2%ほどである。
- 「ひとり親」の母親においては、無職が少なく、約8割が就労しており、また、正規雇用の割合が高い。

【相談相手】

- 保護者の約7%が、相談相手がいないと答えており、特に、困窮層においては、その割合は4人に1人となっている。

【食・健康・医療】

- 朝食については、毎日食べていない子どもの割合は、困窮層>周辺層>一般層、また、「ひとり親」>「ふたり親」の順で高い。
- 中学2年生については、野菜の摂取頻度に大きな差が認められ、困窮層においては、「毎日」摂取している割合が6割を切る。また、「肉や魚」についても、「1週間に2～3回」以下の子どもが1割以上存在する。
- 困窮層においては、子どもの健康状態が「よい」と答えたのは半数を切っており、一般層と比較して

20ポイントから30ポイントの差がある。

- 抑うつ傾向ありと判断された「ひとり親」の割合は、「ふたり親」よりも高くなっている。
- 抑うつ傾向ありと判断された困窮層の保護者の割合は、一般層の数倍の割合となっている。
- 医療サービスの受診抑制の経験をみると、過去1年間に受診抑制したことがあると答えている困窮層の割合は、一般層の数倍の割合となっている。
- 虫歯の本数は、生活困難度別では顕著な差があり、特に、困窮層の子どもに虫歯が多い子どもが多い。

【学び】

- 中学2年生では、授業の理解度が全体的に低くなっている。また、生活困難度別、世帯タイプ別の差も大きい。
- 「家で勉強できない時に静かに勉強できる場所」については、子ども全体からのニーズが高い。
- 「大学生が勉強を無料でみてくれる場所」については、中学2年生では全体的に利用意向が高いだけでなく、特に困窮層での利用意向が高い。

【居場所】

- 小学5年生は平日の放課後を「自分の家」で過ごすことが一番多い。地域の居場所としては、「公園」が最も多く、「学校」はその次に多い。
- 中学生になり、全体としては「学校」で過ごす割合が多くなる一方で、困窮層は「自分の家」や「友だちの家」で過ごしている割合が一般層より高い。
- クラブ活動の参加率は、生活困難度別にみると、一般層よりも困窮層で、世帯タイプ別にみると、「ふたり親」の子どもよりも「ひとり親」の子どもで、低くなっている。

【読書】

- 小学5年生においては、1か月に読んだ本の冊数については、「読まなかった」と回答した割合は、困窮層で、全体の割合よりも、高くなっている。

【公的支援・周知】

- 子育て支援制度の中では、両学年とも「子育てひろば」の利用率が支援制度の中で最も高かった。一方で、困窮層、「ひとり親」の利用割合が、一般層、「ふたり親」に比べて低い。
- 保護者の子どもの施策などの情報の受取り方法については、学年による大きな違いはなく、小学5年生と中学2年生の保護者において「学校からのお便り」「広報はちおうじ」「家族や友人からの情報」「学校からのメール」「行政機関のホームページ」「SNS」「その他」の順に利用している。
- 「広報はちおうじ」の利用率が両学年とも約8割と高い。

- 「学校からのメール」は、小学5年生の「ひとり親」において、「ふたり親」よりも利用率が高かった。ただし、「学校からのお便り」については中学2年生の「ひとり親」の利用率が低く、生活困難度別では、両方とも、困窮層が低い。
- 今後受取りたい方法については、「SNS」の利用を希望する割合は、小学5年生の困窮層の保護者、中学2年生の「ひとり親」の保護者で、それぞれのタイプにおいて最も高かった。

第5章 子どもの家庭環境及び家計

1 親の就労状況

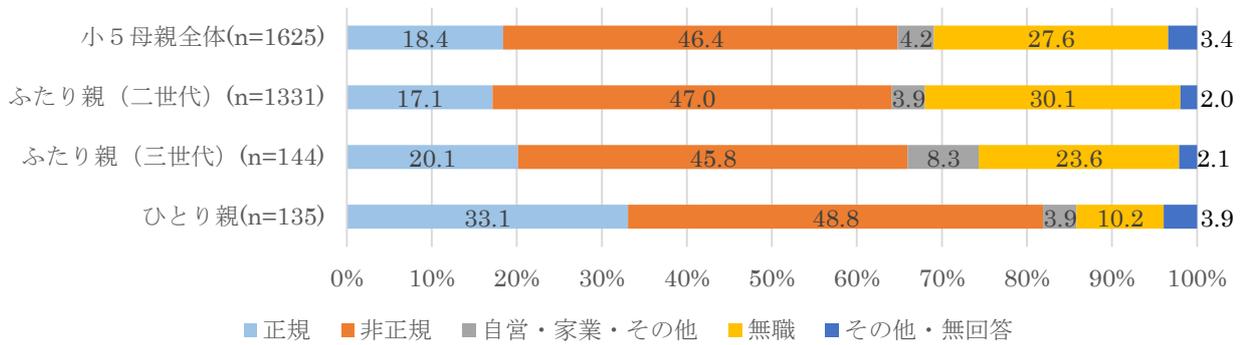
(1) 母親の就労状況（保：問 11）

- 保護者（母親）に対し、現在の職業について聞いたところ、小学5年生の母親は、全体で見ると、「常勤・正規職員」（以下「正規」とする）の割合は、18.4%、「パート・アルバイト・非正規社員」（以下「非正規」）の割合は、46.4%、「自営・家業・その他の働き方」の割合は、4.2%、「無職」の割合は、27.6%となっている。
- 世帯タイプ別については、サンプル数が充分でないため、「ひとり親（二世帯）」と「ひとり親（三世帯）」を合わせて、「ひとり親」とした。
- 世帯タイプ別にみると、「無職」は「ふたり親（二世帯）」（30.1%）の割合が最も高くなっている。
- 「正規」「非正規」「自営・家業・その他の働き方」を合わせた《就労率》の割合は、「ふたり親（二世帯）」は68.0%、「ふたり親（三世帯）」は74.2%となっており、「ふたり親（三世帯）」の方が高くなっている。
- 「ひとり親」の《就労率》は、85.8%となっており、「ふたり親（二世帯、三世帯）」よりも高い割合になっている。
- 「ひとり親」の「正規」の割合も、ふたり親（二世帯、三世帯）よりも高く、33.1%となっている。
- 「ひとり親」の「無職」は10.2%、「その他・無回答」は3.9%となっている。（図表 3-1-1）
- 中学2年生の母親は、全体で見ると、小学5年生の母親よりも《就労率》の割合（75.7%）が高くなっている。「正規」（20.2%）についても、小学5年生より高い。
- 中学2年生の母親においても、「ひとり親」の《就労率》は84.3%となっており、「ふたり親（二世帯、三世帯）」よりも、高くなっており、「無職」の割合は、9.9%で低くなっている。（図表 3-1-2）

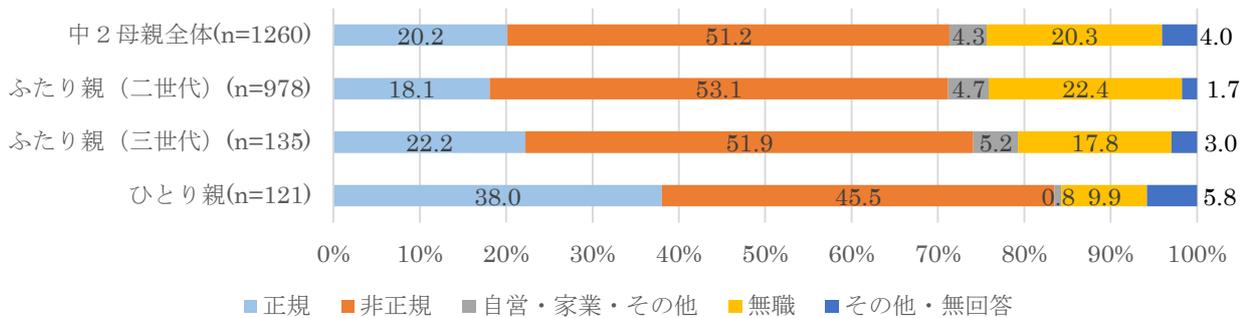
※ 世帯タイプ別の集計では、父子世帯、父母不明世帯、施設を除いて集計している。

図表 5-1-1 母親の就労状況(小学5年生) :全体、世帯タイプ別(***)

※ 「自営・家業・その他」の「その他」は「その他の職業」。「無職」は「家事専業」、「学生」、「無職」であり、以下父親・母親の就労状況の作表において同様。

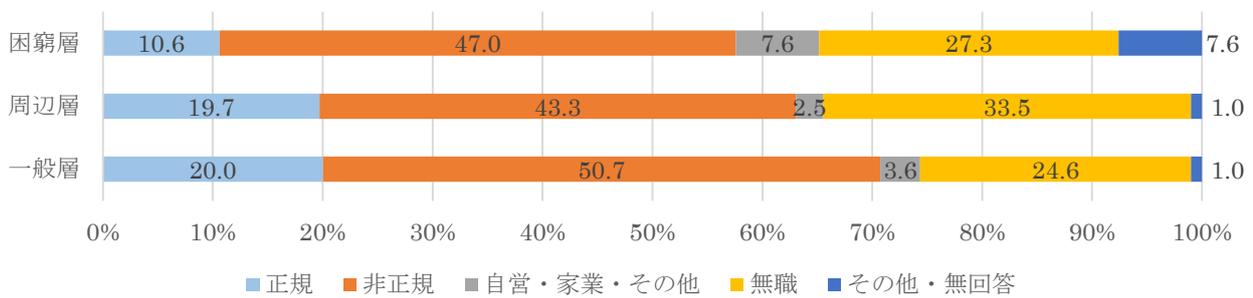


図表 5-1-2 母親の就労状況(中学2年生) :全体、世帯タイプ別(***)

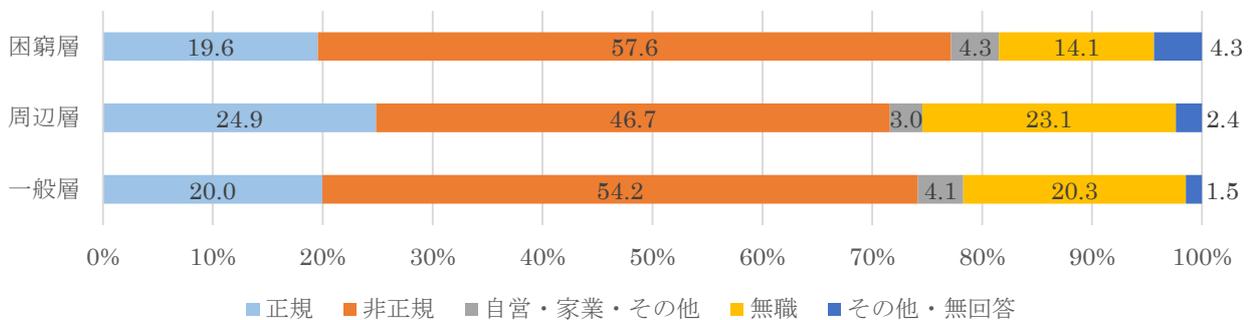


- 小学5年生の母親において、「正規」は、周辺層（19.7%）、一般層（20.0%）で、困窮層（10.6%）の約2倍の割合となっている。
- 「無職」の割合は、一般層（24.6%）が最も低くなっている。ついで、困窮層（27.3%）が低くなっている。
- 周辺層は「無職」の割合が最も高いが、母親の正規就労率も高い。
- 中学2年生の困窮層の母親においては、「無職」（14.1%）の割合は小学5年生の困窮層の母親より低く、「正規」（19.6%）、「非正規」（57.6%）は、ともに小学5年生の困窮層の母親よりも高くなっている。
- 「無職」の割合については、周辺層（23.1%）が最も高くなっている。

図表 5-1-3 母親の就労状況（小学5年生）：生活困難度別（***）



図表 5-1-4 母親の就労状況（中学2年生）：生活困難度別（*）

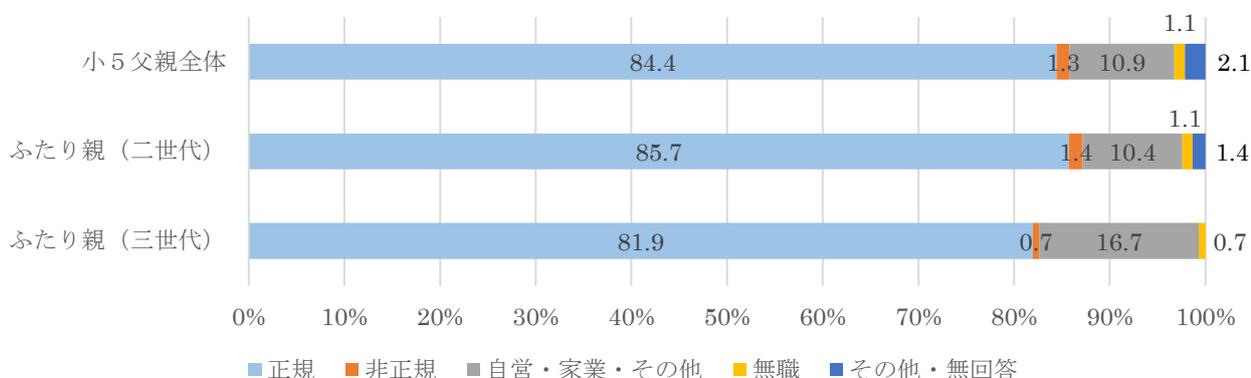


(2)父親の就労状況（保:問10）

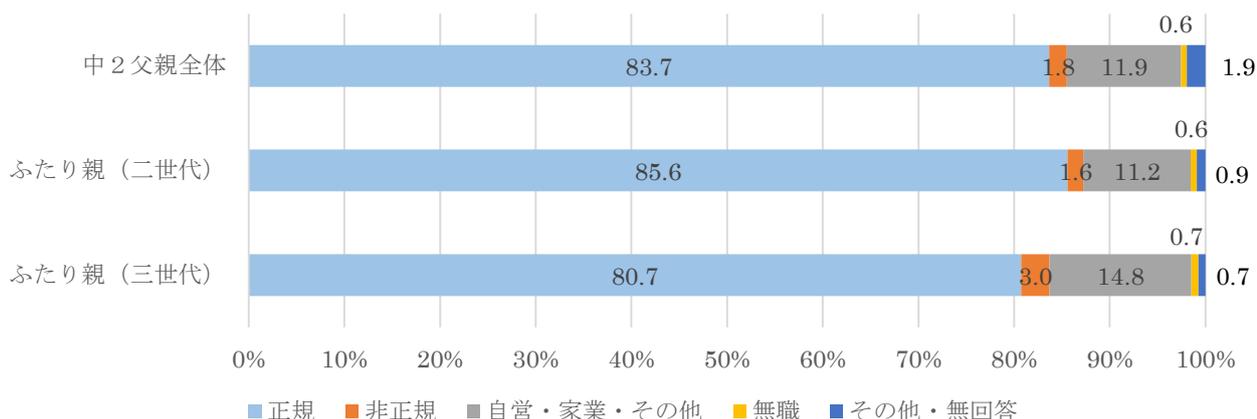
- 小学5年生の父親において、全体で見ると、「正規」は84.4%、「自営・家業・その他」は10.9%、「非正規」は1.3%、「無職」は1.1%となっている。
- 中学2年生の父親において、全体で見ると、小学5年生の父親と同様の傾向が見られ、「正規」は83.7%、「自営・家業・その他」は11.9%、「非正規」は1.8%、「無職」0.6%となっている。
- 生活困難度別にみると、両学年の父親において、「正規」の割合は、一般層、周辺層、困窮層の順に低くなっており、逆に、「非正規」「自営・家業・その他」「無職」の割合については、一般層、周辺層、困窮層の順に、高くなる傾向がある。

※ 世帯タイプ別の集計では、母子世帯、父母不明世帯、施設を除いて集計している。

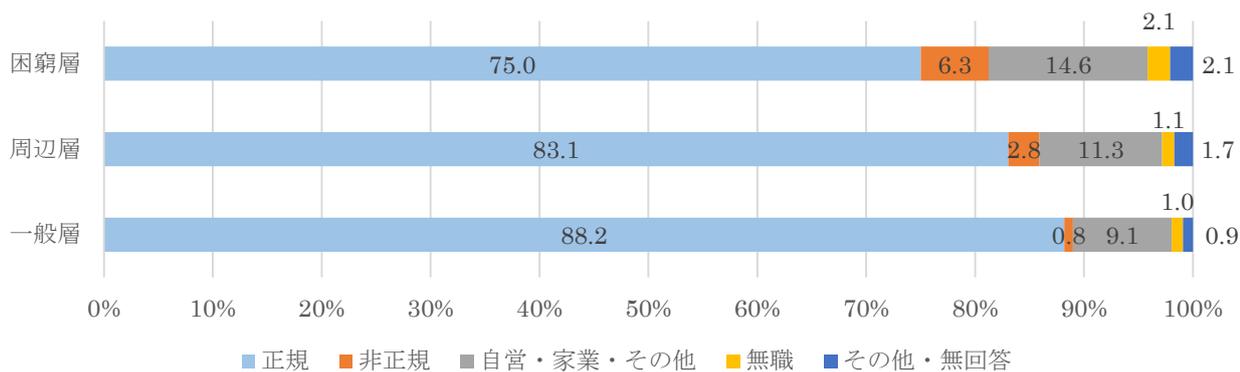
図表 5-1-5 父親の就労状況(小学5年生):全体、世帯タイプ別(X)



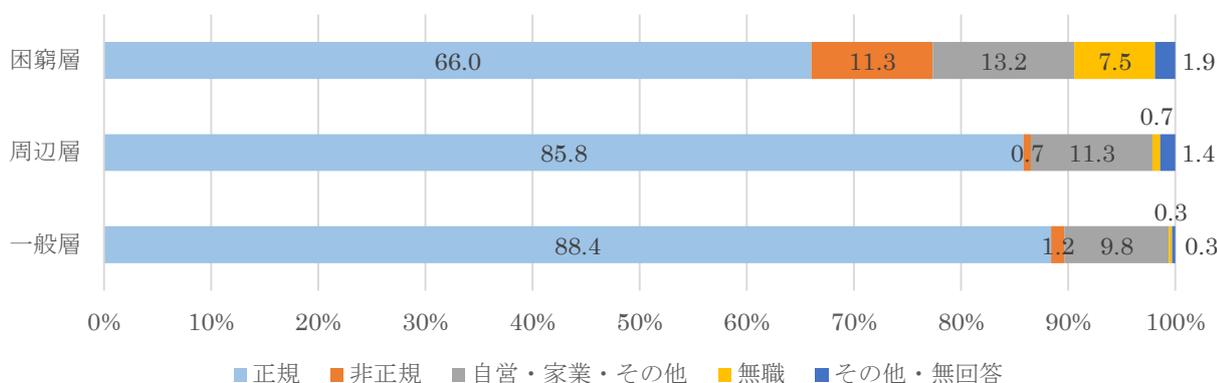
図表 5-1-6 父親の就労状況(中学2年生):全体世帯タイプ別(X)



図表 5-1-7 父親の就労状態(小学5年生):生活困難度別(**)



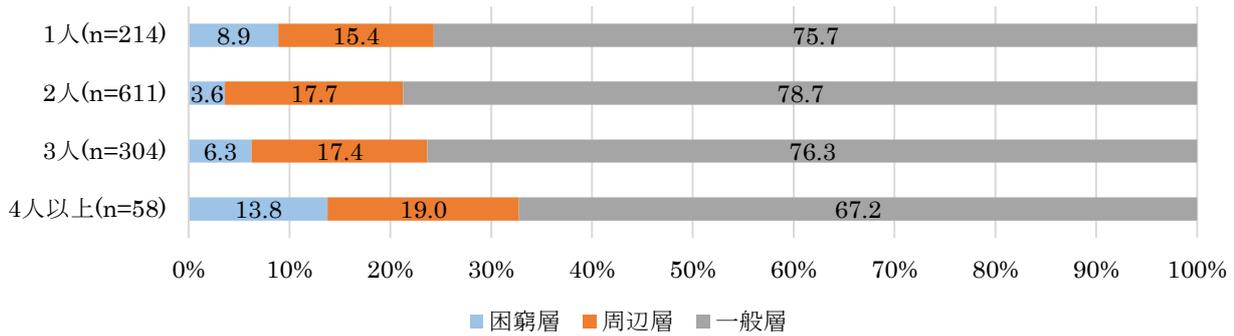
図表 5-1-8 父親の就労状態(中学2年生) : 生活困難度別(***)



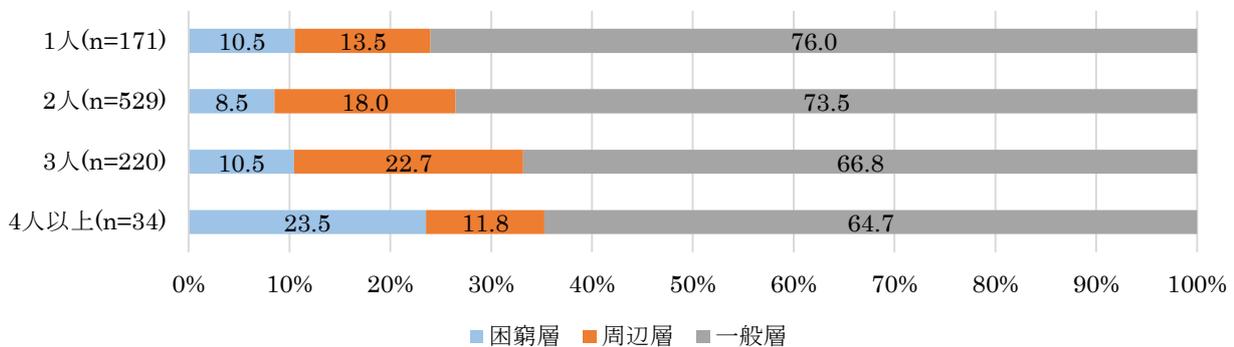
(3) 一世帯あたりの子ども数

- 一世帯あたりの子ども数別にみると、両学年とも、子ども数が「4人以上」の生活困難層の割合が、最も高くなっている。
- 次に、サンプル数が多い「ふたり親」の一世帯あたりの子ども数を「1人」、「2人」、「3人以上」の3分類として集計した。
- 小学5年生においては、周辺層の割合は、「3人以上」(17.4%)で、「1人」(11.6%)よりも高くなっている。
- 中学2年生においては、困窮層の割合は、「1人」で3.2%、「2人」で6.0%、「3人」で7.8%、周辺層の割合は、「1人」で8.7%、「2人」で16.9%、「3人」で19.8%となっており、1世帯あたりの子ども数が多くなるほど高くなっている。困窮層と周辺層の割合は、「2人」(6.0%、16.9%)で、「1人」(3.2%、8.7%)の約2倍となっている。

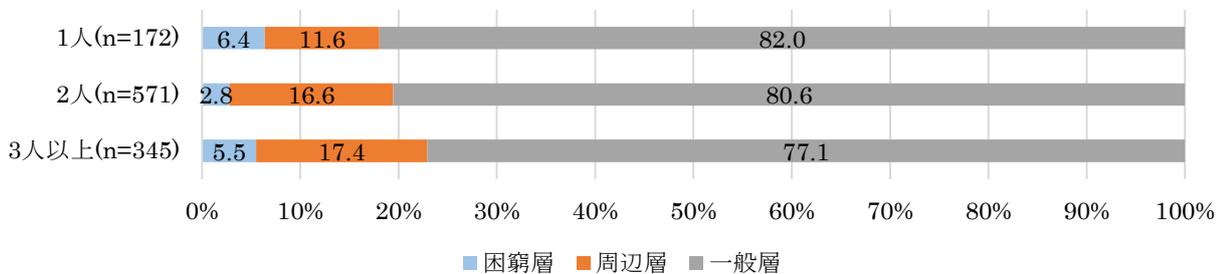
図表 5-1-9 子どもの人数別の生活困難層(小学5年生):八王子市(***)



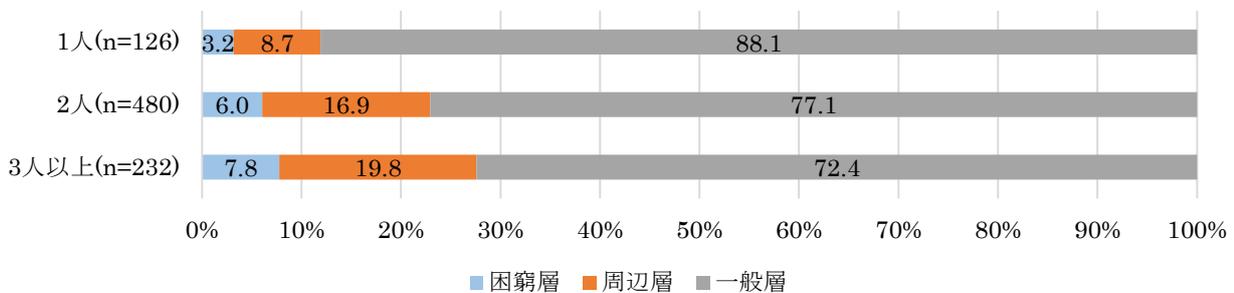
図表 5-1-10 子どもの人数別の生活困難層(中学2年生):八王子市(***)



図表 5-1-11 生活困難層(小学5年生、ふたり親世帯のみ、3分類):一世帯あたりの子ども数別(**)

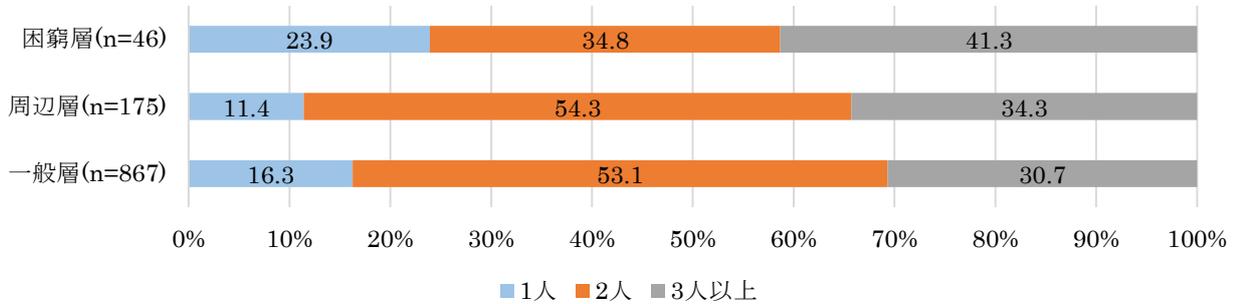


図表 5-1-12 生活困難層(中学2年生、ふたり親世帯のみ、3分類):一世帯あたりの子ども数別(**)

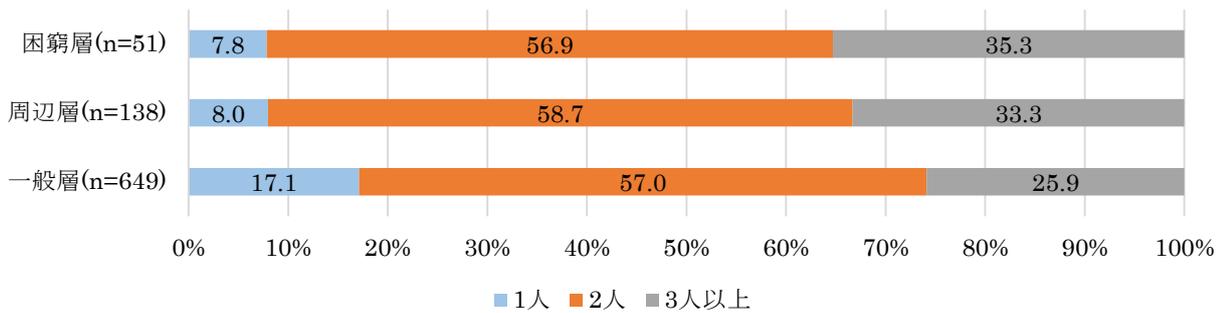


- 図表 2-3-10、2-3-11 を生活困難度別に集計した。
- 小学5年生において、困窮層の割合は、子ども数が増えるにつれて高くなる。
- 中学2年生において、困窮層、周辺層は、ともに子ども数が「2人」の世帯の属している割合が半数以上と最も高くなっている。

図表 5-1-13 一世帯あたりの子ども数(小学5年生、ふたり親世帯のみ、3分類):生活困難度別(**)



図表 5-1-14 一世帯あたりの子ども数(中学2年生、ふたり親世帯のみ、3分類):生活困難度別(**)

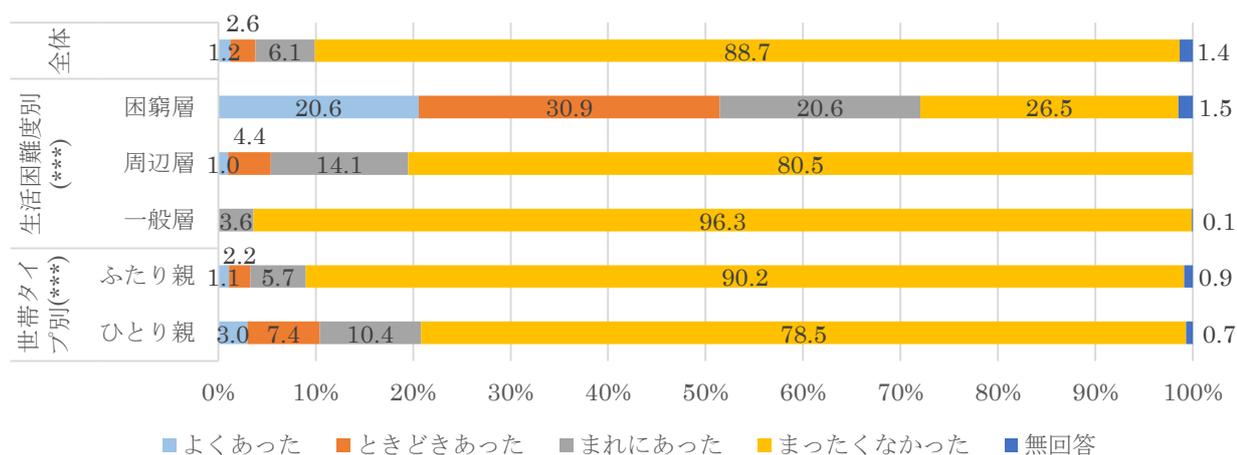


2 家計の状況

(1)食料を買えなかった経験 (保:問 28)

- 保護者に対し、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えなかった経験があったか聞いたところ、全体で見ると、「まったくなかった」と回答したのは、小学5年生の保護者で88.7%、中学2年生の保護者で85.3%となっている。
- 小学5年生の保護者において、「よくあった」(1.2%)、「ときどきあった」(2.6%)「まれにあった」(6.1%)を合わせた《あった》は、9.9%となっている。
- 中学2年生の保護者において、「よくあった」(1.1%)、「ときどきあった」(2.9%)、「まれにあった」(9.0%)を合わせた《あった》は、13.0%となっている。
- 生活困難度別で見ると、「よくあった」と回答したのは、小学5年生の保護者の困窮層で20.6%、中学2年生の保護者の困窮層で12.8%となっており、「よくあった」に「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた《あった》については、小学5年生の保護者の困窮層で72.1%、中学2年生の保護者の困窮層で65.0%となっている。

図表 5-2-1 食料を買えなかった経験(小学5年生):全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



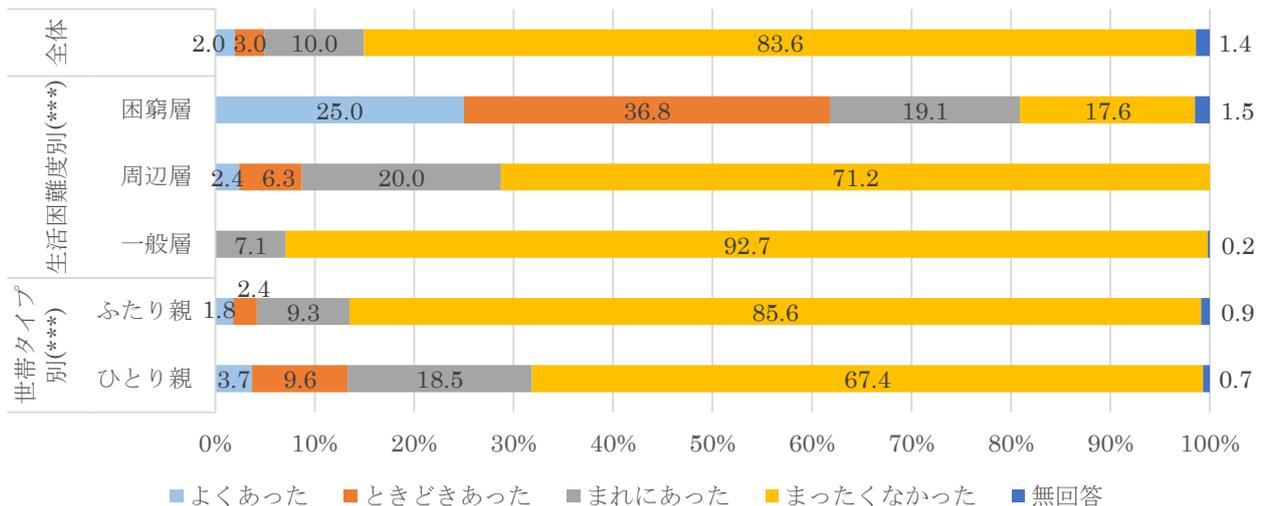
図表 5-2-2 食料を買えなかった経験(中学2年生):全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



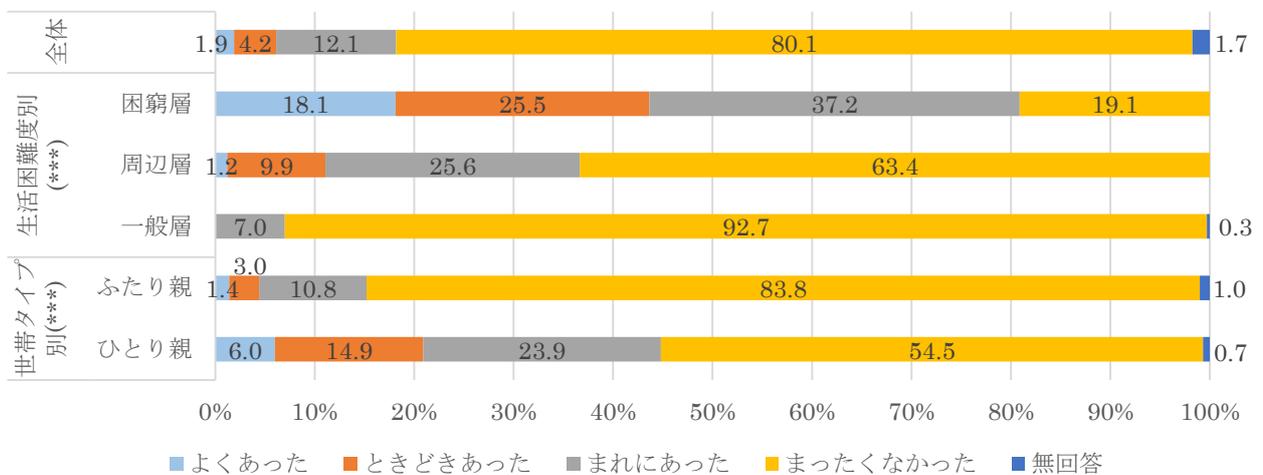
(2)衣類を買えなかった経験（保:問 29）

- 保護者に対し、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えなかった経験があったか聞いたところ、全体でみると、小学5年生の保護者において、「よくあった」(2.0%)、「ときどきあった」(3.0%)、「まれにあった」(10.0%)を合わせた《あった》は、15.0%となっている。
- 中学2年生の保護者において、「よくあった」(1.9%)、「ときどきあった」(4.2%)、「まれにあった」(12.1%)を合わせた《あった》は、18.2%となっている。
- 生活困難度別でみると、「よくあった」と回答したのは、小学5年生の保護者の困窮層で25.0%、中学2年生の保護者の困窮層で18.1%となっている。
- 世帯タイプ別でみると、《あった》は、小学5年生の「ひとり親」で31.8%、小学5年生の「ふたり親」で13.5%、中学2年生の「ひとり親」で44.8%、中学2年生の「ふたり親」で15.2%となっており、両学年とも、「ひとり親」の方が「ふたり親」よりも割合が高くなっている。

図表 5-2-3 衣類を買えなかった経験(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



図表 5-2-4 衣類を買えなかった経験(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



(3) 公共料金の滞納経験 (保:問 30)

- 保護者に対し、過去1年間に経済的な理由で公共料金等を滞納した経験があったか聞いたところ、小学5年生の保護者において、「電話」は2.6%、「電気」は2.8%、「ガス」は2.6%、「水道」は2.8%、「家賃」は1.7%、「住宅ローン」は1.5%、「その他の債務」は4.1%となっている。
- 中学2年生の保護者において、「電話」は4.0%、「電気」は3.9%、「ガス」は3.4%、「水道」は3.7%、「家賃」は1.8%、「住宅ローン」は1.2%、「その他の債務」は5.1%となっている。
- 生活困難度別でみると、小学5年生の保護者も中学2年生の保護者ともに、「電話」、「電気」、「ガス」、「水道」の滞納経験があると回答した困窮層は約3割となっている。
- 「家賃」については、小学5年生の保護者の困窮層で19.1%、中学2年生の保護者の困窮層で16.0%となっている。
- 「住宅ローン」については、小学5年生の保護者の困窮層で10.3%、中学2年生の保護者の困窮層で8.5%となっている。
- 「その他の債務」については、両学年の保護者の困窮層でそれぞれ約3割となっている。一般層では、「住宅ローン」と「その他の債務」を除いて回答はなく、周辺層よりも困窮層の方が、すべての項目の割合が多くなっている。
- 両学年において、「ひとり親」と「ふたり親」との間には、生活困難度別でみられたほどの差はないが、統計的に有意な差がある。

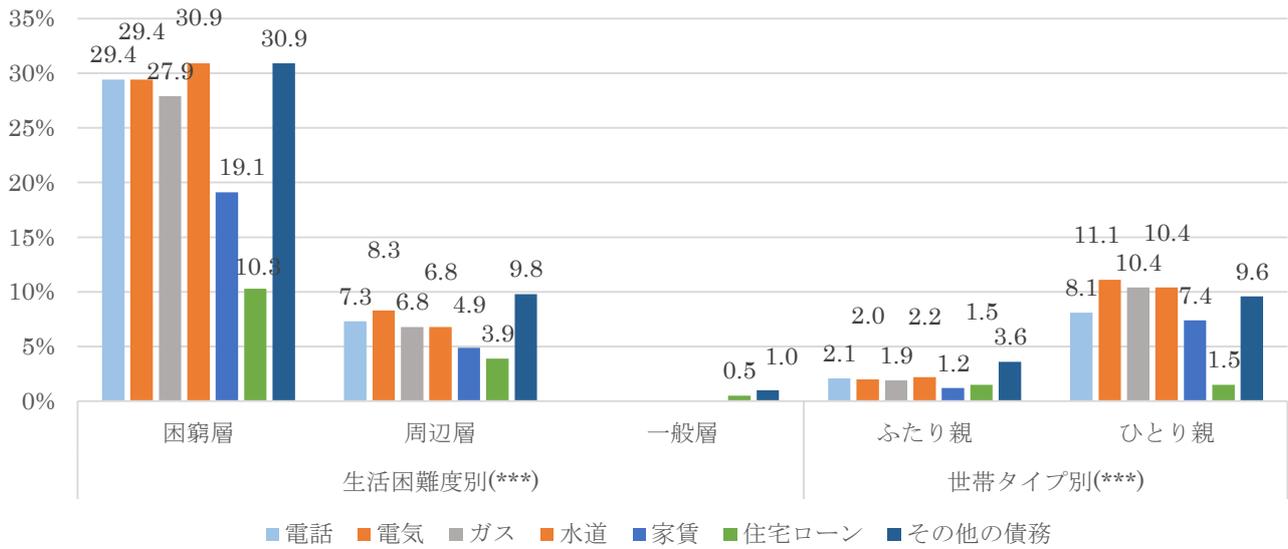
図表 5-2-5 公共料金の滞納の経験(小学5年生) (%)

	あった	なかった	該当しない(払う必要がない)	無回答
電話	2.6	92.4	3.4	1.5
電気	2.8	92.4	3.4	1.4
ガス	2.6	86.1	10.0	1.4
水道	2.8	92.2	3.6	1.4
家賃	1.7	63.8	31.1	3.4
住宅ローン	1.5	76.1	19.6	2.8
その他の債務	4.1	71.1	22.4	2.4

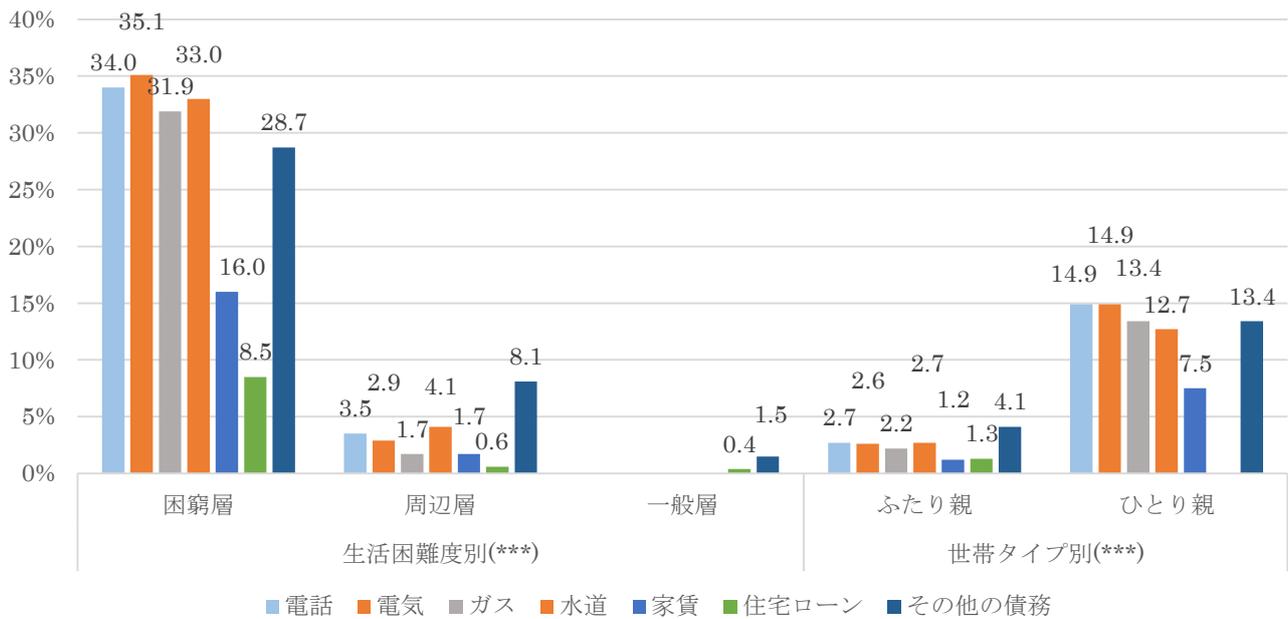
図表 5-2-6 公共料金の滞納の経験(中学2年生) (%)

	あった	なかった	該当しない(払う必要がない)	無回答
電話	4.0	89.9	4.2	1.9
電気	3.9	89.8	4.4	1.9
ガス	3.4	84.8	9.7	2.1
水道	3.7	89.7	4.5	2.1
家賃	1.8	61.1	32.1	4.9
住宅ローン	1.2	73.0	22.2	3.6
その他の債務	5.1	70.3	21.0	3.6

図表 5-2-7 公共料金の滞納の経験(小学5年生)



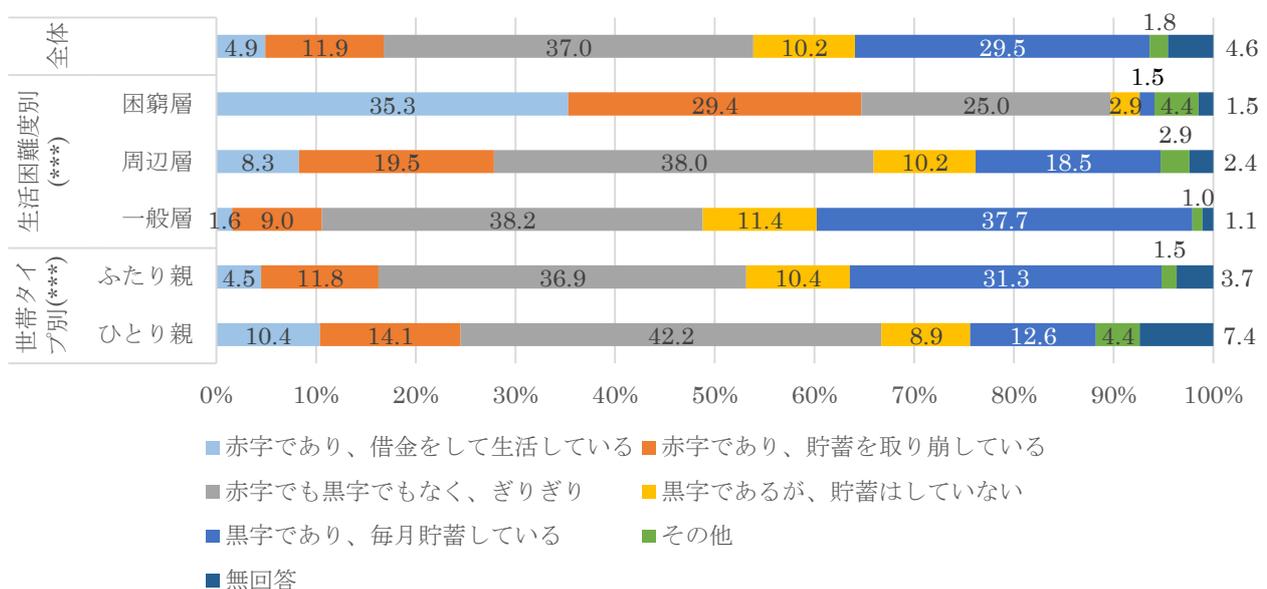
図表 5-2-8 公共料金の滞納の経験(中学2年生)



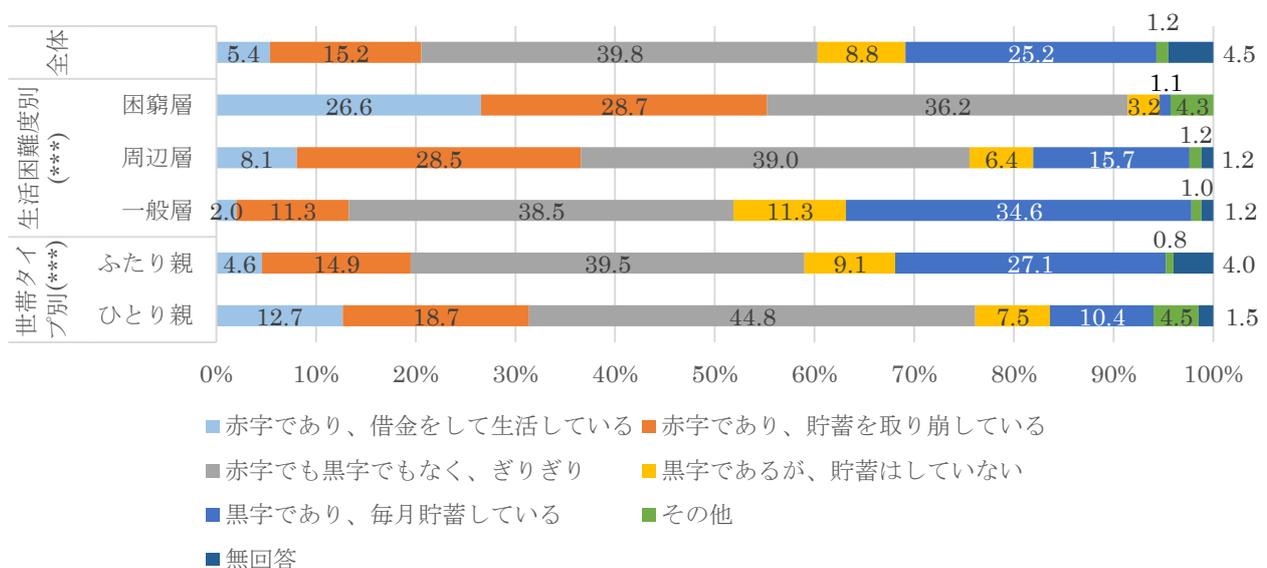
(4)家計の収支の状況（保:問 27）

- 保護者に対して、家庭の家計について聞いたところ、全体でみると、小学5年生の保護者において、「赤字であり、借金をして生活をしている」（4.9%）と「赤字であり、貯蓄を取り崩している」（11.9%）を合わせた《赤字》が16.8%となっている。
- 生活困難度別でみると、《赤字》が、困窮層で64.7%、「ひとり親」で24.5%となっている。
- 中学2年生の保護者においては、全体でみると、小学5年生の保護者よりも《赤字》の割合（20.6%）が高くなっており、世帯タイプ別でみると、「ひとり親」の《赤字》の割合（31.4%）が小学5年生の保護者の「ひとり親」よりも高くなっている。

図表 5-2-9 家計の収支の状況(小学5年生):全体、世帯タイプ別、生活困難度別



図表 5-2-10 家計の収支の状況(中学2年生):全体、世帯タイプ別、生活困難度別



3 住宅の状況（保：問9）

- 保護者に対して、住まいの住居の形態を聞いたところ、両学年において、「持ち家」（小：84.4%、中：83.6%）がもっとも多くなっている。
- 「民間の賃貸住宅」（小：7.6%、中：7.4%）は、両学年とも、2番目に高くなっている。
- 小学5年生においては、「都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅」（3.0%）が、次いで高くなっている。
- 中学2年生においては、「都営または市営の賃貸住宅」（3.9%）が、「民間の賃貸住宅」に次いで高くなっている。
- 生活困難度別でみると、「持ち家」の割合は、生活困難度が一般層（88.7%）、周辺層（76.5%）、困窮層（58.2%）と上がるほど、低くなる。また、世帯タイプ別でみると、「持ち家」の割合は、「ふたり親」（88.3%）よりも「ひとり親」（50.0%）の方が、低くなっている。
- 「民間の賃貸住宅」の割合については、生活困難度別にみると、生活困難度が一般層（4.9%）、周辺層（12.3%）、困窮層（23.9%）と上がるほど、高くなっている。「都営または市営の賃貸住宅」の割合についても、「民間の賃貸住宅」と同様の傾向がある。

図表 5-3-1 居住形態(小学5年生、中学2年生) (%)

	持ち家	民間の賃貸住宅	都営または市営の賃貸住宅	都市再生機構・公社などの賃貸住宅	給与住宅(社宅・公務員住宅など)	間借り・その他	無回答
小学5年生	84.4	7.6	1.8	3.0	1.5	0.9	0.9
中学2年生	83.6	7.4	3.9	3.0	0.6	0.9	0.7

図表 5-3-2 居住形態(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***) (%)

		持ち家	民間の賃貸住宅	都営または市営の賃貸住宅	都市再生機構・公社などの賃貸住宅	給与住宅(社宅・公務員住宅など)	間借り・その他
生活困難度別	困窮層	▼ 58.2	▲ 23.9	▲ 10.4	4.5	-	∴ 3.0
	周辺層	▼ 76.5	▲ 12.3	3.4	△ 5.9	1.0	1.0
	一般層	▲ 88.7	▼ 4.9	∴ 1.2	2.4	2.1	0.7
世帯タイプ別	ふたり親	▲ 88.3	▼ 5.3	∴ 1.2	2.9	1.6	0.7
	ひとり親	▼ 50.0	▲ 33.3	▲ 8.3	4.5	0.8	△ 3.0

図表 5-3-3 居住形態(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***) (％)

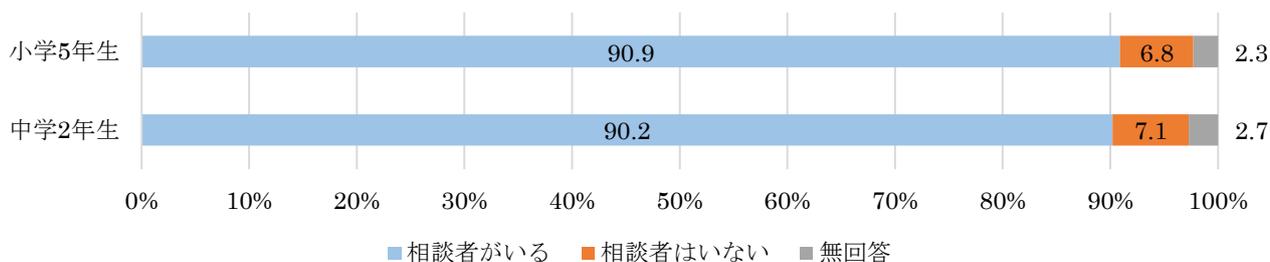
		持ち家	民間の賃貸住宅	都営または市営の賃貸住宅	都市再生機構・公社などの賃貸住宅	給与住宅(社宅・公務員住宅など)	間借り・その他
生活困難度別	困窮層	▼ 54.3	▲ 20.2	▲ 17.0	5.3	-	△ 3.2
	周辺層	▽ 77.3	9.9	4.1	△ 7.0	-	1.7
	一般層	▲ 88.9	▽ 4.8	▽ 2.5	2.6	0.7	0.4
世帯タイプ別	ふたり親	▲ 88.4	▽ 5.7	▼ 2.2	2.6	0.6	0.5
	ひとり親	▼ 50.0	▲ 20.9	▲ 18.7	△ 6.7	-	▲ 3.7

4 親と子の孤立

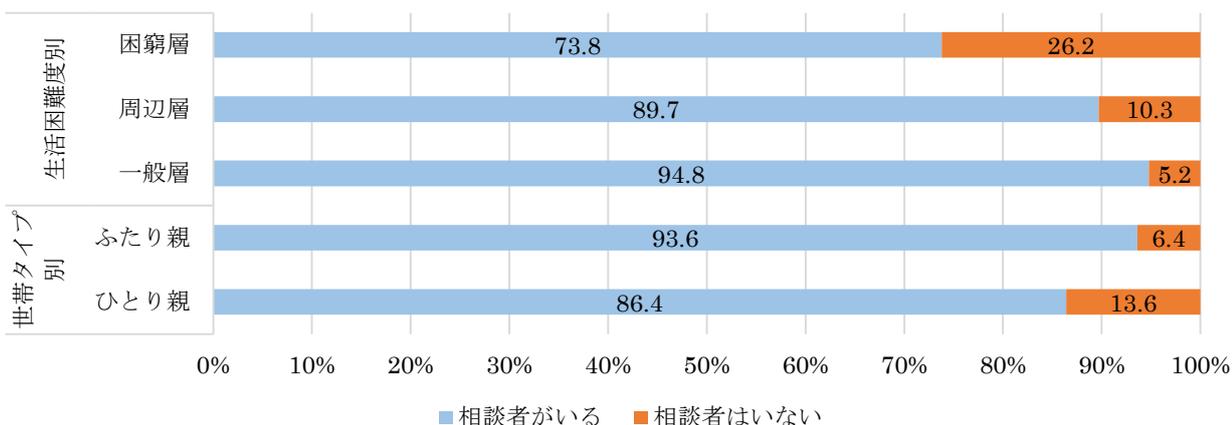
(1) 親の相談相手の有無 (保:問 42)

- 保護者に対し、困ったときや悩みがあるときに、相談できる相手がいるか聞いたところ、全体で見ると、「いる」の割合は、小学5年生の保護者で90.9%、中学2年生で90.2%となっている。これに対して、「いない」の割合は、小学5年生の保護者で6.8%、中学2年生の保護者で7.1%となっている。
- 小学5年生の保護者において、生活困窮度別にみると、「いない」の割合は、困窮層（26.2%）で一般層（5.2%）の5倍以上となっており、周辺層（10.3%）では、約2倍となっている。
- 世帯タイプ別で見ると、「いない」の割合は、「ひとり親」（13.6%）で「ふたり親」（6.4%）の2倍以上となっている。
- 中学2年生の保護者において、生活困難度別にみると、小学5年生の保護者と同様の傾向がみられ、「いない」の割合は、困窮層で22.6%、周辺層で7.0%、一般層で5.0%となっている。
- 世帯タイプ別にみると、小学5年生の保護者と同様の傾向がみられ、「いない」の割合は、「ひとり親」（13.3%）で「ふたり親」（6.6%）の2倍以上となっている。

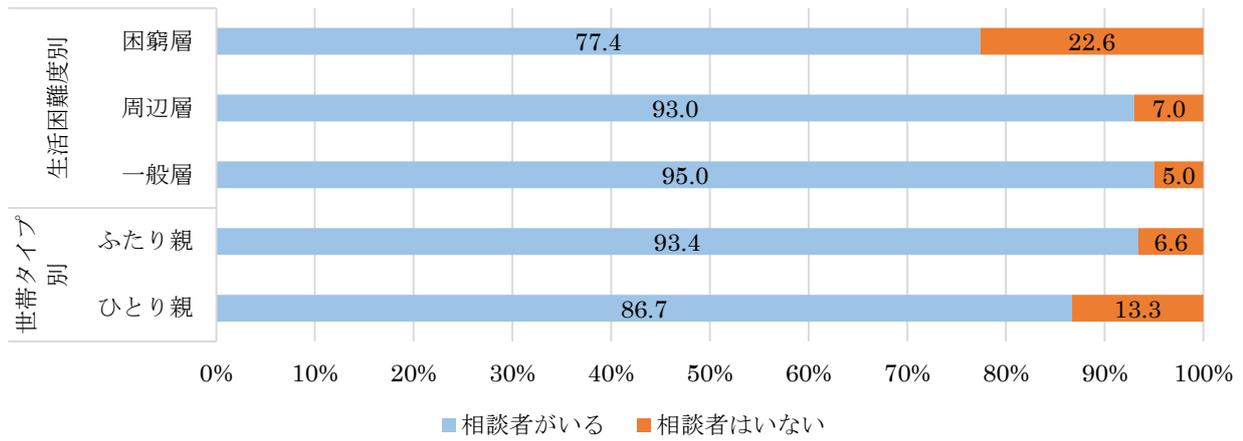
図表 5-4-1 親の相談相手の有無(小学5年生、中学2年生)



図表 5-4-2 親の相談相手の有無(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



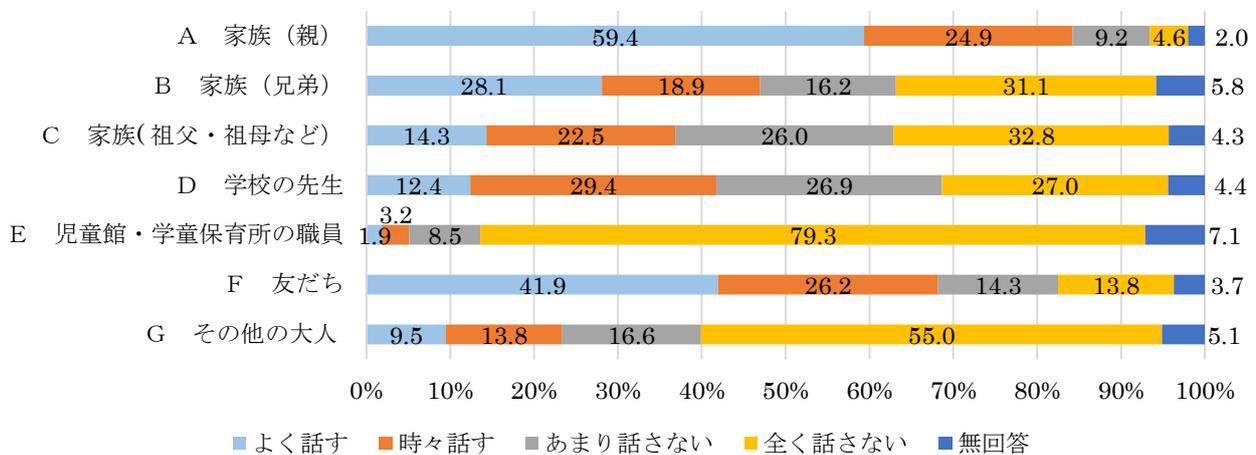
図表 5-4-3 親の相談相手の有無(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



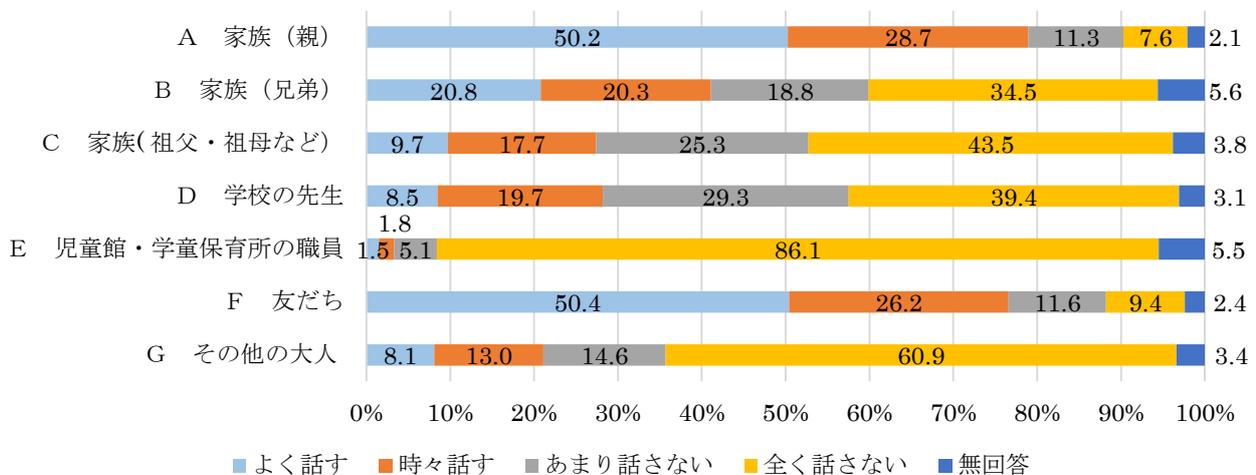
(2)子どもの会話（子:問 15・問4）

- 子どもに対し、困っていることや悩みごとなどを、「A 家族（親）」～「G その他の大人（地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など）」にどれくらい話すかを聞いた。
- 全体でみると、小学5年生において、「よく話す」と「時々話す」を合わせた《話す》の割合は、「A 家族（親）」（84.3%）で最も多く、次いで「F 友だち」（68.1%）「D 学校の先生」（41.8%）と続いている。
- 中学2年生においても、同様の傾向がみられるが、「よく話す」と「時々話す」を合わせた《話す》の割合は、「B 友だち」（76.6%）で小学5年生より高くなっている。一方で「D 学校の先生」（28.2%）は、小学5年生よりも低くなっている。

図表 5-4-5 子どもの会話の状況(小学5年生)



図表 5-4-6 子どもの会話の状況(中学2年生)



- 「あまり話さない」と「全く話さない」を合わせて《話さない》とし、A～Gのすべての対象で《話さない》と回答した子どもを《気持ちを話さない子ども》として、その割合を算出した。ただし、A～Gのうち一つでも「無回答」があったものは、集計対象外とした。
- これを全体でみると、《相談相手がない子ども》の割合は、小学5年生で7.4%、中学2年生で8.4%となっている。
- 生活困難度別にみると、《相談相手がない子ども》の割合は、小学5年生において、一般層で9.4%、困難層で6.1%となっているが、統計的に有意な差はみられなかった。
- 中学2年生においては、困窮層で9.0%、一般層で8.3%となっているが、小学5年生と同様、統計的に有意な差はみられなかった。

図表 5-4-7 他者に気持ちを話す子ども(小学5年生、中学2年生)(%)

	話さない	話す
小学5年生 (n=1452)	7.4	92.6
中学2年生 (n=1163)	8.4	91.6

図表 5-4-8 他者に気持ちを話す子ども:生活困難度別(小学5年生(X)、中学2年生(X)) (%)

		話さない	話す
小学5年生	一般層 (n=914)	9.4	90.6
	生活困難層 (n=273)	6.1	93.9
中学2年生	一般層 (n=688)	9.0	91.1
	生活困難層 (n=266)	8.3	91.7

- 子どもに対して、一番仲が良い友だちについて聞いたところ、全体でみると、「とくに仲の良い友だちはない」は、小学5年生で1.4%、中学2年生では2.1%となっている。

図表 5-4-9 仲の良い友だちの有無(小学5年生、中学2年生):八王子 (%)

		とくに仲の良い友だちはない
八王子市	小学5年生	1.4
	中学2年生	2.1

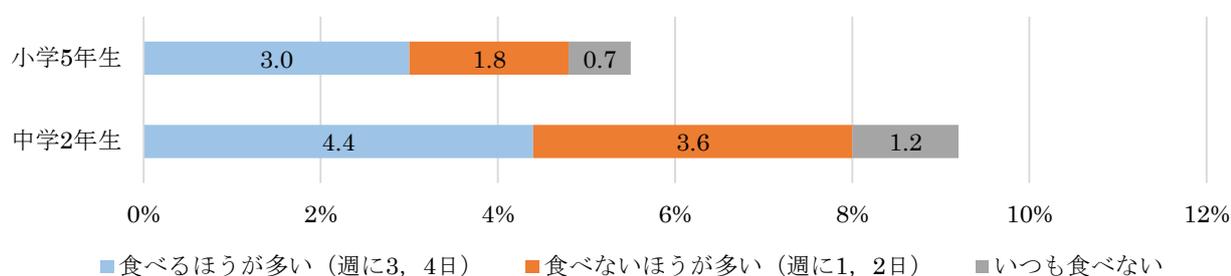
第6章 食・健康・医療

1 子どもの食と栄養

(1)朝食の摂取状況（子：問16）

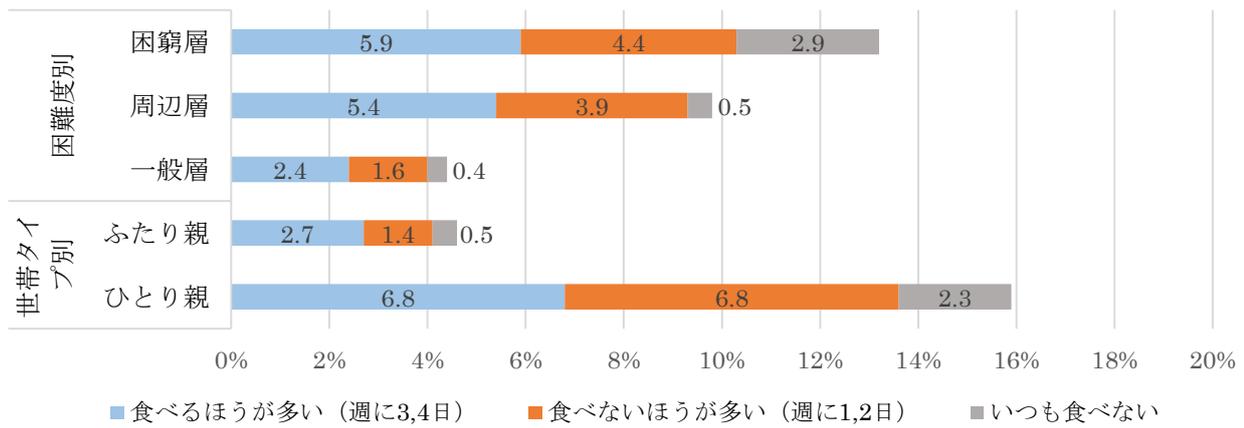
- 子どもに対し、平日に朝ごはんを食べるか聞いたところ、「いつも食べる」の割合は、小学5年生、中学2年生ともに約9割となっている。
- 一方、小学5年生において、「食べる方が多い（週に3,4日）」(3.0%)、「食べない方が多い(週に1,2日)」(1.8%)、「いつも食べない」(0.7%)を合わせた《毎日食べない》は、5.5%となっている。
- 中学2年生において、《毎日食べない》は、9.2%となっており、小学5年生よりも多くなっている。
- 小学5年生において、生活困難度別にみると、《毎日食べない》割合は、一般層(4.4%)、周辺層(9.8%)、困窮層(13.2%)と生活困窮度が高いほど、高くなっている。
- 世帯タイプ別にみると、《毎日食べない》割合は、「ひとり親」(15.9%)で、「ふたり親」(4.7%)の約4倍となっている。
- 中学2年生において、全体でみると、《毎日食べない》割合(9.2%)は、小学5年生に比べて多くなるが、生活困難度別、世帯タイプ別でみると、小学5年生と同様の傾向がある。

図表 6-1-1 朝食の摂取状況(小学5年生、中学2年生)

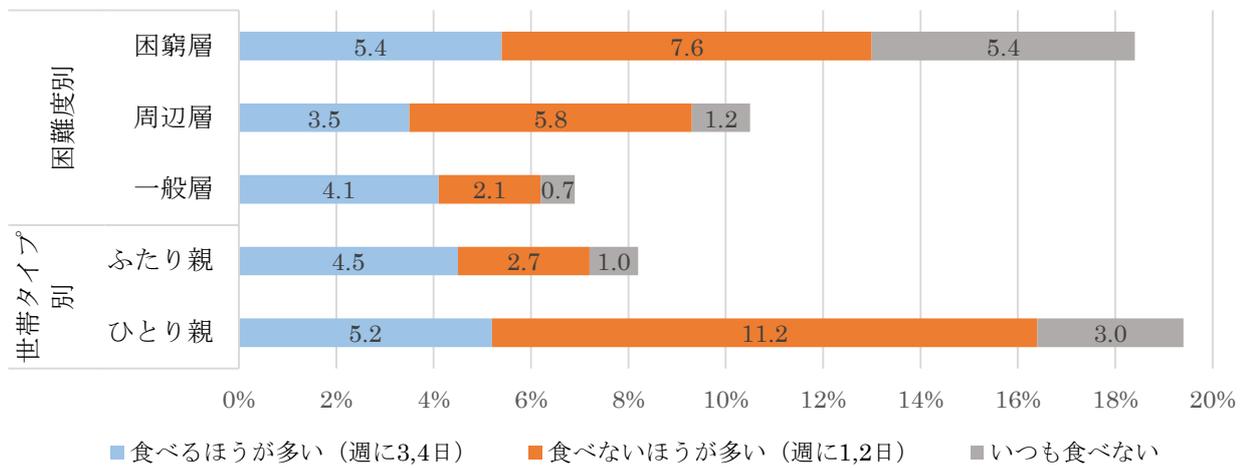


※作表上「いつも食べる（週に5日）」「無回答」は除く。以下、朝食の摂取状況の作表において同様。

図表 6-1-2 朝食の摂取状況(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



図表 6-1-3 朝食の摂取状況(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



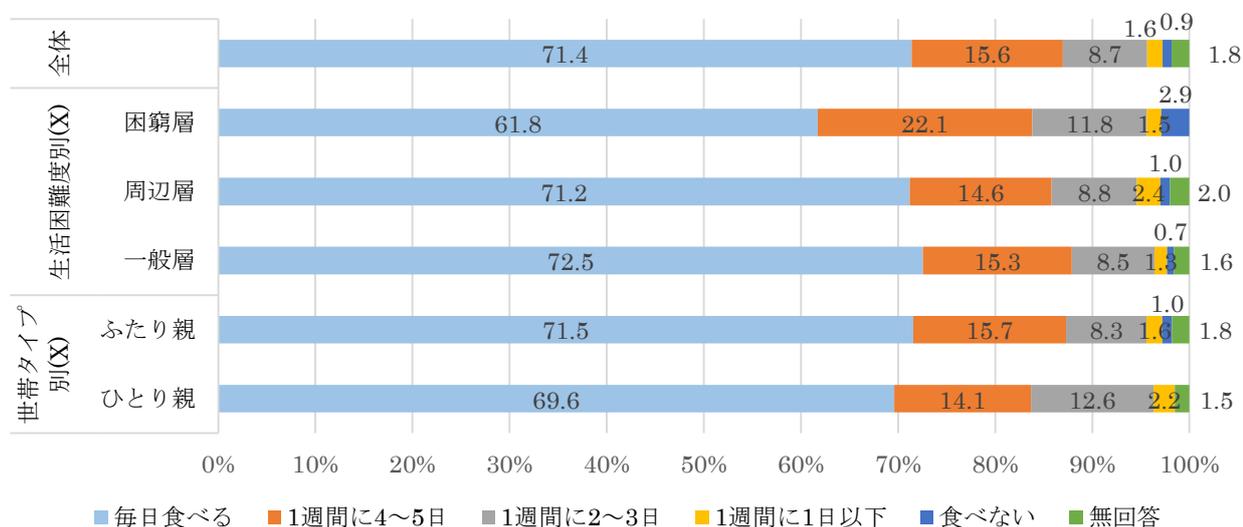
(2)食品群別の摂取状況（子：問 19）

子どもに対して、給食を除き、「A 野菜」～「F お菓子」の食物をどれぐらい食べているか聞いた。

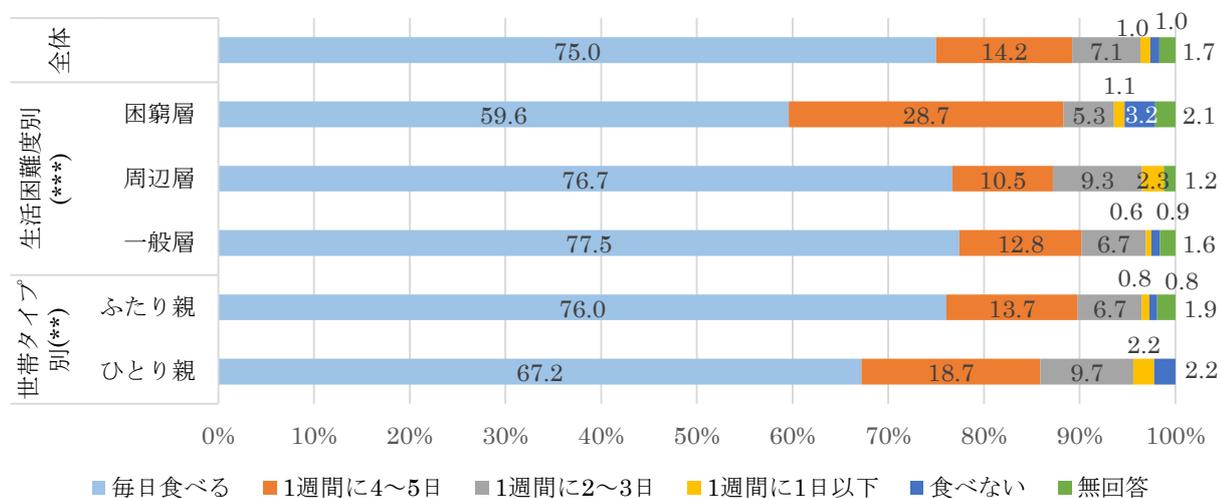
① 「A 野菜」の摂取状況

- 「A 野菜」について、全体で見ると、小学5年生において、「毎日食べる」は71.4%となっている。次いで、「1週間に4～5日」は15.6%、「1週間2～3日」は8.7%と続いている。また、「1週間に1回以下」は1.6%「食べない」は0.9%となっている。
- 生活困難度別、世帯タイプ別にみると、統計的には有意な差はなかった。
- 中学2年生において、「毎日食べる」割合は75.0%となっており、小学5年生より高くなっている。
- 生活困難度別で見ると、困窮層では、「1週間に4～5日」が28.7%、「1週間に2～3日」が5.3%となっている。
- 世帯タイプ別で見ると、「ひとり親」の子どもの野菜の摂取頻度が低い。

図表 6-1-4 「A 野菜」の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



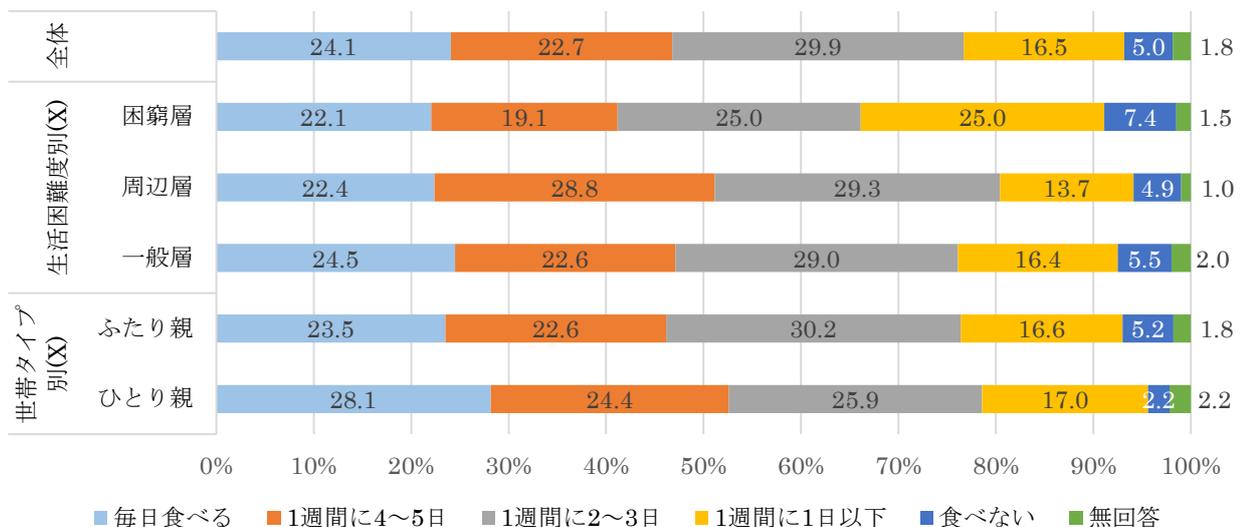
図表 6-1-5 「A 野菜」の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



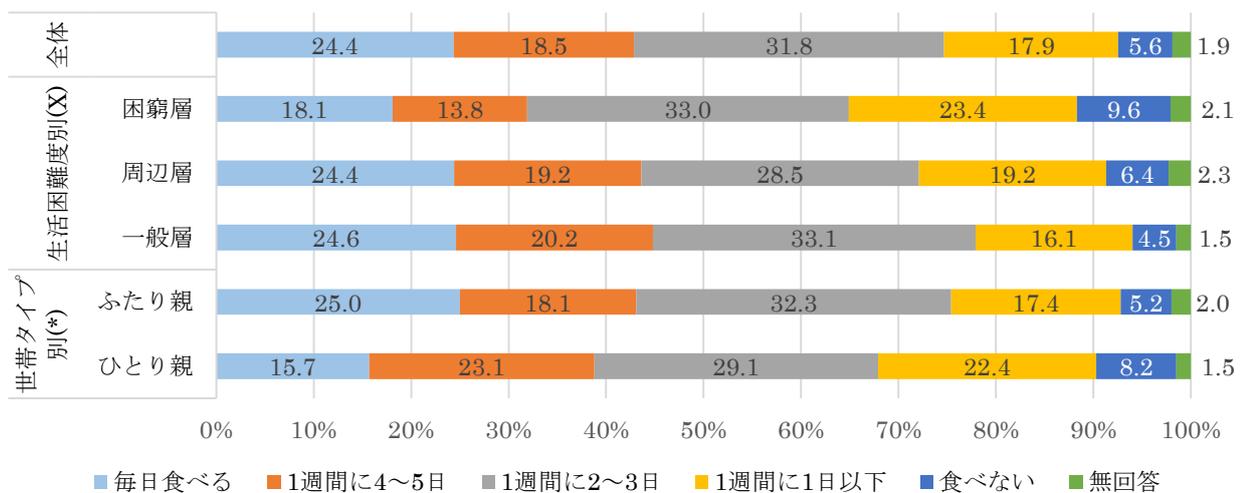
② 「B くだもの」の摂取状況

- 「B くだもの」について、全体で見ると、「1週間に2～3日」が最も多く、小学5年生で29.9%、中学2年生で31.8%となっている。次いで、「毎日食べる」が、小学5年生で24.1%、中学2年生で24.4%、「1週間に4～5日」が、小学5年生で22.7%、中学2年生で18.5%と続いている。「食べない」は、小学5年生で5.0%、中学2年生で5.6%となっている。
- 両学年とも、生活困難度別で見ると、統計的に有意な差はなかった。世帯タイプ別では、中学2年生において、「ひとり親」の子どもの方が摂取頻度は少ない。

図表 6-1-6 「B くだもの」の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



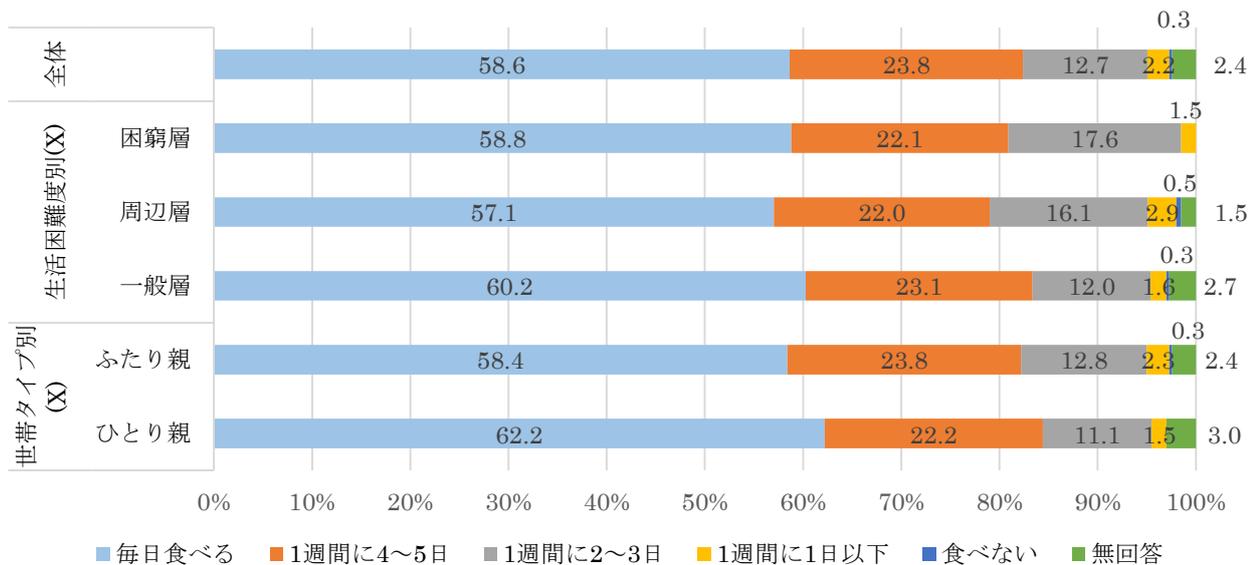
図表 6-1-7 「B くだもの」の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



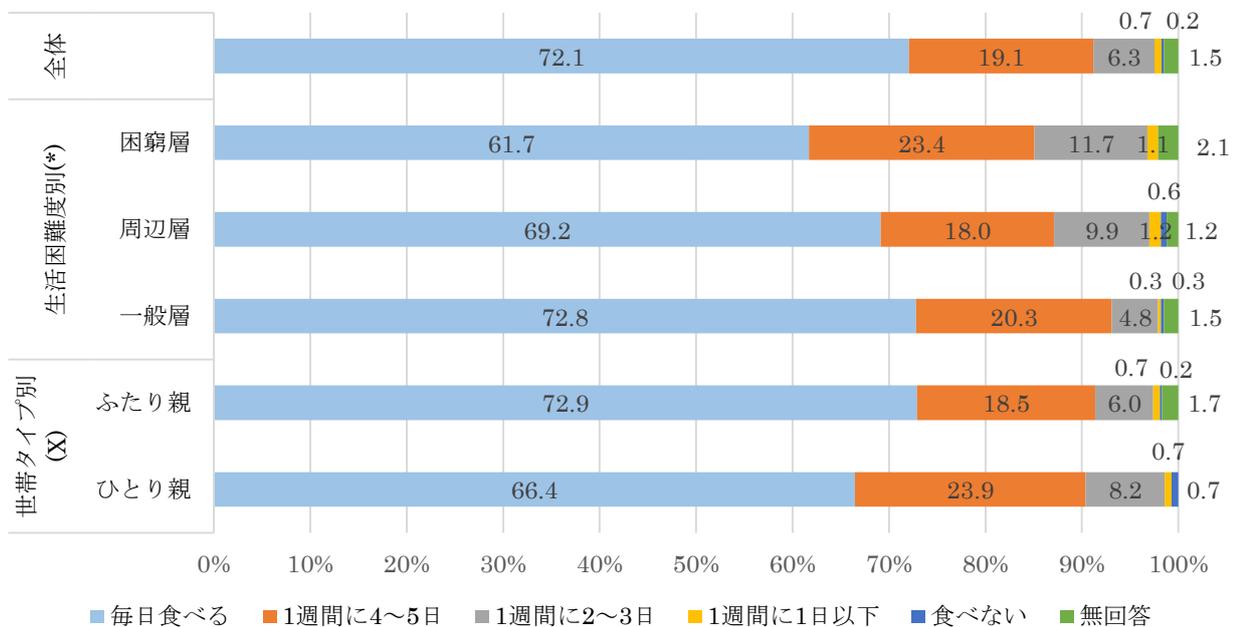
③ 「C 肉や魚」の摂取状況

- 「C 肉や魚」については、全体でみると、「毎日食べる」は、小学5年生で58.6%、中学2年生で72.1%となっている。「1週間に1日以下」は、小学5年生で2.2%となっている。
- 生活困難度別、世帯タイプ別にみると、小学5年生では統計的に有意な差はなかった。中学2年生においては、生活困難度別でみると、統計的に有意な差があった。

図表 6-1-8 「C 肉や魚」の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



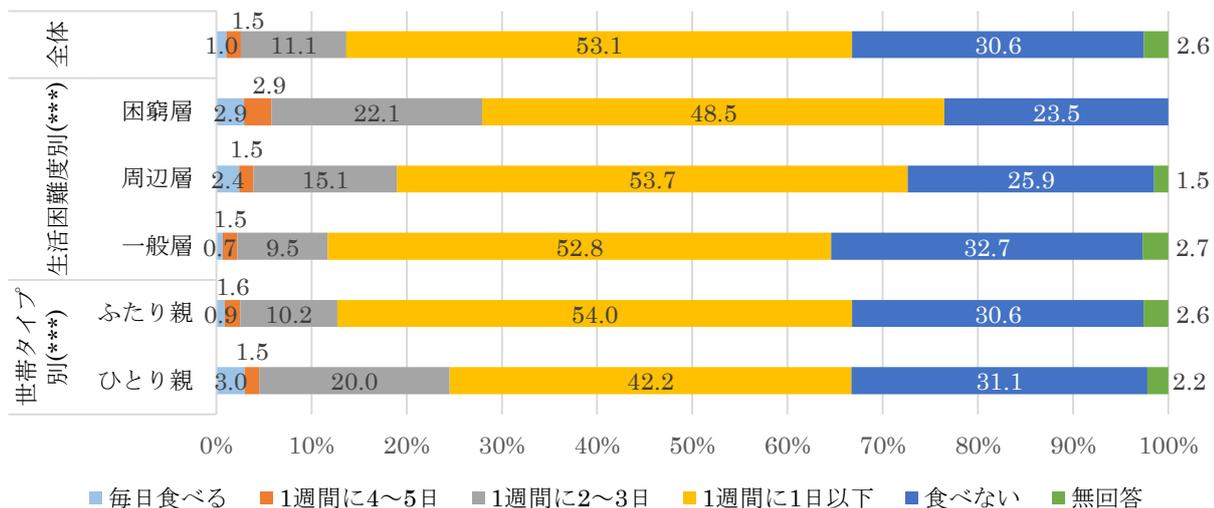
図表 6-1-9 「C 肉や魚」の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



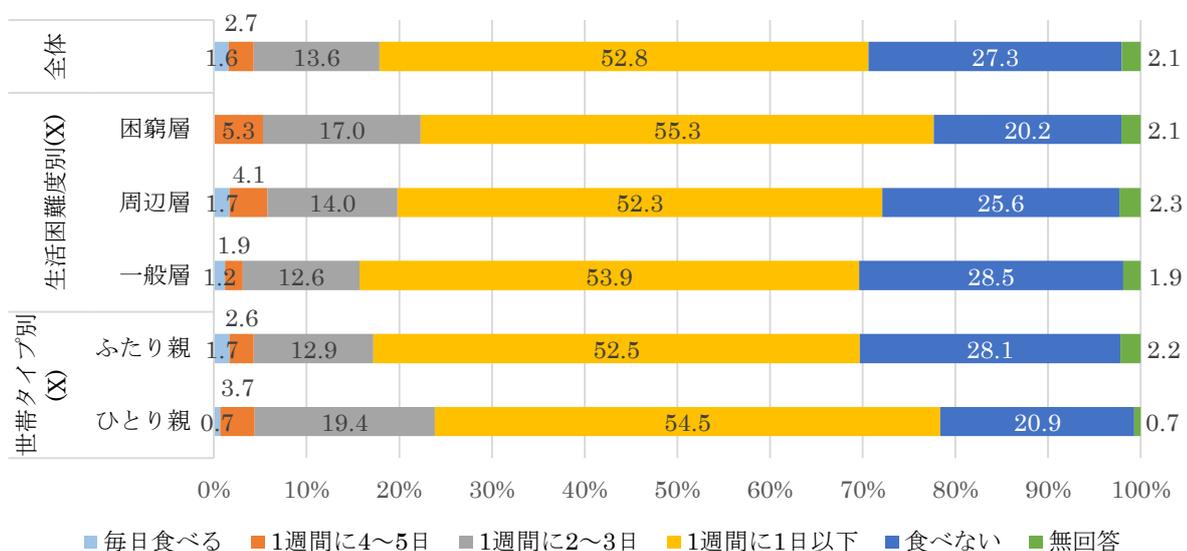
④ 「D カップめん・インスタントめん」の摂取状況

- 「D カップめん・インスタントめん」については、全体でみると、小学5年生において、「1週間に1日以下」(53.1%)と「食べない」(30.6%)を合わせた《1週間に1日以下の摂取頻度》は、83.7%となっている。「1週間に2～3日」は11.1%、「毎日食べる」は1.0%、「1週間に4～5日」は、1.5%となっている。
- 生活困難度別にみると、「1週間に2～3日」の割合は、困窮層(22.1%)で一般層(9.5%)の2倍以上となっている。また、「毎日食べる」(2.9%)と「1週間に4～5日」(2.9%)をあわせると、困窮層で5.8%となっている。
- 世帯タイプ別にみると、「ひとり親」では、「ふたり親」よりもカップめん・インスタントめんを食べる頻度が多くなっている。
- 中学2年生において、全体でみると、小学5年生と同様の傾向があるが、生活困難度別、世帯タイプ別でみると、統計的に有意な差はなかった。

図表 6-1-10 「D カップめん・インスタントめん」の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



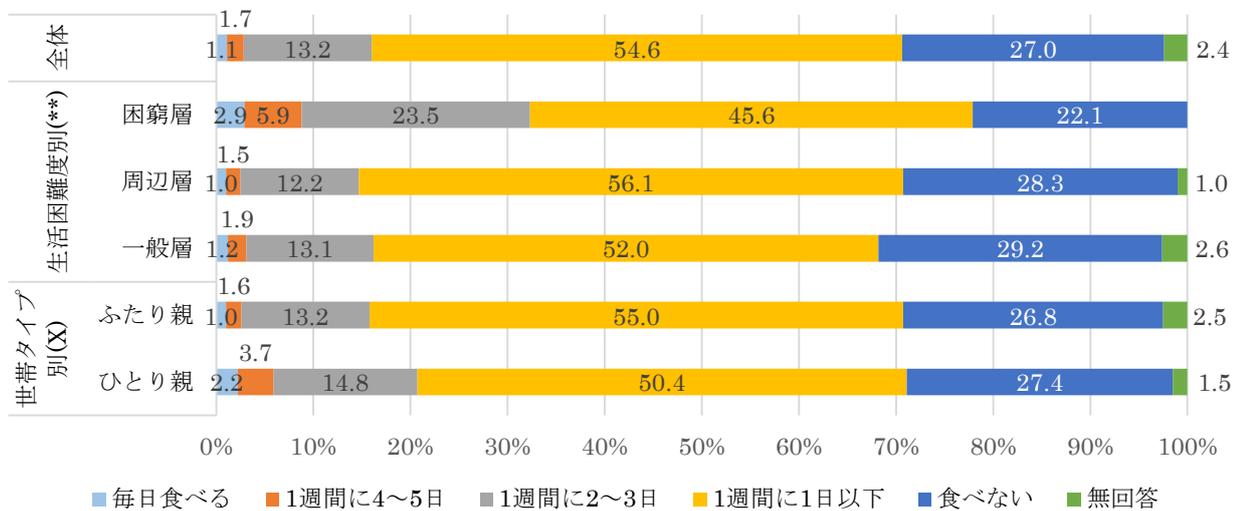
図表 6-1-11 「D カップめん・インスタントめん」の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



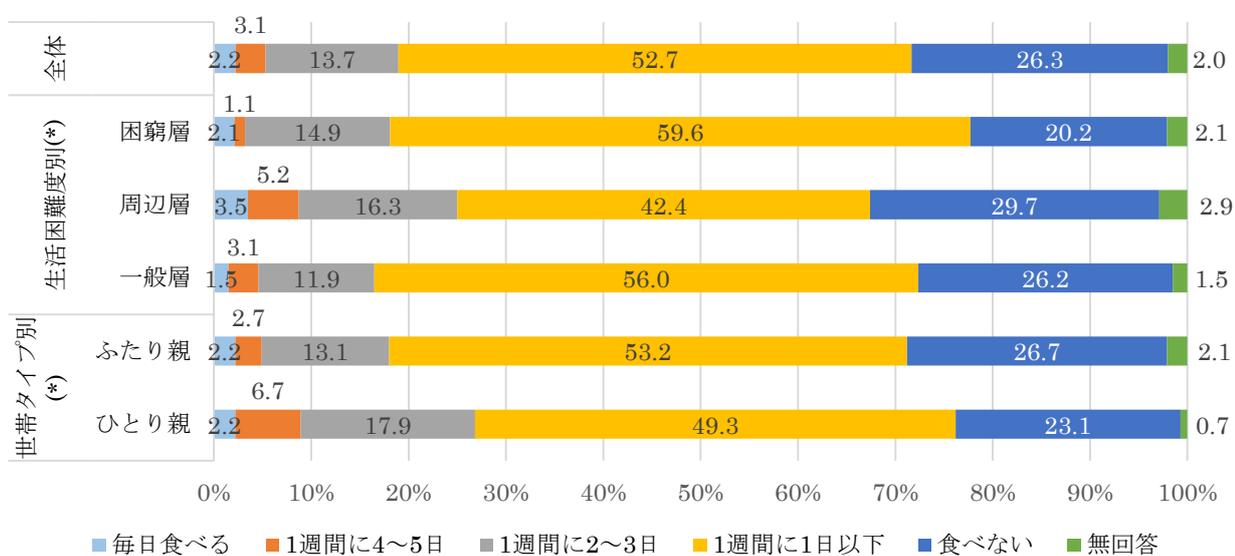
⑤ 「E 買ってきたおにぎり・お弁当」の摂取状況

- 「E 買ってきたおにぎり・お弁当」については、全体で見ると、小学5年生において、「1週間に1日以下」(54.6%)、「食べない」(27.0%)を合わせた≪1週間に1日以下の摂取頻度≫は、81.6%となっている。
- 生活困窮度別にみると、小学5年生において、困窮層で、「毎日食べる」の割合は2.9%、「1週間に4～5回」は5.9%、「1週間に2～3日」は23.5%となっている。
- 世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差はなかった。
- 中学2年生において、生活困難度別で見ると周辺層が、世帯タイプ別で見ると、「ひとり親」で、摂取頻度が高かった。

図表 6-1-12 「E 買ってきたおにぎり・お弁当」の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



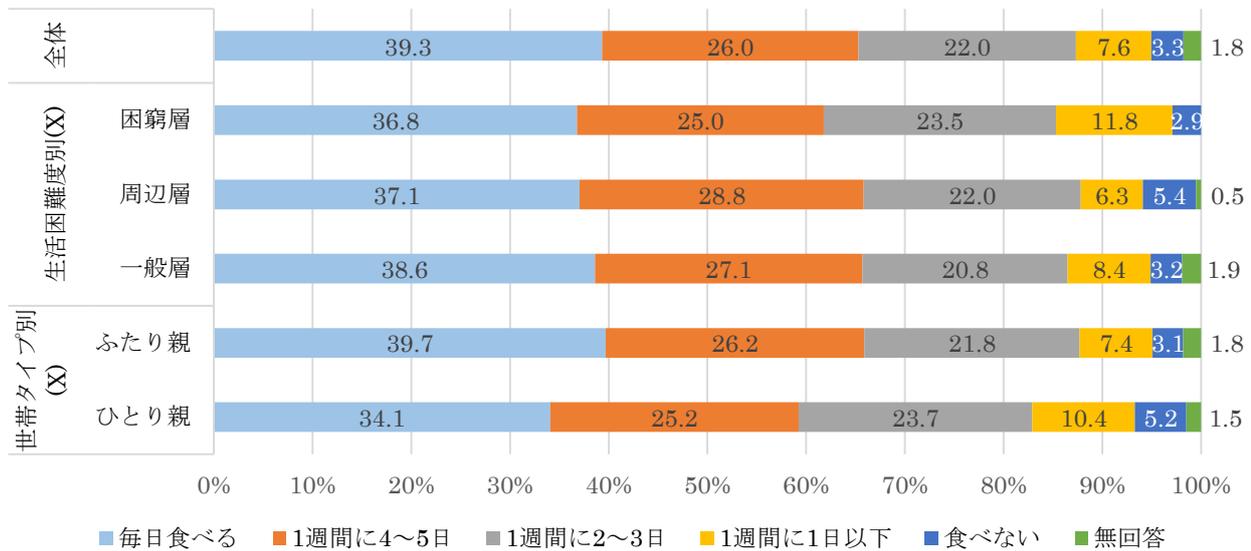
図表 6-1-13 「E 買ってきたおにぎり・お弁当」の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



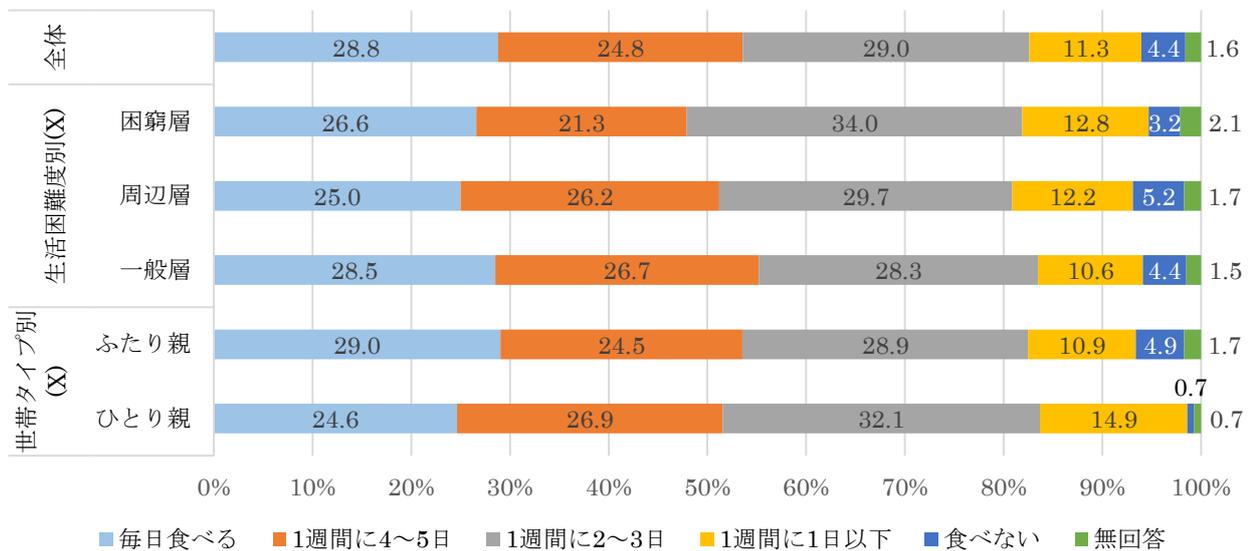
⑥ 「F お菓子」の摂取状況

- 「F お菓子」について、全体で見ると、「毎日食べる」は、小学5年生で39.3%、中学2年生で28.8%となっている。
- 生活困窮度別、世帯タイプ別にみると、両学年とも統計的に有意な差はなかった。

図表 6-1-14 「F お菓子」の摂取状況(小学5年生):全体、生活困窮度別、世帯タイプ別



図表 6-1-15 「F お菓子」の摂取状況(中学2年生):全体、生活困窮度別、世帯タイプ別



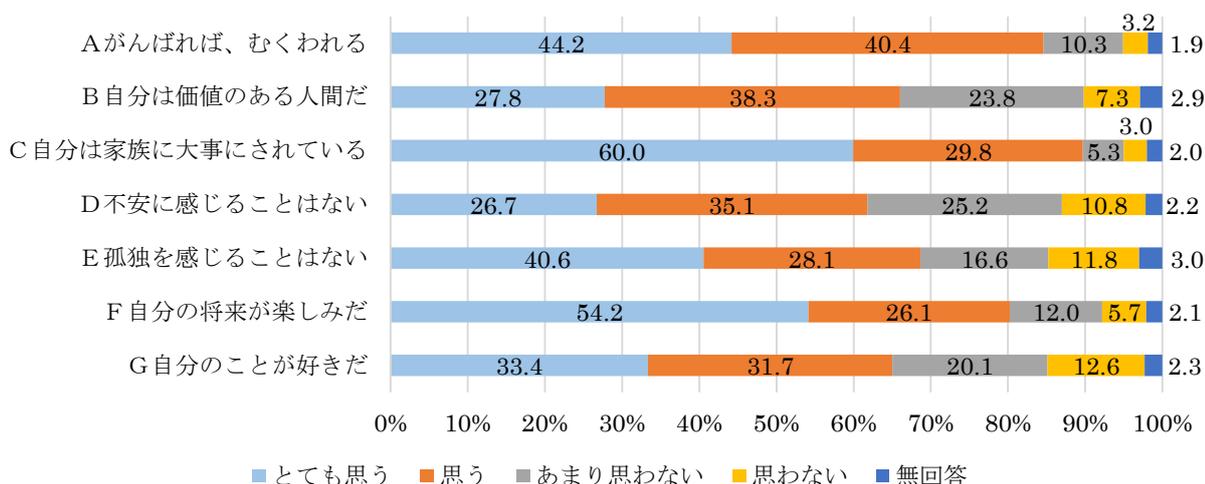
2 子どもの自己肯定感と夢

(1) 自己肯定感 (子: 問 32)

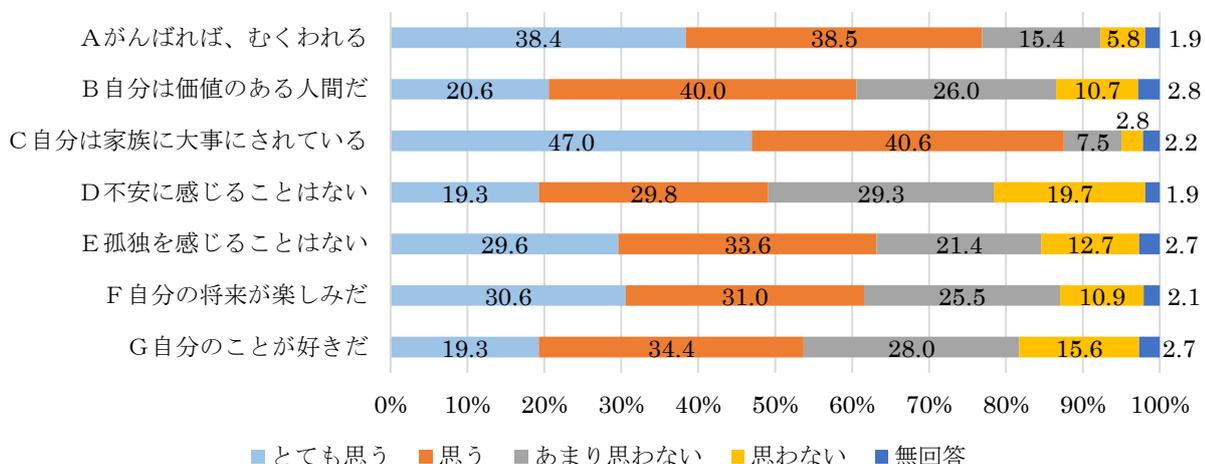
【全体】

- 子どもに対し、下図の自己肯定感に関する A～G の項目について、思いや気持ちについて聞いた。
- 小学5年生において、全体で見ると、「とても思う」「思う」を合わせた《思う》の割合は、「C 自分は家族に大切にされている」(89.8%) が最も高かった。
- 「D 不安に感じることはない」について、《思う》の割合 (61.8%) は、最も低くなっている。
- 「G 自分のことが好き」について、《思う》の割合は、65.1%、「あまり思わない」「思わない」を合わせた《思わない》の割合は、32.7%となっている。また、「B 自分は価値のある人間だ」について、《思う》の割合は、66.1%、《思わない》の割合は、31.1%となっており、ともに、約3分の1の子どもにおいて自己肯定感が低くなっていることが伺える。
- 中学2年生においては、全ての項目で、小学5年生よりも、《思う》の割合が低くなっている。

図表 6-2-1 あなたの思いや、気持ちについて(小学5年生)

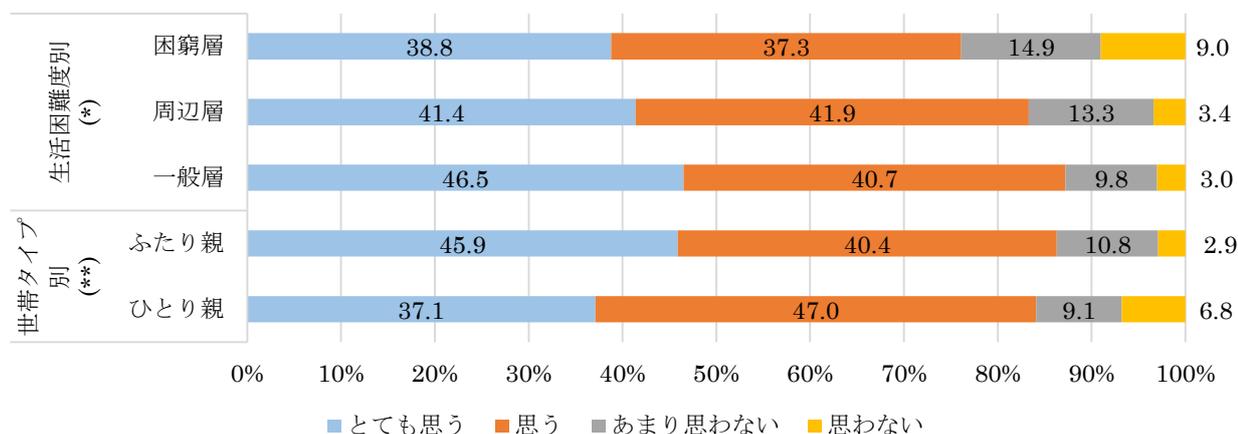


図表 6-2-2 あなたの思いや、気持ちについて(中学2年生)

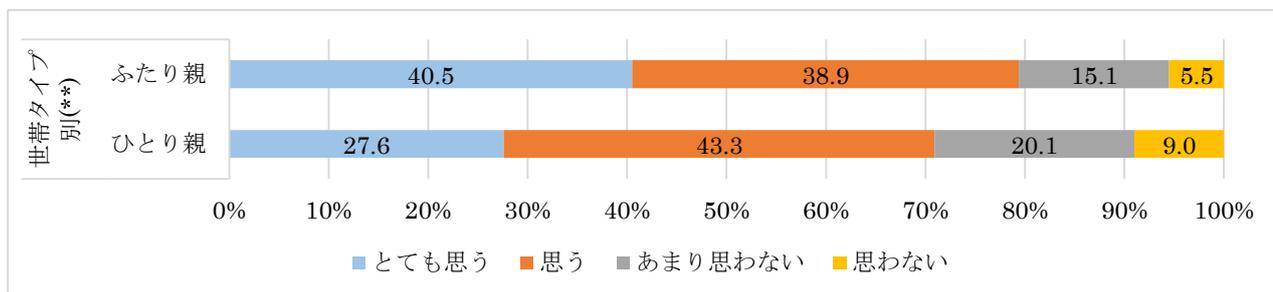


- 前述した自己肯定感に関するA～Gの項目について、生活困難度別、世帯タイプ別に集計した。
- 「D 不安に感じることはない」「E 孤独を感じることはない」については、両学年とも統計的に有意な差は見られなかった。(図表省略)
- 「A がんばれば、むくわれる」
- 小学5年生において、生活困難度別にみると、「思わない」の割合は、困窮層(9.0%)で、周辺層(3.4%)、一般層(3.0%)の約3倍となっている。
- 世帯タイプ別にみると、「とても思う」の割合は、「ひとり親」(37.1%)で、「ふたり親」(45.9%)よりも低くなっている。また、「思わない」の割合は、「ひとり親」(6.8%)で、「ふたり親」(2.9%)の2倍以上となっている。
- 中学2年生において、生活困難度別では、統計的に有意な差はみられなかった。
- 世帯タイプ別にみると、「思わない」の割合は、「ひとり親」(29.1%)で、「ふたり親」(20.6%)よりも、約10ポイント多くなっている。

図表 6-2-3 「A がんばれば、むくわれる」について(小学5年生):生活困難度別(*)、世帯タイプ別(**)



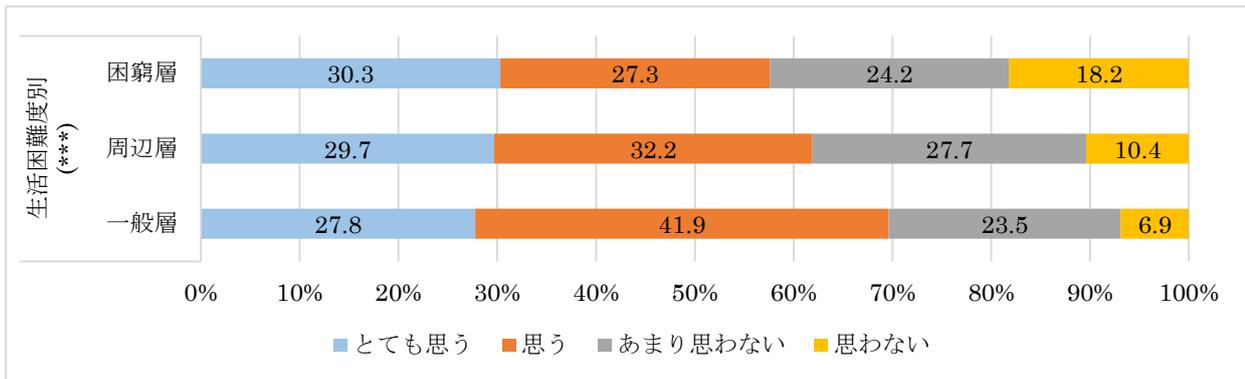
図表 6-2-4 「A がんばれば、むくわれる」について(中学2年生):世帯タイプ別(**)



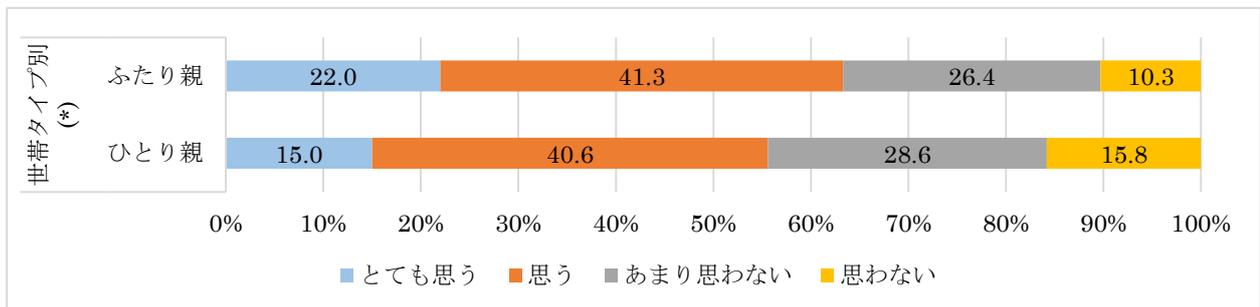
「B 自分は価値のある人間だ」

- 小学5年生において、生活困難度別にみると、「思わない」の割合は、困窮層（42.4%）で最も多くなっている。次いで、周辺層（38.1%）、一般層（30.4%）の順となっており、一般層でも、約3割となっている。
- 一方、中学2年生において、世帯タイプ別にみると、「思わない」の割合は、「ひとり親」（44.4%）で、「ふたり親」（36.7%）よりも多くなっている。

図表 6-2-5 「B 自分は価値のある人間だ」について(小学5年生):生活困難度別(***)



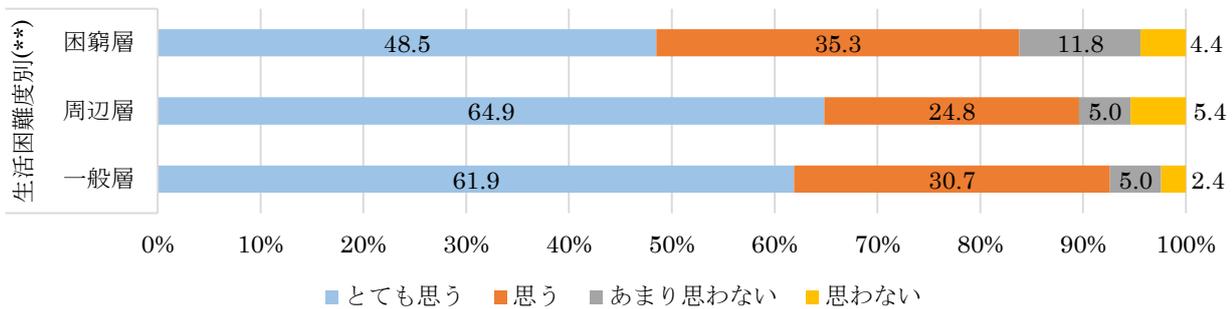
図表 6-2-6 「B 自分は価値のある人間だ」について(中学2年生):世帯タイプ別(*)



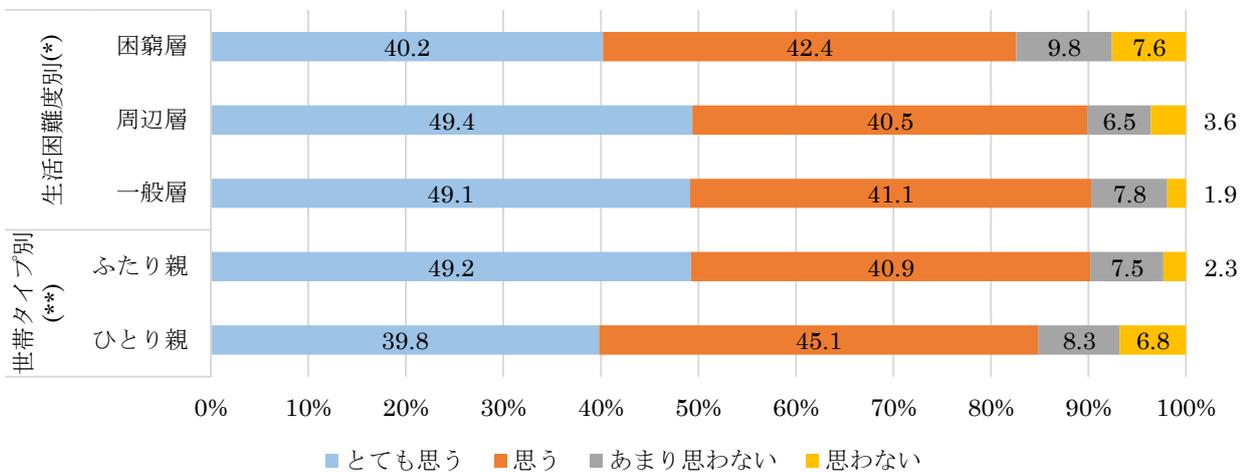
「C 「自分は家族に大事にされている」

- 小学5年生において、生活困難度別にみると、《思わない》の割合は、困窮層（16.2%）、周辺層（10.4%）、一般層（7.4%）の順に高くなっている。
- 中学2年生において、生活困難度別にみると、《思わない》の割合は、困窮層（17.4%）の方が、周辺層（10.1%）や一般層（9.7%）よりも高くなっている。
- 世帯タイプ別にみると、《思わない》の割合は、「ひとり親」（15.1%）の方が、「ふたり親」（9.8%）よりも高くなっている。

図表 6-2-7 「C 自分は家族に大事にされている」について(小学5年生):生活困難度別(**)



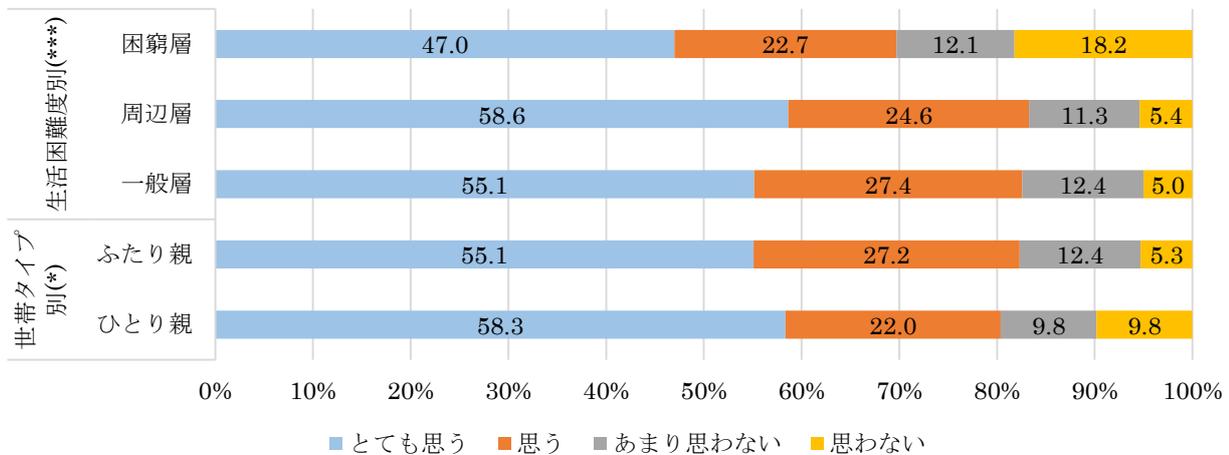
図表 6-2-8 「C 自分は家族に大事にされている」について(中学2年生):生活困難度別(*)、世帯タイプ別(**)



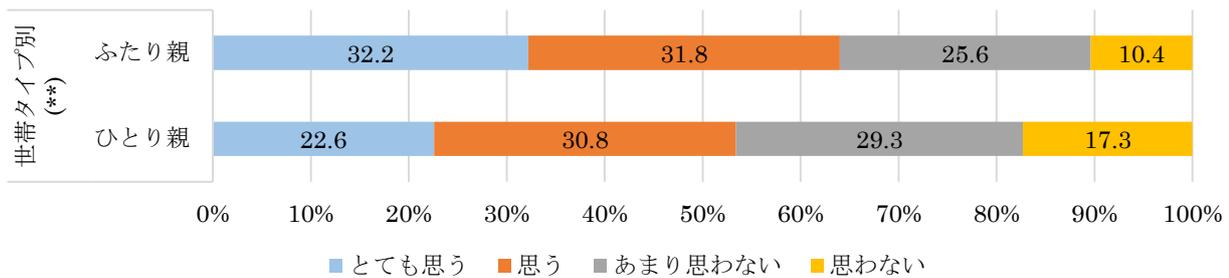
「F 自分の将来が楽しみだ」

- 小学5年生において、生活困難度別にみると、《思わない》割合は、困窮層（30.3%）が最も高くなっている。
- 世帯タイプ別にみると、《思わない》の割合は、「ひとり親」（19.6%）の方が、「ふたり親」（17.7%）よりも高くなっている。
- 中学2年生において、世帯タイプ別にみると、《思わない》の割合は、「ひとり親」（46.6%）の方が、「ふたり親」（36.0%）よりも高く、5割弱となっている。

図表 6-2-9 「F 自分の将来が楽しみだ」について(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(*)



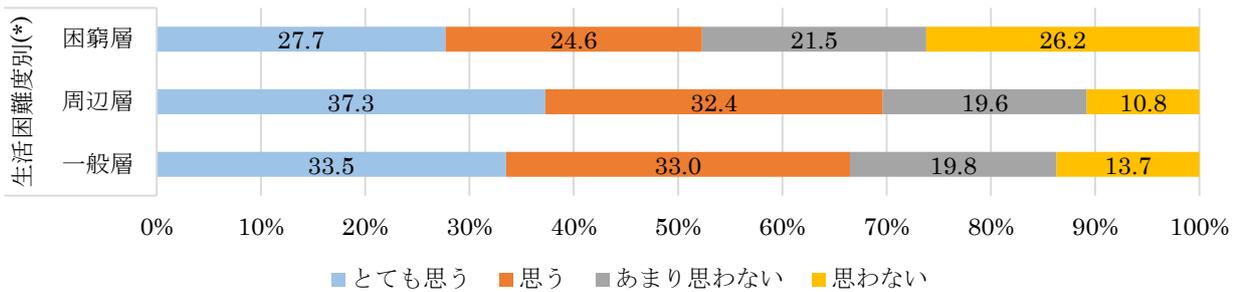
図表 6-2-10 「F 自分の将来が楽しみだ」について(中学2年生):世帯タイプ別 (**)



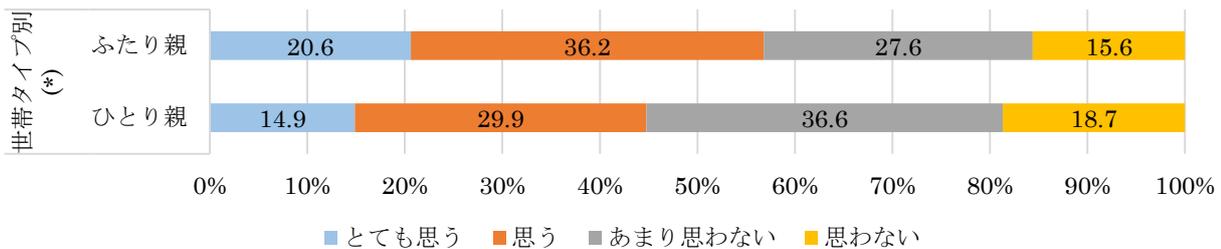
「自分のことが好きだ」

- 小学5年生において、生活困難度別にみると、「思わない」の割合は、困窮層（47.7%）の方が、一般層（33.5%）よりも、約14ポイント高くなっている。
- 中学2年生において、世帯タイプ別にみると、「思わない」の割合は、「ひとり親」（55.3%）の方が、「ふたり親」（43.2%）よりも多く、5割強となっている。

図表 6-2-11 「E 自分のことが好きだ」について(小学5年生):生活困難度別 (*)



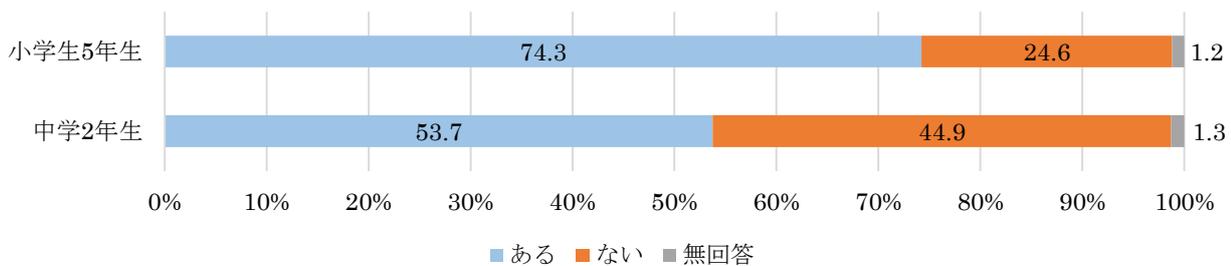
図表 6-2-12 「E 自分のことが好きだ」について(中学2年生):世帯タイプ別 (*)



(2)夢 (子:問3)

- 子どもに対して、将来の夢があるか聞いたところ、「ある」の割合は、小学5年生（74.3%）の方が、中学2年生（53.7%）よりも高く、「ない」の割合は、小学5年生（24.6%）の方が、中学2年生（44.9%）よりも低くなっている。
- また、生活困難度別、世帯タイプ別については、統計的に有意な差はみられなかった。

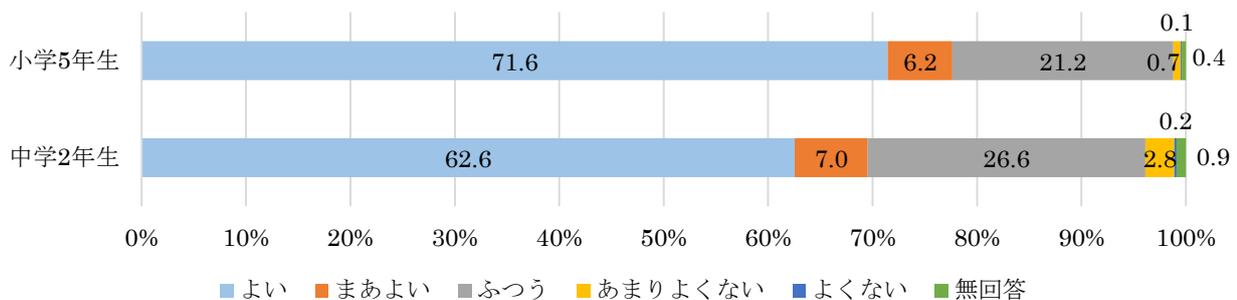
図表 6-2-13 夢の有無(小学5年生、中学2年生):全体



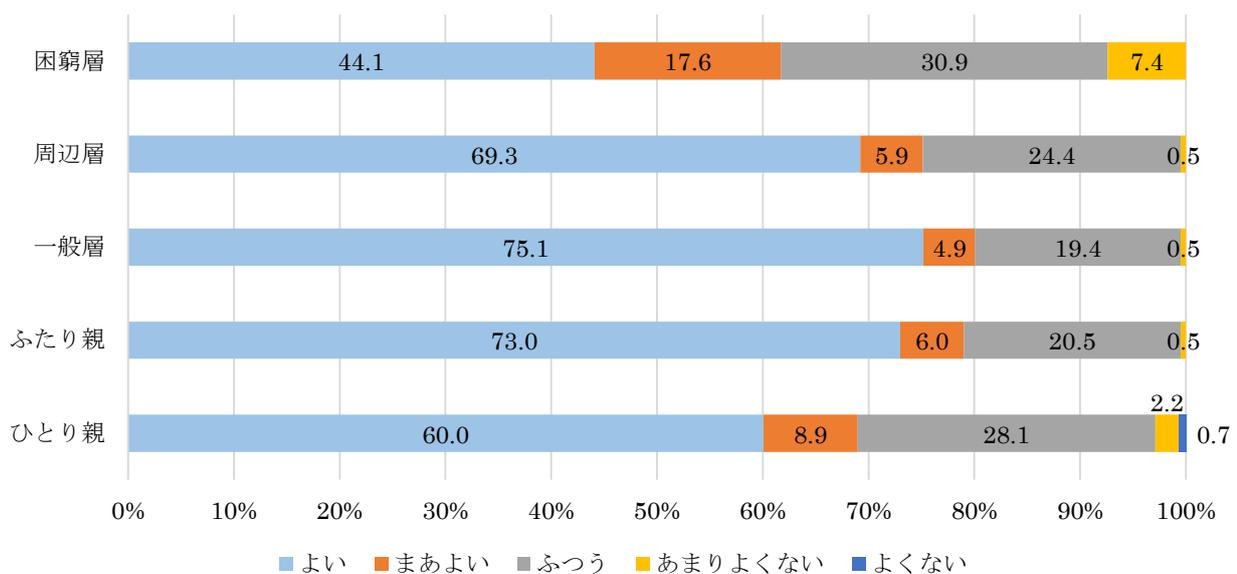
3 子どもの健康状態（保：問 14-2）

- 保護者に対し、子どもの健康状態について聞いたところ、「よい」の割合は、小学5年生の保護者（71.6%）、中学2年生の保護者（62.6%）ともに最も多くなっている。「あまりよくない」と「よくない」を合わせた《よくない》は、小学5年生の保護者で0.8%、中学2年生の保護者で3.0%となっている。
- 小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、「よい」の割合は、困窮層（44.1%）で、周辺層（69.3%）、一般層（75.1%）よりも少なくなっている。また、「あまりよくない」の割合も、困窮層（7.4%）で、周辺層（0.5%）や一般層（0.5%）よりも高くなっている。世帯タイプ別にみると、「よい」の割合は、「ひとり親」（60.0%）で、「ふたり親」（73.0%）よりも低くなっている。
- 中学2年生の保護者において、世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差は見られなかった。生活困難度別にみると、小学5年生の保護者と同様の傾向が見られた、「よい」の割合は、困窮層（48.4%）で、一般層（67.6%）よりも19.2ポイント少なくなっている。

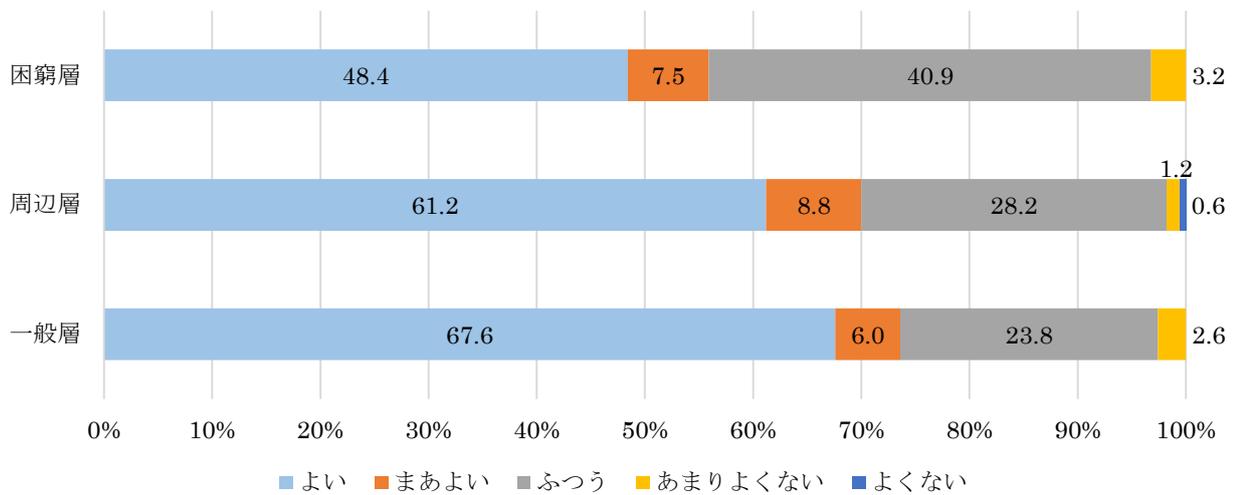
図表 6-3-1 子どもの健康状態(小学5年生、中学2年生):全体



図表 6-3-2 子どもの健康状態(小学5年生):世帯タイプ別(***)生活困難度別(***)



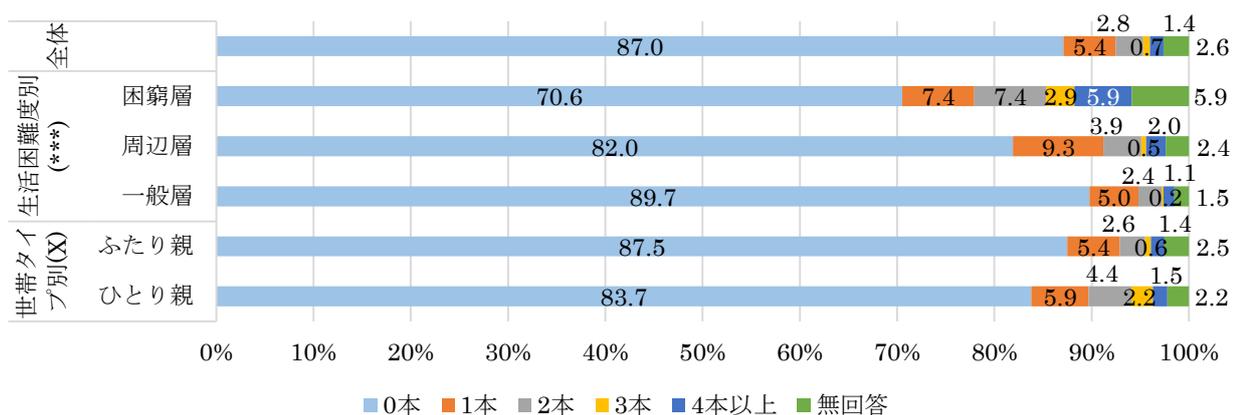
図表 6-3-3 子どもの健康状態(中学2年生):生活困難度別(**)



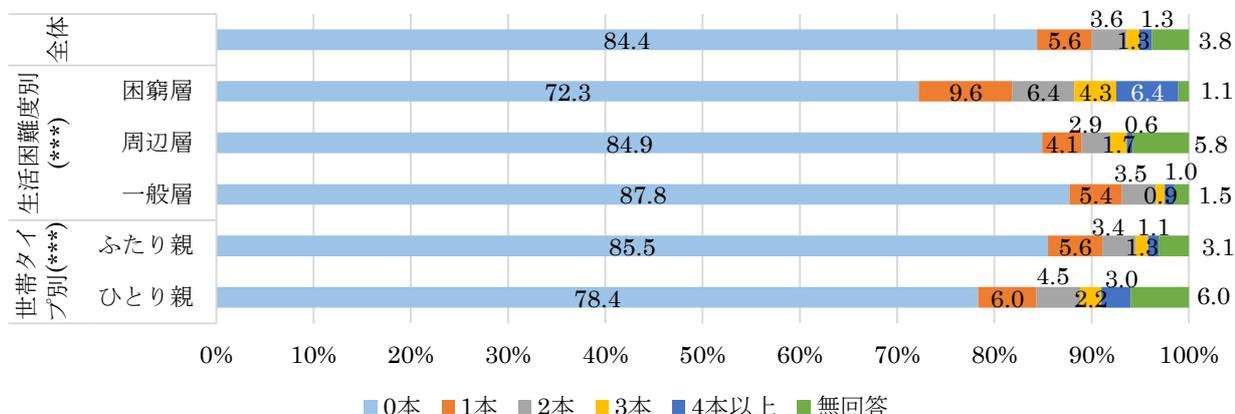
4 子どもの虫歯（保:問 16）

- 保護者に対し、子どもの虫歯の本数（治療中のものも含む）を聞いた。
- 全体でみると、「0本」の割合は、小学5年生で87.0%、中学2年生で84.4%となっている。「1本」と「2本」を合わせた《1～2本》の割合は、小学5年生で8.2%、中学2年生で9.2%となっている。
- 小学5年生において、生活困難度別にみると、「1本」「2本」「3本」「4本以上」を合わせた《虫歯がある》の割合は、困窮層（23.6%）、周辺層（15.7%）、一般層（8.7%）の順に高くなっている。
- 小学5年生において、「3本」「4本以上」の割合は、困窮層（2.9%、5.9%）で最も高くなっている。
- 小学5年生において、世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差は見られなかった。
- 中学2年生においても、生活困難度別にみると、小学5年生と同様に、《虫歯がある》の割合は、困窮層（26.7%）一般層（10.8%）、周辺層（9.3%）、の順で高くなっている。
- 中学2年生において、「4本以上」の割合は、困窮層で6.4%、「3本」の割合は、困窮層で4.3%と、それぞれ小学5年生よりも高くなっている。
- 中学2年生においては、世帯タイプ別の差も認められる。

図表 6-4-1 虫歯の本数(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



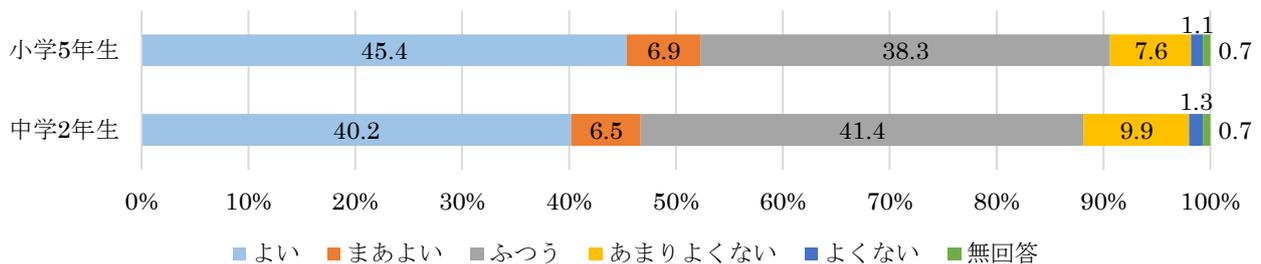
図表 6-4-2 虫歯の本数(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



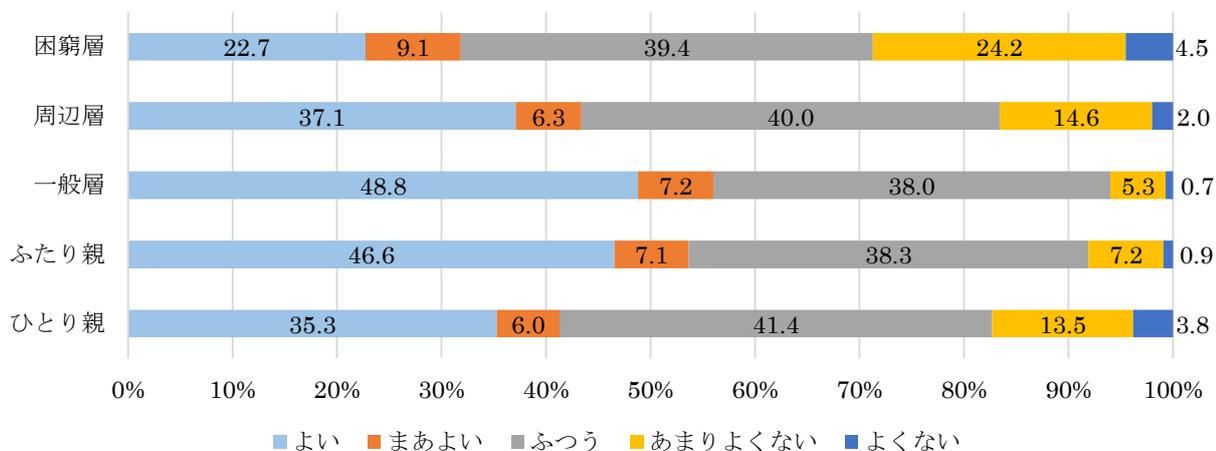
5 保護者の健康状態（保:問 14-1）

- 保護者に対し、健康状態について聞いたところ「よい」と「まあよい」を合わせた《よい》の割合は、小学5年生の保護者で 52.3%、中学2年生の保護者で 46.7%となっている。一方で、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた《よくない》の割合は、小学5年生の保護者で 8.7%、中学2年生の保護者で 11.2%となっている。
- 小学5年生の保護者において、「よい」の割合は、世帯タイプ別にみると、「ふたり親」で 46.6%、「ひとり親」で 35.3%となっており、生活困難度別にみると、一般層(48.8%)よりも、周辺層(37.1%)や困窮層 (22.7%)の方が低くなっている。
- 《よくない》の割合は、世帯タイプ別にみると、「ふたり親」(8.1%)よりも、「ひとり親」(17.3%)の方が高く、また、生活困難度別にみると、困窮層 (28.7%)では、一般層 (6.0%) 4倍以上となっている。
- 中学2年生の保護者において、世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差は見られなかった。
- 生活困難度別にみると、小学5年生と同様の傾向が見られ、「よい」の割合は、困窮層 (25.5%) が最も低く、「あまりよくない」「よくない」を合わせた《よくない》は、困窮層 (26.6%) が最も高くなっている。

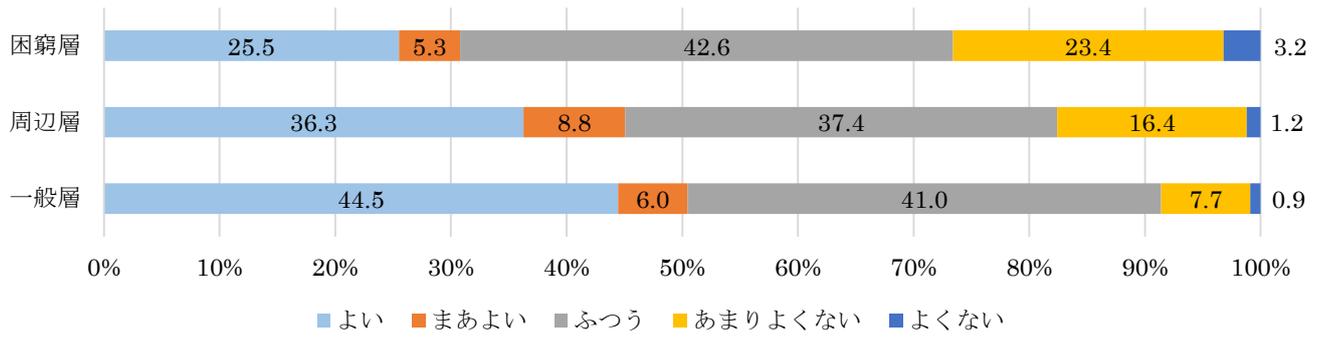
図表 6-5-1 保護者の健康状態(小学5年生、中学2年生):全体



図表 6-5-2 保護者の健康状態(小学5年生):世帯タイプ別(***)、生活困難度別(***)



図表 6-5-3 保護者の健康状態(中学2年生):生活困難度別(***)



6 保護者の抑うつ傾向（保:問 18）

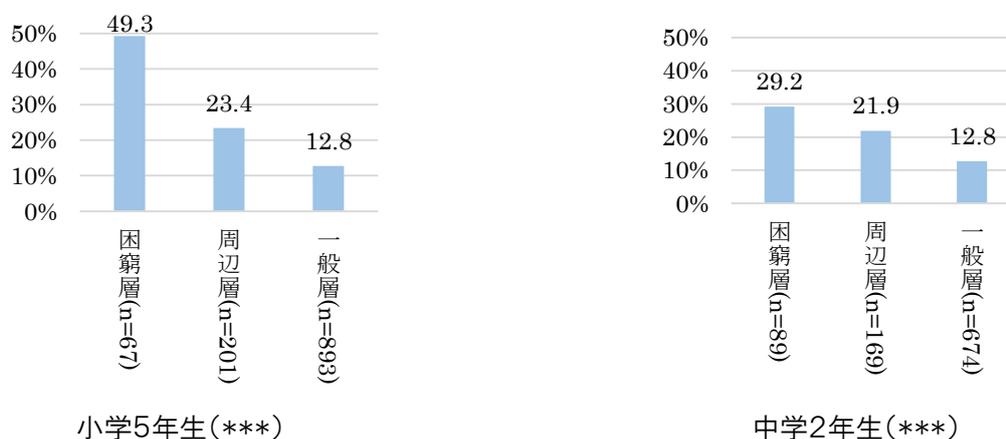
- 保護者の抑うつ傾向について、調べた。保護者の抑うつ傾向を表す指標として K6*を利用している。
- 抑うつ傾向「あり」の割合は、小学校5年生の保護者で 16.5%、中学2年生の保護者で 16.0%となっている。
- 小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、抑うつ傾向「あり」の割合は、一般層(12.8%)よりも、周辺層(23.4%)、困窮層(49.3%)の方が、高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、生活困難度別にみると、抑うつ傾向「あり」の割合は、一般層で 12.8%、周辺層で 21.9%、困窮層で 29.2%となっている。
- 小学5年生の保護者において、世帯タイプ別にみると、抑うつ傾向「あり」の割合は、「ひとり親」(32.1%)で、「ふたり親」(15.1%)の2倍以上となっている。
- 中学2年生の保護者において、世帯タイプ別にみると、抑うつ傾向「あり」の割合は、「ひとり親」(23.2%)で、「ふたり親」(15.2%)よりも、8ポイント高くなっている。

※ K6 は、過去 30 日の間での心の状況（6 項目）を指数化し、その合計点数によって、「心理的ストレス反応相当（5 点以上）」「気分・不安障害相当（9 点以上および 10 点以上）」「重症精神障害相当（13 点以上）」に分類される。ここでは「気分・不安障害相当（9 点以上）」を「抑うつ傾向あり」として分析を行う。また、分析対象者は全ての項目を回答しているもののみとし、それ以外は全て「無効回答」として分析から省かれている。

図表 6-6-1 保護者の抑うつ傾向(k6):全体

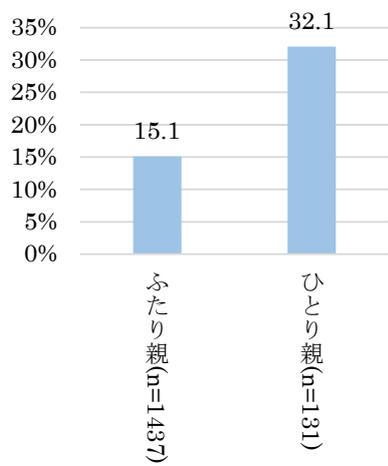
	小学5年生の保護者		中学2年生の保護者	
	(人)	(%)	(人)	(%)
なし	1,315	83.5	1,019	84.0
あり	260	16.5	194	16.0
合計	1,575	100.0	1,213	100.0

図表 6-6-2 保護者の抑うつ傾向「あり」:生活困難度別

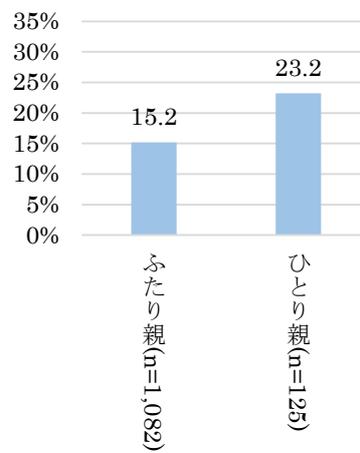


図表 6-6-3 保護者の抑うつ傾向「あり」:世帯タイプ別

小学5年生(***)



中学2年生(**)

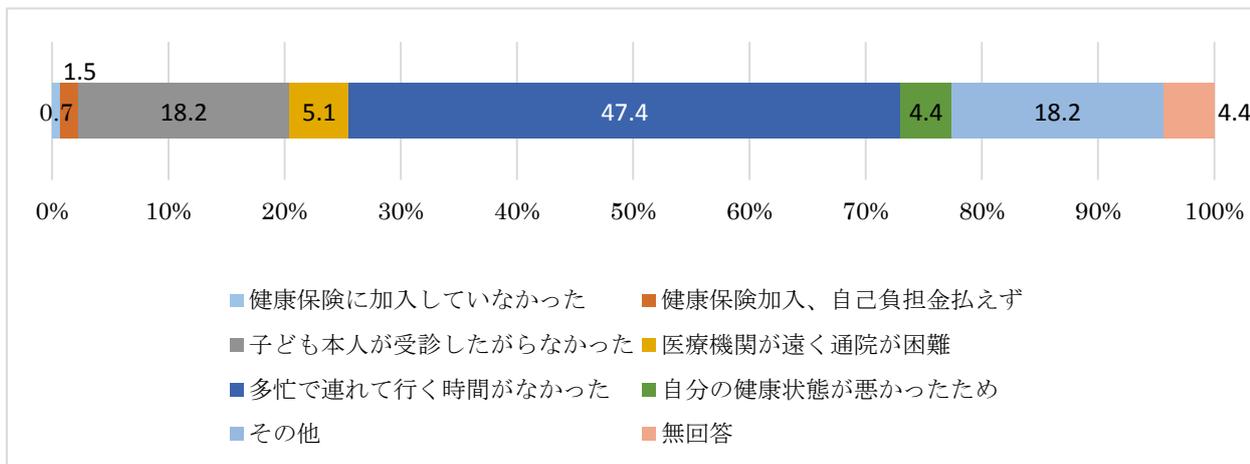
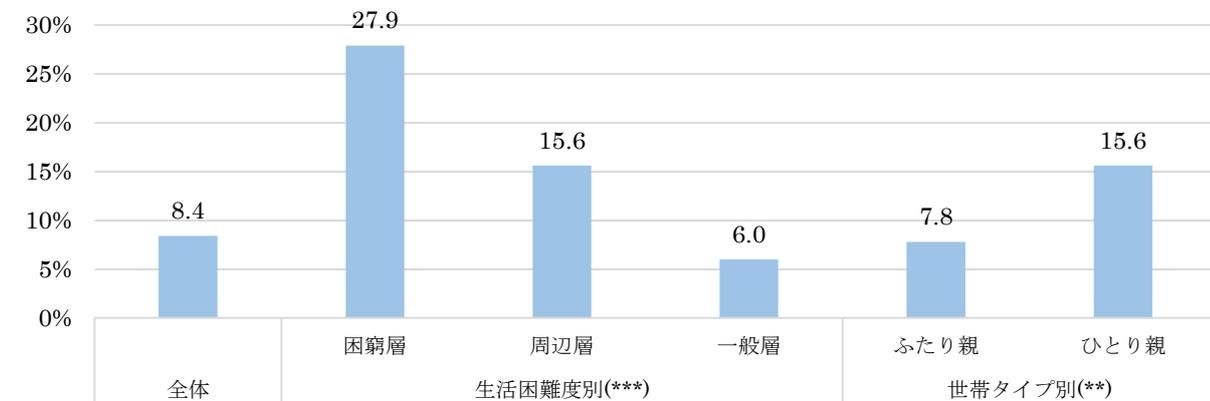


7 医療機関への受診状況等

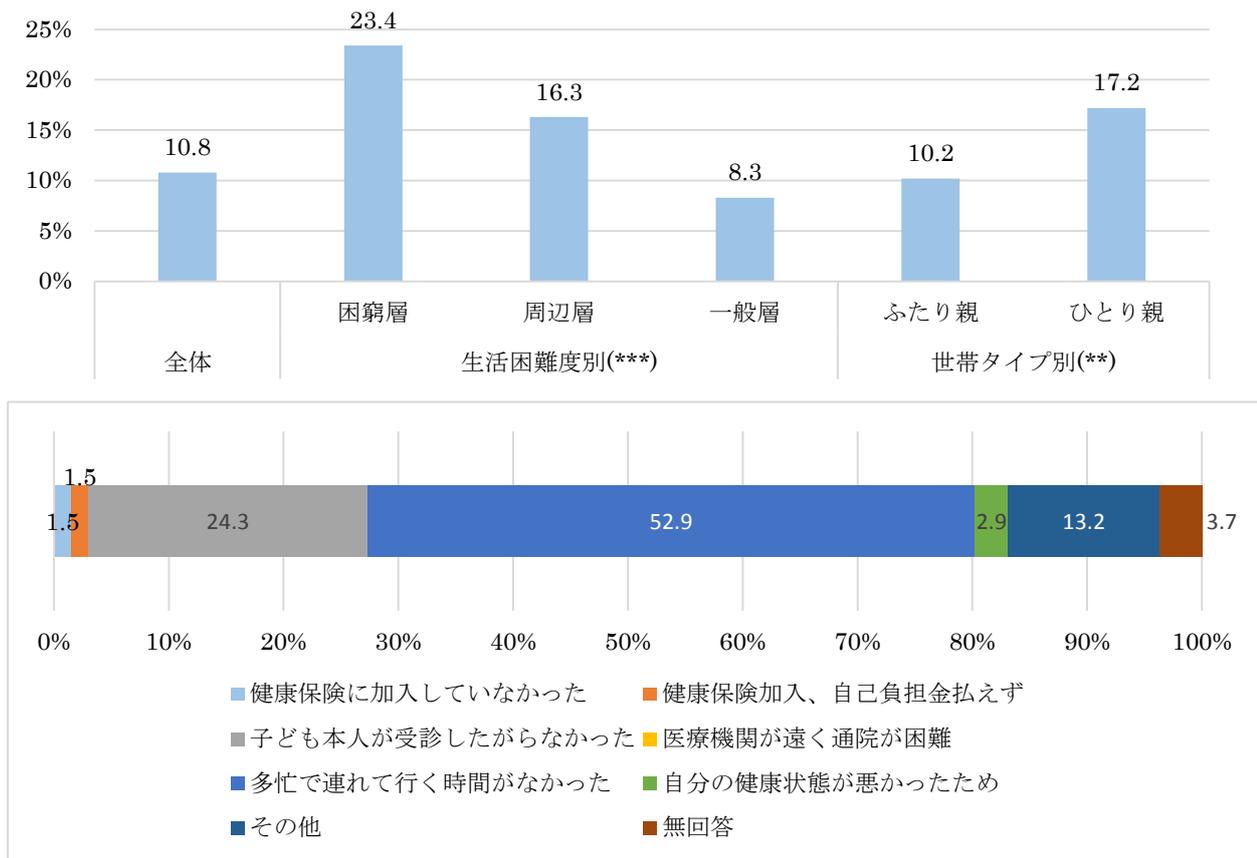
(1) 医療サービスの受診抑制（保:問 15）

- 保護者に対し、子どもを医療機関に受診させた方が良かったと思っただが、受診させなかったことがあるか聞いたところ、「あった」と回答した割合を示している。
- 全体で見ると、「あった」の割合は、小学5年生の保護者で 8.4%、中学2年生の保護者で 10.8%となっている。
- 受診抑制の理由としては、「子ども本人が受診しなかった」（小学5年生の保護者で 18.2%、中学2年生の保護者で 24.3%）、「連れていく時間がなかった」（小学5年生の保護者で 47.4%、中学2年生の保護者で 52.9%）の順に高くなっている。
- 金銭的な理由については、「健康保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」の割合は、小学5年生の保護者で 0.7%、中学2年生の保護者で 1.5%、「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」の割合は、小学5年生の保護者で 1.5%、中学2年生の保護者で 1.5%となっている。
- 「医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため」の割合は、小学5年生の保護者で 5.1%となっている。

図表 6-7-1 医療サービスの受診抑制が「あった」割合と理由(小学5年生): 全体、生活困難度別、世帯タイプ別



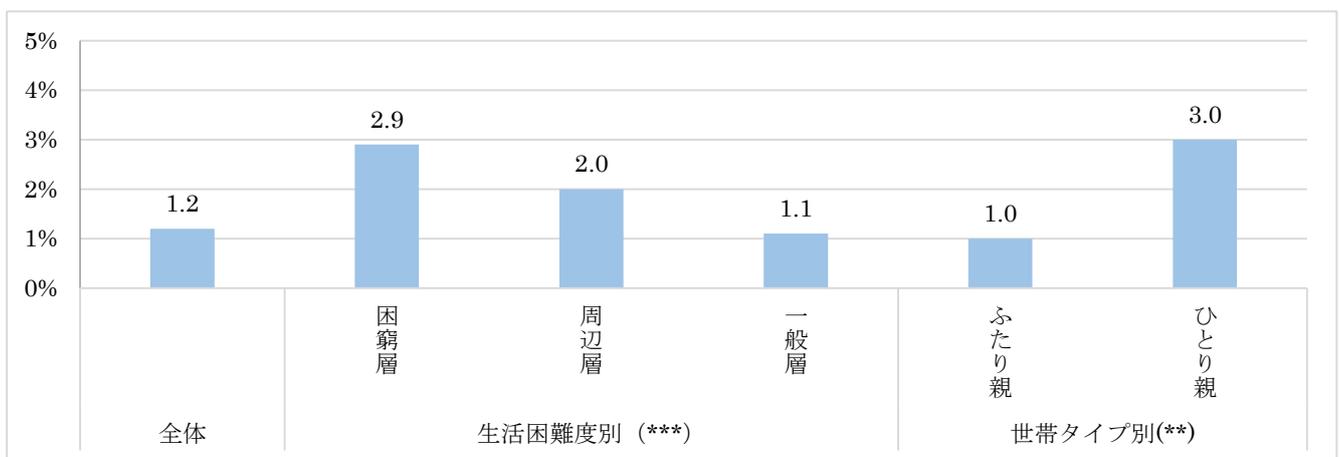
図表 6-7-2 医療サービスの受診抑制が「あった」割合と理由(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



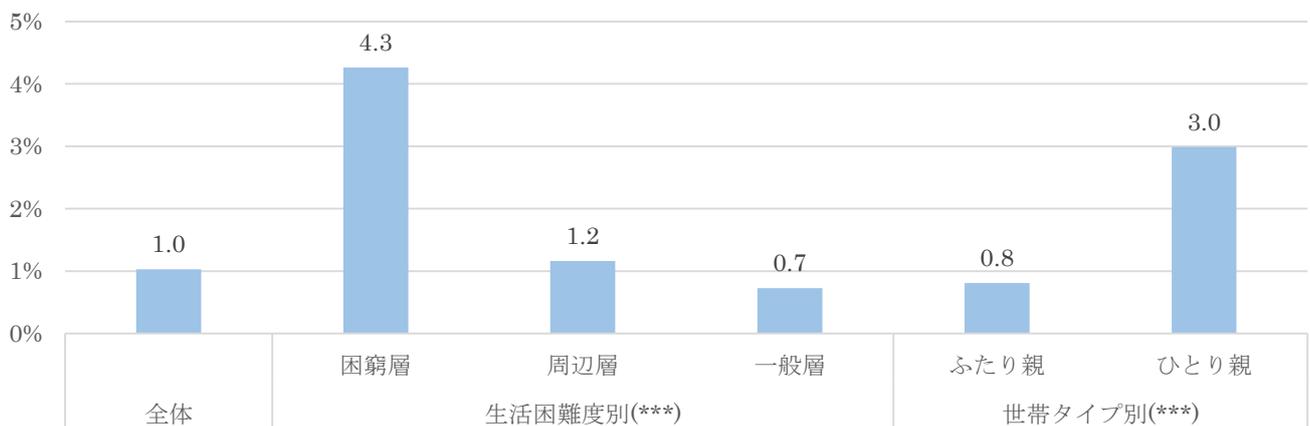
(2)定期予防接種（保:問 17）

- 保護者に対し、子どもの予防接種の受診状況について聞いた。
- 「A 定期予防接種」について、全体でみると、「受けさせなかった」の割合は、小学5年生の保護者で1.2%、中学2年生の保護者で1.0%となっている。
- 生活困難度別にみると、「受けさせなかった」の割合は、小学5年生の保護者において、困窮層で2.9%、中学2年生の保護者において、困窮層で4.3%となっており、それぞれ一般層よりも高くなっている。世帯タイプ別にみると、小学5年生の保護者において、「ひとり親」で3.0%、中学2年生の保護者において、「ひとり親」で3.0%となっており、それぞれ「ふたり親」よりも高くなっている。

図表 6-7-3 定期予防接種を「受けさせなかった」と答えた割合(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 6-7-4 定期予防接種を「受けさせなかった」と答えた割合(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



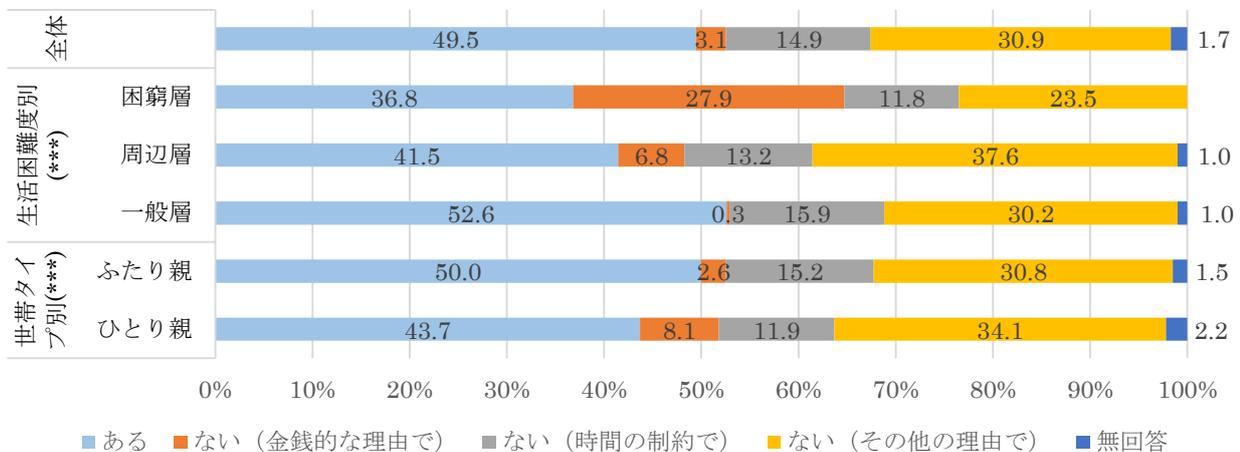
第7章 学び

1 子どもの体験（保:問 24）

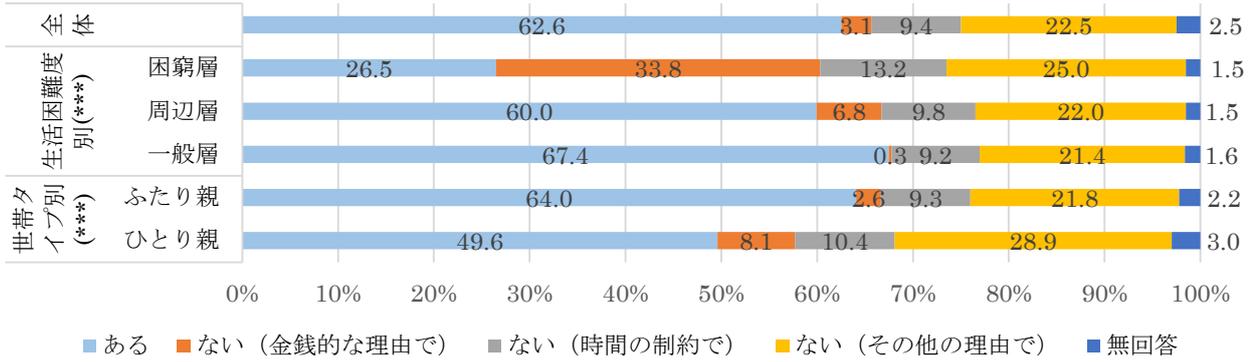
- 子どもの体験を見るため、保護者に対して、過去1年間における、家庭での子どもとの体験について聞いた。
- 「ある」と回答しているのは、小学5年生の保護者において、海水浴が49.5%、博物館・美術館などが62.6%、キャンプやバーベキューが57.4%、スポーツ観戦や音楽会などが55.4%、遊園地やテーマパークが78.3%となっている。
- 「ない」の理由については、「その他の理由」が最も多く、「金銭的な理由」が3~7%、「時間の制約」では1割を超える体験項目がある。
- 生活困難度別でみると、「ない」の理由のうち「金銭的な理由」で、困窮層が最も多くなっている。
- スポーツ観戦などや遊園地やテーマパークについては、「ない」の理由のうち「金銭的な理由」が、困窮層の約半数となっている。
- 中学2年生の保護者においては、全体でみると、「ある」は、すべての項目で小学5年生よりも低くなっており、「ない」の理由では、「時間の制約」が多くなっている。
- 生活困難度別、世帯タイプ別でみると、小学5年生と同様の傾向があった。

図表 7-1-1 子どもの体験活動の有無(小学5年生):全体、世帯タイプ別、生活困難度別

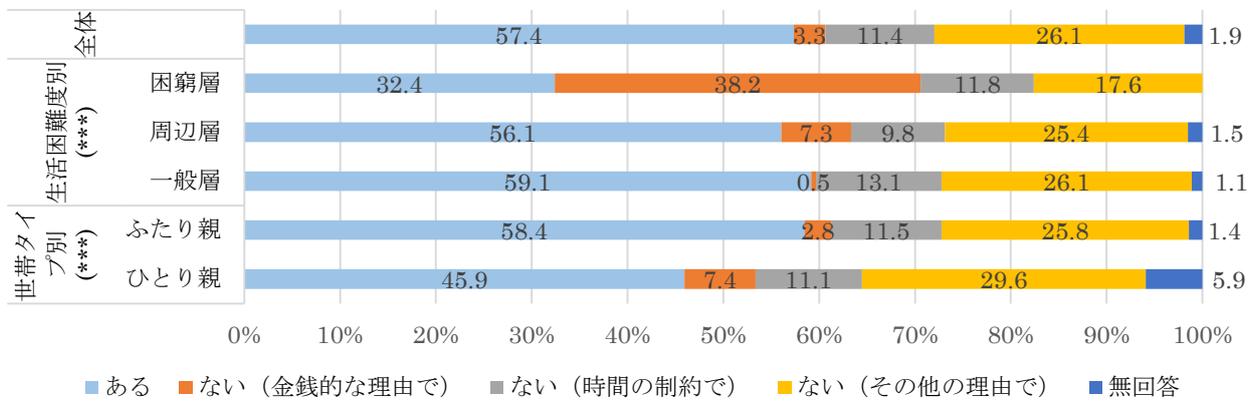
海水浴(***, ***)



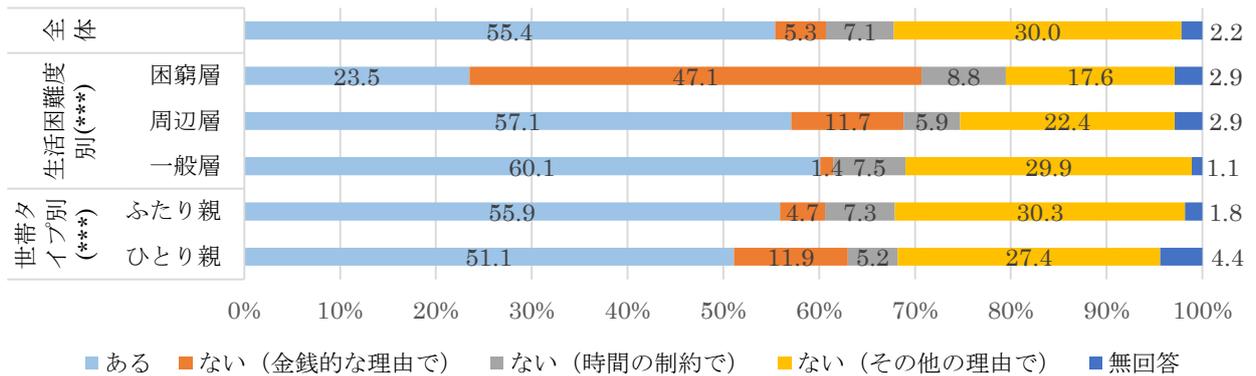
博物館・美術館など(***, ***)



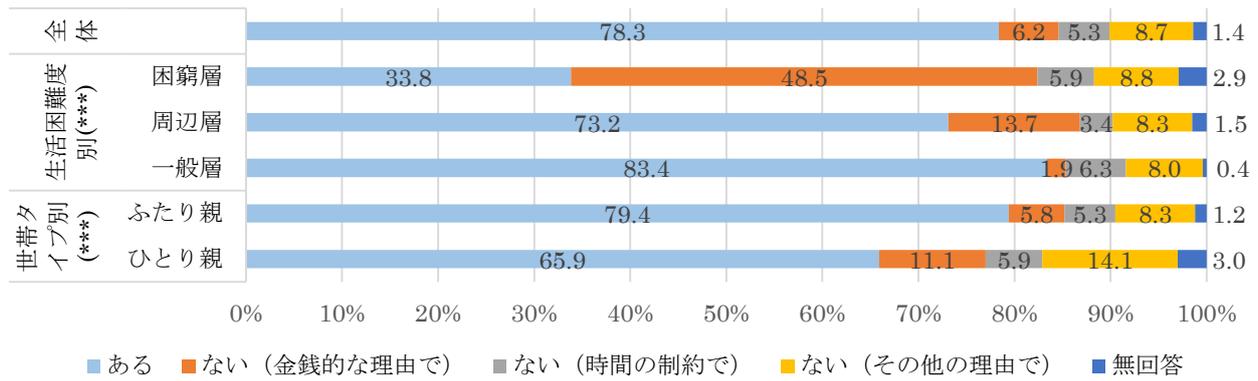
キャンプやバーベキュー(***, ***)



スポーツ観戦や劇場・音楽会(***, ***)

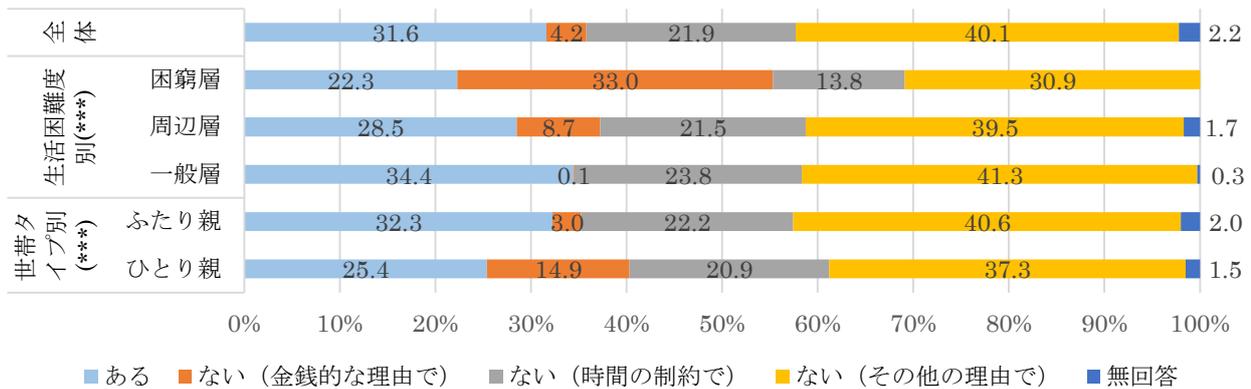


遊園地やテーマパーク(***, ***)

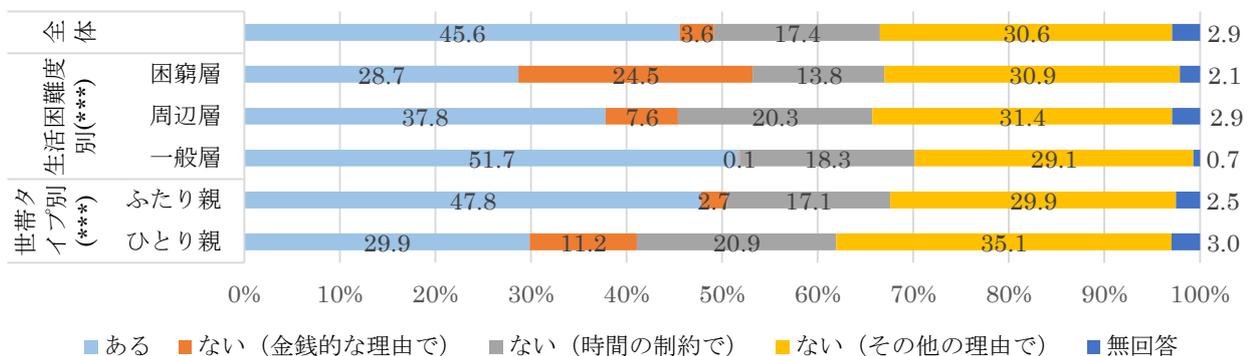


図表 7-1-2 子どもの体験活動の有無(中学2年生):全体、世帯タイプ別、生活困難度別

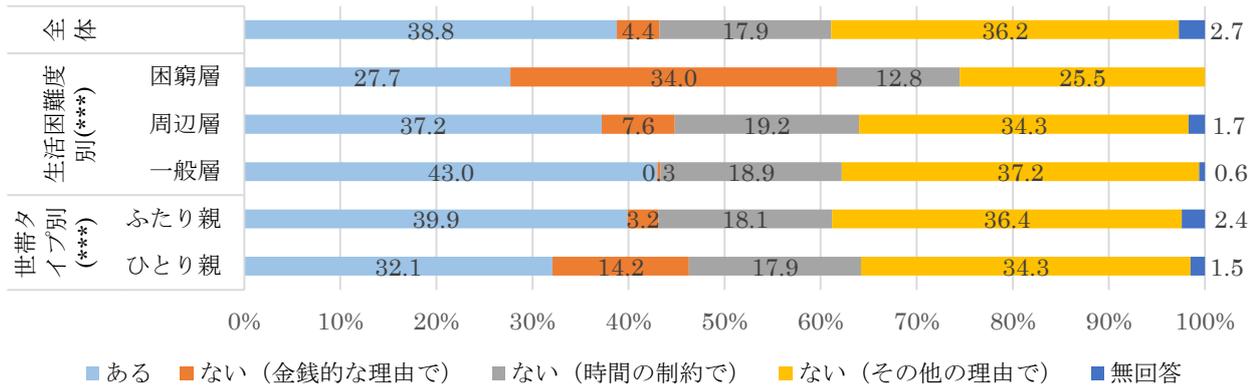
海水浴(***, ***)



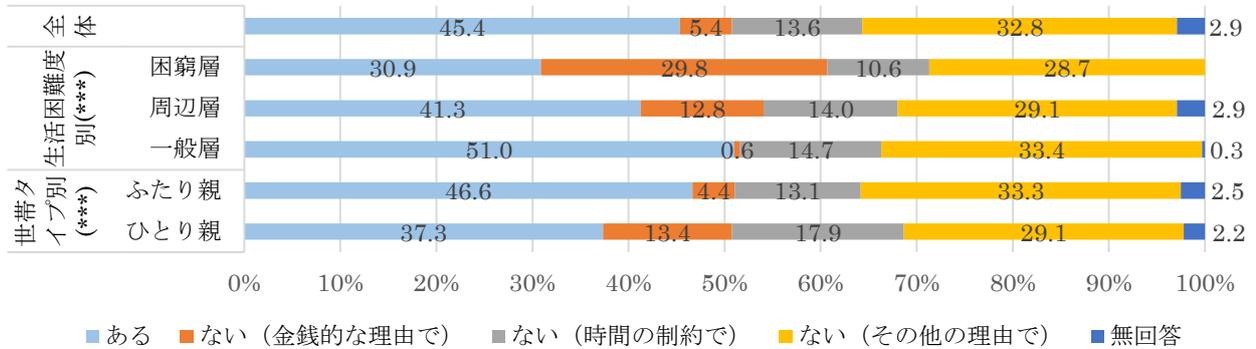
博物館・美術館など(***, ***)



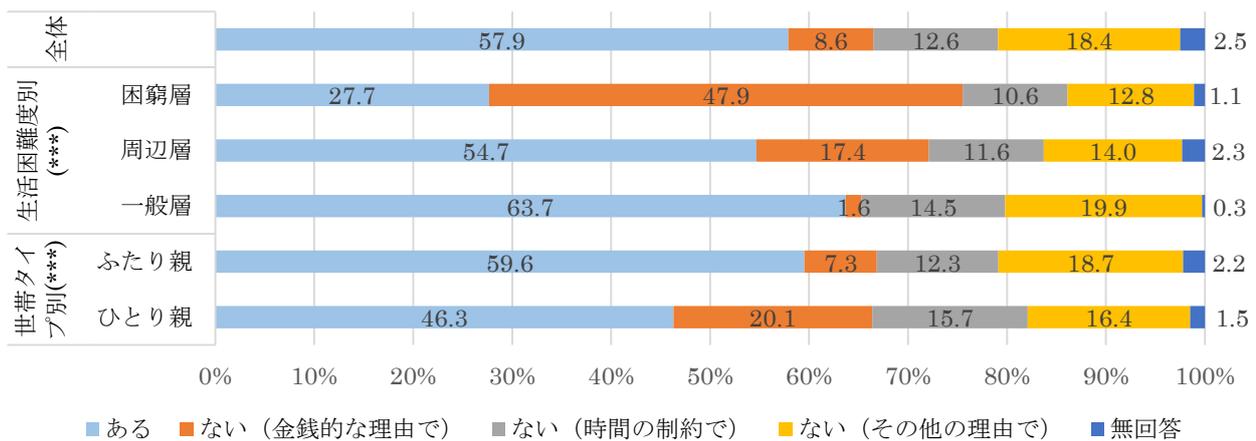
キャンプやバーベキュー(***, ***)



スポーツ観戦や劇場・音楽会(***, ***)



遊園地やテーマパーク(***, ***)



2 授業の理解度と分からなくなってきた時期

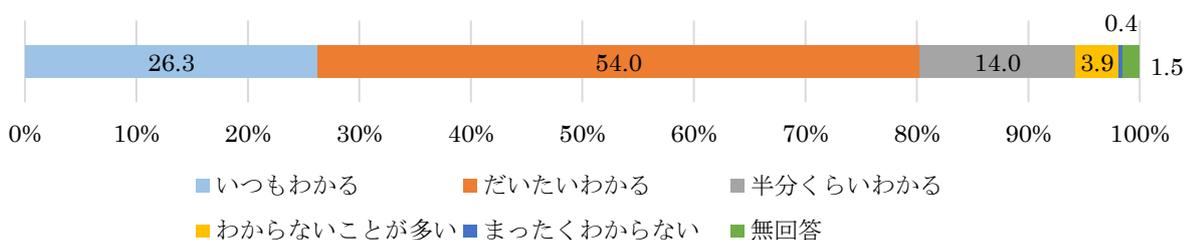
本調査では、子どもたちの学力を通常の客観的な学力テストなどで測ることは行っていないが、子どもたち自身に学校の授業をどれほど理解しているかを聞いている。そこで、この問いの回答を子どもの学びの指標として用いる。

(1) 小学5年生

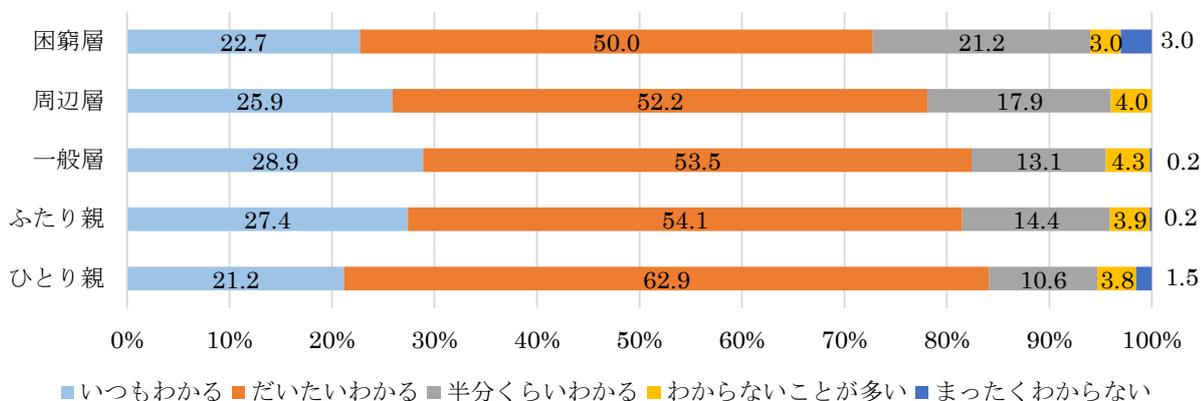
① 授業の理解度（小：問 24）

- 子どもに対し、学校の授業がわからないことがあるかどうか聞いたところ、「いつもわかる」(26.3%)と「だいたいわかる」(54.0%)を合わせた《わかる》は80.3%となっている。一方で「半分くらいわかる」は14.0%、「わからないことが多い」(3.9%)と「まったくわからない」(0.4%)を合わせた《わからない》は、4.3%となっている。
- 生活困難度別で見ると、《わかる》は、一般層(82.4%)よりも、周辺層(78.1%)で4.3ポイント、困窮層(72.7%)で9.7ポイント低くなっている。
- 「いつもわかる」は、一般層で28.9%、困窮層で22.7%となっている。
- 世帯タイプ別で見ると、「いつもわかる」は、「ふたり親」で27.4%に対し、「ひとり親」で21.2%となっている。

図表 7-2-1 授業の理解度(小学5年生)



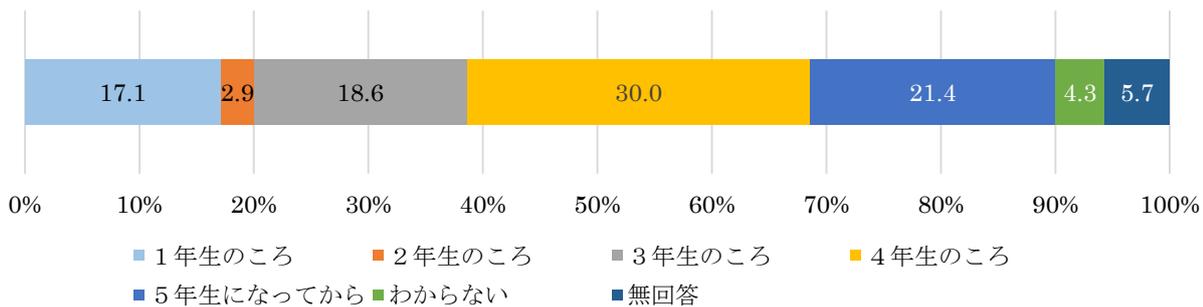
図表 7-2-2 授業の理解度(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(**)



② 授業が分からなくなってきた時期 (小:問 24-1)

- 学校の授業について「わからないことが多い」「まったくわからない」と答えた子どもたちに、いつからわからなくなったのか聞いたところ、全体で見ると、「4年生のころ」(30.0%)が最も多かった。
- 「1年生のころ」(17.1%)と「2年生のころ」(2.9%)を合わせた《1～2年生の間》は、20.0%であった。その一方で、「5年生になってから」は、21.4%となっている。
- なお、生活困難度別、世帯タイプ別については、サンプル数が確保できていないため、分析を行わなかった。

図表 7-2-3 授業がわからなくなってきた時期(小学5年生) (n=70)

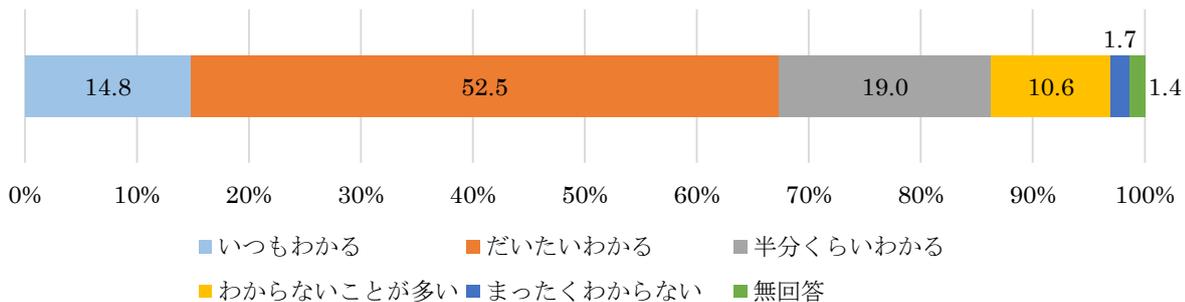


(2) 中学2年生

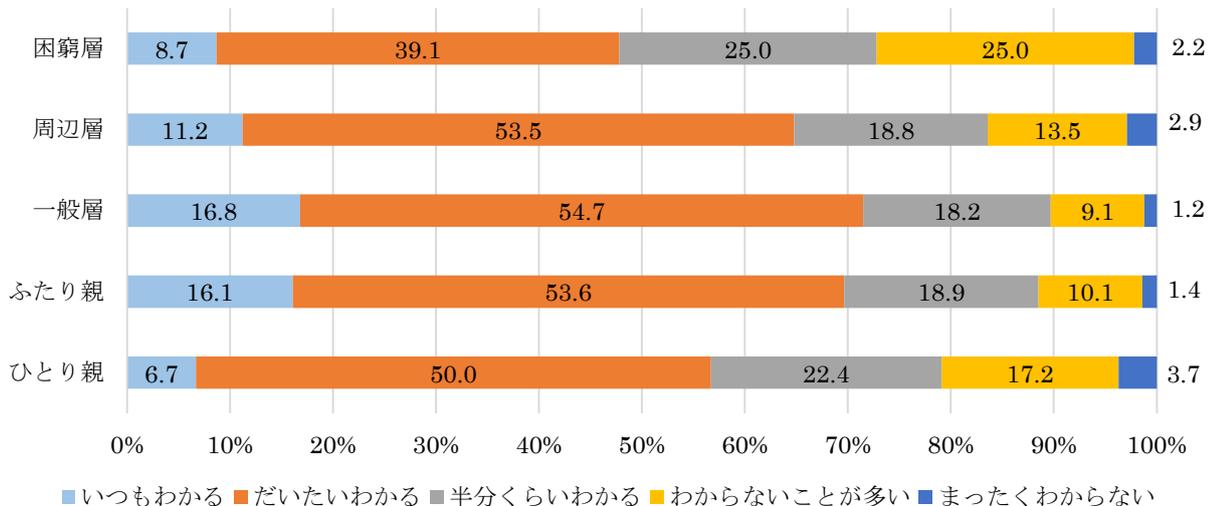
① 授業の理解度 (中:問 24)

- 全体で見ると、小学5年生に比べて、「いつもわかる」(14.8%)と「だいたいわかる」(52.5%)を合わせた《わかる》(67.3%)は少なくなっている。
- 「わからないことが多い」(10.6%)と「まったくわからない」(1.7%)を合わせた《わからない》は、12.3%となっている。
- 生活困難度別で見ると、「いつもわかる」は、一般層(16.8%)、周辺層(11.2%)、困窮層(8.7%)の順で高くなっている。
- 世帯タイプ別で見ると、「いつもわかる」は、「ひとり親」(6.7%)の方が「ふたり親」(16.1%)よりも9.4ポイント低くなっている。

図表 7-2-4 授業の理解度(中学2年生)



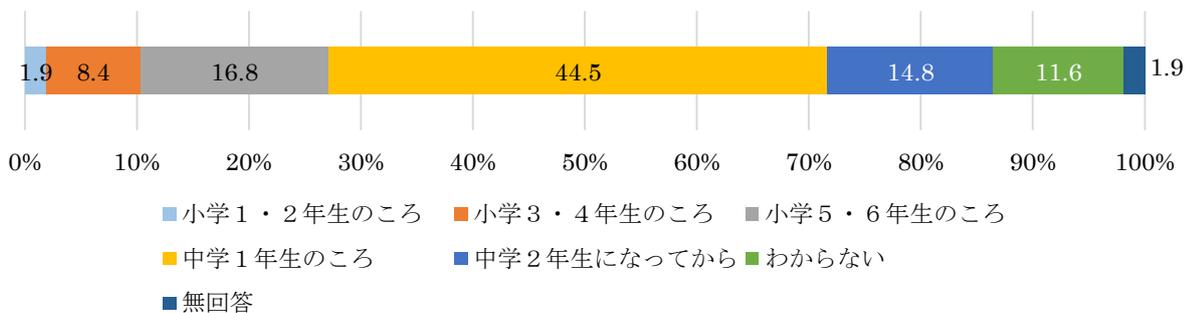
図表 7-2-5 授業の理解度(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



② 授業が分からなくなってきた時期 (中:問 24-1)

- 学校の授業について「わからないことが多い」「まったくわからない」と答えた子どもたちに対し、いつからわからなくなったのか聞いたところ、「小学1・2年生のころ」「小学3・4年生のころ」「小学5・6年生のころ」を合わせた《小学生のころ》は 27.1%、「中学1年生のころ」は 44.5%となっている。
- なお、生活困難度別、世帯タイプ別については、小学5年生と同様に、サンプルサイズが確保できていないため、分析は行っていない。

図表 7-2-6 授業がわからなくなってきた時期(中学2年生) (n=155)



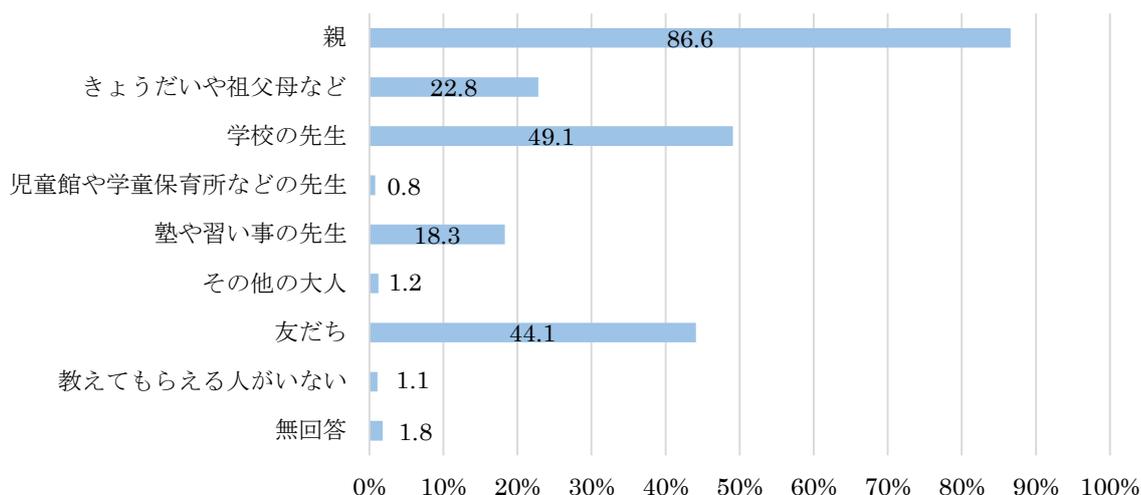
3 学校外での学習の状況

(1) 小学5年生

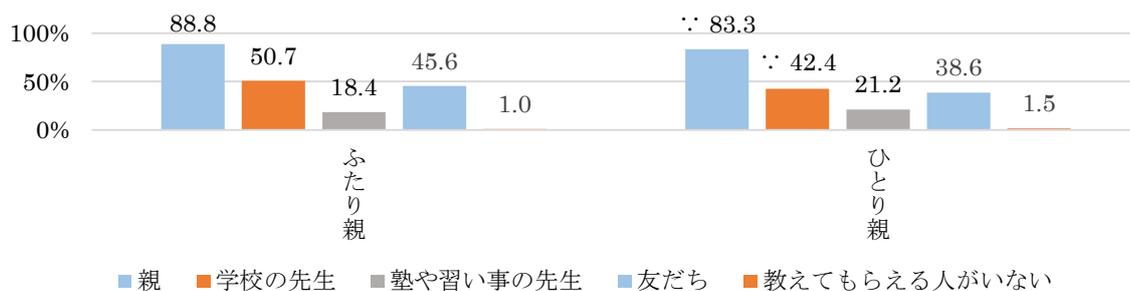
① 勉強がわからない時に教えてもらう人（小：問 25）

- 子どもの学習資源に着目し、小学5年生の児童に対し、勉強がわからないとき教えてもらえる人がいるかを聞いた。
- 全体で見ると、「親」(86.6%) が最も多く、次いで「学校の先生」(49.1%)、「友だち」(44.1%)、「きょうだいや祖父母など」(22.8%) の順となっている。
- 「教えてもらえる人はいない」は1.1%、「児童館や学童保育所などの先生」は0.8%、「その他の大人」は1.2%となっている。
- 生活困難度別では、統計的に有意な差がみられなかった。
- 世帯タイプ別で見ると、「ひとり親」について、「親」と「学校の先生」で統計的に有意な差が見られた。
- 「親」は、「ひとり親」(83.3%) で、「ふたり親」(88.8%) より5.5ポイント低く、「学校の先生」は、「ひとり親」(42.4%) で、「ふたり親」(50.7%) より8.3ポイント低くなっている。

図表 7-3-1 勉強がわからない時に教えてもらう人(小学5年生):全体(複数回答)



図表 7-3-2 勉強がわからない時に教えてもらう人(小学5年生):世帯タイプ別

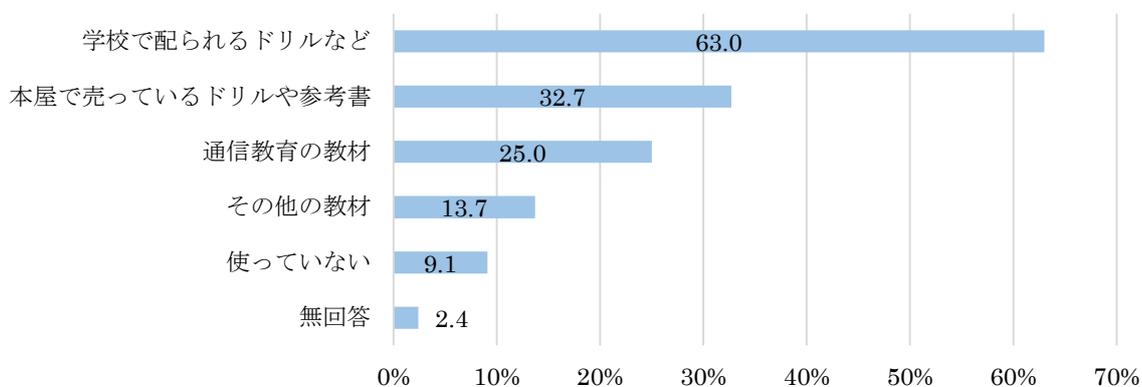


※作表上「きょうだいや祖父母など」「児童館や学童保育所の先生」「その他の大人」は除く。

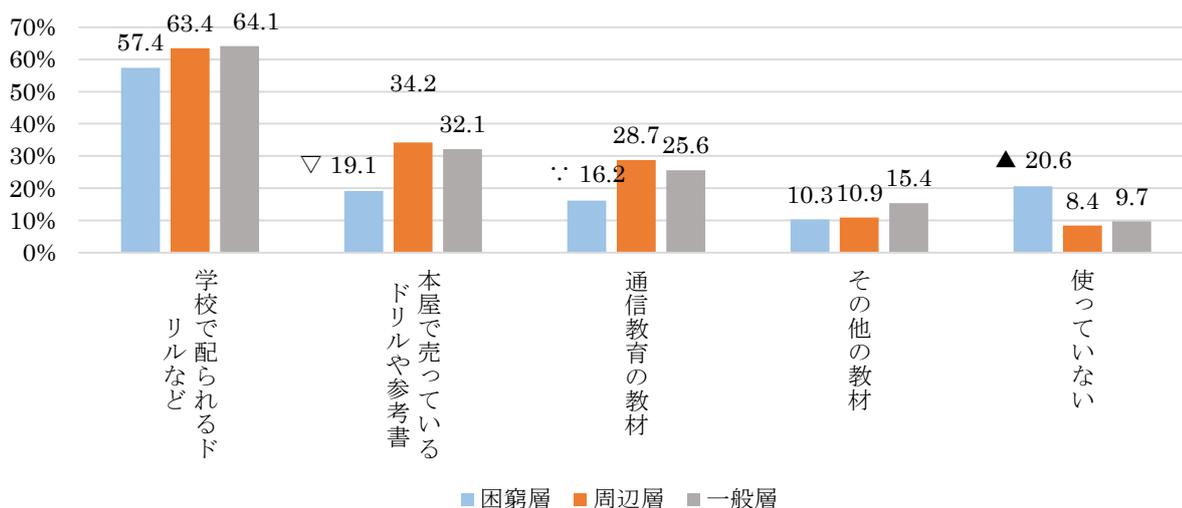
② 家庭学習教材（小：問 30）

- 小学5年生の児童に対し、自宅で勉強するときを使う教材について聞いた。
- 全体でみると、「学校で配られるドリルなど」（63.0%）が最も多く、次いで「本屋で売っているドリルや参考書」（32.7%）、「通信教育の教材」（25.0%）、「その他の教材」（13.7%）の順となっている。一方で、「使っていない」は9.1%となっている。
- 生活困難度別でみると、困窮層では、「学校で配られるドリルなど」を除くと、「使っていない」（20.6%）が最も多く、次いで、「本屋で売っているドリルや参考書」（19.1%）、「通信教育の教材」（16.2%）の順となっている。
- 世帯タイプ別については、統計的に有意な差はみられなかった。

図表 7-3-3 家庭学習教材(小学5年生):全体(複数回答)



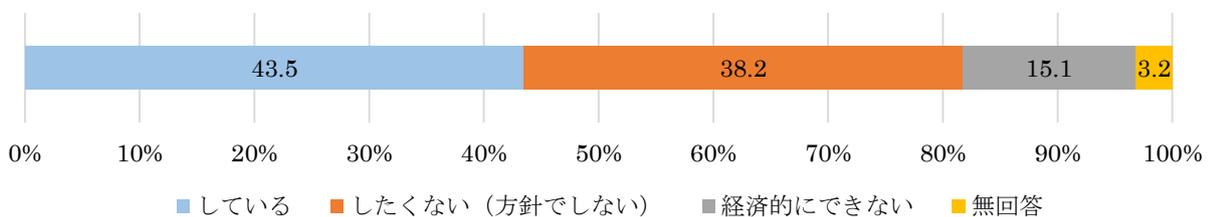
図表 7-3-4 家庭学習教材(小学5年生):生活困難度別



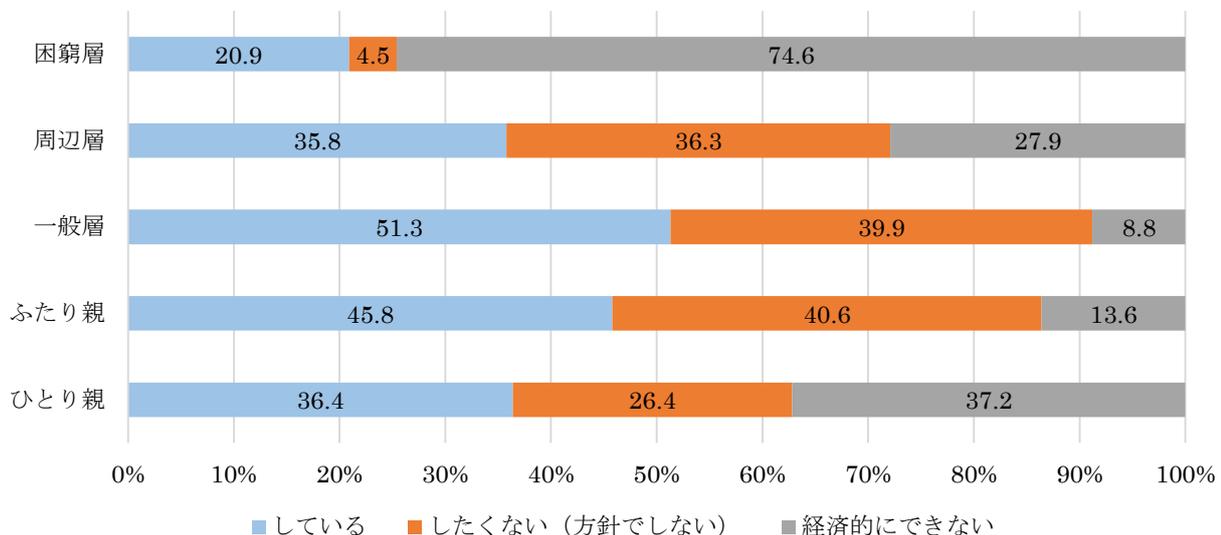
③ 通塾の状況（小保:問 31D）

- 小学5年生の保護者に対し、子どもに通塾等をさせているか聞いたところ、全体で見ると、「している」が43.5%、「したくない（方針でしない）」が38.2%となっている。一方で、「経済的にできない」は15.1%となっている。
- 生活困難度別で見ると、「している」は、一般層で51.3%、困窮層で20.9%となっており、「経済的にできない」は、困窮層（74.6%）で、一般層（8.8%）よりも65.8ポイント多くなっている。
- 世帯タイプ別で見ると、「している」は、「ひとり親」（36.4%）で、「ふたり親」（45.8%）よりも9.4ポイント少なく、「経済的にできない」は「ひとり親」（37.2%）で、「ふたり親」（13.6%）よりも23.6ポイント多くなっている。

図表 7-3-5 子どもを塾に通わせている割合(小学5年生)



図表 7-3-6 子どもを塾に通わせている割合(小学5年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

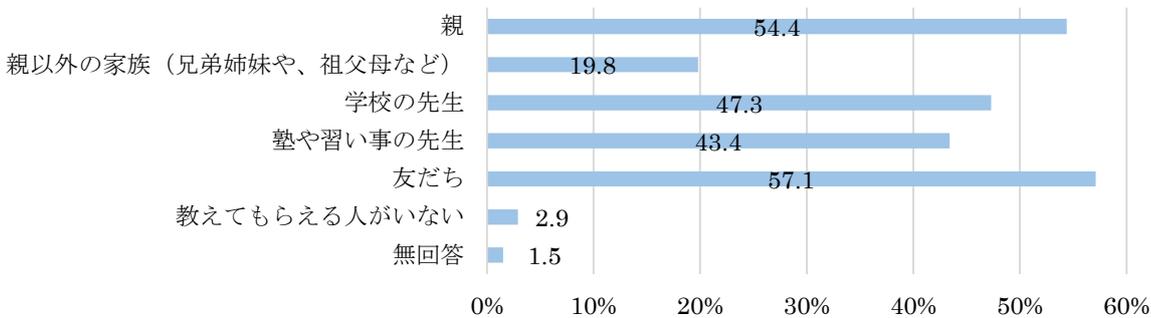


(2) 中学2年生

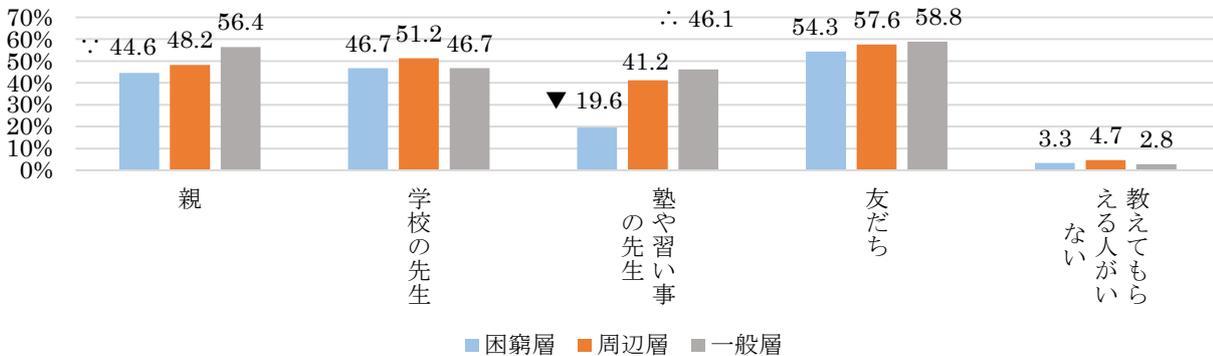
① 勉強がわからない時に教えてもらう人 (中:問 25)

- 中学2年生の生徒に対し、勉強がわからないとき教えてもらう人がいるかを聞いた。
- 「友だち」(57.1%) が最も多く、ついで「親」(54.4%)、「学校の先生」(47.3%)、「塾や習い事の先生」(43.4%) の順となっている。一方、「教えてもらう人がいない」割合(2.9%)は、小学5年生より高くなっている。
- 生活困難度別でみると、「塾や習い事の先生」は、困窮層(19.6%)で、一般層(46.1%)よりも低くなっている。一方、「親」は、困窮層で44.6%となっている。
- 世帯タイプ別でみると、「教えてもらう人がいない」割合は、「ひとり親」(6.7%)で、「ふたり親」(2.6%)よりも高くなっている。

図表 7-3-7 勉強がわからない時に教えてもらう人(中学2年生):全体(複数回答)

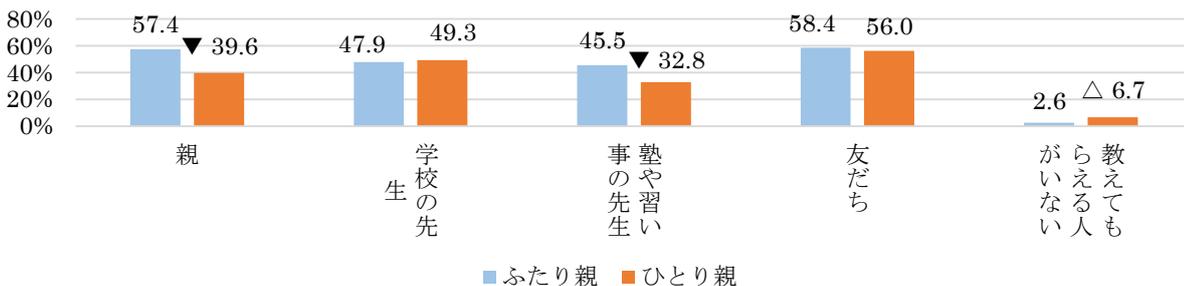


図表 7-3-8 勉強がわからない時に教えてもらう人(中学2年生):生活困難度別



※作表上「きょうだいや祖父母など」「児童館や学童保育所の先生」「その他の大人」は除く。以下図表 7-3-9 も同様

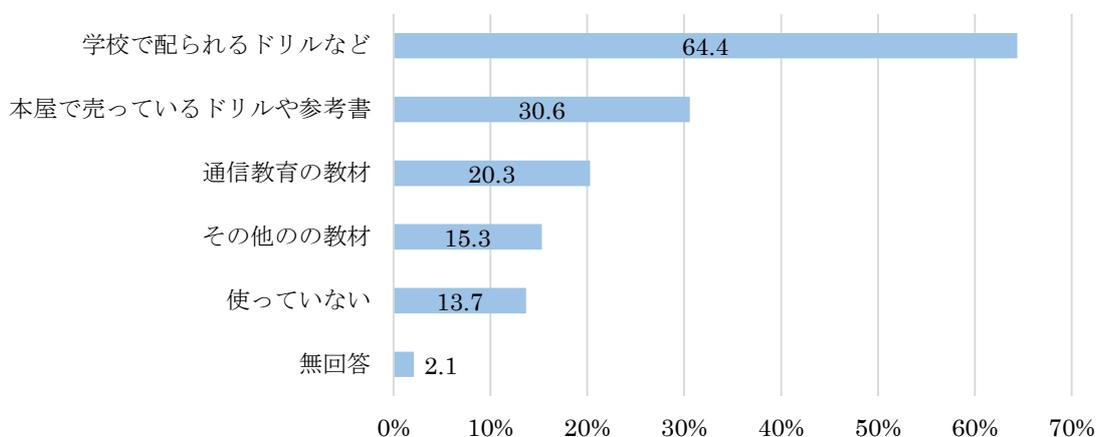
図表 7-3-9 勉強がわからない時に教えてもらう人(中学2年生):世帯タイプ別



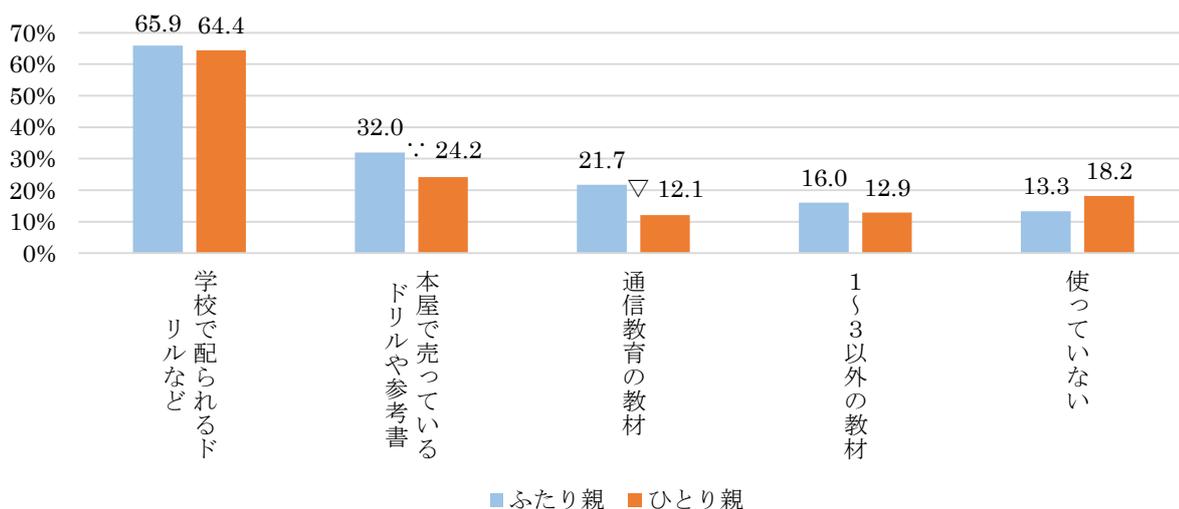
② 家庭学習教材（中：問 30）

- 小学5年生の児童に対し、自宅で勉強するときを使う教材について聞いた。
- 全体でみると、「学校で配られる問題集など」(64.4%)は、「本屋で売っている問題集や参考書」(30.6%)の2倍以上となっている。
- 世帯タイプ別でみると、「本屋で売っているドリルや参考書」は、「ひとり親」で24.2%、「ふたり親」で32.0%、「通信教育の教材」は、「ひとり親」で12.1%、「ふたり親」で21.7%となっており、「ひとり親」の方が「ふたり親」よりも少なくなっている。
- 生活困難度別については、統計的に有意な差はみられなかった。

図表 7-3-10 家庭学習教材(中学2年生):全体(複数回答)



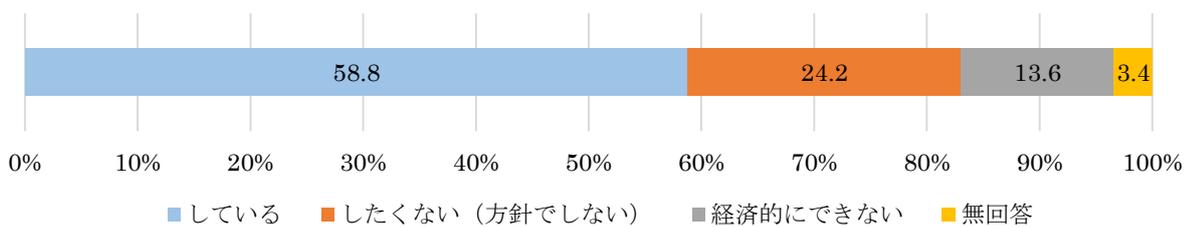
図表 7-3-11 家庭学習教材(中学2年生):世帯タイプ別



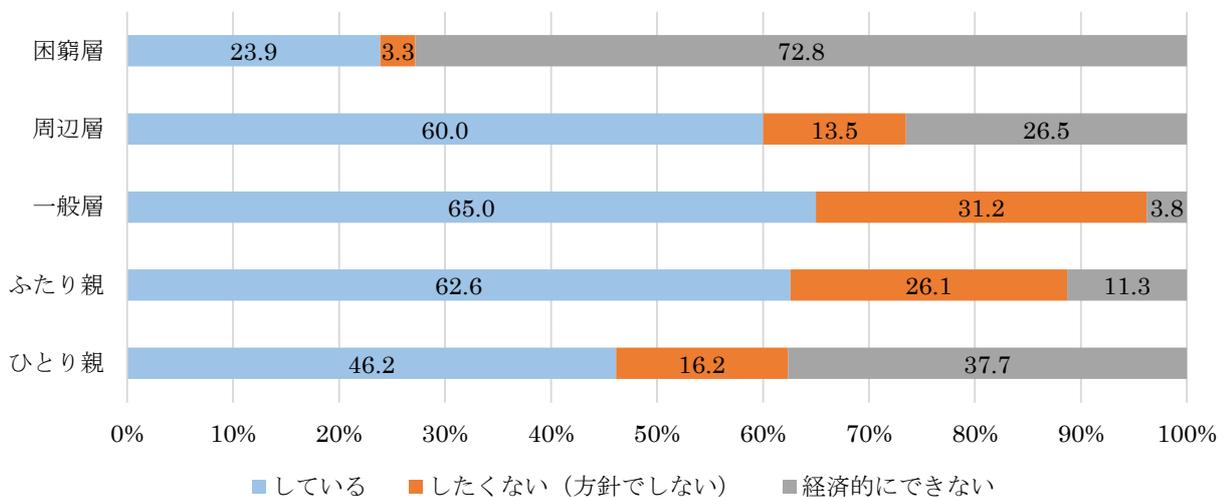
③ 通塾の状況（中:問 31D）

- 中学2年生の保護者に対し、子どもに通塾等をさせているか聞いたところ、全体で見ると、「している」は、58.8%となっている。
- 「したくない（方針でしない）」は、24.1%、一方で、「経済的にできない」は13.6%となっている。
- 生活困難度別で見ると、「している」は一般層（65.0%）が困窮層（23.9%）の約3倍となっている。「経済的にできない」は、困窮層で72.8%となっている。
- 世帯タイプ別で見ると、「経済的にできない」は、ひとり親（37.7%）で、ふたり親（11.3%）よりも26.4ポイント多くなっている。

図表 7-3-12 子どもを塾に通わせている割合(中学2年生)



図表 7-3-13 子どもを塾に通わせている割合(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)



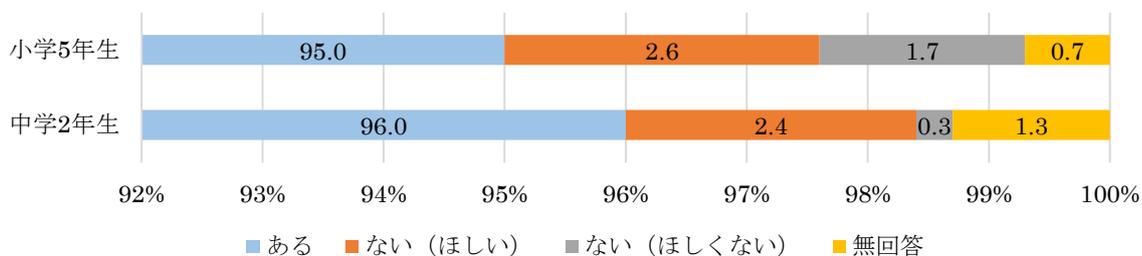
4 学習環境(勉強する場所・勉強机・本・インターネットなど) (子:問2)

本節では、子どもが家庭学習をするための環境を見るために、家庭における勉強場所、勉強机、本、パソコンなどの所有状況を分析する。

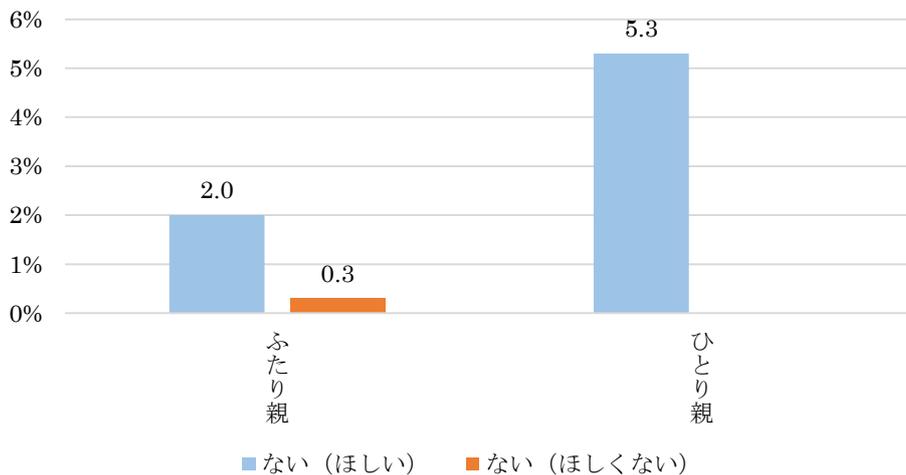
① 「D 自宅で宿題ができる場所」(子:問2D)

- 子どもに対し、「D 自宅で宿題ができる場所」があるか聞いたところ、全体で見ると、「ある」は、小学5年生で95.0%、中学2年生で96.0%となっている。一方、「ない(ほしくない)」は、小学5年生で1.7%、中学2年生で0.3%となっている。
- 生活困難度別で見ると、両学年とも統計的に有意な差はみられなかった。
- 世帯タイプ別で見ると、小学5年生においては、統計的に有意な差はみられなかった。中学2年生においては、統計的に有意な差が見られ、「ない(ほしい)」は、「ひとり親」で5.3%となっている。「ない(ほしくない)」は、「ひとり親」、「ふたり親」ともに殆どない。

図表 7-4-1 「自宅で宿題をすることができる場所」の有無(小学5年生、中学2年生、):全体



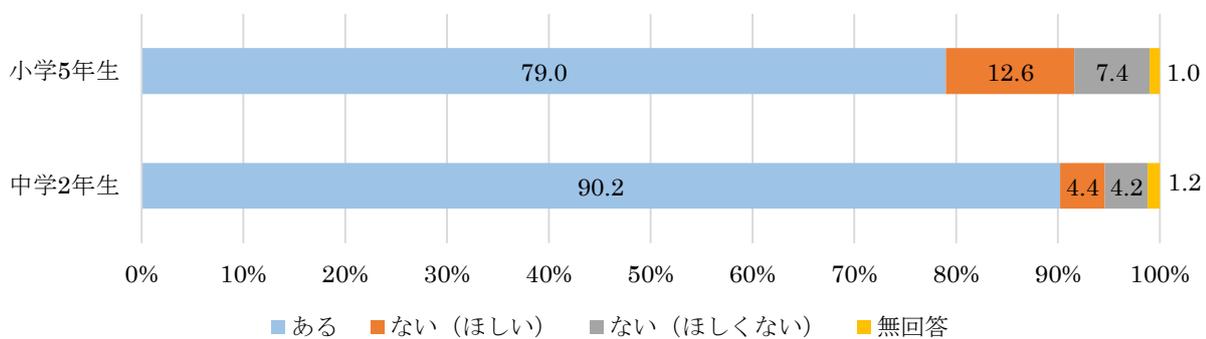
図表 7-4-2 「自宅で宿題をすることができる場所」の有無(中学2年生):世帯タイプ別(*)



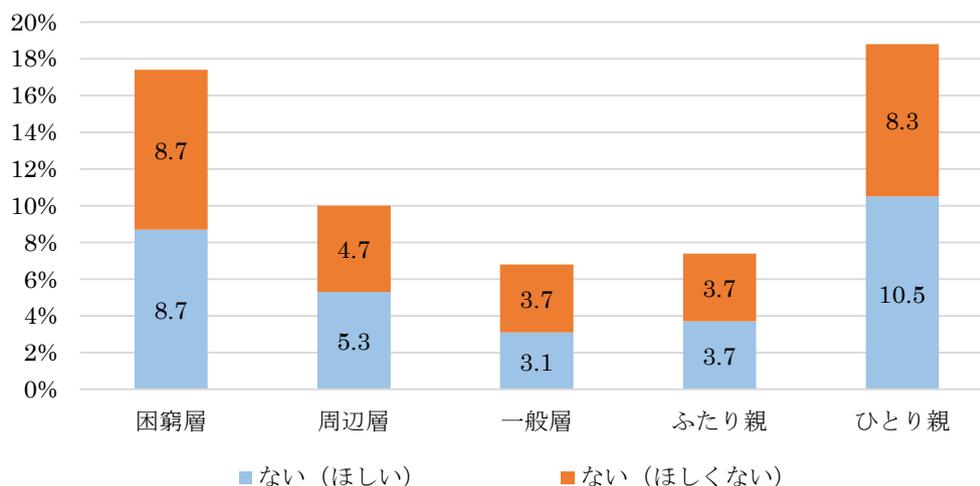
② 「E 自分専用の勉強机」(子:問2E)

- 子どもに対し、「E 自分専用の勉強机」があるか聞いたところ、全体で見ると、「ある」は、小学5年生で79.0%、中学2年生で90.2%となっている。一方で、「ない(ほしい)」は、小学5年生で12.6%、中学2年生で4.4%となっている。
- 生活困難度別で見ると、中学2年生において、「ない(ほしい)」は、困窮層(8.7%)で、一般層(3.1%)より5.6ポイント多くなっている。
- 世帯タイプ別で見ると、中学2年生において、「ない(ほしい)」は、「ひとり親」(10.5%)で「ふたり親」(3.7%)よりも6.8ポイント多くなっている。
- 小学5年生の生活困難度別、世帯タイプ別については、統計的に有意な差は見られなかった。

図表 7-4-3 「自分専用の勉強机」の有無(小学5年生、中学2年生):全体



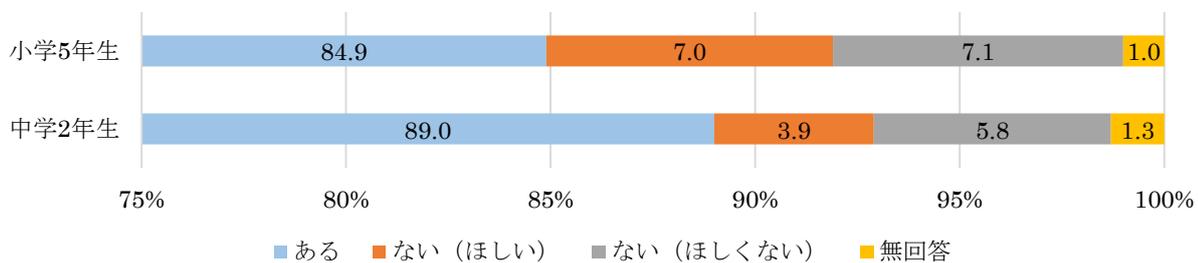
図表 7-4-4 「自分専用の勉強机」の有無(中学2年生):生活困難度別(**)、世帯タイプ別(***)



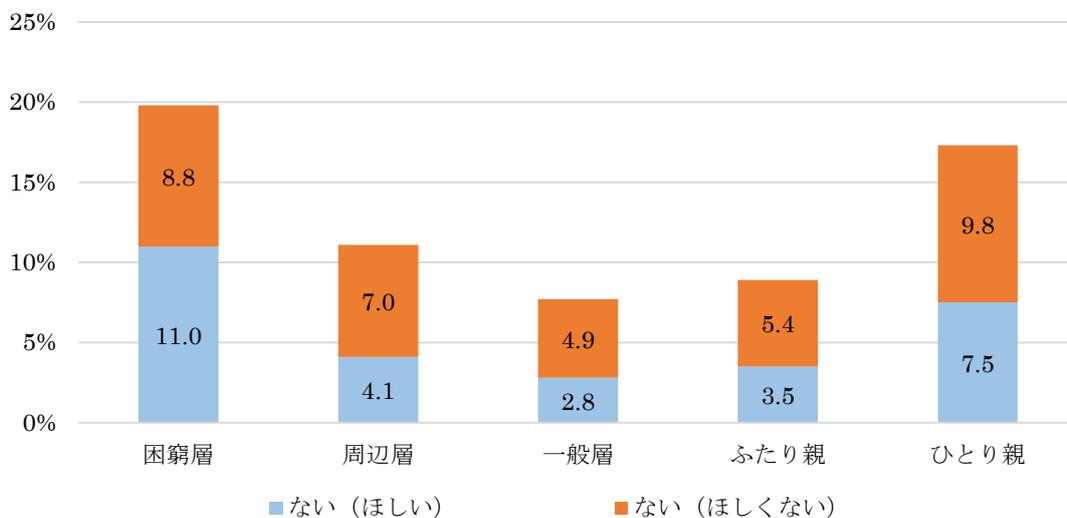
③ 自分だけの本（子:問2A）

- 子どもに対し、「A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）」があるか聞いたところ、「ある」は、小学5年生で84.9%、中学2年生で89.0%となっている。一方で、「ない（ほしい）」は小学5年生で7.0%、中学2年生で3.9%となっている。
- 生活困難度別でみると、中学2年生において、「ない（ほしい）」は、困窮層（11.0%）で一般層（2.8%）の約4倍となっている。
- 世帯タイプ別でみると、「ない（ほしい）」は、「ひとり親」で7.5%となっている。
- 一方、小学5年生の生活困難度別、世帯タイプ別については、統計的に有意な差は見られなかった。

図表 7-4-5 「A 自分だけの本」の有無(小学5年生、中学2年生):全体



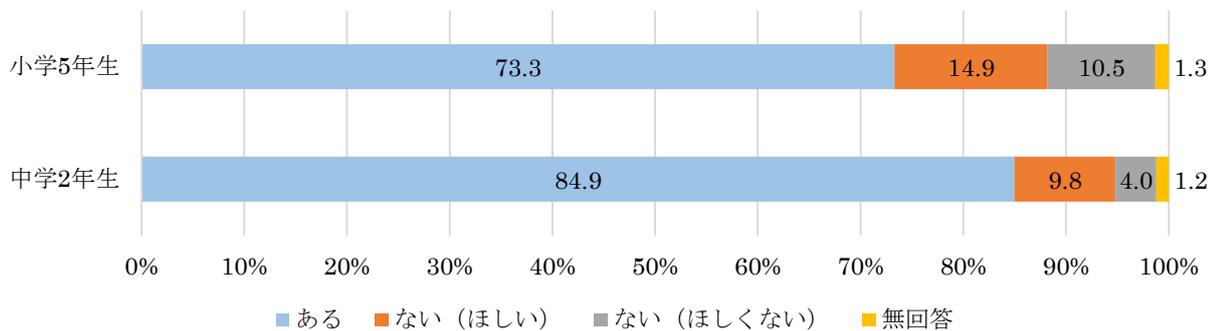
図表 7-4-6 「A 自分だけの本」の有無(中学2年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)



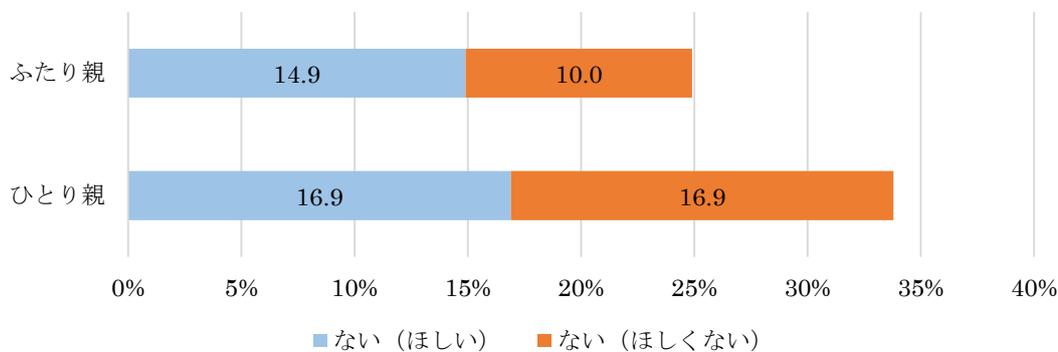
④ インターネットにつながるパソコン（子:問2C）

- 子どもに対し、「C（自宅で）インターネットにつながるパソコン・タブレット」があるか聞いたところ、全体で見ると、「ある」は、小学5年生で73.3%、中学2年生で84.9%となっている。一方、「ない（ほしい）」は、小学5年生で14.9%、中学2年生で9.8%となっている。
- 小学5年生においては、世帯タイプ別で見ると、統計的に有意な差が見られた。「ない（ほしい）」は、「ひとり親」（16.9%）で、「ふたり親」（14.9%）よりも多くなっている。
- 中学2年生においては、生活困難度別、世帯タイプ別に統計的に有意な差は見られなかった。

図表 7-4-7 「C（自宅で）インターネットにつながるパソコン」の有無(小学5年生、中学2年生):全体



図表 7-4-8 「C 自宅でインターネットにつながるパソコン」の有無(小学5年生):世帯タイプ別(**)

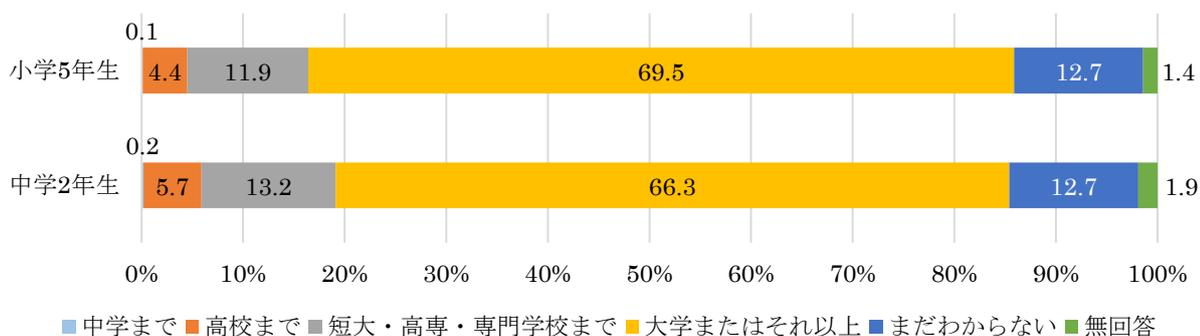


※作表上「ある」は除く。

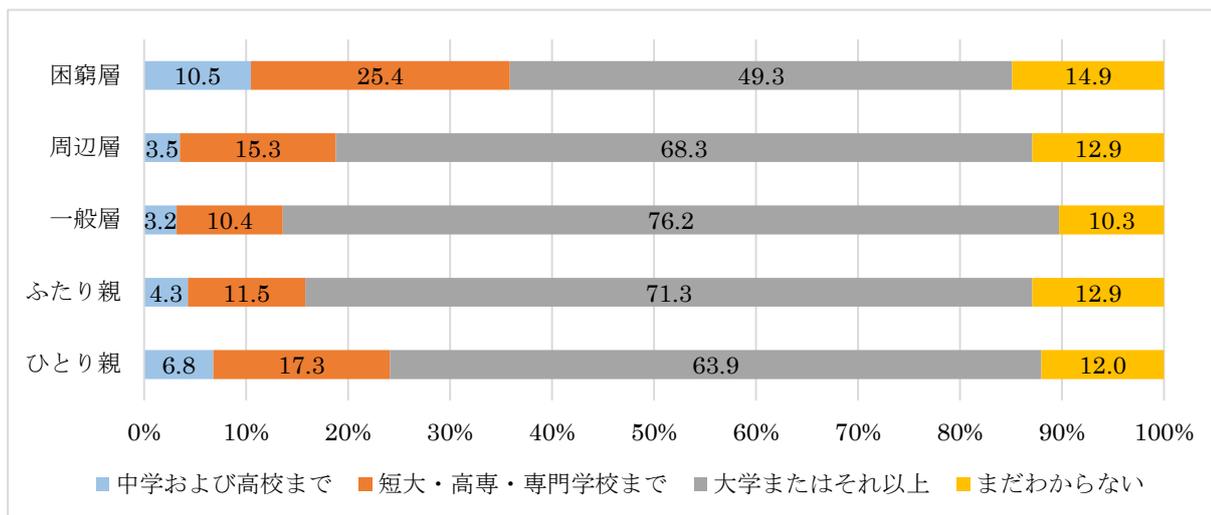
5 親の進学期待（保:問 13）

- 保護者に対し、子どもにどの段階までの教育を受けさせたいか聞いた。
- 全体でみると、小学5年生の保護者において、「短大・高専・専門学校まで」が 11.9%、「大学またはそれ以上」が 69.5%となっている。
- 一方、中学2年生の保護者においては、「短大・高専・専門学校まで」が 13.2%、「大学またはそれ以上」が 66.3%となっており、「大学またはそれ以上」は小学5年生の保護者よりも少なくなっている。一方、「高校まで」(5.7%)と「短大・高専・専門学校まで」(13.2%)を合わせた《高校から専門学校卒》は 18.9%となっている。
- 生活困難度別、世帯タイプ別でみると、小学5年生の保護者において、「中学まで」との回答は、困窮層及び「ひとり親」のみに見られた。
- 生活困難度別でみると、小学5年生の保護者において、「中学まで」と「短大、高専、専門学校まで」を合わせた《中学から専門学校まで》の割合は、困窮層（35.9%）で一般層（13.6%）の 2.6 倍となっている。一方、「大学またはそれ以上」は、困窮層で 49.3%となっており、高等教育への進学期待は、すべての層に見られる。中学2年生においても、同様な傾向がみられ、《中学から専門学校まで》の割合は、困窮層（48.4%）で、一般層（13.0%）の約4倍となっている。
- 世帯タイプ別でみると、小学5年生の保護者において、《中学から専門学校まで》は、ふたり親で 15.8%、ひとり親で 24.1%となっている。また、中学2年生の保護者は、《中学から専門学校まで》は、「ふたり親」で 16.9%、「ひとり親」で 38.1%となっている。

図表 7-5-1 子どもに受けさせたい教育レベル(小学5年生、中学2年生):全体

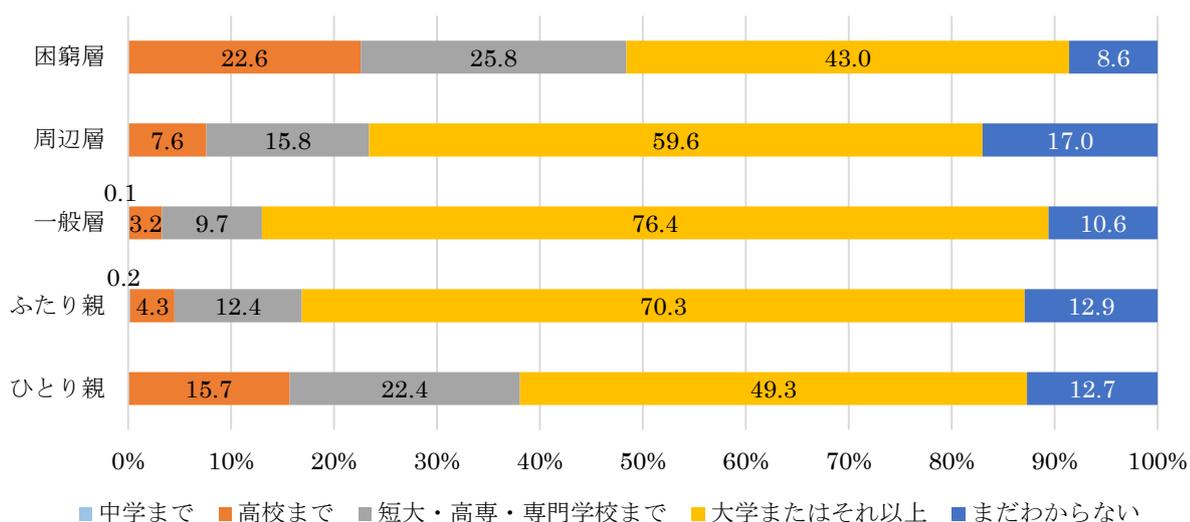


図表 7-5-2 子どもに受けさせたい教育レベル(小学5年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)



※ここでは「中学まで」の度数がほぼ0であるため、「中学まで」「高校まで」と合わせて集計および検定を行っている。なお度数および他の割合は付表に同じである。

図表 7-5-3 子どもに受けさせたい教育レベル(中学2年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)

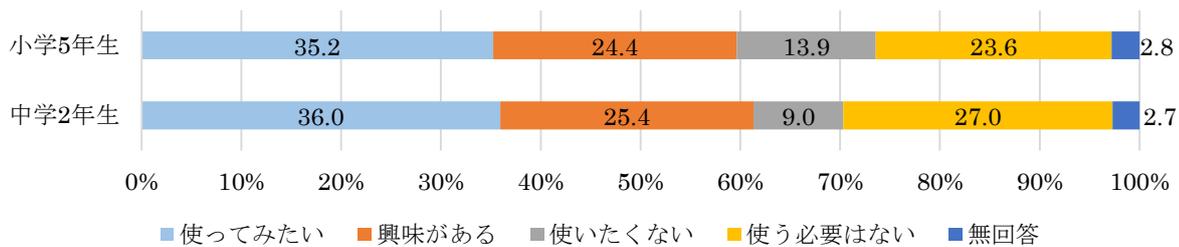


6 学習関連の支援事業の利用状況と利用意向

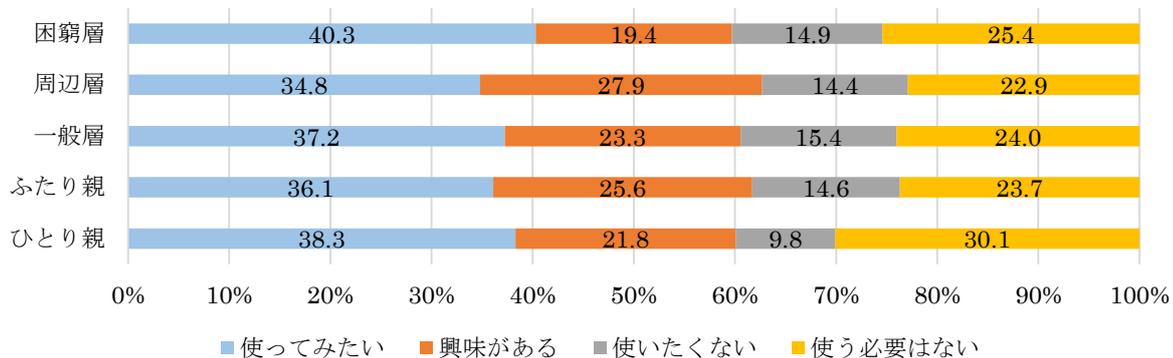
(1) 静かに勉強ができる場所の利用意向 (子:問 34D)

- 子どもに対し、「D 家で勉強できない時に静かに勉強できる場所」を使ってみたいか聞いたところ、全体で見ると、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた《利用意向》は、小学5年生で59.6% (35.2%+24.4%)、中学2年生で61.4% (36.0%+25.4%) となっており、ともに半数を超えている。
- 生活困難度別、世帯タイプ別については、両学年において、統計的に有意な差は見られなかった。

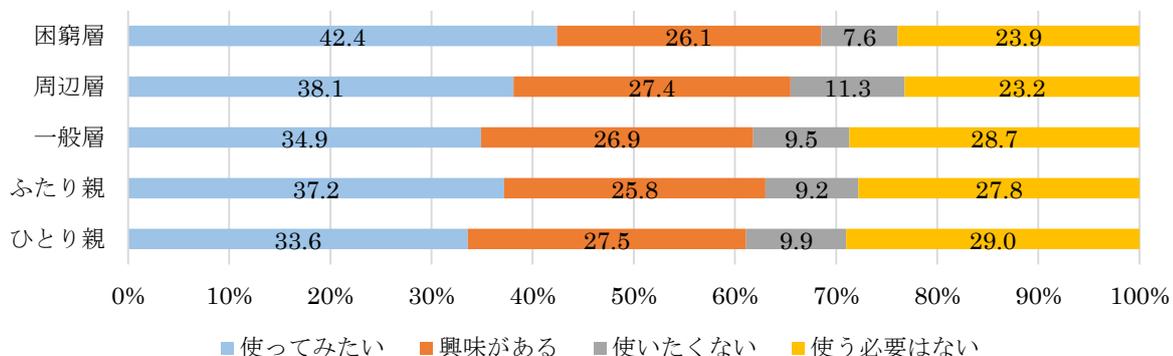
図表 7-6-1 家で勉強できない時に静かに勉強できる場所の利用意向(小学5年生、中学2年生)



図表 7-6-2 家で勉強できない時に静かに勉強できる場所の利用意向(小学5年生):世帯タイプ別(X)生活困難度別(X)



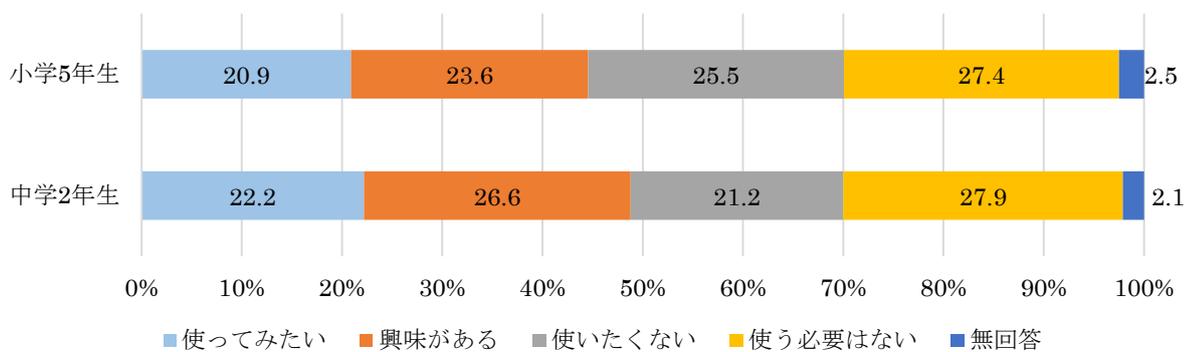
図表 7-6-3 家で勉強できない時に静かに勉強できる場所の利用意向(中学2年生):世帯タイプ別(X)生活困難度別(X)



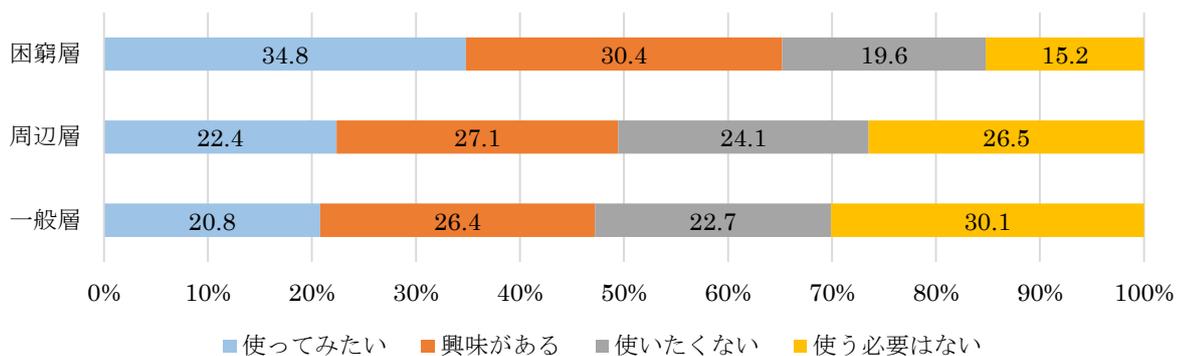
(2) 大学生による学習支援の利用意向 (子:問 34E)

- 子どもに対し、「E 大学生のボランティアが、無料で勉強をみてる場所」を使ってみたいか聞いたところ、全体でみると、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた《利用意向》は、小学5年生で44.5% (20.9%+23.6%)、中学2年生で48.8% (22.2%+26.6%) となっている。
- 世帯タイプ別については、両学年とも、統計的に有意な差は見られなかった。
- 生活困難度別については、小学5年生においては、統計的に有意な差は見られず、中学2年生においては、統計的に有意な差が見られた。
- 生活困難度別でみると、中学2年生において、「使ってみたい」は、困難層 (34.8%) で、一般層 (20.8%) よりも14ポイント多い。「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた《利用意向》は困難層で65.2% (34.8%+30.4%) と最も高い。

図表 7-6-4 大学生が無料で勉強をみてる場所の利用意向(小学5年生、中学2年生):全体



図表 7-6-5 大学生が無料で勉強をみてる場所の利用意向(中学2年生):生活困難度別(**)



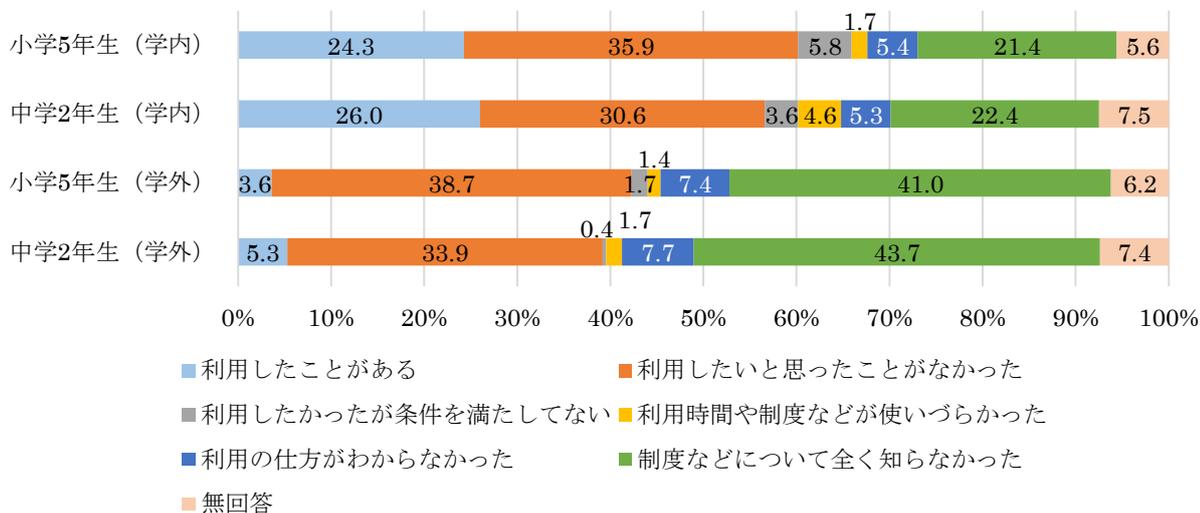
(3)学習支援に関する保護者の利用状況 (保:問 40G・H)

保護者に対し、各種支援制度について利用経験の有無を聞いたが、ここでは、「G 学校が実施する補講 (学習支援)」「H 学校以外が実施する学習支援」について取り上げる。

① 全体

- 全体でみると、「利用したことがある」割合は、「G 学校が実施する補講 (学習支援)」については、小学5年生の保護者で24.3%、中学2年生の保護者で26.0%となっているのに対し、「H 学校以外が実施する学習支援」については、小学5年生の保護者で3.6%、中学2年生の保護者で5.3%となっており、「G 学校が実施する補講 (学習支援)」よりも低い。
- 「制度などについて全く知らなかった」割合は、「G 学校が実施する補講 (学習支援)」については、小学5年生の保護者で21.4%、中学2年生の保護者で22.4%となっているのに対し、「H 学校以外が実施する学習支援」については、小学5年生の保護者で41.0%、中学2年生の保護者で43.7%となっている。
- 「利用したかったが条件を満たしていない」「利用時間や制度などが使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」を合わせた「制度を認知していても利用に至らなかった」は、「G 学校が実施する補講 (学習支援)」について、小学5年生の保護者で12.9%、中学2年生の保護者で13.5%となっており、「H 学校以外が実施する学習支援」については、小学5年生の保護者で10.5%、中学2年生の保護者で9.8%となっている。

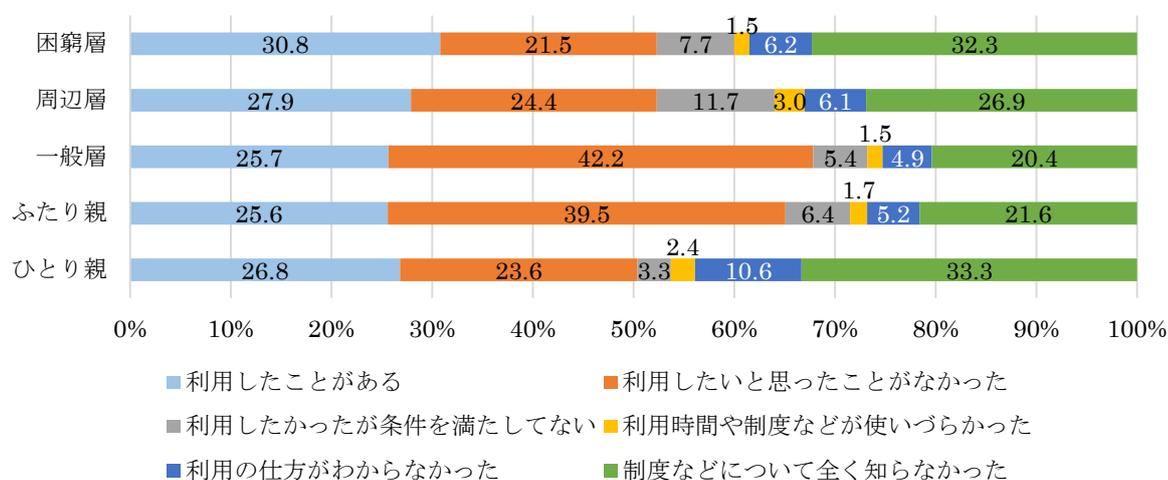
図表 7-6-6 学内外における学習支援に関する保護者の利用状況:全体



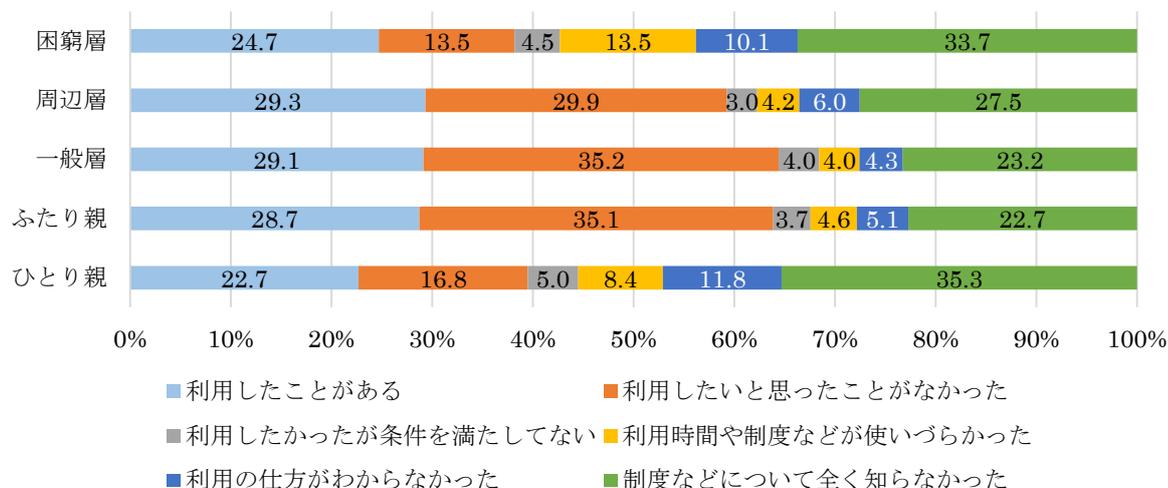
② 「G 学校が実施する補講(学習支援)」の利用状況

- 生活困難度別、世帯タイプ別でみると、「G 学校が実施する補講(学習支援)」について、「利用したことがある」は、小学5年生の保護者において、一般層で25.7%、困窮層で30.8%となっており、「ふたり親」で25.6%、「ひとり親」で26.8%となっている。
- 一方で、「制度などについて全く知らなかった」割合は、困窮層(32.3%)で、一般層(20.4%)よりも11.9ポイント高く、「ひとり親」(33.3%)は、「ふたり親」(21.6%)よりも11.7ポイント高い。
- 中学2年生の保護者においても、同様の傾向がみられ、「制度などについて全く知らなかった」割合は、困窮層(33.7%)で一般層(23.2%)よりも10.5ポイント高く、「ひとり親」(35.3%)は、「ふたり親」(22.7%)よりも12.6ポイント高い。

図表 7-6-7 学習支援に関する保護者の利用状況(学内)(小学5年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)



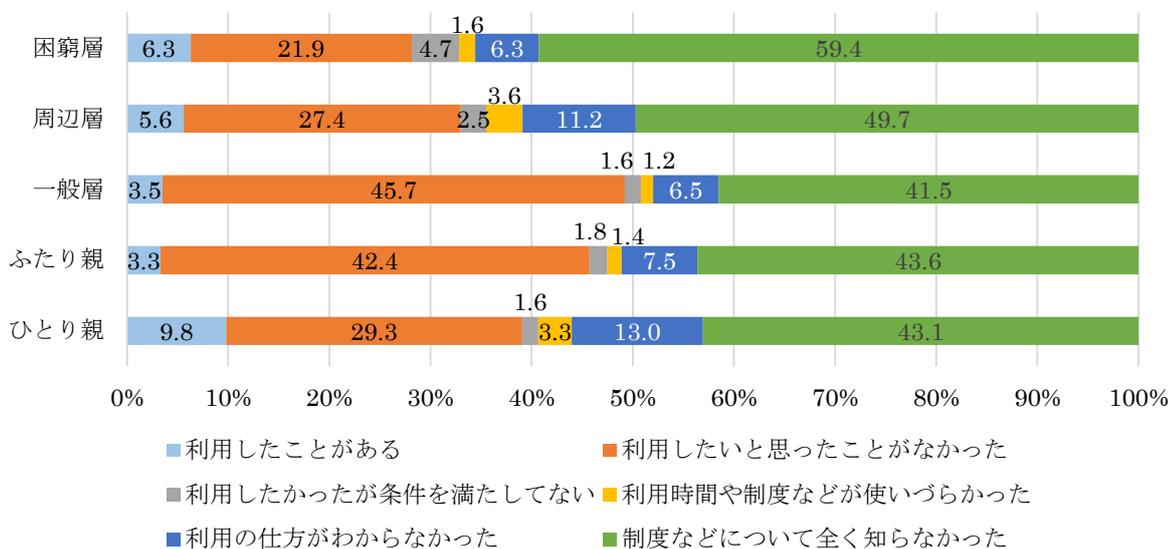
図表 7-6-8 学習支援に関する保護者の利用状況(学内)(中学2年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)



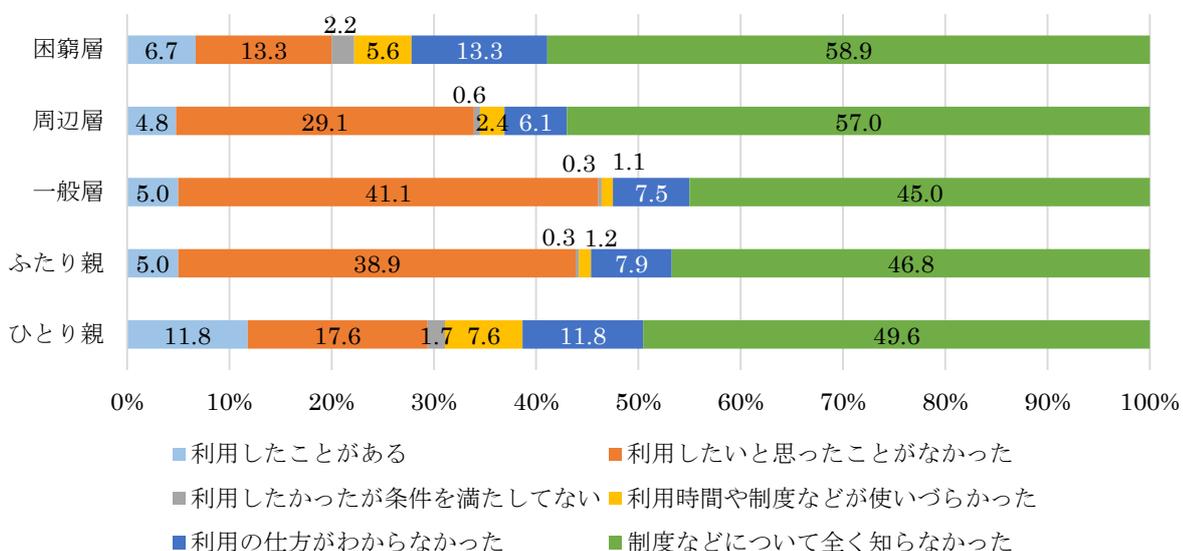
③ 「H 学校以外が実施する学習支援」の利用状況

- 「H 学校以外が実施する学習支援」について、生活困難度別でみると、「制度などに全く知らなかった」割合は、小学5年生の保護者において、困窮層（59.4%）は一般層（41.5%）よりも17.9ポイント高い。
- 世帯タイプ別でみると、小学5年生の保護者において、「ふたり親」で43.6%、「ひとり親」で43.1%となっている。
- 中学2年生の保護者においては、「制度について全く知らなかった」割合は、困窮層（58.9%）で一般層（45.0%）よりも13.9ポイント高い。

図表 7-6-9 学習支援に関する保護者の利用状況(学外)(小学5年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)



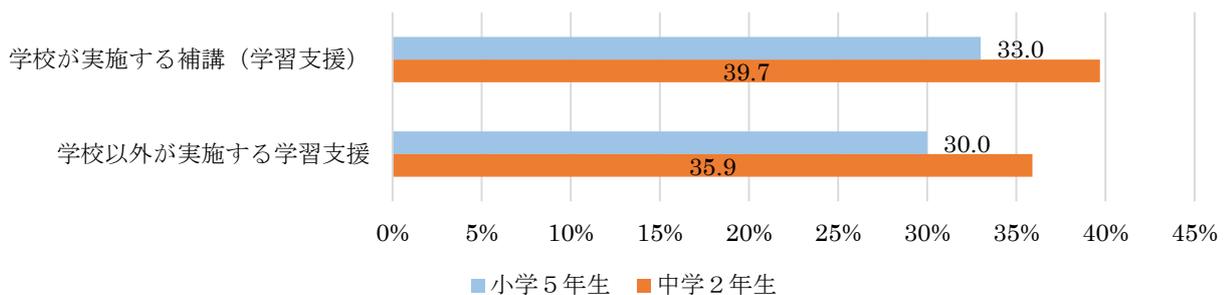
図表 7-6-10 学習支援に関する保護者の利用状況(学外)(中学2年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(***)



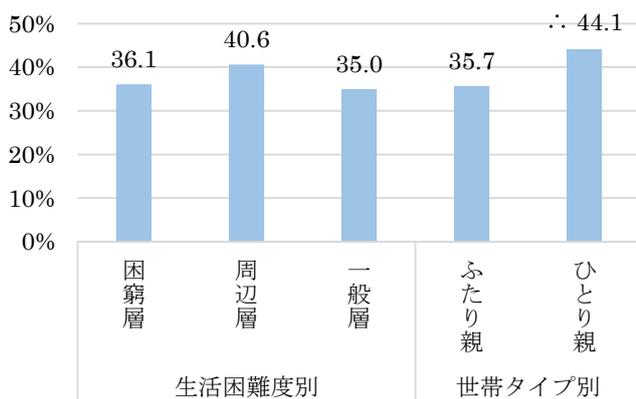
(4) 学習支援に関する保護者の利用意向(複数回答) (保:問 40-1)

- 次に、保護者に対し、各種支援制度に興味があるか聞いた。ここでは、「学校が実施する補講(学習支援)」、「学校以外が実施する学習支援」についての利用意向を取り上げる。
- 全体でみると、「学校が実施する補講(学習支援)」を選んだ保護者は、小学5年生で33.0%、中学2年生で39.7%、「学校以外が実施する学習支援」を選んだ保護者は、小学5年生で30.0%、中学2年生で35.9%となっている。
- 生活困難度別でみると、「学校が実施する補講(学習支援)」を選んだ保護者の割合は、中学2年生の保護者において、一般層(45.3%)よりも、困窮層(57.0%)の方が高くなっている。
- 世帯タイプ別でみると、「学校が実施する補講(学習支援)」を選んだ保護者の割合は、小学5年生において、「ひとり親」で44.1%となっている。また、中学2年生の保護者においては、「ひとり親」で50.4%となっている。「学校以外が実施する学習支援」を選んだ保護者は、中学2年生において、「ひとり親」で55.5%となっている。

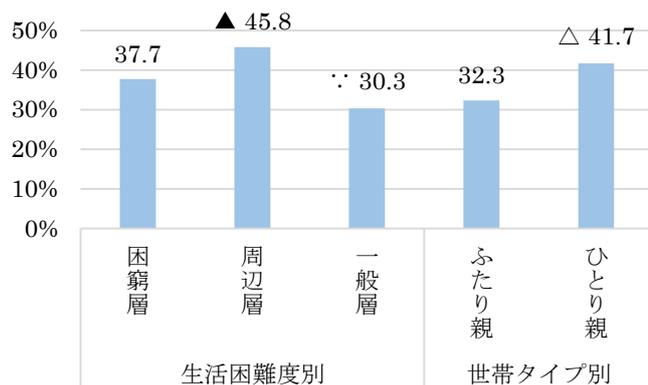
図表 7-6-11 学習支援に関する保護者の利用意向「興味あり」(小学5年生、中学2年生)



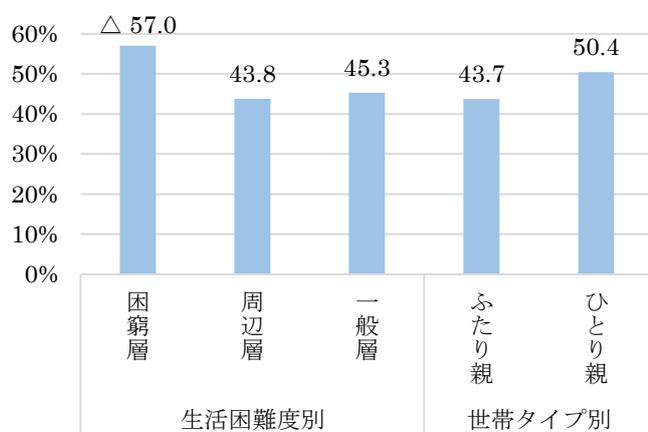
図表 7-6-12 学校が実施する補講「興味あり」(学習支援)(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



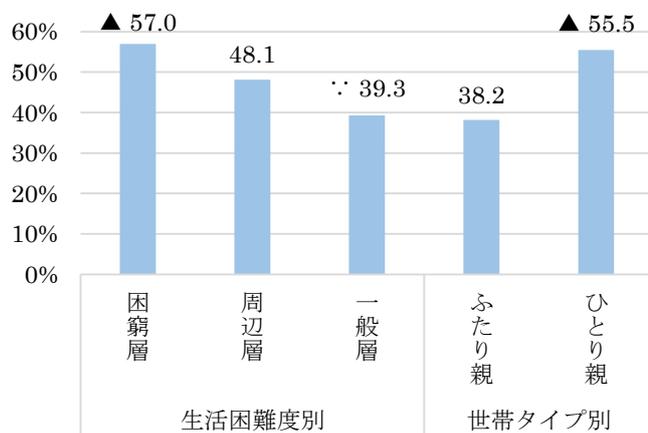
図表 7-6-13 学校以外が実施する学習支援「興味あり」(学習支援)(小学 5 年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 7-6-14 学校が実施する補講「興味あり」(中学 2 年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 7-6-15 学校以外が実施する学習支援「興味あり」(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



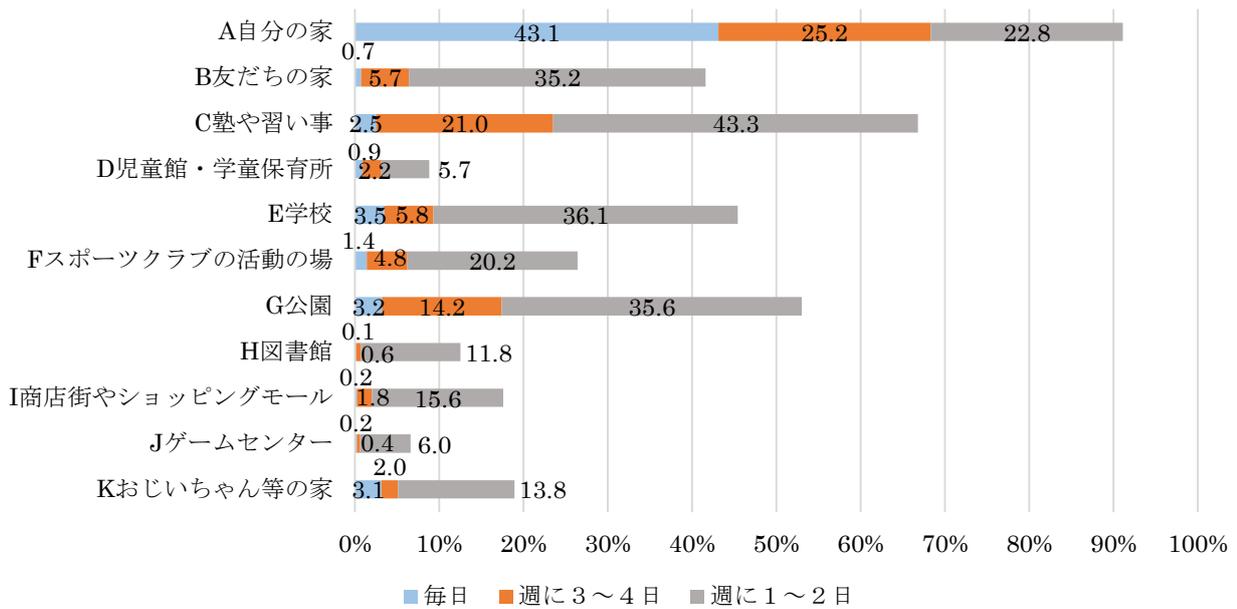
第8章 子どもの居場所

1 放課後の過ごし方

(1) 平日の放課後に過ごす場所 (子:問7)

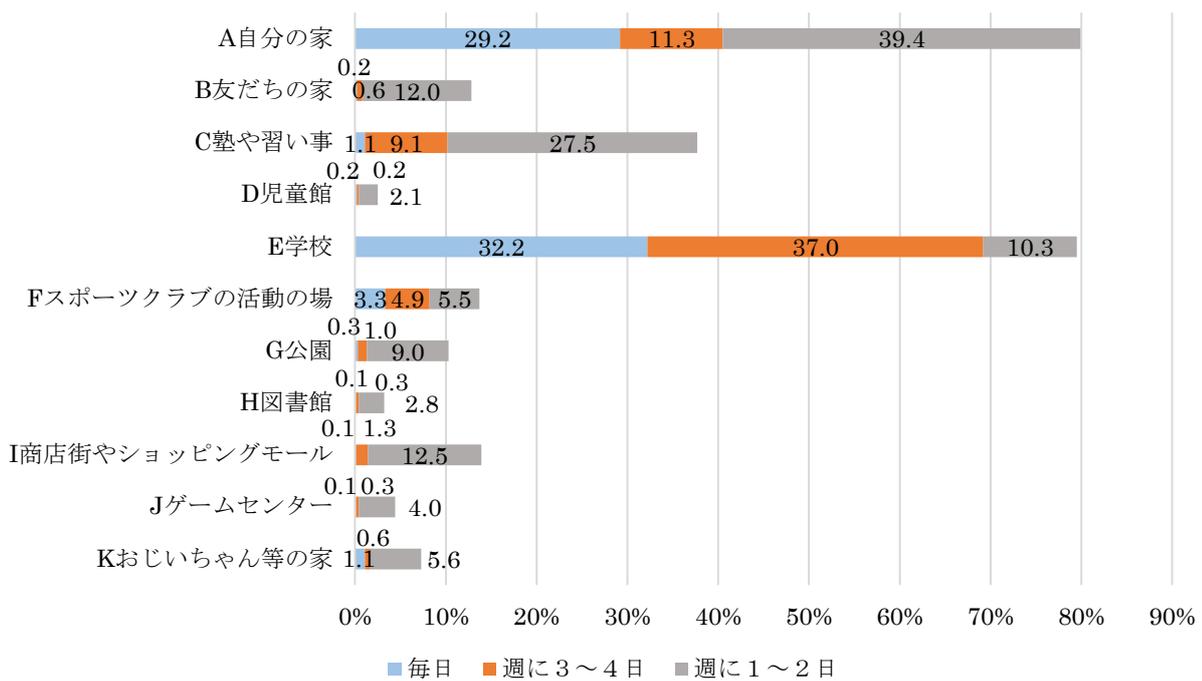
- 子どもに対し、平日の放課後に過ごす場所について聞いたところ、全体でみると、小学5年生においては、「毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」を合わせた《週に1日以上》は、「A 自分の家」(43.1%+25.2%+22.8%=91.1%)が最も多い。次いで、《週に1日以上》は、「C 塾や習い事」(66.8%)、「G 公園」(53.0%)の順である。
- 「E 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」については、4番目に多いが、その内訳は、「週に1～2回」が36.1%、「そこではまったく過ごさない」(表外)が半数以上である。
- 「H 図書館」については、《週に1日以上》は、12.5%である。
- 「I 商店街やショッピングモール」や「J ゲームセンター」といった商業施設については、《週に1日以上》は、それぞれ、17.6%、6.6%である。
- 中学2年生においても、《週に1日以上》の割合は、「A 自分の家」(29.2%+11.3%+39.4%=79.9%)が最も高いが、小学5年生よりは低い。
- 他方で、「E 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」については、《週に1日以上》(79.5%)は、小学5年生(45.4%)よりも多い。「毎日」(32.2%)、「週3～4日」(37.0%)は、「自分の家」(29.2%、11.3%)よりも多い。
- 「G 公園」については、《週に1日以上》の割合(10.3%)は、小学5年生(53.0%)よりも低い。
- 「C 塾や習い事」も、《週に1日以上》の割合(37.9%)は、小学5年生(66.8%)よりも低い。
- 「H 図書館」については、《週に1日以上》の割合(3.2%)は、小学5年生(12.5%)よりも低い。

図表 8-1-1 平日の放課後に過ごす場所(小学5年生):全体



※作表上「そこでは全く過ごさない」、「無回答」を除く。「その他」は作表省略。

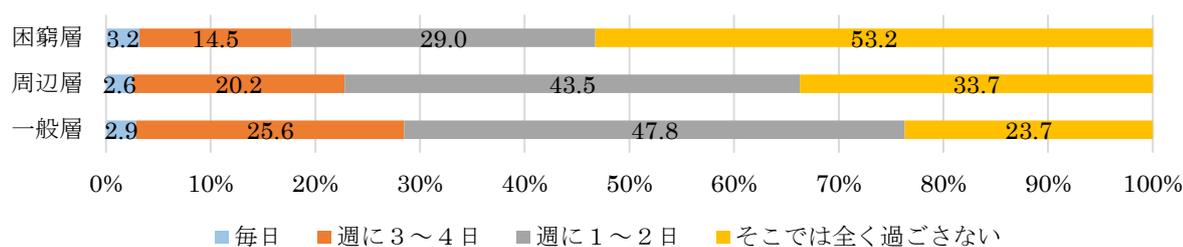
図表 8-1-2 平日の放課後に過ごす場所(中学2年生)



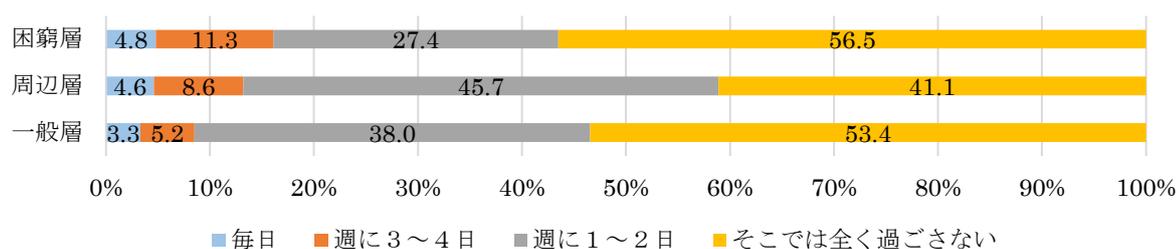
※作表上「そこでは全く過ごさない」、「無回答」を除く。「その他」は作表省略。

- 小学5年生において、生活困難度別でみると、「C 塾や習い事」については、「そこでは全く過ごさない」が、一般層で 23.7%、周辺層で 33.7%、困窮層で 53.2%であり、生活困難度が高いほど高い割合になっている。《週に1日以上》は、一般層で 76.3%である。
- 「E 学校（クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など）」については、「毎日」は、一般層で 3.3%、周辺層で 4.6%、困窮層で 4.8%、「週に3～4日」は、一般層で 5.2%、周辺層で 8.6%、困窮層で 11.3%であり、生活困難度が高いほど高い。一方で「そこでは全く過ごさない」は、周辺層（41.1%）で最も少なく、《週に1日以上》は、周辺層（58.9%）で最も高い。
- 「H 図書館」について、《週に1日以上》は、周辺層（22.7%）、一般層（12.4%）、困窮層（15.0%）の順で高い。
- 「G 公園」について、困窮層では、一般層や周辺層よりも利用頻度は多いが、統計的に有意な差はみられなかった。
- 世帯タイプ別にみると、「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」についてのみ統計的に有意な差がみられ、「毎日」の割合は、「ひとり親」（6.6%）で「ふたり親」（3.0%）の2倍超である。「週に3～4日」は、「ひとり親」で 5.8%、「ふたり親」で 1.8%である。

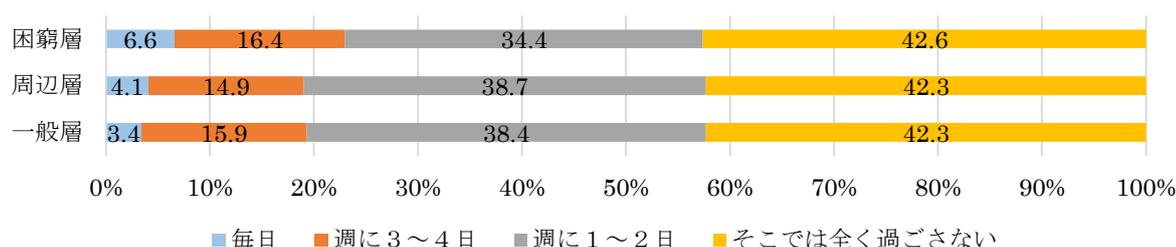
図表 8-1-3 C 平日の放課後に塾や習い事で過ごす頻度(小学5年生):生活困難度別(***)



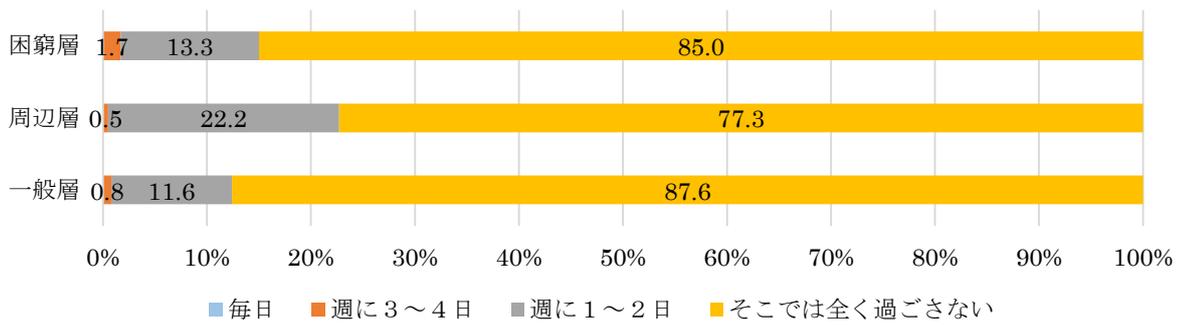
図表 8-1-4 E 平日の放課後に学校で過ごす頻度(小学5年生):生活困難度別(**)



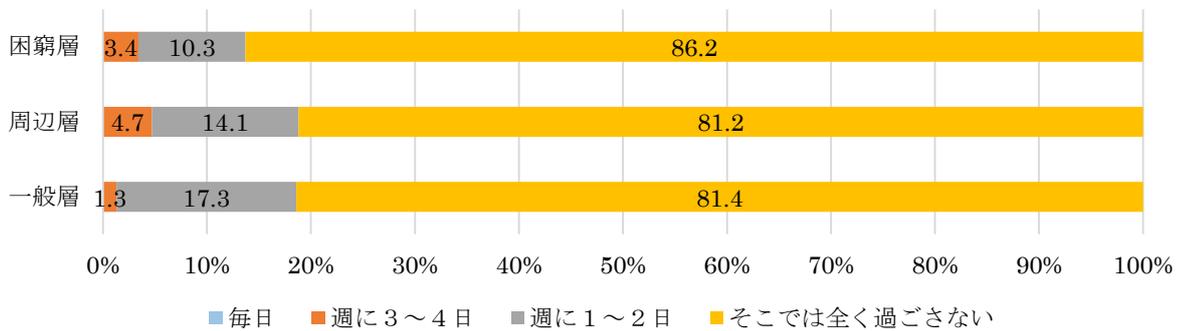
図表 8-1-5 G 平日の放課後に公園で過ごす頻度(小学5年生):生活困難度別(X)



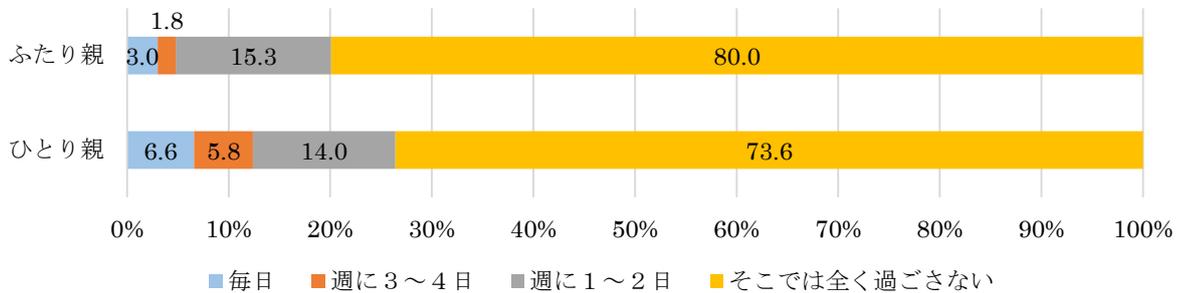
図表 8-1-6 H 平日の放課後に図書館で過ごす頻度(小学5年生):生活困難度別(***)



図表 8-1-7 I 平日の放課後に商店街やショッピングモールで過ごす頻度(小学5年生):生活困難度別(**)

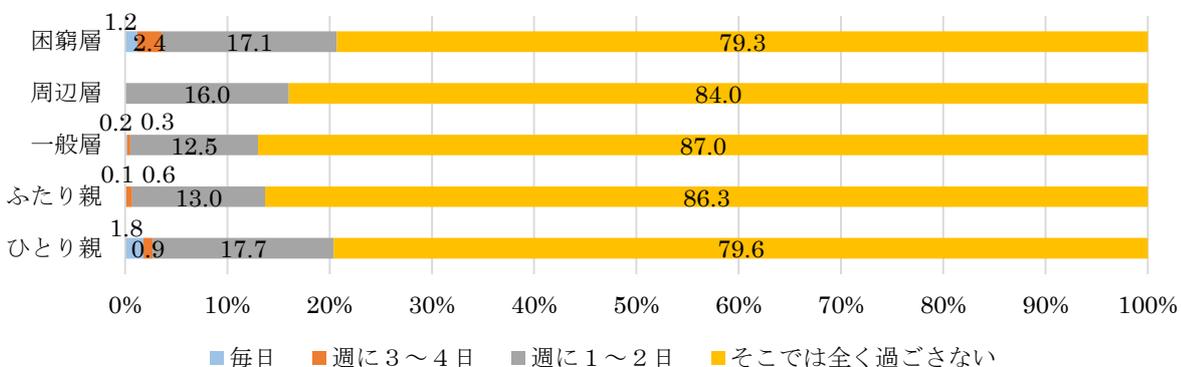


図表 8-1-8 K 平日の放課後におじいちゃん等の家で過ごす頻度(小学5年生):世帯タイプ別(**)

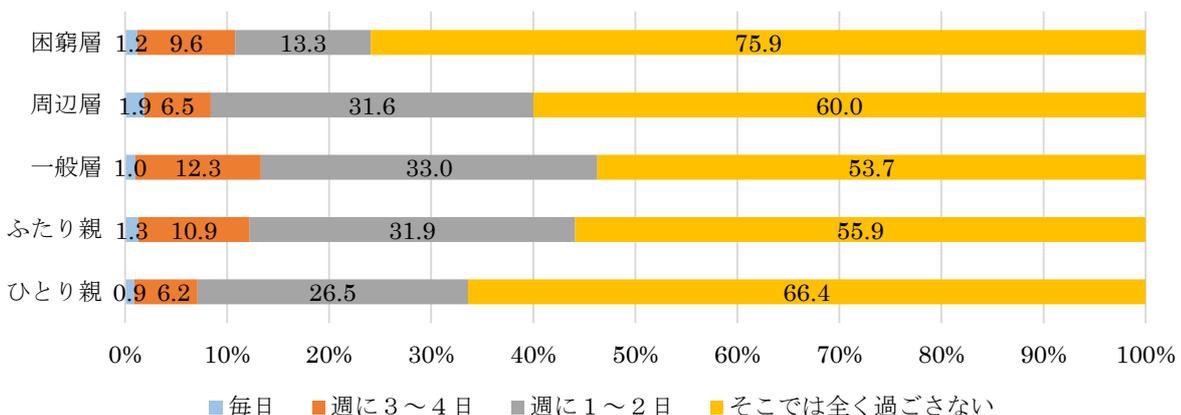


- 「B 友だちの家」で「全く過ごさない」割合は一般層で87.0%、周辺層で84.0%、困窮層で79.3%となっており、一般層、周辺層、困窮層の順に「友達の家」で過ごさない割合が高い。また、「ふたり親」で「全く過ごさない」と答えた割合は86.3%であるのに対し、「ひとり親」では79.6%となっており、「ふたり親」の方が「友だちの家」で過ごさない割合が高い。
- 「C 塾や習い事」で週単位での利用の有無の割合については、利用有りが困窮層で計24.1%、周辺層で計40.0%、一般層で計46.3%となっており、一般層、周辺層、困窮層の順に「塾や習い事」を利用している割合が高く、一般層は困窮層の約2倍「塾や習い事」をしていることとなる。世帯タイプ別では統計的に有意な差は見られなかったが、「全く過ごさない」と答えた割合は、「ひとり親」の方が約10ポイント高かった。
- 「E 学校」に関して生活困難度別にみると、「全く過ごさない」と答えた割合が、困窮層では33.3%、周辺層では10.4%、一般層では15.5%となっており、周辺層が最も週単位での利用が多く、5ポイントほど上がって、次に一般層の利用が多い。その一方で、困窮層は突出して「全く過ごさない」割合が高く、周辺層の3倍以上、一般層の2倍以上となっている。また世帯タイプ別でみると、「毎日」過ごす割合が、「ふたり親」では34.9%、「ひとり親」では27.6%となっており、「ひとり親」の方が低い。「全く過ごさない」割合においても、「ふたり親」では14.9%、「ひとり親」では22.8%となっている。

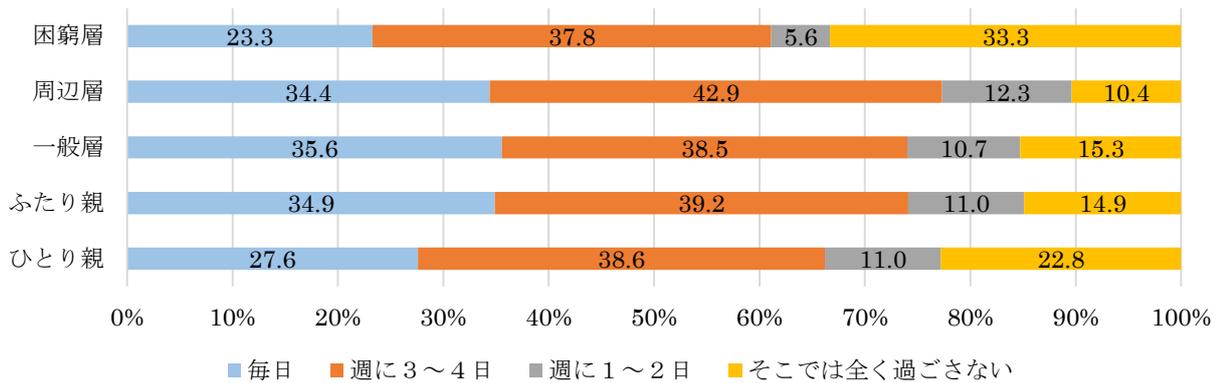
図表 8-1-9 平日の放課後に友だちの家で過ごす頻度(中学2年生):生活困難度別(**)、世帯タイプ別(***)



図表 8-1-10 平日の放課後に塾や習い事で過ごす頻度(中学2年生):生活困難度別(***)世帯タイプ別(X)

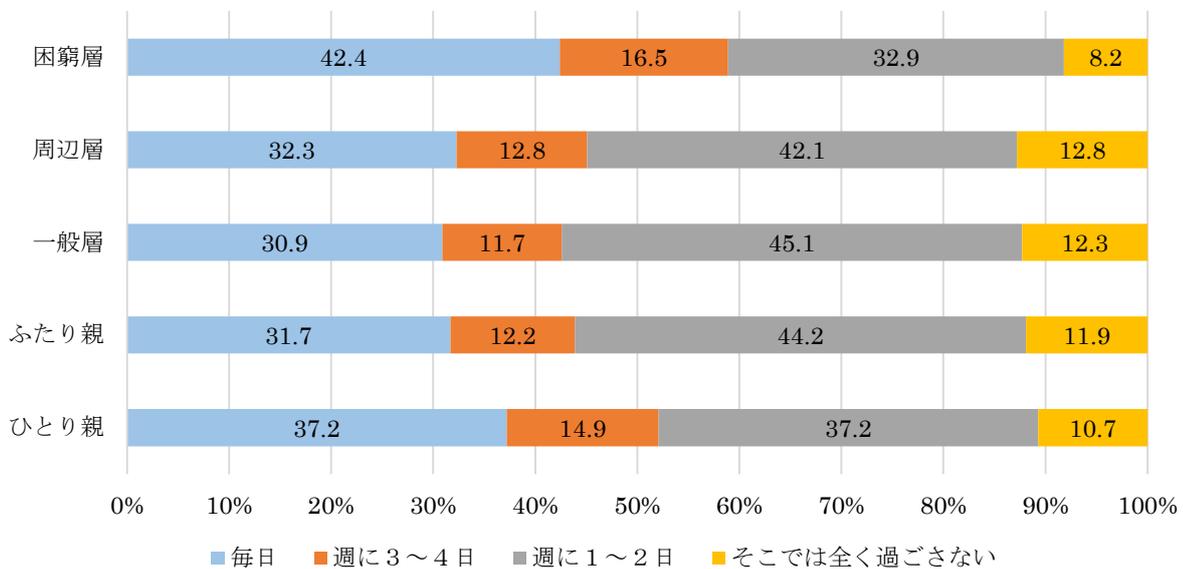


図表 8-1-11 平日の放課後に学校で過ごす頻度(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(*)



○ (参考)「自分の家」では、生活困難度別、世帯タイプ別において、差はみられなかったが、部分的に差がみられたため、参考として割合を掲載する。この表では、困窮層が自分の家で「毎日」過ごす割合が42.4%と全体の平均と比較してとくに多く、有意な差となっている。

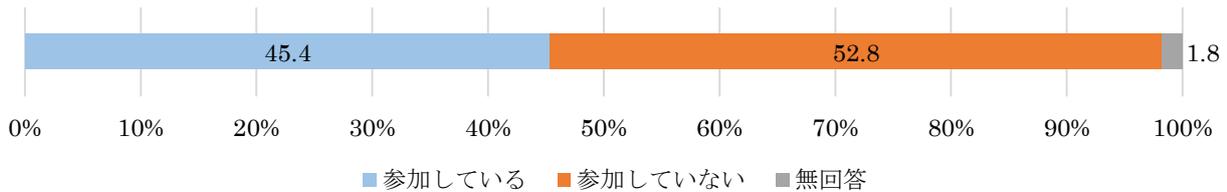
図表 8-1-12 平日の放課後に自宅で過ごす頻度(中学2年生):生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)



(2)放課後子ども教室 (小:問9)

- 小学5年生の児童に対し、放課後子ども教室に参加しているか聞いた。
- 全体で見ると、「参加している」は45.4%、「参加していない」は52.8%である。
- 生活困難度別で見ると、「参加している」は、困窮層(51.5%)で一般層(44.6%)よりも多く、世帯タイプ別で見ると、ひとり親(50.8%)でふたり親(45.7%)よりも多いが、どちらも、統計的に有意な差はみられなかった。

図表 8-1-13 放課後子ども教室の参加状況(小学5年生)



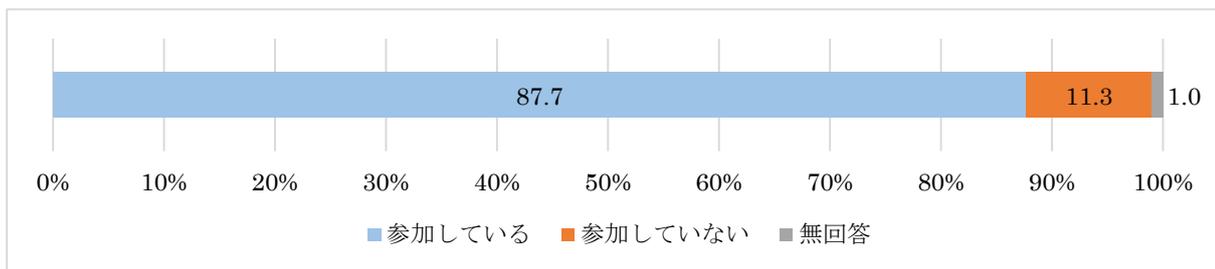
図表 8-1-14 放課後子ども教室の参加状況(小学5年生):生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)



(3) クラブ活動 (中:問9)

- 中学2年生の生徒に、学校のクラブ活動に参加しているか聞いた。
- 全体で見ると、「参加している」は87.7%、「参加していない」は11.3%である。
- 生活困難度別では、「参加している」は、困窮層(73.9%)で周辺層(91.8%)や一般層(90.3%)よりも低い。
- 世帯タイプ別で見ると、「参加している」は、ひとり親(83.6%)でふたり親(89.4%)よりも約5ポイント少ない。
- 生活困難度別、世帯タイプ別のいずれも、放課後子ども教室の参加率と逆の傾向となっており、困窮層、ひとり親の参加割合が少ない。

図表 8-1-15 クラブ活動の参加状況(中学2年生)



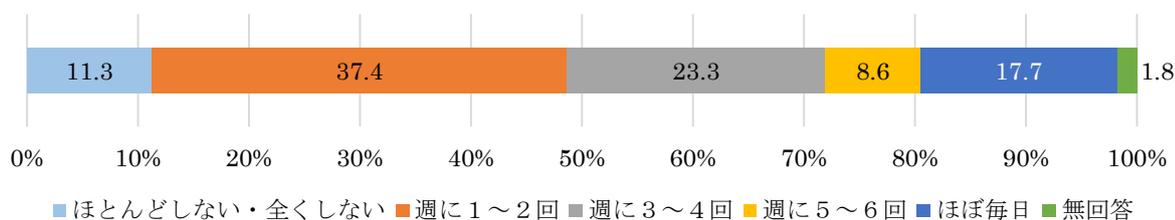
図表 8-1-16 クラブ活動の参加状況(中学2年生):生活困難度別(***)、世帯タイプ別(**)



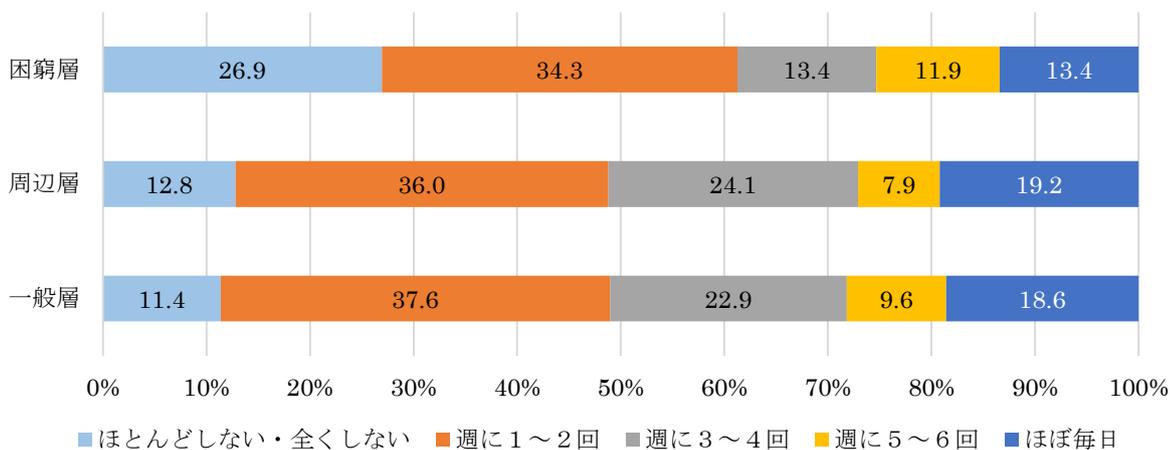
2 運動（子:問13）

- 子どもに対し、1週間で30分以上からだを動かす遊びや習い事をどれくらい行っているか聞いた。
- 全体で見ると、小学5年生において、「ほぼ毎日」は17.7%、「ほとんどしない・全くしない」は11.3%である。
- 生活困難度別で見ると、「ほとんどしない・全くしない」割合は、困窮層（26.9%）で周辺層（12.8%）や一般層（11.4%）の2倍以上である。また、「ほぼ毎日」は、困窮層（13.4%）で最も少なく、周辺層（19.2%）や一般層（18.6%）よりも5ポイント以上少ない。
- 世帯タイプ別については、統計的に有意な差はみられなかった。
- 中学2年生においては、「ほぼ毎日」は32.1%、「ほとんどしない・全くしない」は22.8%である。
- 生活困難度別、世帯タイプ別については、小学5年生と同様の傾向があるが、統計的に有意な差はみられなかった。

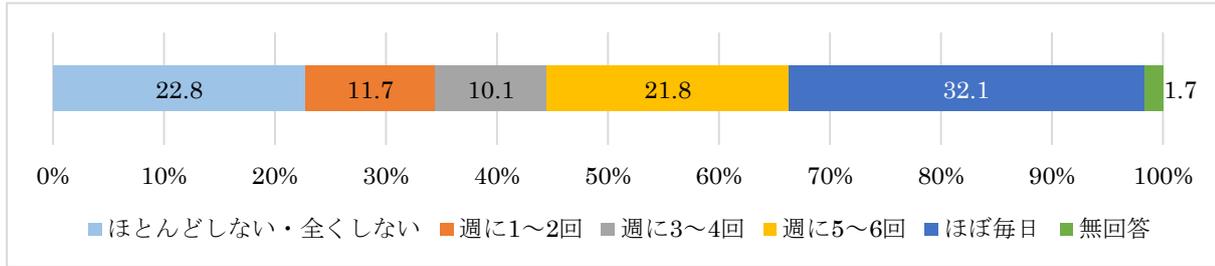
図表 8-2-1 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(小学5年生)



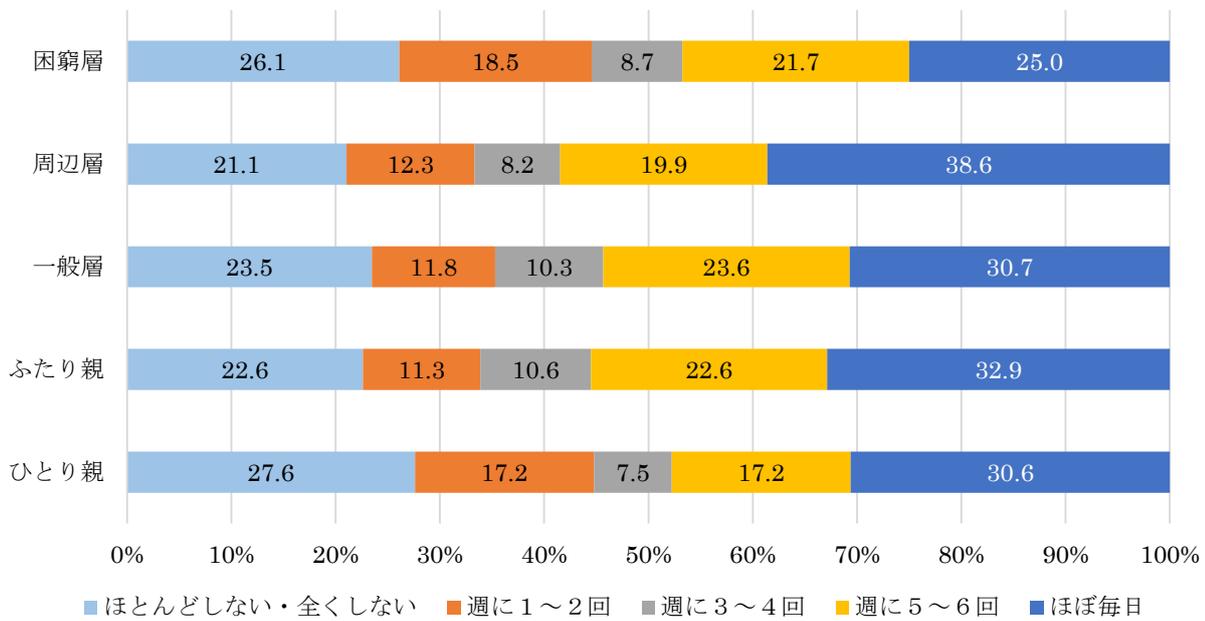
図表 8-2-2 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(小学5年生):生活困難度別(**)



図表 8-2-3 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(中学2年生):全体



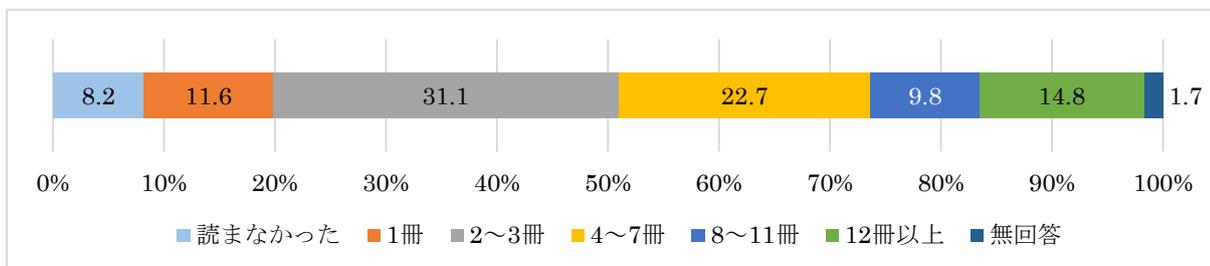
図表 8-2-4 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(中学2年生):生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)



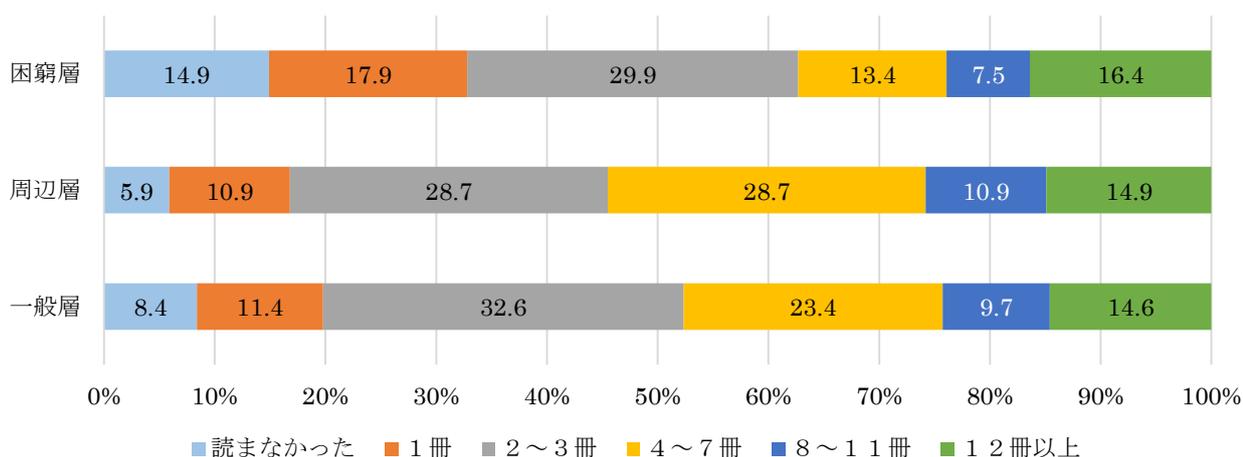
3 読書（子:問 14）

- 子どもに対し、過去1か月で読んだ本の冊数を聞いた。
- 小学5年生において、全体でみると、「2～3冊」（31.1%）が最も多く、次いで「4～7冊」（22.7%）となっている。一方で、「読まなかった」は8.2%となっている。
- 生活困難度別でみると、全体的な傾向については、統計的に有意な差はみられなかったが、「読まなかった」のみを取り出すと、統計的に有意な差がみられ、困窮層（14.9%）で最も高い。
- 世帯タイプ別については、統計的に有意な差はみられなかった。
- 中学2年生において、全体でみると、「2～3冊」（34.4%）が最も多く、次いで「1冊」（25.7%）となっている。また、「読まなかった」割合は16.5%であり、小学5年生とよりも高い
- 生活困難度別でみると、「読まなかった」割合は、困窮層（25.0%）で一般層（13.2%）の約2倍となっている。また、周辺層（20.6%）も一般層より多くなっている。
- 世帯タイプ別については、統計的に有意な差はみられなかった。

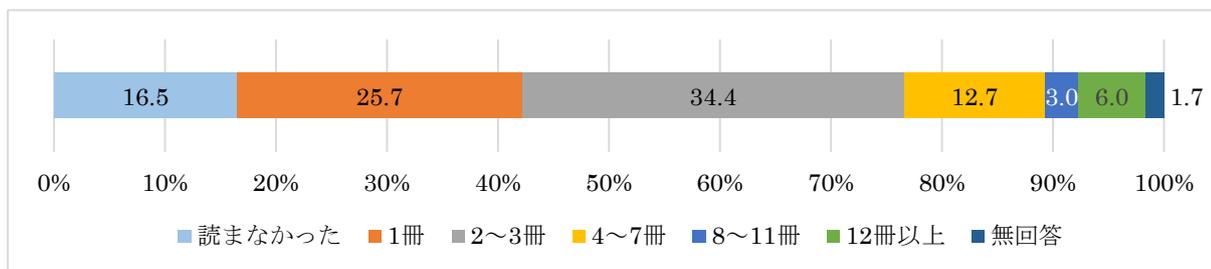
図表 8-3-1 過去1か月に読んだ本の冊数(小学5年生)



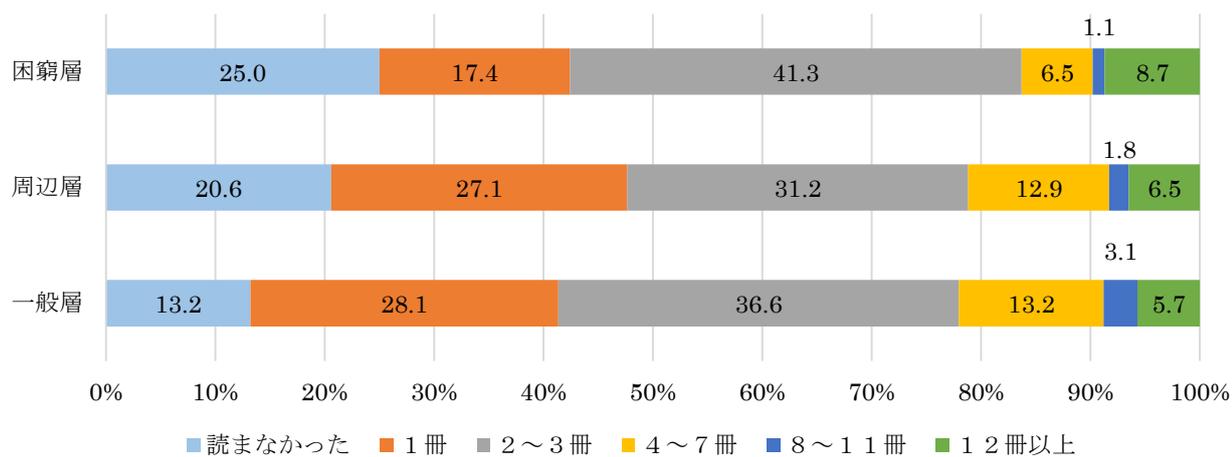
図表 8-3-2 過去1か月に読んだ本の冊数(小学5年生):生活困難度別(X)



図表 8-3-3 過去 1 か月に読んだ本の冊数(中学2年生)



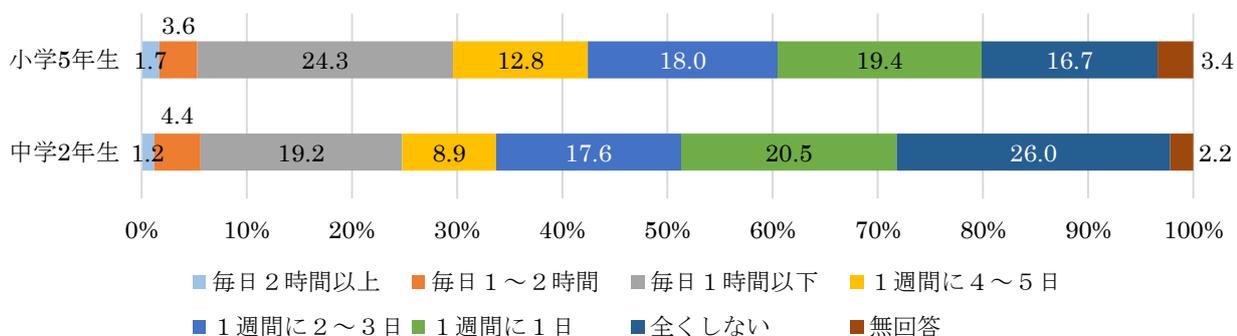
図表 8-3-4 過去 1 か月に読んだ本の冊数(中学2年生):生活困難度別(**)



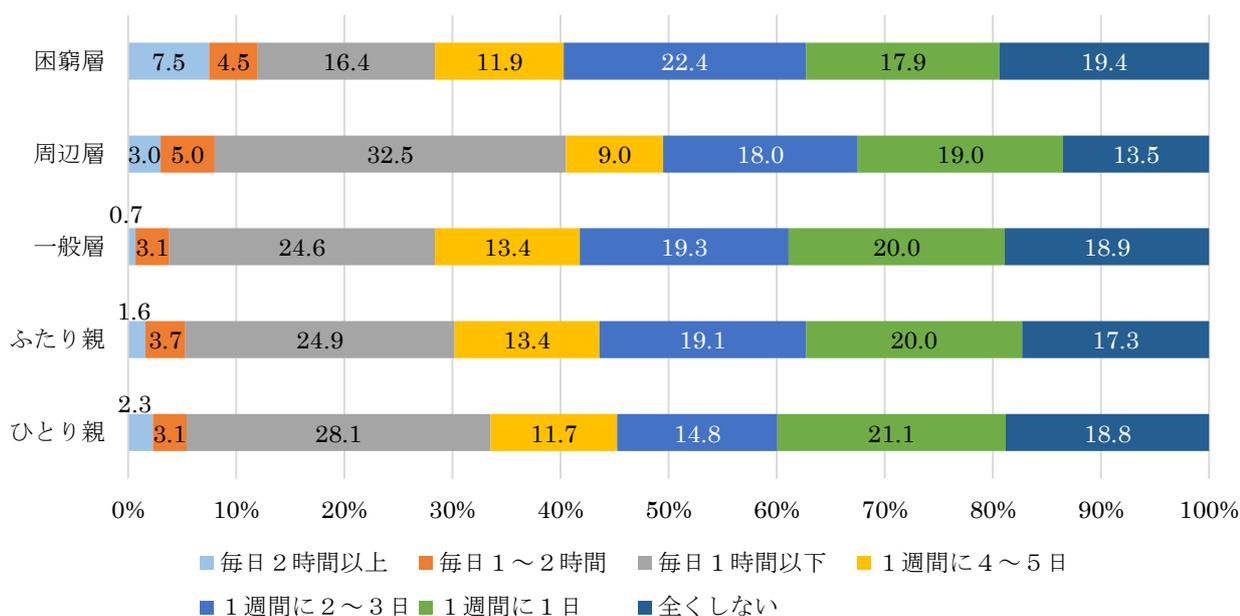
4 家事負担（子：問 12E）

- 子どもに対し、家事をふだんどれぐらい行うかを聞いた。
- 全体でみると、「全くしない」と「無回答」を除く《1週間に1日以上》の割合は、小学5年生(79.9%)よりも、中学2年生(71.8%)の方が低い。「毎日2時間以上」と「毎日1～2時間」を合わせた《毎日1時間以上》は、小学5年生で5.3%、中学2年生で5.6%となっている。
- 小学5年生において、生活困難度別でみると、「毎日2時間以上」は、困窮層(7.5%)で、一般層(0.7%)や周辺層(3.0%)よりも多くなっている。世帯タイプ別については、統計的に有意な差は見られなかった。
- 中学2年生においては、生活困難度別、世帯タイプ別ともに統計的に有意な差は見られなかったが、「毎日2時間以上」は、困窮層(2.2%)が最も高かった。

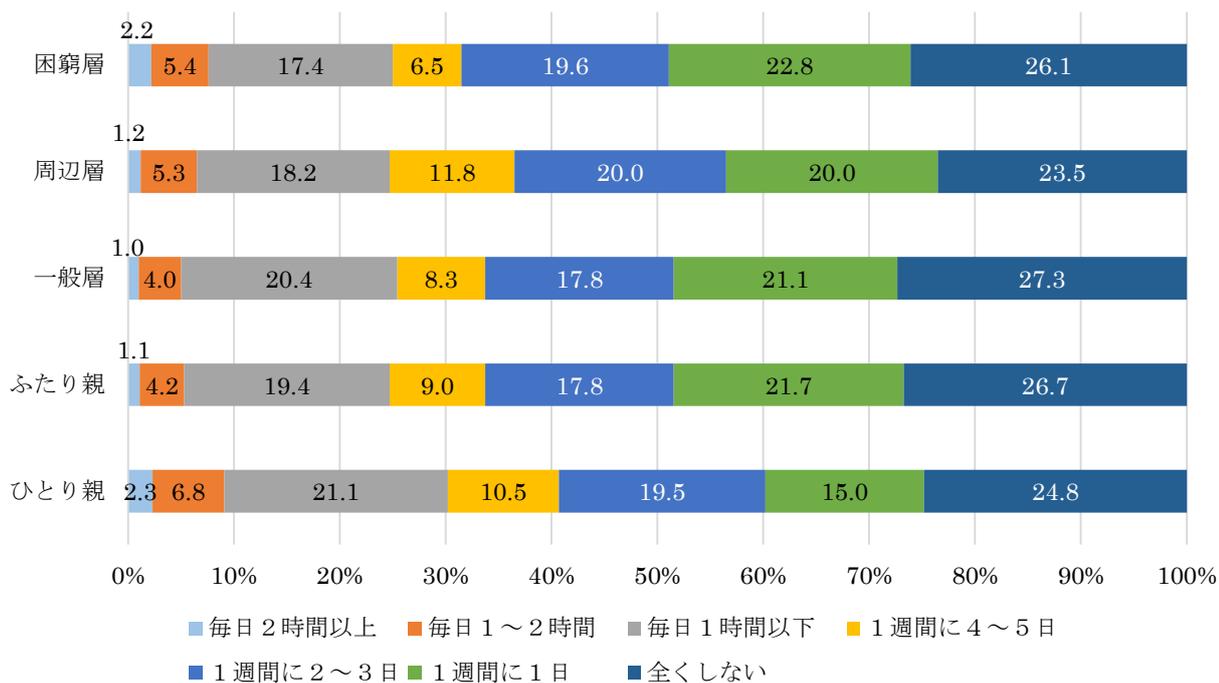
図表 8-4-1 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(小学5年生、中学2年生)



図表 8-4-2 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(小学5年生):生活困難度別(**),世帯タイプ別(X)



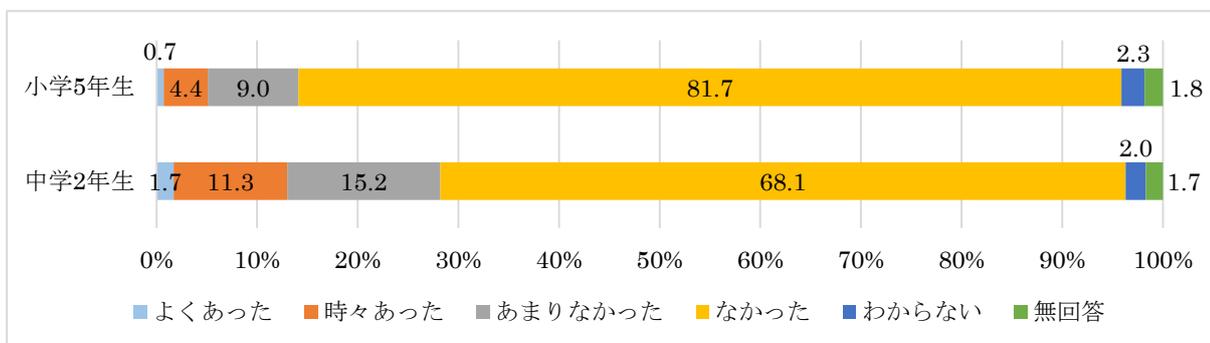
図表 8-4-3 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(中学2年生):生活困難度別(X),世帯タイプ別(X)



5 夕方以降の留守番（子:問 33D）

- 子どもに対し、夜遅くまで子どもだけで過ごしたことがどれだけあるか聞いた。
- 全体でみると、小学5年生において、「よくあった」と「時々あった」を合わせた《あった》は、5.1%となっている。中学2年生において、《あった》は、13.0%となっている。
- 小学5年生において、生活困難度別でみると、「時々あった」割合は、困窮層（13.4%）で、周辺層（4.5%）や一般層（3.8%）の2倍以上となっている。世帯タイプ別については、統計的に有意な差は見られなかった。
- 中学2年生において、生活困難度別でみると、「あまりなかった」割合は困窮層（21.7%）で、他の層よりも高くなっている。
- 世帯タイプ別でみると、「あまりなかった」割合は、「ひとり親」（23.9%）で、「ふたり親」（14.4%）よりも多くなっている。一方で、《あった》は、両タイプとも1割を超えている。

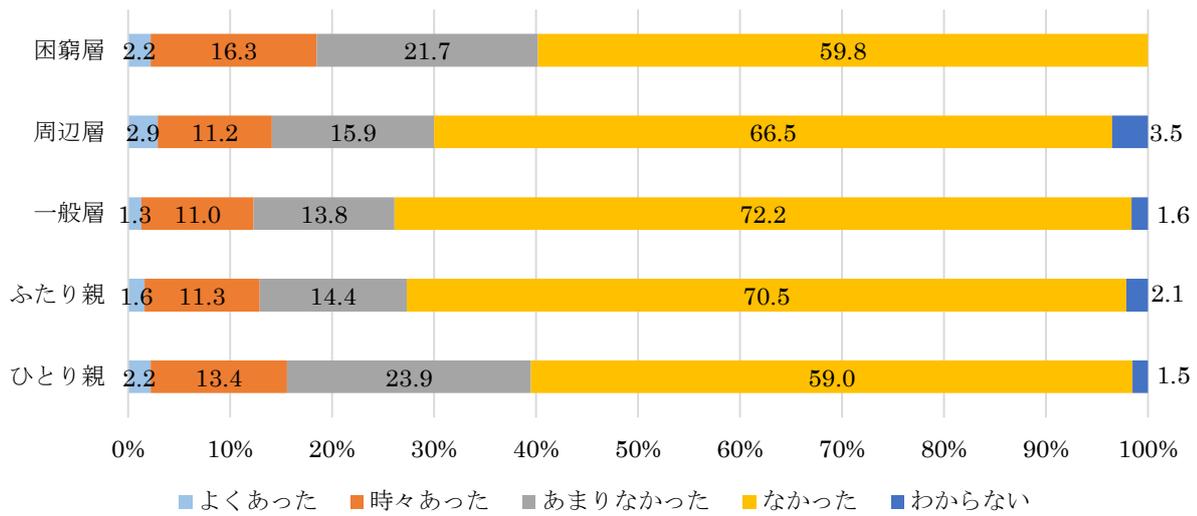
図表 8-5-1 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学5年生、中学2年生)



図表 8-5-2 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学5年生):生活困難度別(*),世帯タイプ別(X)



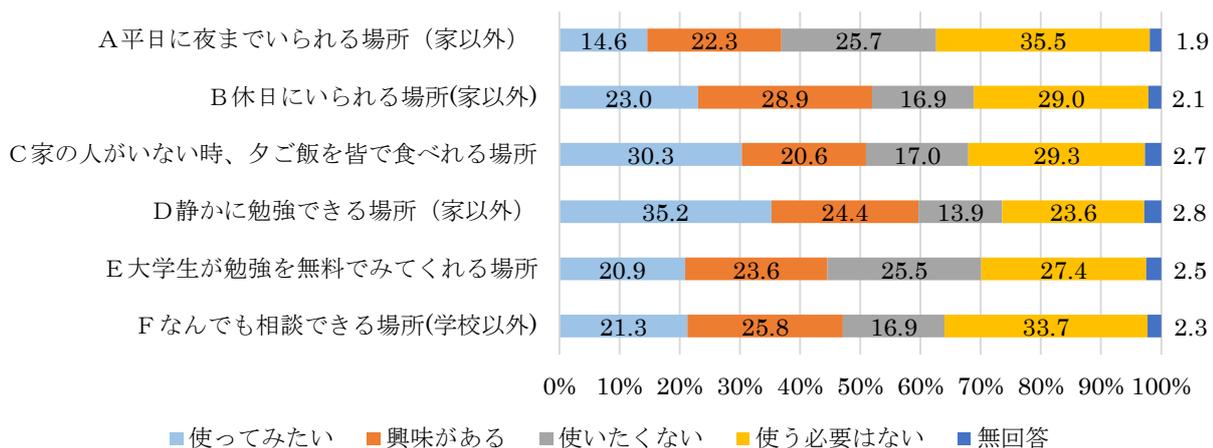
図表 8-5-3 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(中学2年生):生活困難度別(*),世帯タイプ別(**)



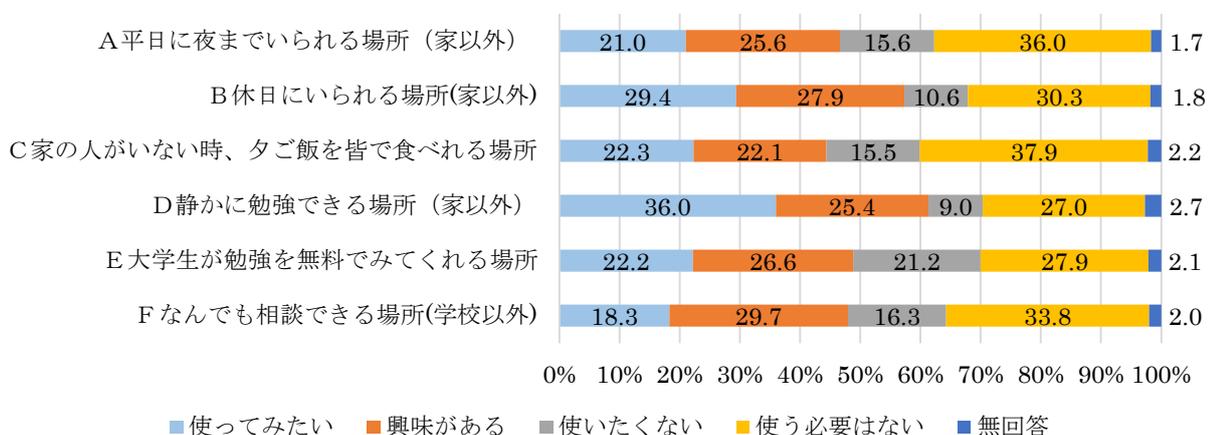
6 居場所支援・相談事業の利用意向（子:問 34）

- 子どもに対し、居場所支援・相談事業を利用したいか聞いた。
- 小学5年生において、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた《利用意向》は、「静かに勉強できる場所(家以外)」(59.6%)、「休日にいられる場所(家以外)」(51.9%)、「家の人がいない時、夕ご飯を皆で食べられる場所」(50.9%)の順で多くなっている。
- 生活困難度別、世帯タイプ別でみると、全ての施設で、統計的に有意な差はみられなかった。
- 中学2年生において、《利用意向》は、「静かに勉強できる場所(家以外)」(61.4%)、「休日にいられる場所(家以外)」(57.3%)、「大学生が勉強を無料でみてくれる場所」(48.8%)、「なんでも相談できる場所(家以外)」(48.0%)の順に高くなっている。
- 生活困難度別でみると「大学生が勉強を無料でみてくれる場所」について、統計的に有意な差がみられた。この施設について、困窮層で「使ってみたい」の割合が34.8%、「興味がある」の割合が30.4%となっており、いずれも周辺層・一般層より高くなっている。この施設の「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた《利用意向》は、周辺層(49.5%)と一般層(47.2%)ともに、約5割となっている。

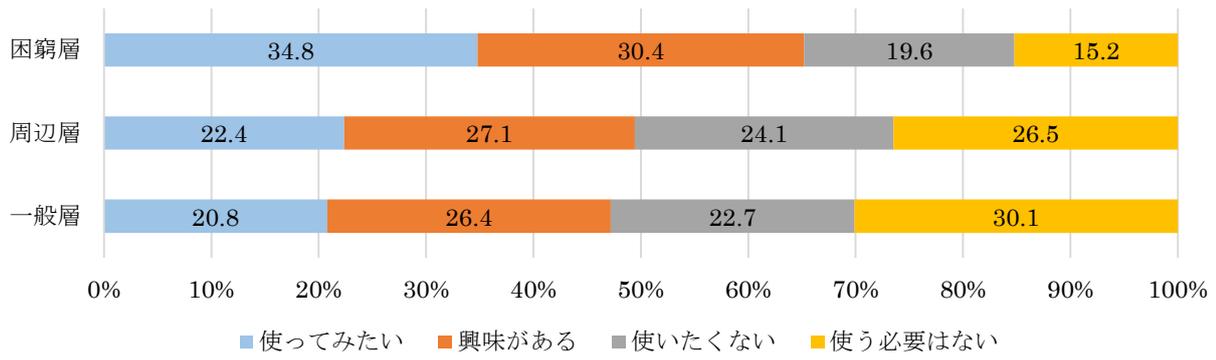
図表 8-6-1 施設の利用意向(小学5年生):全体



図表 8-6-2 施設の利用意向(中学2年生):Eを除き全て生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)、Eのみ生活困難度別(**)、世帯タイプ別(X)



図表 8-6-3 大学生が勉強を無料でみてる場所の利用意向(中学2年生):生活困難度別(**)



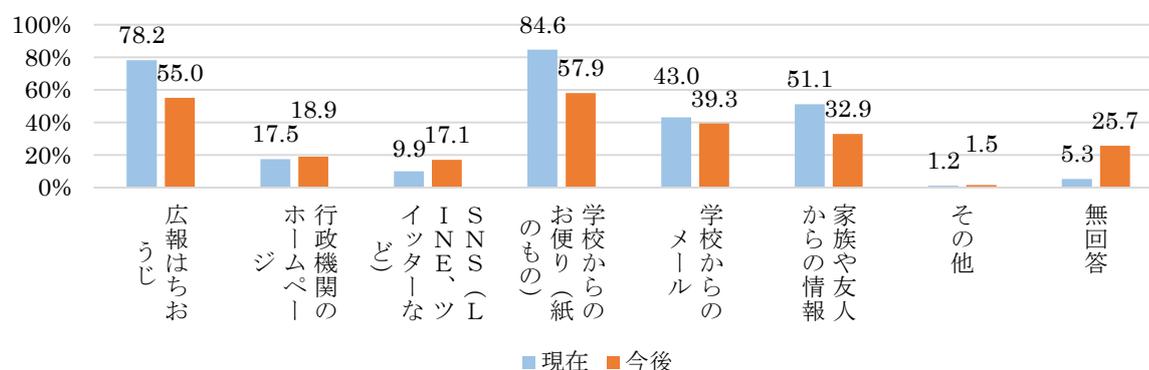
第9章 公的支援の利用と周知

1 子どもの施策に関する情報の受け取り方法（保:問39）

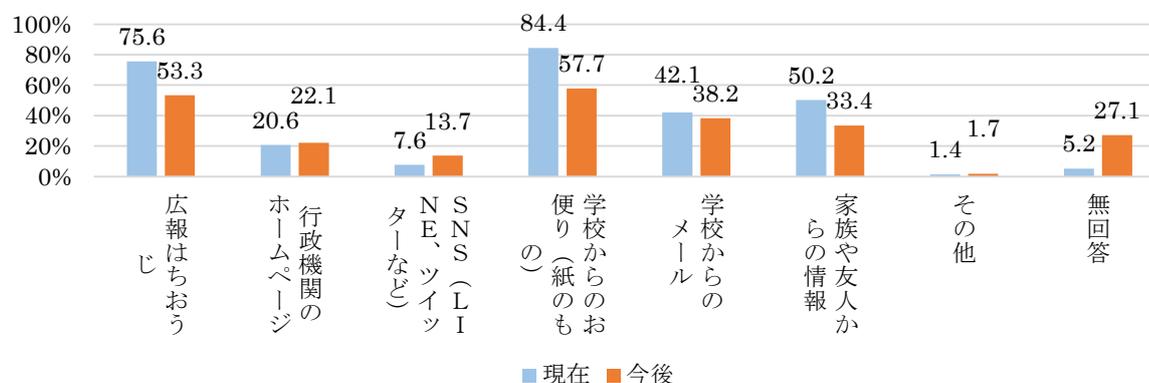
(1)全体

- 保護者に対し、子どもに関する施策などの情報をどのような方法で受け取っているか、また、今後受け取りたいかを聞いた。
- 「A 現在の受け取り方法」については、両学年の保護者において「学校からのお便り」「広報はちおうじ」「家族や友人からの情報」「学校からのメール」「行政機関のホームページ」「SNS」「その他」の順となっている。
- 学校経由の情報周知については、両学年の保護者とも「学校からのお便り」が8割以上、「学校からのメール」は約4割となっている。
- 行政からの情報伝達手段については、両学年の保護者とも、「広報はちおうじ」の割合が、最も多くなっている。「行政機関のホームページ」の割合は、約2割となっている。
- 「B 今後、受け取りたい方法」については、「学校からのお便り（紙のもの）」「広報はちおうじ」が、両学年とも、「A 現在の受け取り方法」よりも、20ポイント以上下がっている。
- 「行政機関のホームページ」「SNS」は、「A 現在の受け取り方法」の割合よりも「B 今後、受け取りたい方法」の割合の方が高くなっている。

図表 9-1-1 子どもに関する施策等の情報経路(小学5年生)



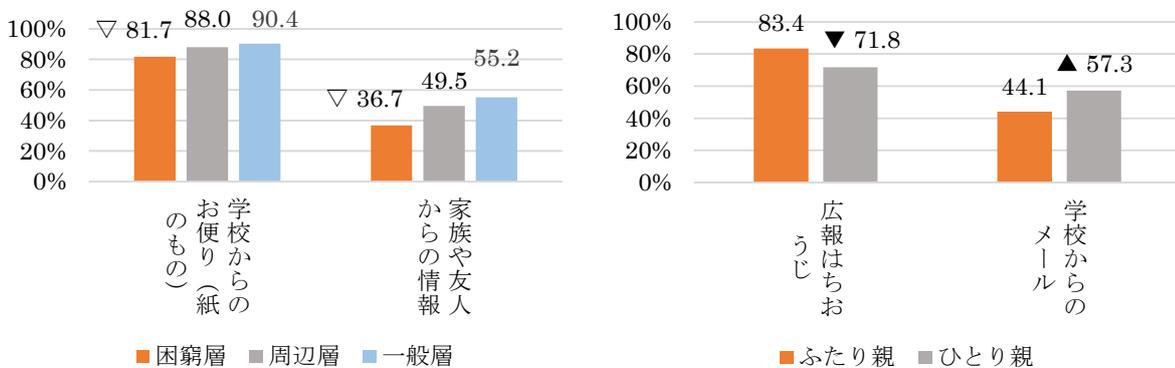
図表 9-1-2 子どもに関する施策等の情報経路(中学2年生)



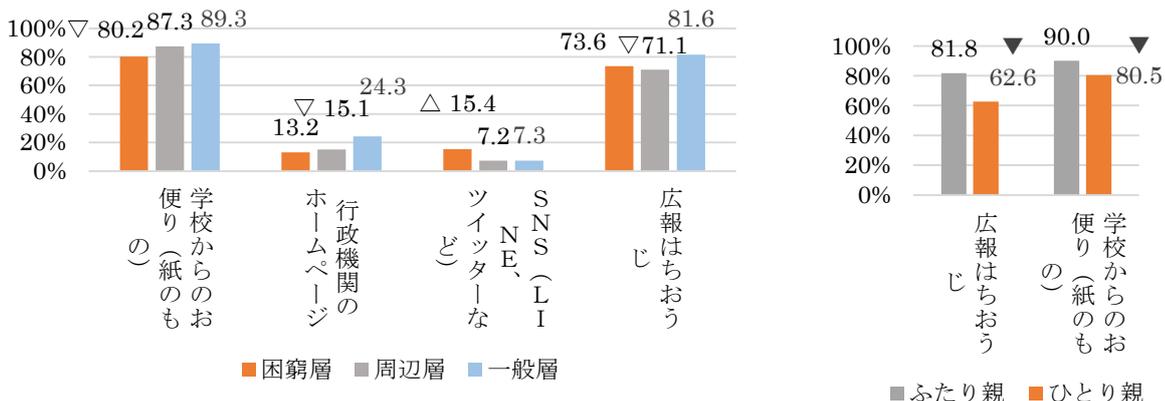
(2)現在の受け取り方法

- 「A 現在の受け取り方法」について、生活困難度別と世帯タイプ別でみると、いくつかの受け取り方法で統計的に有意な差がみられた。
- 小学5年生の保護者において、生活困難度別でみると、「学校からのお便り」の割合は、困窮層（81.7%）で一般層（90.4%）よりも約10ポイント低く、「家族や友人からの情報」の割合は、困窮層（36.7%）で一般層（55.2%）よりも約20ポイント低い。
世帯タイプ別でみると、「広報はちおうじ」の割合は、「ひとり親」（71.8%）で、「ふたり親」（83.4%）よりも約10ポイント低い。逆に、「学校からのメール」の割合は、「ひとり親」（57.3%）の方が約10ポイント高い。
- 中学2年生の保護者において、生活困難度別でみると「学校からのお便り」の割合は、小学5年生と同様、困窮層（80.2%）で、一般層（89.3%）より約10ポイント低い。「広報はちおうじ」の割合は、周辺層（71.1%）で、一般層（81.6%）より約10ポイント低い。「行政機関のホームページ」の割合は、周辺層（15.1%）で、一般層（24.3%）より約10ポイント少ない。逆に「SNS」の割合は、困窮層（15.4%）で、一般層（7.3%）や周辺層（7.2%）の約2倍となっている。
世帯タイプ別でみると、「広報はちおうじ」の割合は、「ひとり親」（62.6%）で、「ふたり親」（81.8%）よりも約20ポイント少ない。「学校からのお便り」の割合も、「ひとり親」（80.5%）で、「ふたり親」（90.0%）よりも約10ポイント低くなっている。

図表 9-1-3 子どもに関する施策等の現在の情報経路(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別(全体平均と比較して、有意な差があるもののみ)



図表 9-1-4 子どもに関する施策等の現在の情報経路(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別(全体平均と比較して、有意な差があるもののみ)

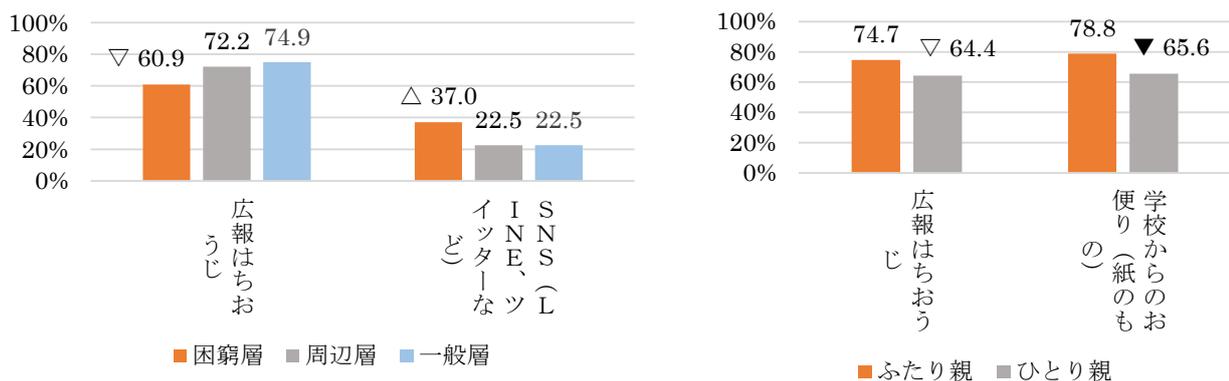


(3) 今後、受け取りたい方法

- 「B 今後、受け取りたい方法」について、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、「広報はちおうじ」の割合は、困窮層（60.9%）で、一般層（74.9%）よりも約15ポイント少ない。逆に、「SNS」の割合は、困窮層（37%）で、一般層（22.5%）よりも約15ポイント高い。
世帯タイプ別にみると、「広報はちおうじ」の割合は、「ひとり親」（64.4%）で、「ふたり親」（74.7%）よりも約10ポイント低い。また、「学校からのお便り（紙のもの）」の割合は、「ひとり親」（65.6%）で、「ふたり親」（78.8%）よりも約10ポイント低い。（図表7-1-5）
- 中学2年生の保護者において、生活困難度別にみると、「行政機関のホームページ」の割合は困窮層（14.1%）で、一般層（32.5%）よりも約20ポイント低い。
世帯タイプ別にみると、「広報はちおうじ」、「行政機関のホームページ」、「学校からお便り」の割合は、「ひとり親」（56.5%、20.7%、63.0%）で、「ふたり親」（75.1%、31.4%、80.9%）よりも約10～20ポイント低い。逆に、「SNS」の割合は、「ひとり親」（29.3%）で、「ふたり親」（17.6%）よりも約10ポイント高い。（図表7-1-6）

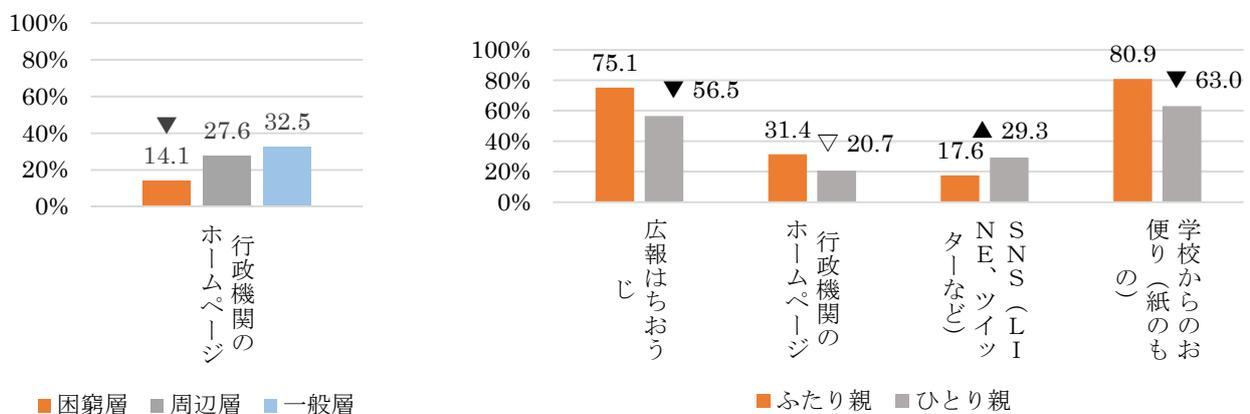
図表 9-1-5 子どもに関する施策等の今後受け取りたい情報経路(小学5年生)

:生活困難度別、世帯タイプ別(全体平均と比較して、有意な差があるもののみ)



図表 9-1-6 子どもに関する施策等の今後受け取りたい情報経路(中学2年生)

:生活困難度別、世帯タイプ別(全体平均と比較して、有意な差があるもののみ)



2 支援制度の利用状況・認知状況・利用意向

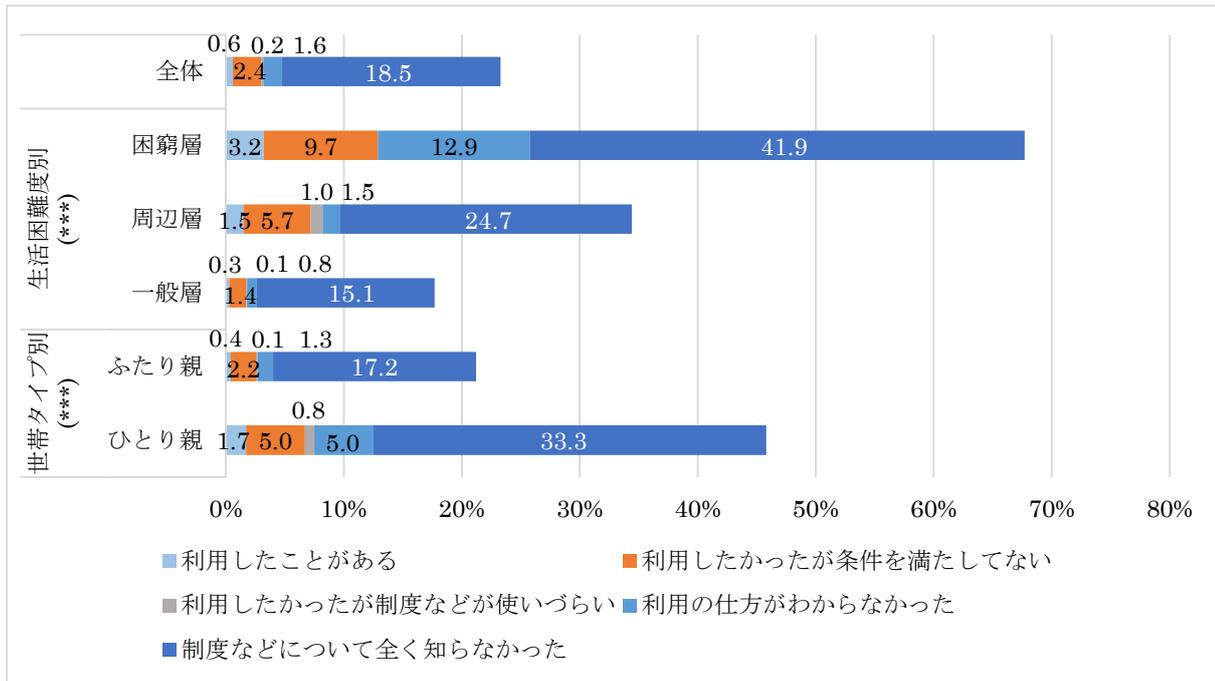
(1) 金銭的な支援制度の利用状況（保：問 41）

- 保護者に対し、「I 生活福祉資金」～「M 児童育成手当」を利用したことがあるか聞いた。
- 「I 生活福祉資金」について、全体で見ると、「制度などについて全く知らなかった」は、小学5年生で18.5%、中学2年生で20.2%となっている。これを生活困難度別にみると、困窮層で両学年とも約4割となっている。また、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」で約3～4割となっている。
- 「J 生活保護」について、全体で見ると、「利用したことがある」は、困窮層では、小学5年生の保護者で6.6%、中学2年生の保護者で12.4%となっている。「制度などについて全く知らなかった」は、生活困難度別にみると、困窮層では、小学5年生の保護者で14.8%、中学2年生の保護者で7.9%となっている。
- 「K 母子及び父子福祉資金」について、全体で見ると、「制度などについて全く知らなかった」の割合(35.5%)は、「ひとり親」に対する支援制度の中で、最も高い。生活困難度別にみると、困窮層(52.5%)で、半数以上となっている。
- 「L 児童扶養手当」について、全体で見ると、「利用したことがある」は69.3%となっている。生活困難度別にみると、「利用の仕方がわからなかった」は、困窮層で6.3%となっている。
- 「M 児童育成手当」について、全体で見ると、「利用したことがある」は73.8%と最も多くなっている。一方で、生活困難度別にみると、「利用の仕方がわからなかった」は、困窮層で7.8%となっている。

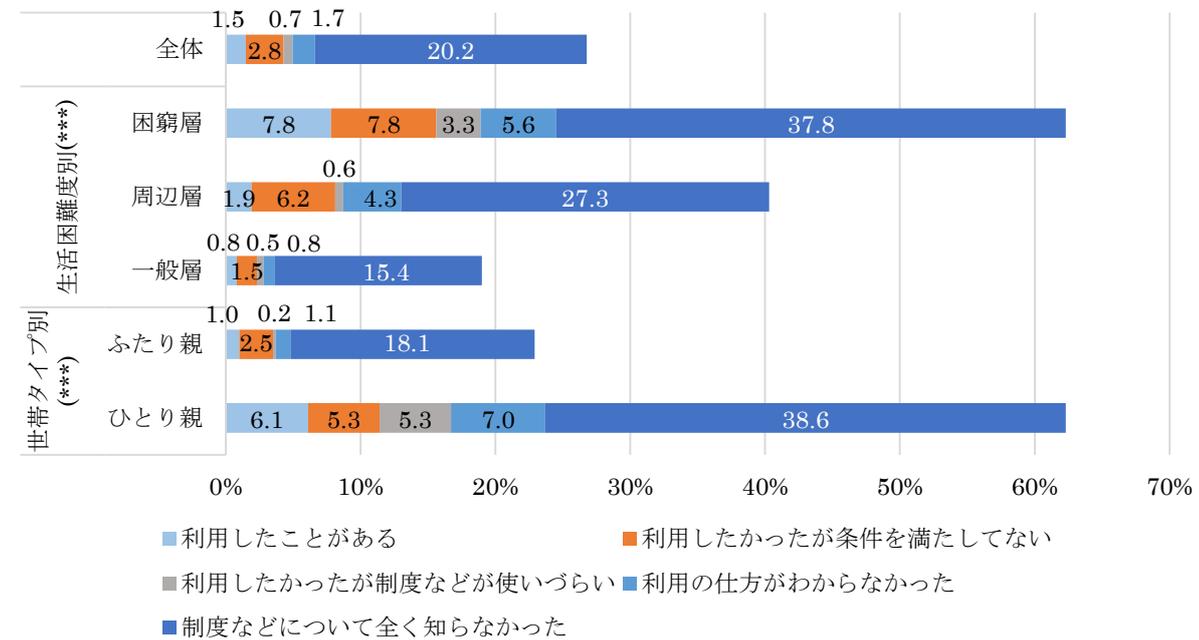
※ 作表上、生活福祉資金、生活保護については「利用したいと思ったことがなかった(そもそも制度などの対象外であった)」は、図示していないが、(1-各選択肢の合計割合)によって求められる。

※ 母子及び父子福祉資金、児童扶養手当、児童育成手当は、制度の対象者が「ひとり親」に限られているため、「ひとり親」に限って分析した。また、サンプル数が充分でないため、小学5年生と中学2年生を合わせて分析している。それでも、サンプル数が充分でない回答項目については、参考値として掲載した。

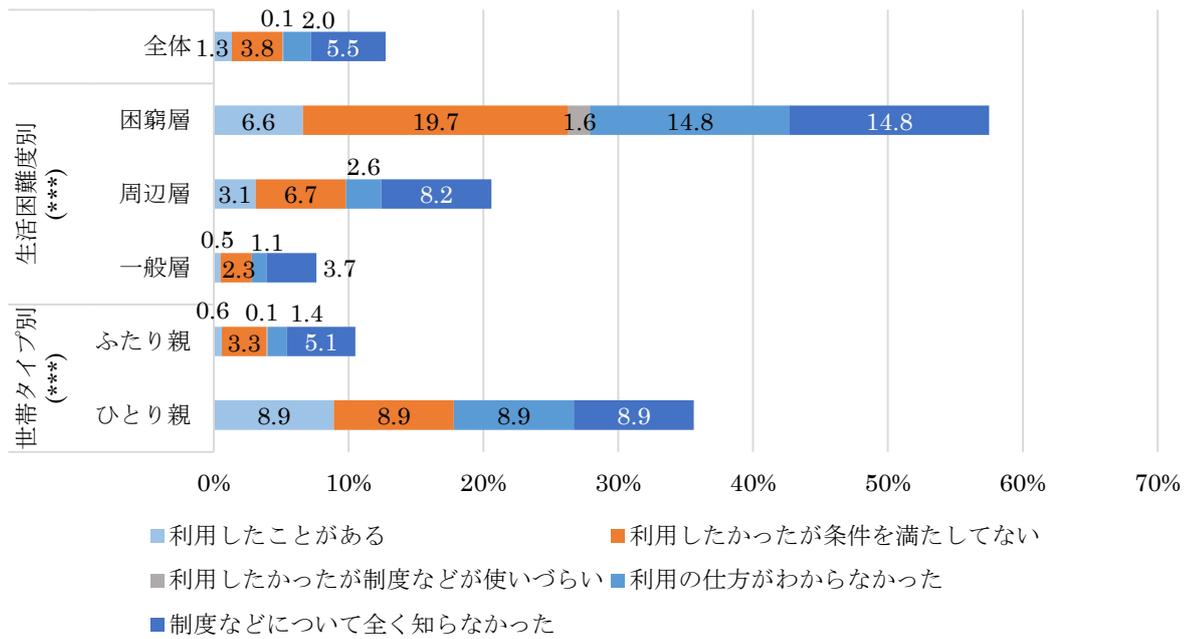
図表 9-2-1 | 生活福祉資金の利用状況(小学5年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



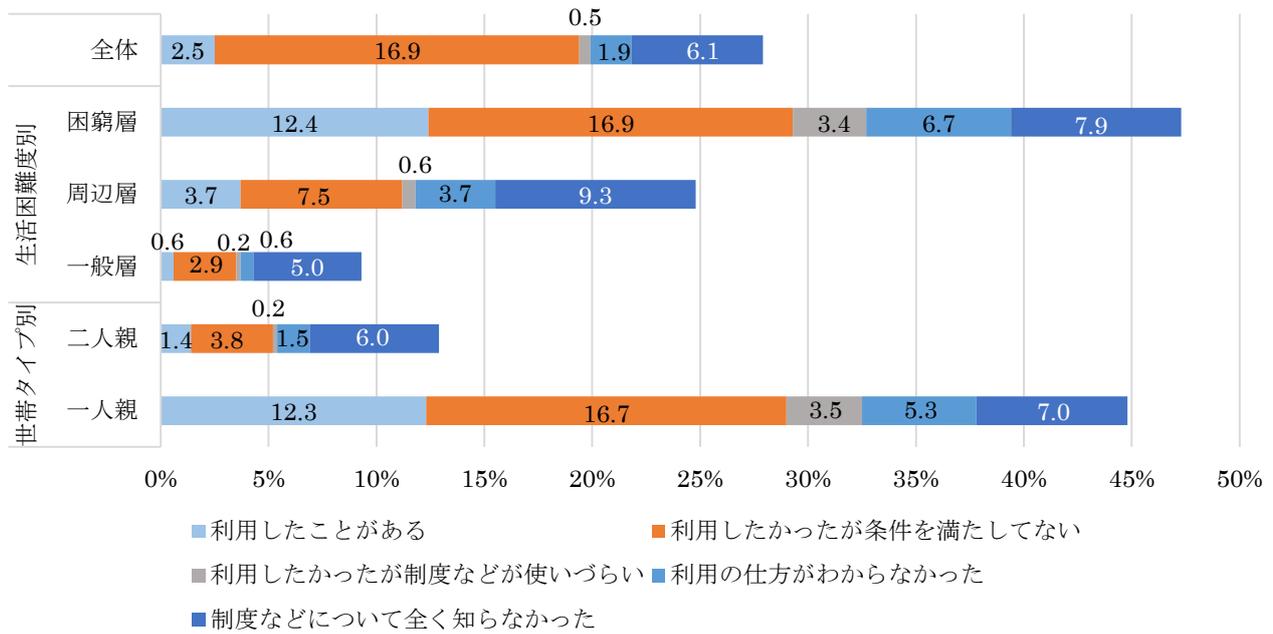
図表 9-2-2 | 生活福祉資金の利用状況(中学2年生):全体、生活困難度別、世帯タイプ別



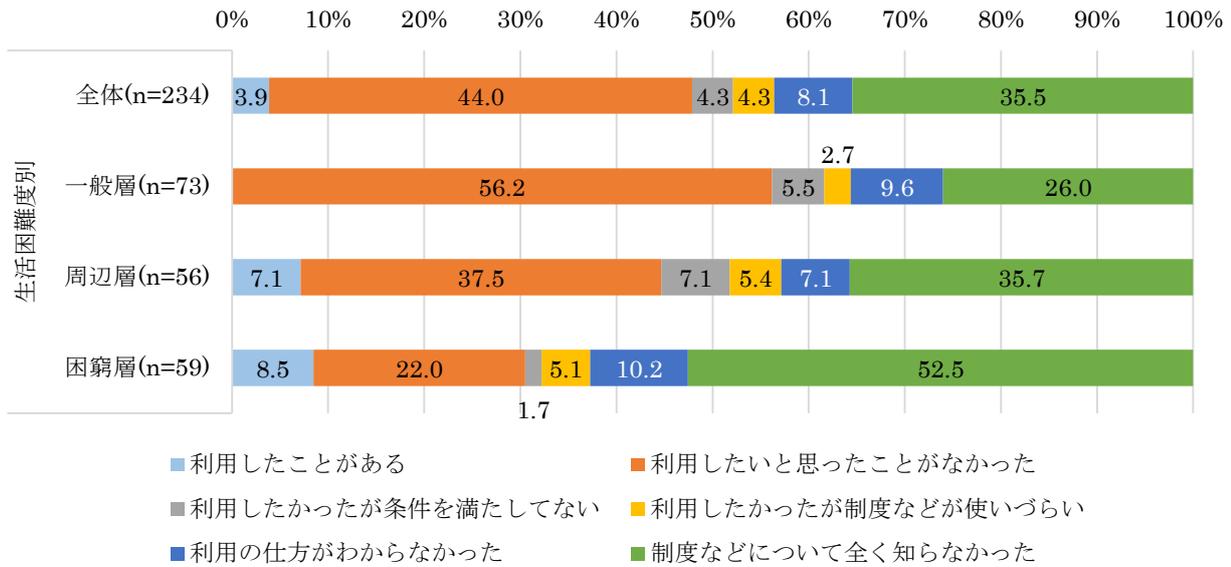
図表 9-2-3 J 生活保護の利用状況(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



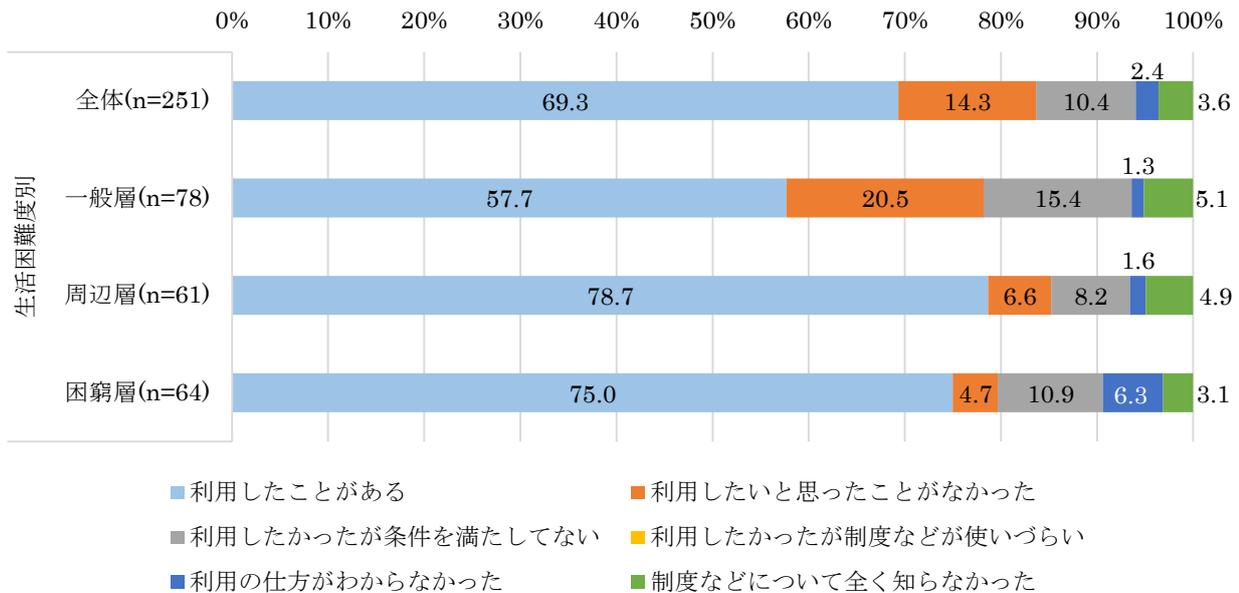
図表 9-2-4 J 生活保護の利用状況(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



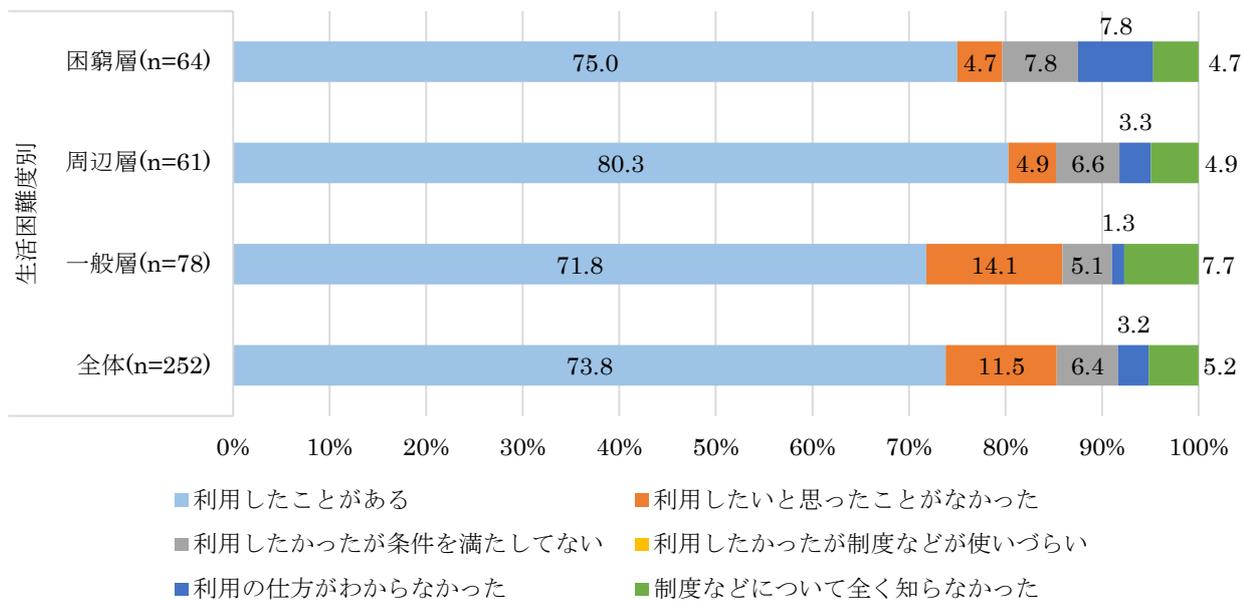
図表 9-2-5 K 母子及び父子福祉資金(ひとり親世帯、小学5年生+中学2年生):生活困難度別【参考】



図表 9-2-6 L 児童扶養手当(ひとり親世帯、小学5年生+中学2年生):生活困難度別【参考】



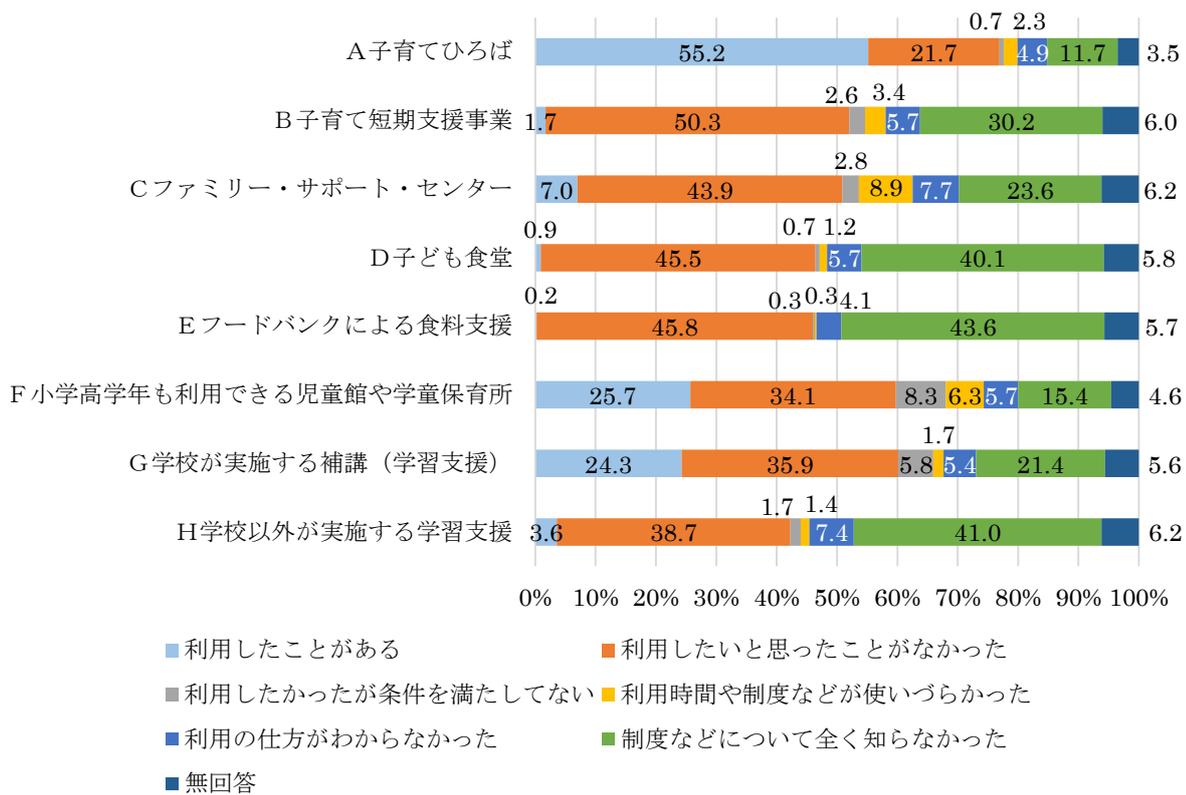
図表 9-2-7 M 児童育成手当(ひとり親世帯、小学5年生+中学2年生):生活困難度別【参考】



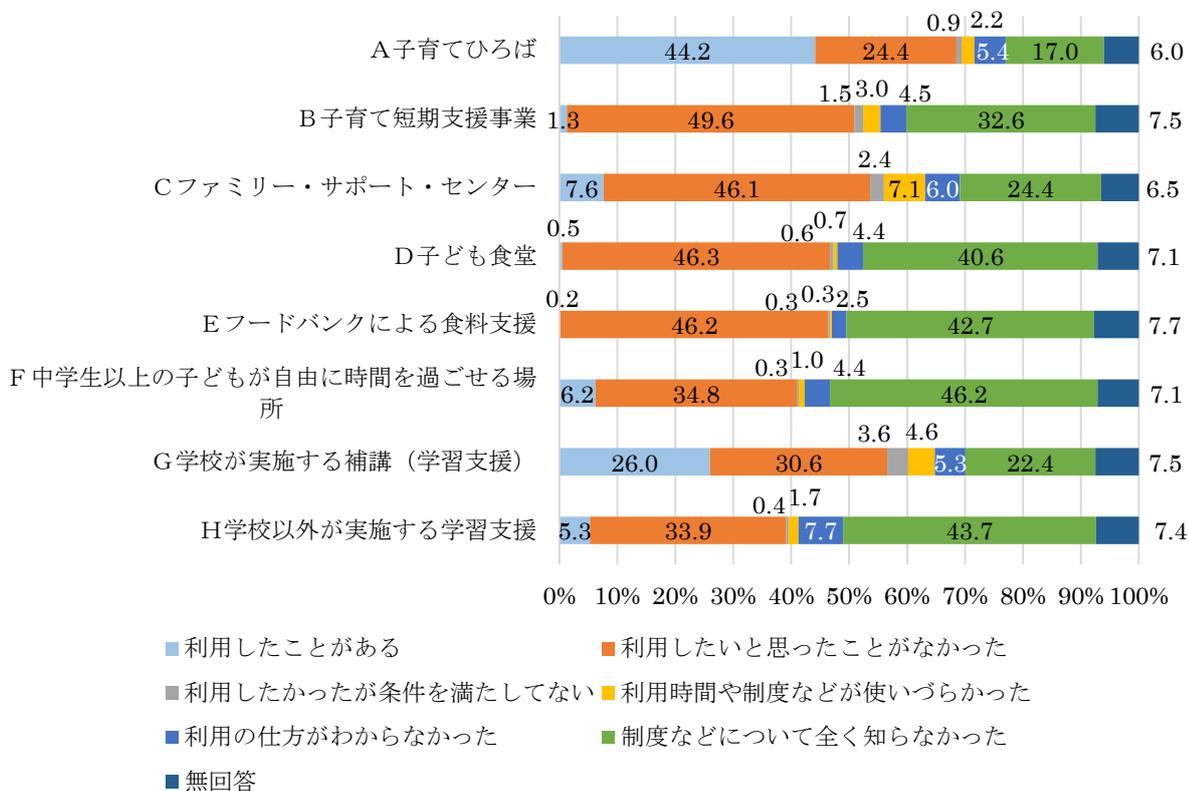
(2)支援制度の利用状況 (保:問 40)

- 保護者に対し、「A 子育てひろば」～「H 学校以外が実施する学習支援」を利用したことがあるか聞いた。
- 「G 学校が実施する補講」、「H 学校以外が実施する学習支援」については、詳細な記述は7章6「学習支援に関する保護者の利用状況」に掲載しているため、参考として掲載している。
- 「A 子育てひろば」について、「利用したことがある」の割合は、小学5年生の保護者(55.2%)、中学2年生の保護者(44.2%)ともに全ての支援制度の中で最も高くなっている。小学5年生の保護者においては、「F 小学高学年も利用できる児童館や学童保育所」(25.7%)が2番目に高くなっている。一方で、これに対応する「F 中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所」について、「利用したことがある」の割合は、中学2年生の保護者(6.2%)の方が、小学5年生の保護者よりも低くなっている。
- 「G 学校が実施する補講(学習支援)」について、「利用したことがある」は、小学5年生の保護者で24.3%、中学2年生の保護者で26.0%となっている。
- 「B 子育て短期支援事業」について、「利用したことがある」は、小学5年生の保護者で1.7%、中学2年生の保護者で1.3%となっている。
- 「D 子ども食堂」について、「利用したことがある」は、小学5年生の保護者で0.9%、中学2年生の保護者で0.5%となっている。
- 「E フードバンクによる食料支援」については、「利用したことがある」は、小学5年生の保護者で0.2%、中学2年生の保護者で0.2%となっている。
- 「H 学校以外が実施する学習支援」については、「利用したことがある」は、小学5年生の保護者で3.6%、中学2年生の保護者で5.3%となっている。
- 利用しなかった理由について、「利用したいと思ったことがなかった」と「制度などについて全く知らなかった」が、両学年において、全支援制度で上位2位を占めている。そこで、「制度などについて全く知らなかった」に着目する。
- 「制度等について全く知らなかった」の割合は、小学5年生の保護者において、「E フードバンクによる食料支援」(43.6%)、「H 学校以外が実施する学習支援」(41.0%)、「D 子ども食堂」(40.1%)で、それぞれ約4割となっている。
- 「制度等について全く知らなかった」は、中学2年生の保護者において、「F 中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所」(46.2%)、「H 学校以外が実施する学習支援」(43.7%)、「E フードバンクによる食料支援」(42.7%)、「D 子ども食堂」(40.6%)で、それぞれ約4割となっている。
- 「利用の仕方が分からなかった」は、両学年ともに、すべての項目で5~8%となっている。

図表 9-2-8 支援制度の利用状況(小学5年生)

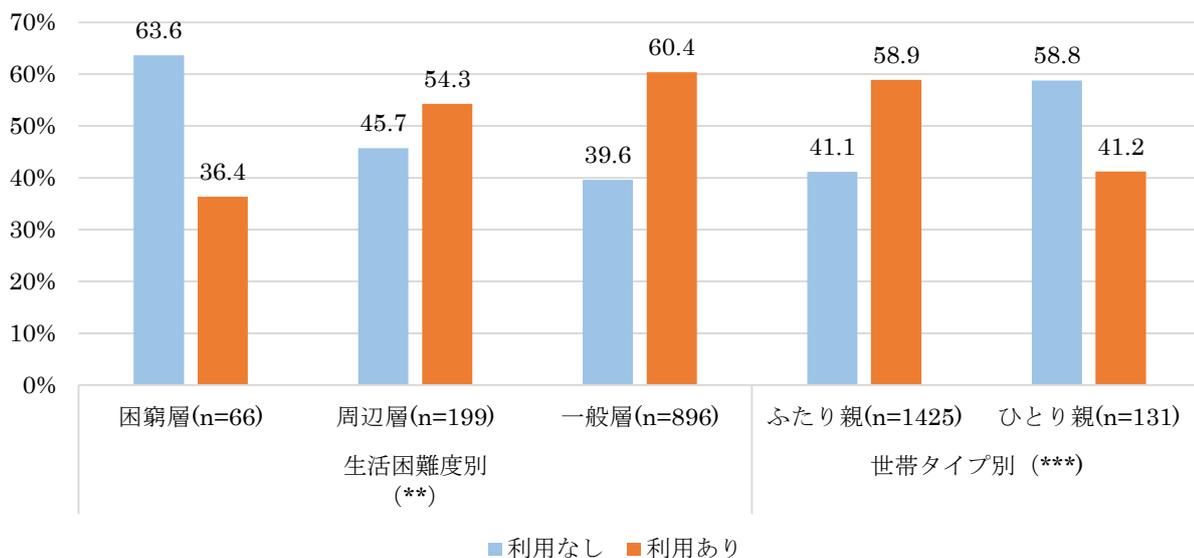


図表 9-2-9 支援制度の利用状況(中学2年生)

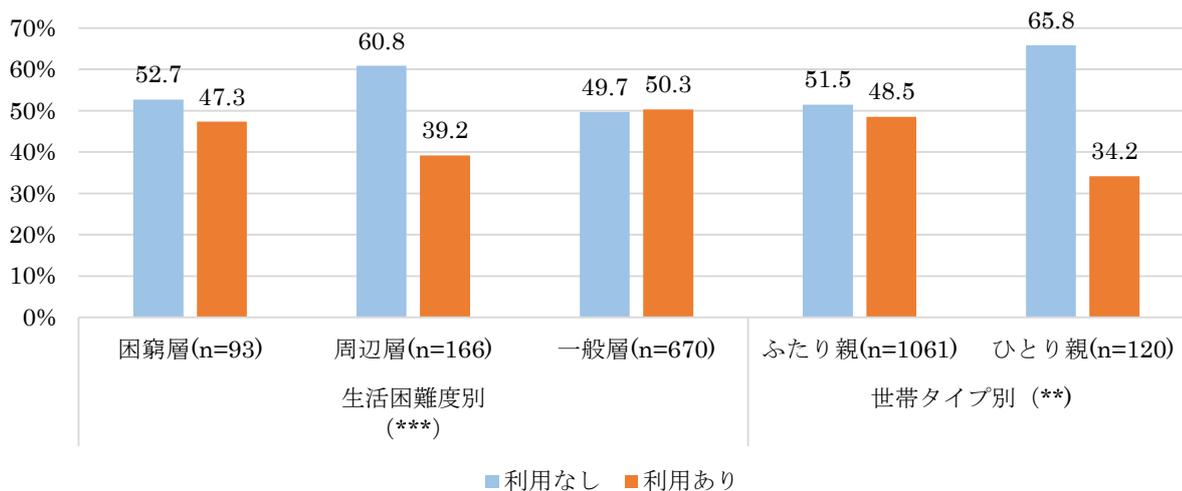


- 生活困難度別、世帯タイプ別について、「利用したことがある」と、「利用したことがない」（無回答を除く。）の2つに分けて分析し、統計的に有意な差がみられたものを取り上げる。
- 「A 子育てひろば」については、生活困難度別にみると、「利用したことがある」の割合は、小学5年生の保護者において、困窮層（36.4%）で、最も低くなっている。一方、中学2年生の保護者において、周辺層（39.2%）で最も低くなっており、小学5年生の保護者と異なる傾向がみられた。両学年とも、一般層（小学5年生の保護者で60.4%、中学2年生の保護者で50.3%）の割合が最も高い。
- 世帯タイプ別でも、両学年ともに統計的に有意な差がみられ、「利用したことがある」割合が「ひとり親」において、小学5年生で約4割、中学2年生で約3割半となっており、「ふたり親」よりも低い。
- 「C ファミリー・サポート・センター」について、生活困難度別にみると、中学2年生の保護者において、困窮層（2.2%）で最も低くなっている。しかし、この結果はサンプル数（3人）が少ないことから解釈には注意が必要である。
- 「F 小学高学年も利用できる児童館や学童保育所」について、生活困難度別にみると、小学5年生の保護者において、困窮層（39.4%）で最も高くなっている。
- 「G 学校以外が実施する学習支援」について、世帯タイプ別にみると、小学5年生の保護者において、ひとり親（9.8%）で、ふたり親（3.3%）の約3倍、中学2年生の保護者において、ひとり親（11.8%）で、ふたり親（5.0%）の2倍以上となっている。
- 「B 子育て短期支援制度」「D 子ども食堂」、「E フードバンクによる食料支援」は、全体としてみた利用割合が低い。特に「D 子ども食堂」、「E フードバンクによる食料支援」は社会的認知が徐々に広まっているものの、本調査における利用者は、いずれも生活困難度別では困窮層で0～1名、世帯タイプ別においても、「ひとり親」で0～1名に留まっていることがわかる。

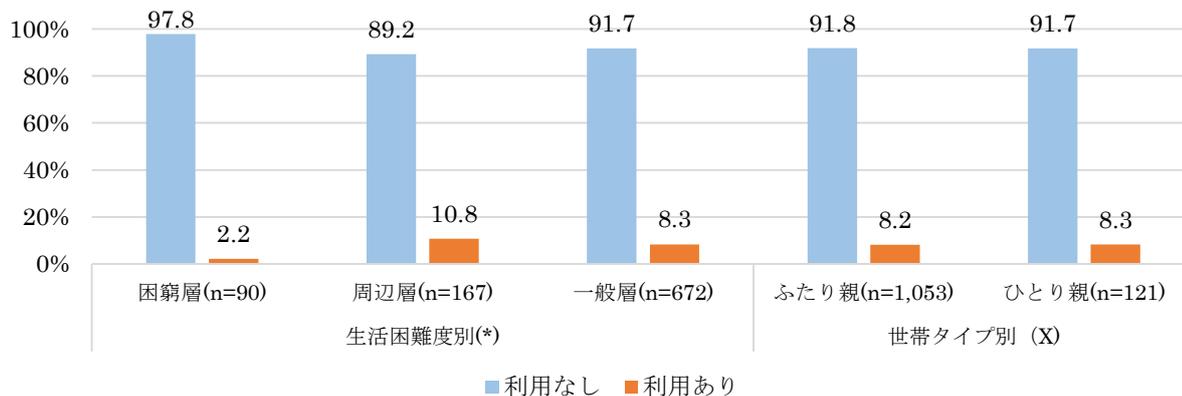
図表 9-2-10 A 子育てひろば(小学5年生)



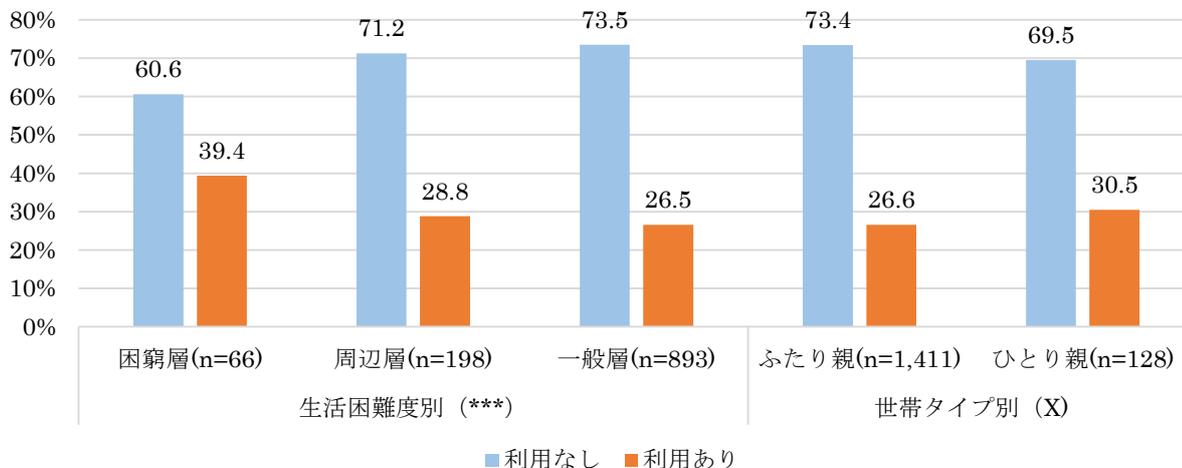
図表 9-2-11 A 子育てひろば（中学2年生）



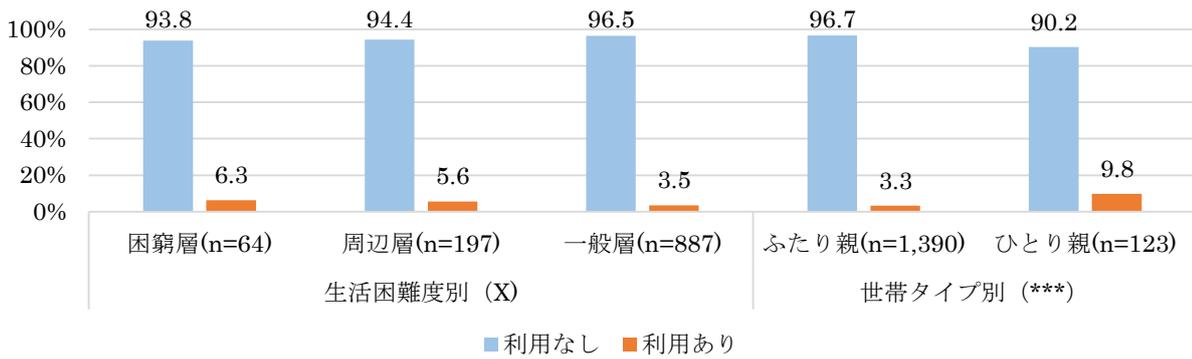
図表 9-2-12 C ファミリー・サポート・センター（中学2年生）



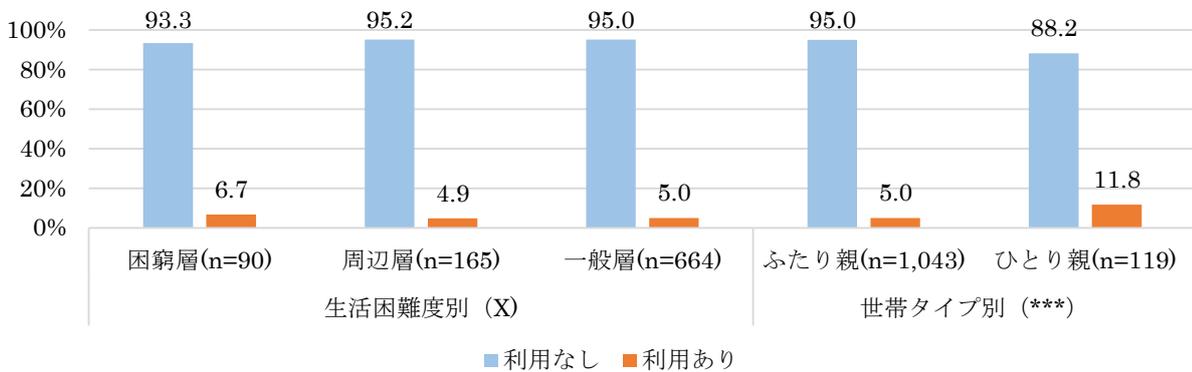
図表 9-2-13 F 小学高学年も利用できる児童館や学童保育所（小学5年生）



図表 9-2-14 H 学校以外が実施する学習支援(小学5年生)

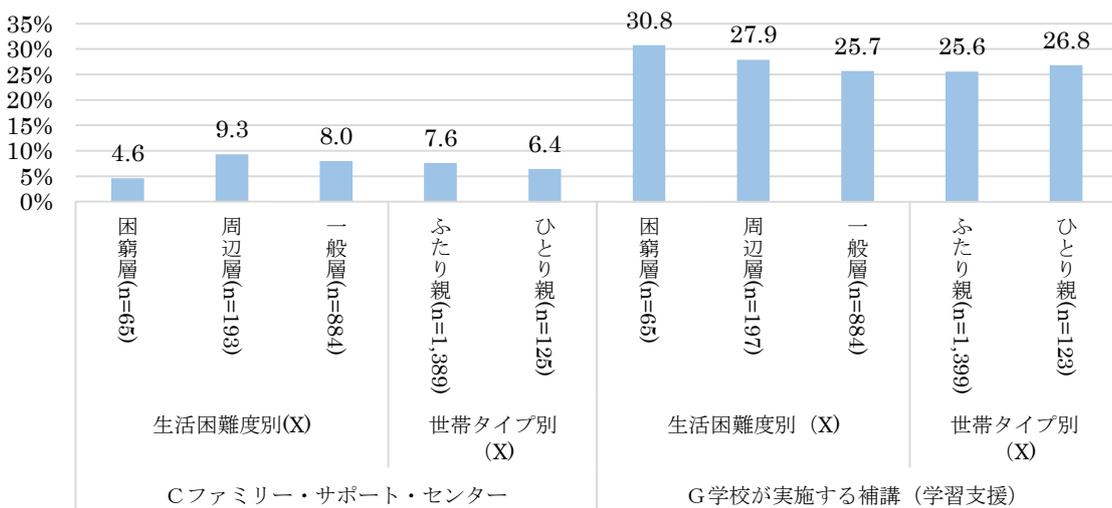


図表 9-2-15 H 学校以外が実施する学習支援(中学2年生)

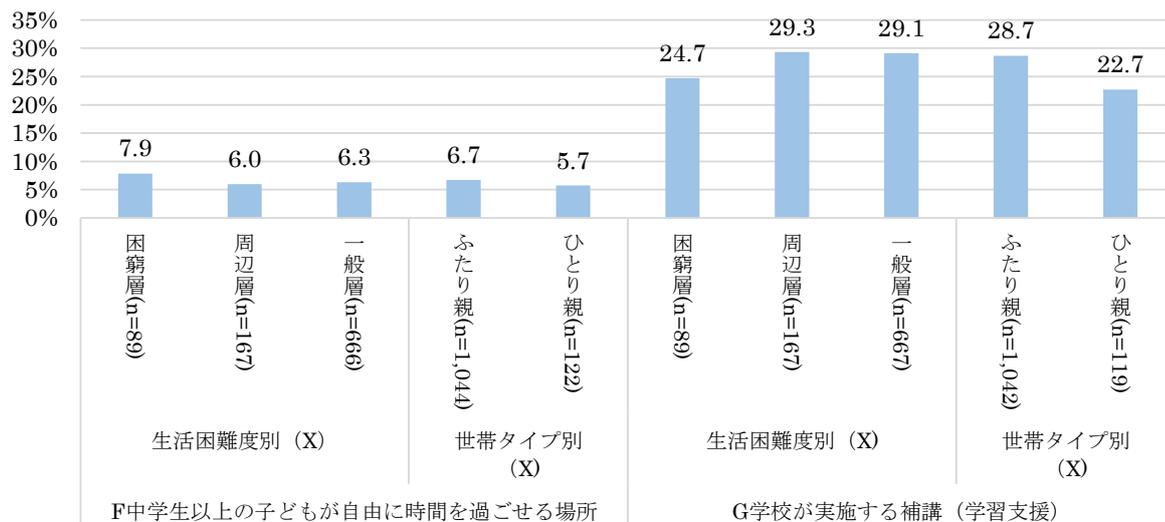


図表 9-2-16 支援制度の利用状況その他の支援「利用あり」(小学5年生)

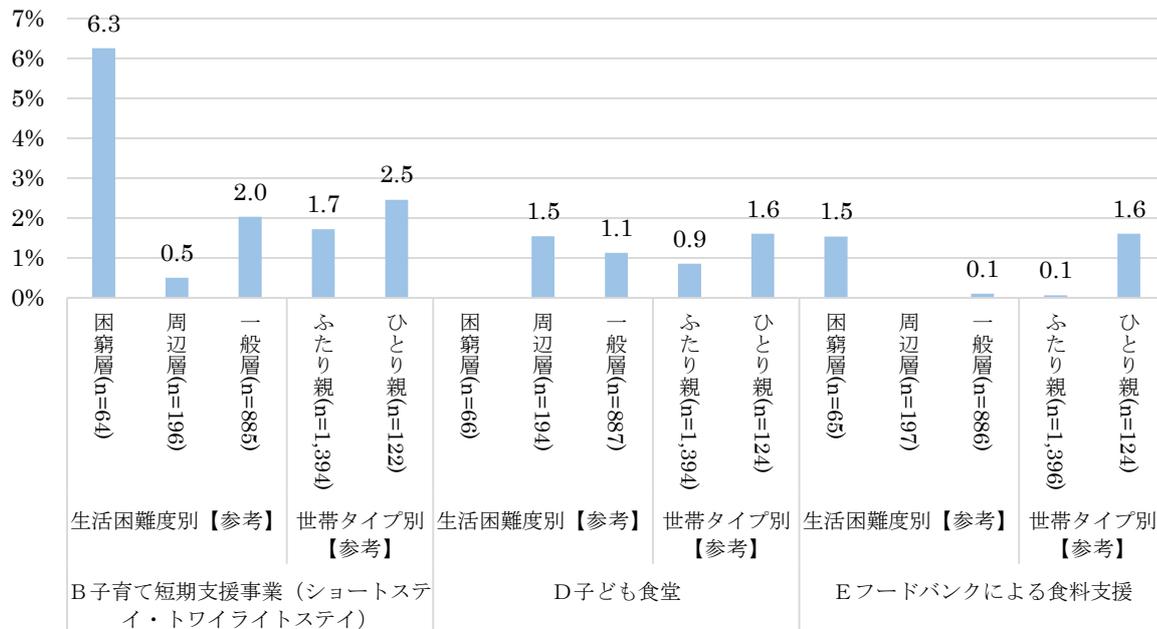
:生活困難度別(x)、世帯タイプ別(x)



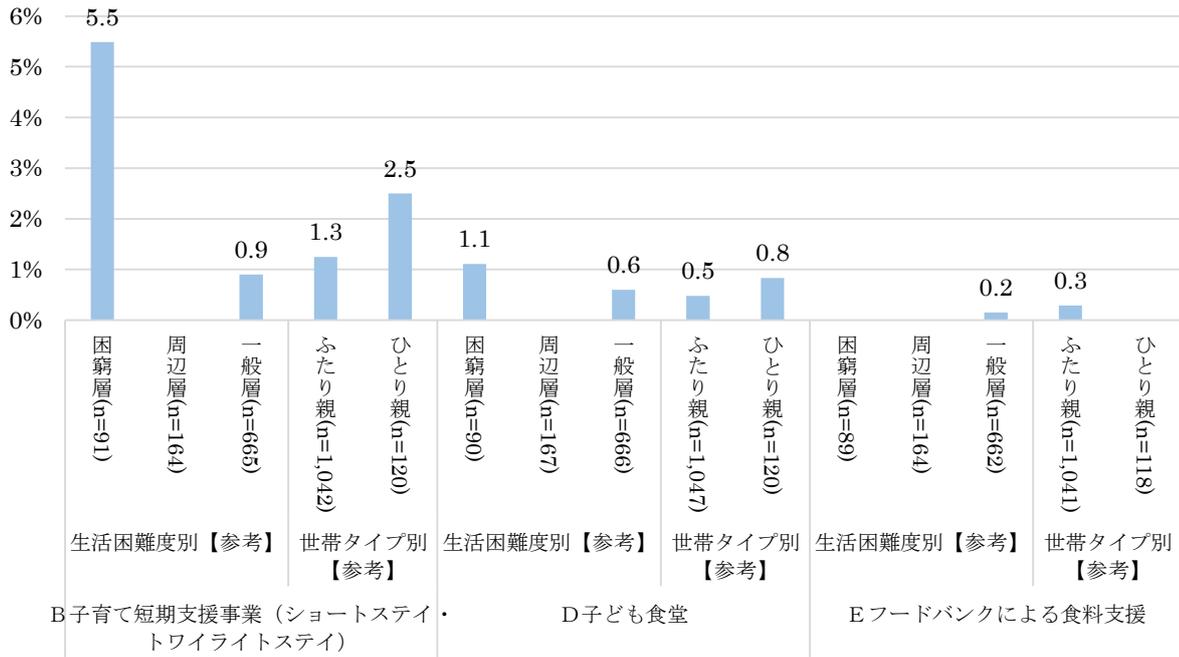
図表 9-2-17 支援制度の利用状況その他の支援「利用あり」(中学2年生):生活困難度別(x)、世帯タイプ別(X)



図表 9-2-18 支援制度の利用状況その他の支援「利用あり」(小学5年生)【参考】:生活困難度別、世帯タイプ別



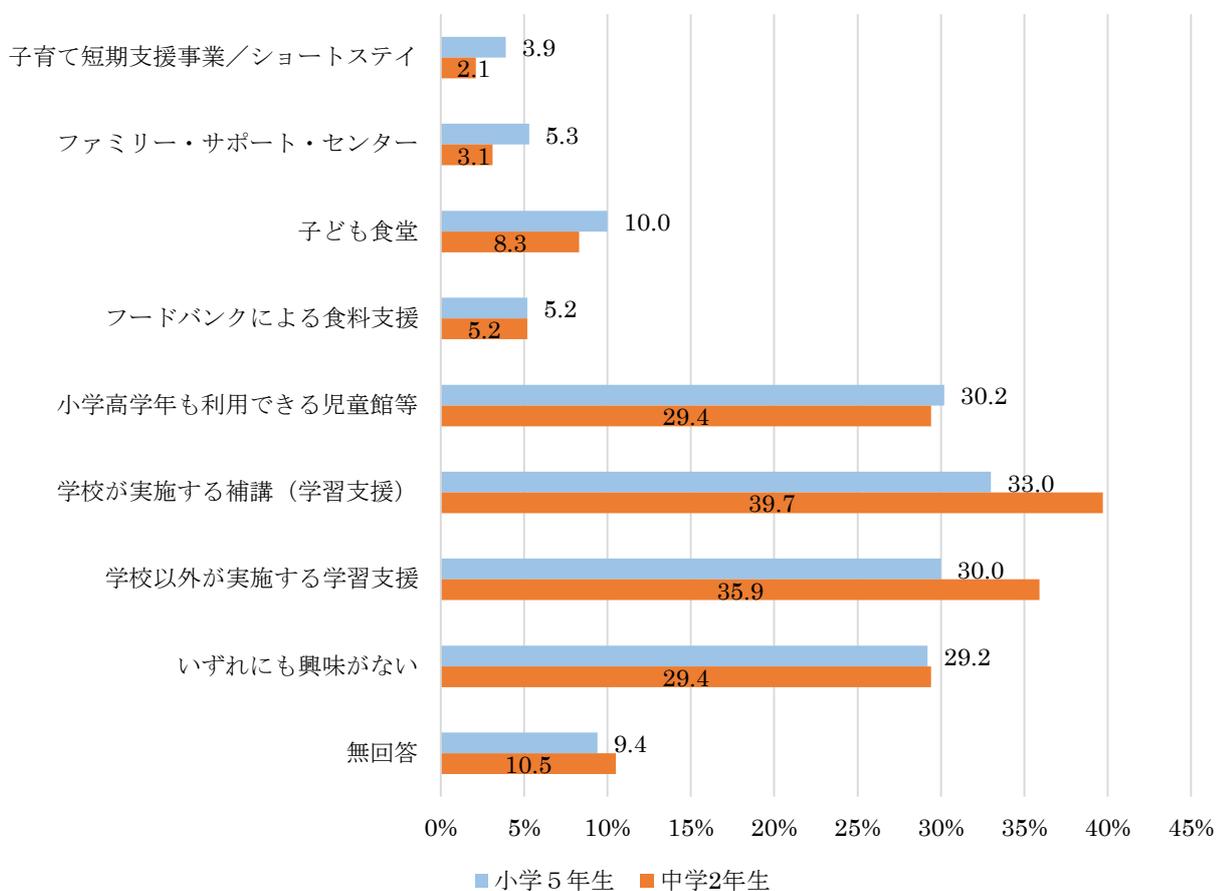
図表 9-2-19 支援制度の利用状況その他の支援「利用あり」(中学2年生)【参考】:生活困難度別、世帯タイプ別



(3)保護者の支援制度の利用意向（保:問 40-1）(複数回答)

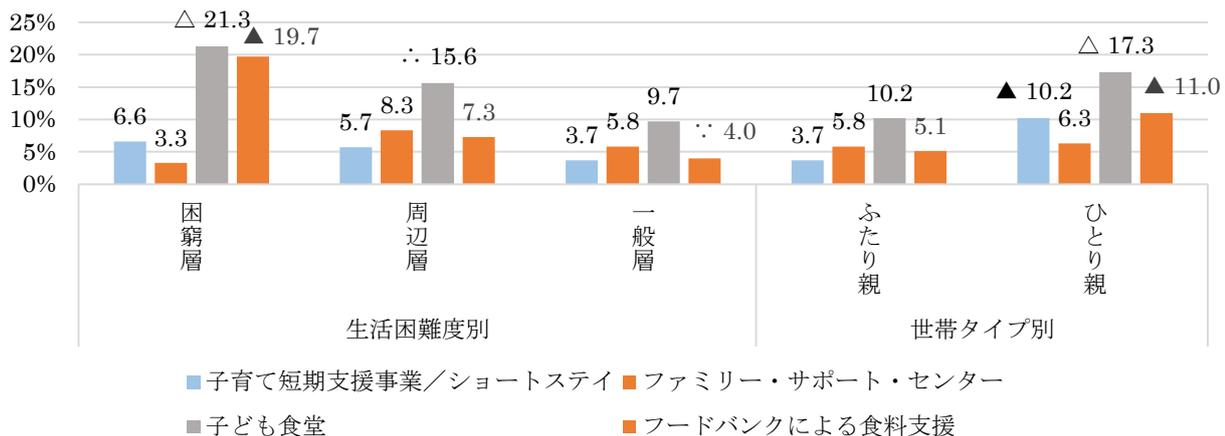
- 保護者に対し、支援制度の利用意向について聞いた。
- 小学5年生の保護者において、全体で見ると、「学校が実施する補講（33.0%）」が、最も高く、次いで、「小学高学年も利用できる児童館等」（30.2%）が続いている。一方、「子ども食堂」は、10.0%、「フードバンクによる食料支援」は、5.2%となっている。
- 中学2年生の保護者において、全体で見ると、「学校が実施する補講」（39.7%）」が、最も高く、次いで、「学校以外が実施する学習支援」（35.9%）」が続いている。一方、「子ども食堂」は、8.3%、「フードバンクによる食料支援」は、5.2%となっている。

図表 9-2-20 支援制度の利用意向(「利用したい」とした保護者の割合)(小学5年生、中学2年生)

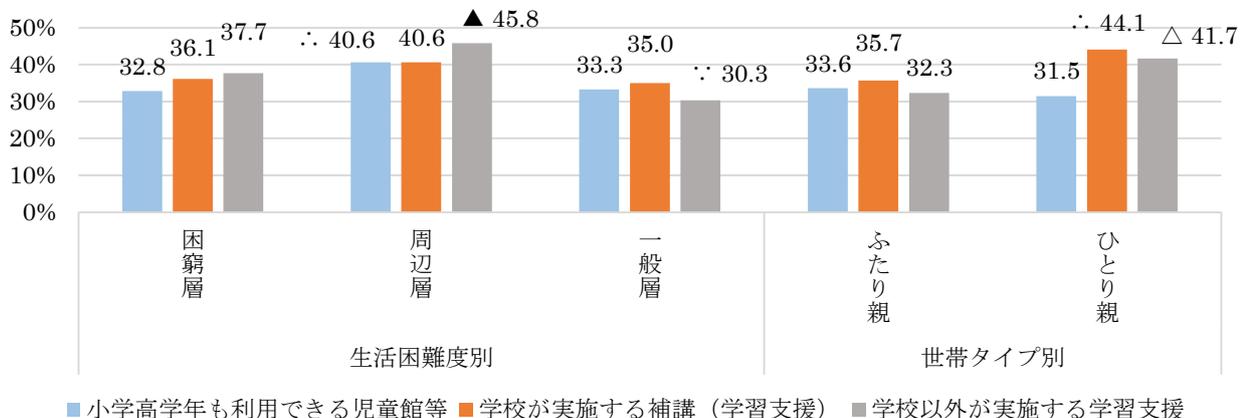


- 小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、「小学高学年等も利用できる児童館等」の割合は、周辺層（40.6%）が最も高くなっている。
- 「子ども食堂」の割合は、困窮層（21.3%）で周辺層や一般層よりも高く、「フードバンクによる食料支援」の割合も、困窮層（19.7%）で周辺層や一般層よりも高くなっている。世帯タイプ別にみると、「子ども食堂」の割合は、「ひとり親」（17.3%）で「ふたり親」よりも高く、「フードバンクによる食料支援」の割合も、「ひとり親」（11.0%）で「ふたり親」よりも高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層では、「中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所」の割合（45.3%）が最も高くなっており、世帯タイプ別にみても、「ひとり親」（42.9%）で最も高くなっている。
- 「子ども食堂」の割合は、困窮層（19.8%）で周辺層や一般層よりも高く、「フードバンクによる食料支援」の割合も、困窮層（18.6%）で周辺層や一般層よりも高くなっている。世帯タイプ別にみると、「子ども食堂」の割合は、「ひとり親」（20.2%）で「ふたり親」よりも高く、「フードバンクによる食料支援」の割合も、「ひとり親」（19.3%）で「ふたり親」よりも高くなっている。

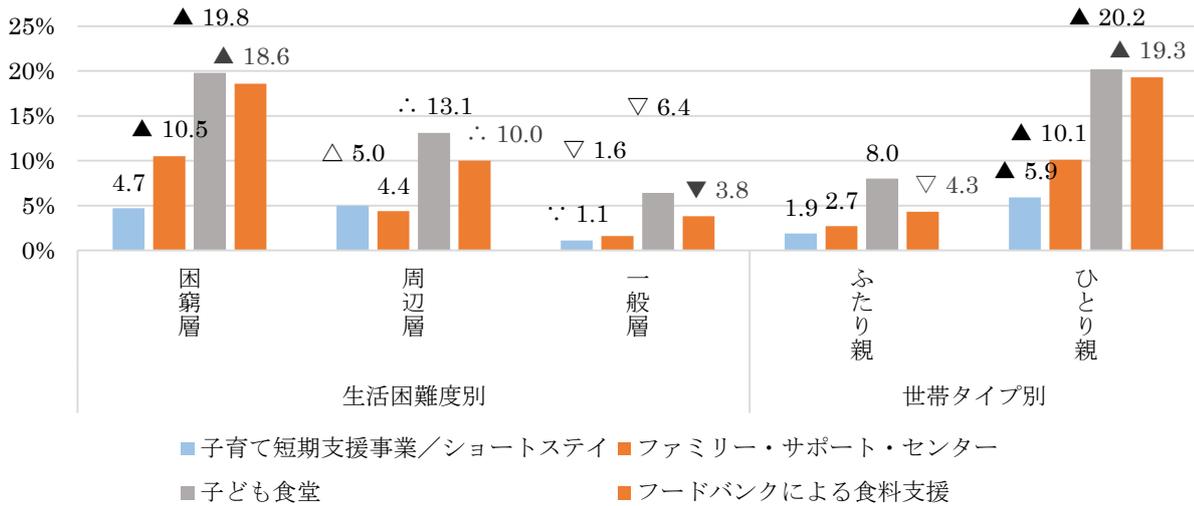
図表 9-2-21 保護者の利用意向(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



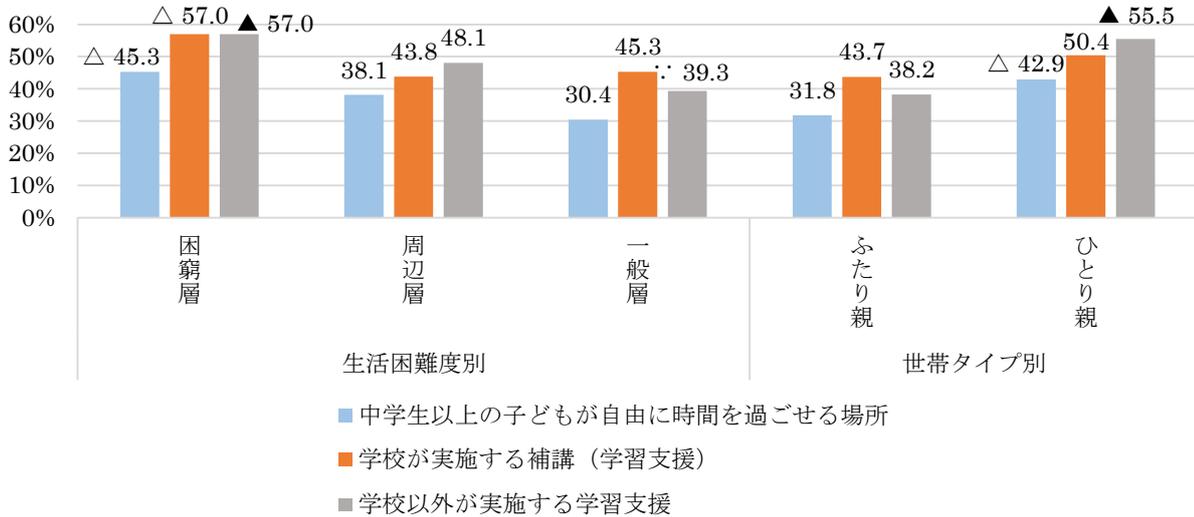
図表 9-2-22 保護者の利用意向(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 9-2-23 保護者の利用意向(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



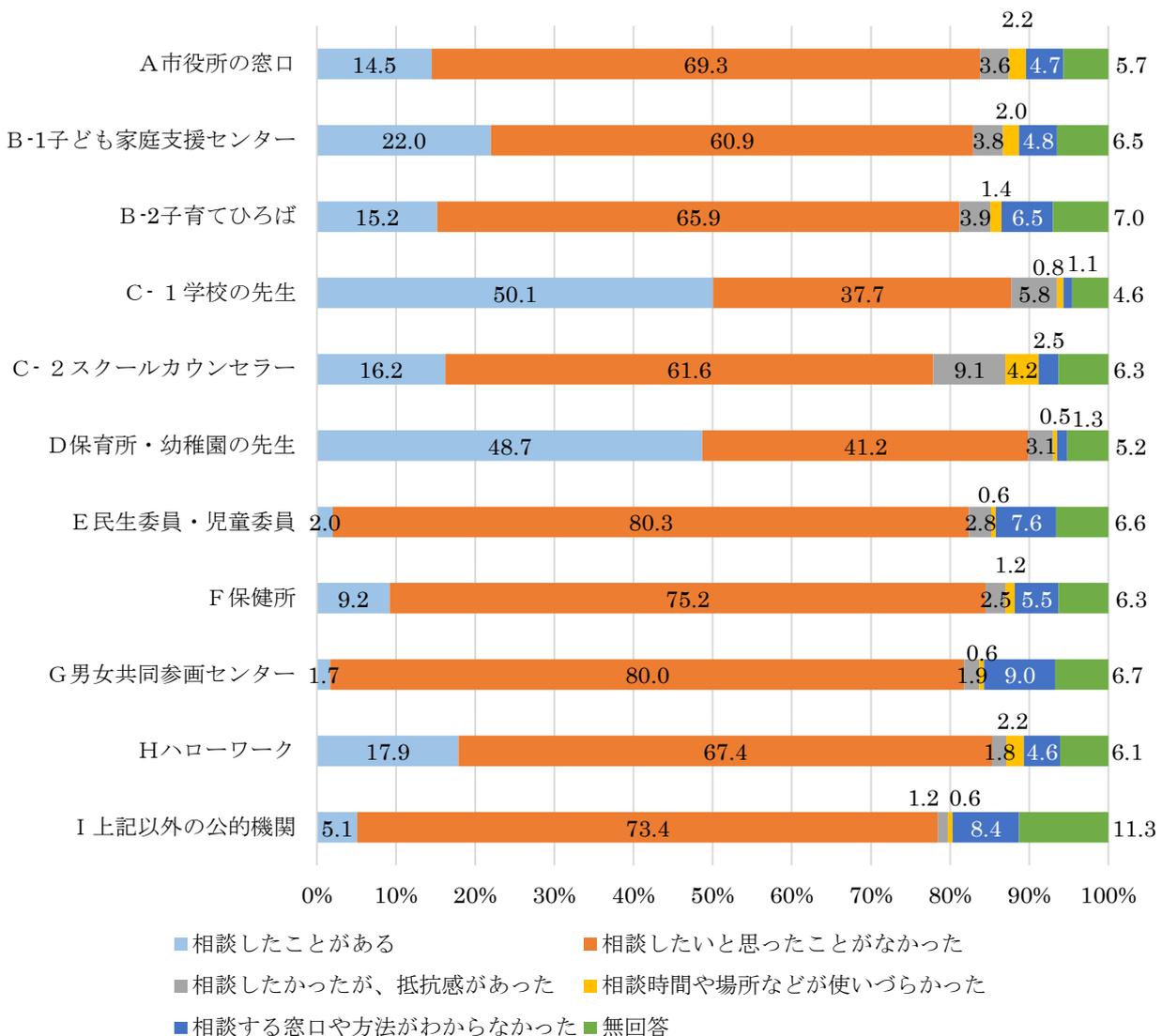
図表 9-2-24 保護者の利用意向(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



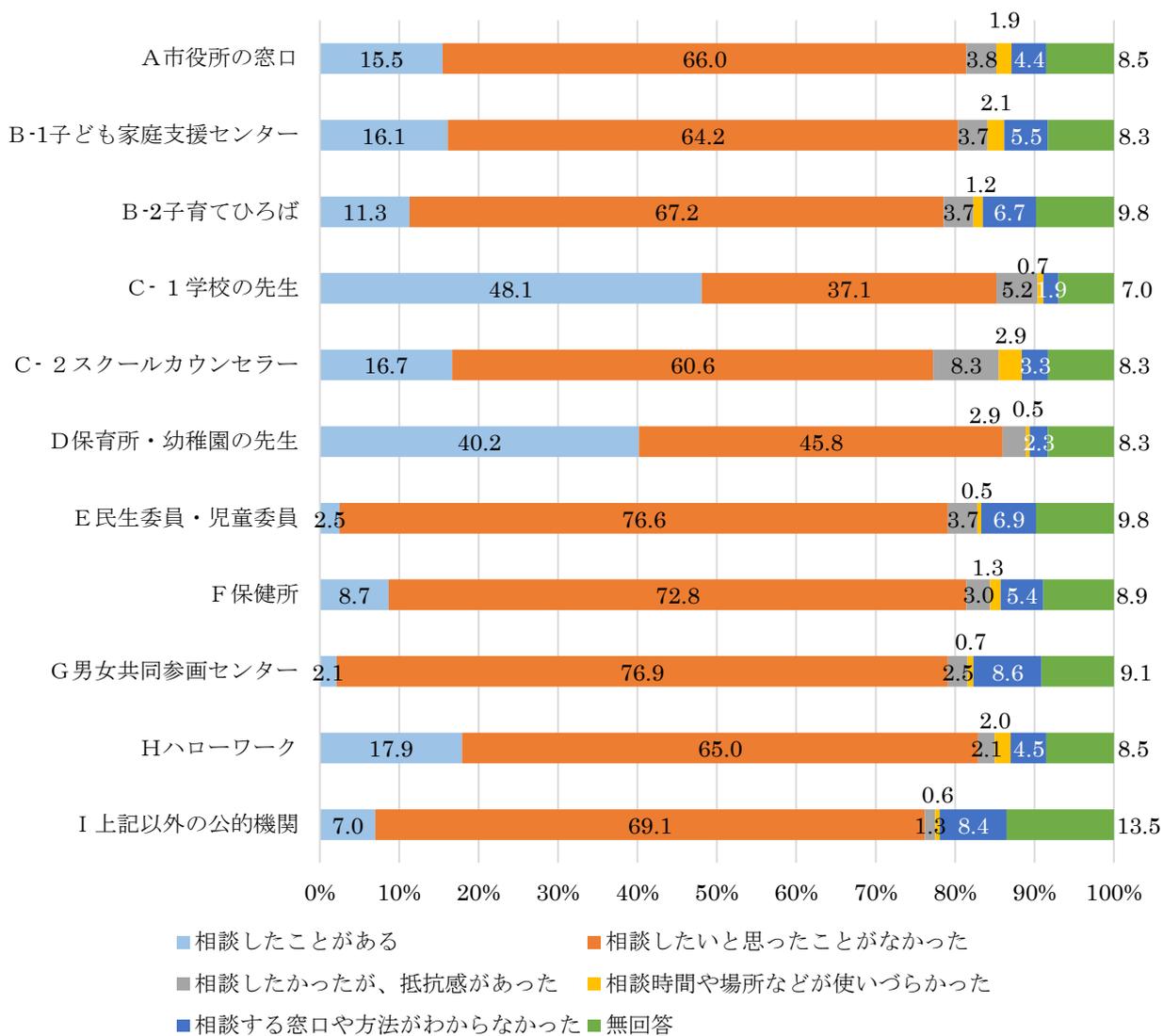
3 相談窓口の利用状況・認知状況（保：問 43）

- 保護者に対して、「A 市役所の窓口」～「I 上記以外の公的機関」の公的機関に相談したことがあるかどうかを聞いた。
- 小学5年生の保護者において、全体でみると、「相談したことがある」割合は、「学校の先生」(50.1%) 「保育所・幼稚園の先生」(48.7%) の順に高くなっている。
- 「E 民生委員・児童委員」(2.0%)、「A 市役所の窓口」(14.5%) は「相談したことがある」割合が低い。
- 中学2年生の保護者において、全体でみると、「相談したことがある」割合は、小学5年生の保護者同様、「学校の先生」(48.1%) 「保育所・幼稚園の先生」(40.2%) の順に高くなっている。
- 「E 民生委員・児童委員」(2.5%)、「A 市役所の窓口」(15.5%) は「相談したことがある」割合が低い。

図表 9-3-1 相談窓口の利用状況(小学5年生)

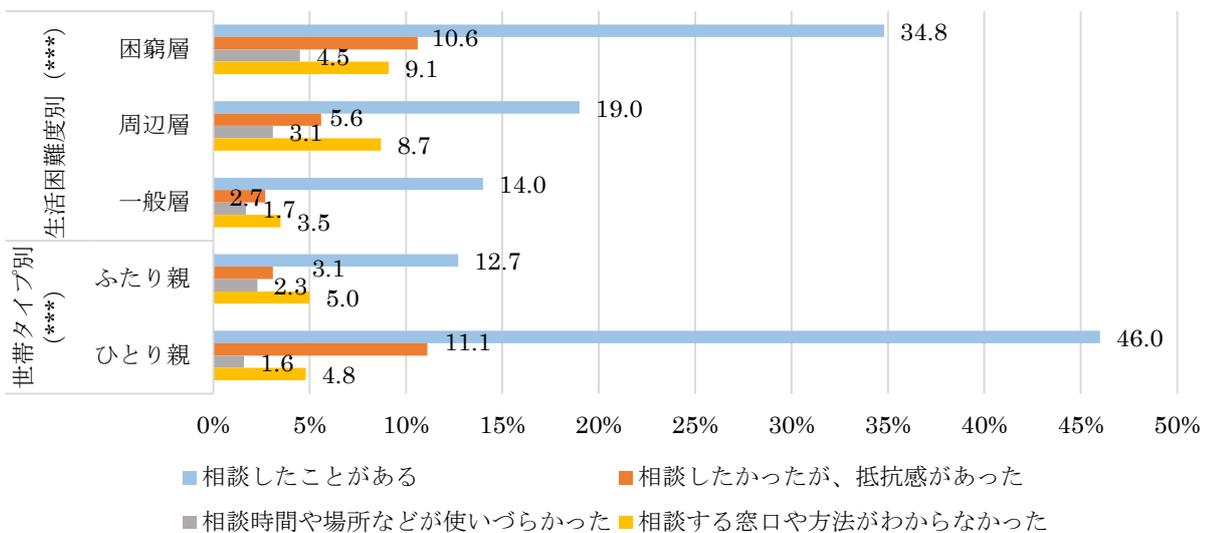


図表 9-3-2 相談窓口の利用状況(中学2年生):全体



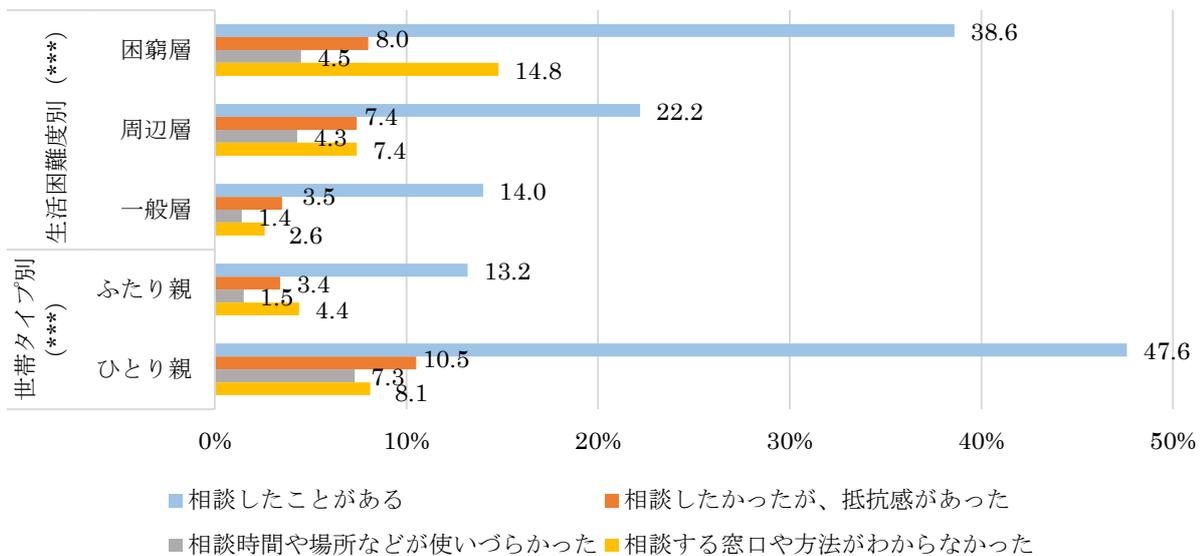
- 「A 市役所の窓口」について、「相談したことがある」割合を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層（34.8%）で最も高く、世帯タイプ別にみると、ひとり親（46.0%）で最も高くなっている。一方で、「相談したかったが、抵抗感があった」割合は、困窮層で 10.6%、「ひとり親」で 11.1%となっている。
- 中学2年生の保護者において、生活困難度別にみると、「相談したことがある」割合は、困窮層（38.6%）で最も高く、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」（47.6%）で最も高くなっている。一方で、「相談したかったが、抵抗感があった」は、困窮層で 8.0%、「ひとり親」で 10.5%となっている。

図表 9-3-3 A 市役所の窓口(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



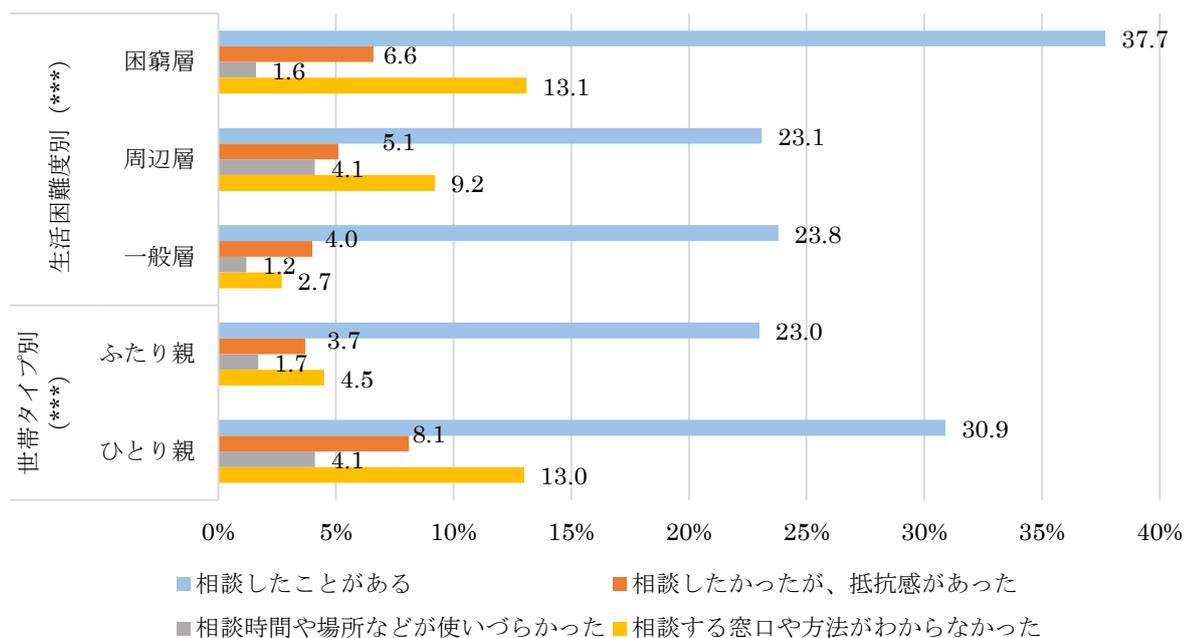
※図表 9-3-3～図表 9-3-24 まで作表上「相談したいと思ったことがなかった」を省略。

図表 9-3-4 A 市役所の窓口(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

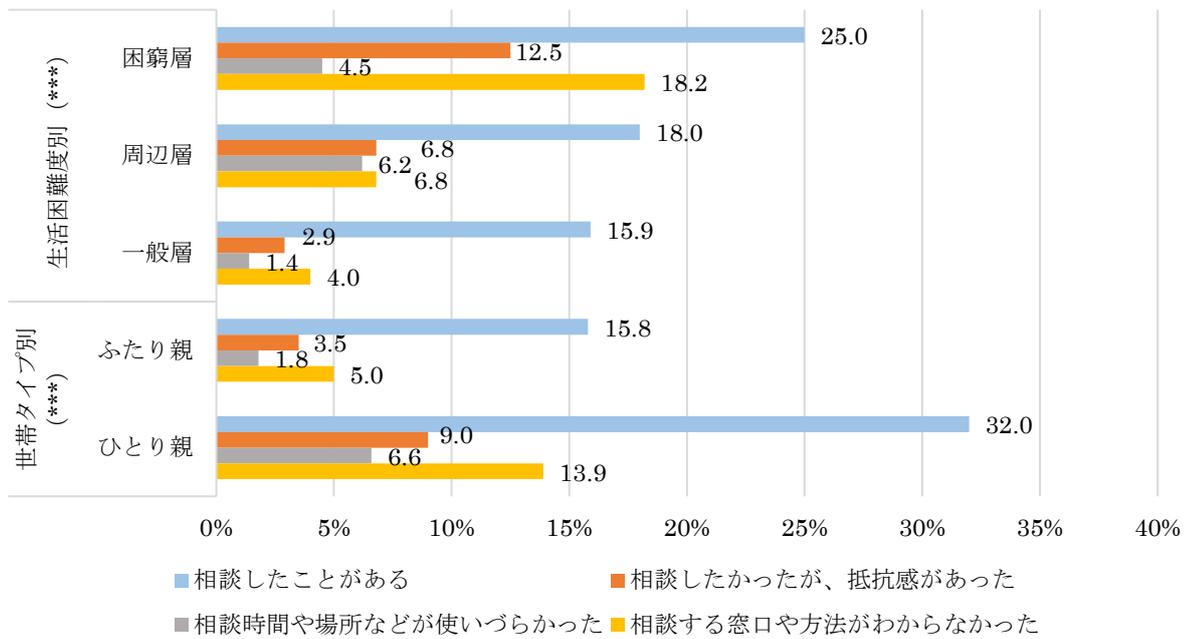


- 「B-1 子ども家庭支援センター」について、「相談したことがある」を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層で37.7%、周辺層で23.1%、一般層で23.8%となっている。これを、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」で30.9%、「ふたり親」で23.0%となっている。
- 「相談する窓口や方法がわからなかった」割合を、生活困窮度別にみると、困窮層（13.1%）で最も高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」（13.0%）で、「ふたり親」（4.5%）よりも高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談したことがある」を、生活困窮度別にみると、困窮層で25.0%、周辺層で18.0%、一般層で15.9%となっている。世帯タイプ別にみると、「ひとり親」で32.0%、「ふたり親」で15.8%となっている。
- 「相談する窓口や方法がわからなかった」割合を、生活困窮度別にみると、困窮層（18.2%）で最も高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」（13.9%）で、「ふたり親」よりも高くなっている。

図表 9-3-5 B-1 子ども家庭支援センター(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

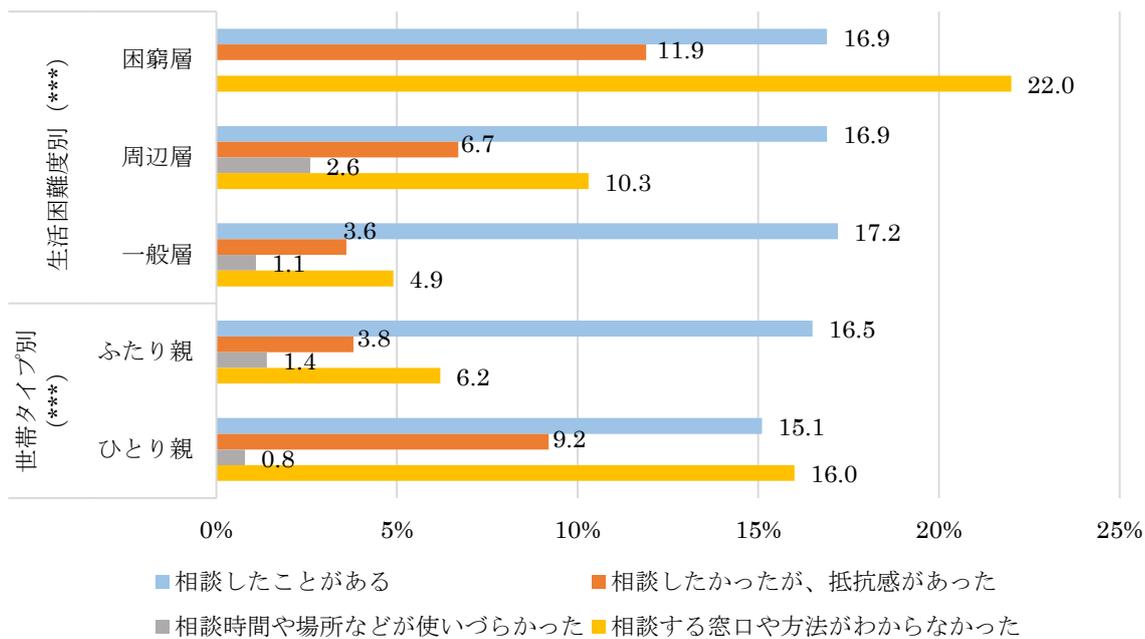


図表 9-3-6 B-1 子ども家庭支援センター(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

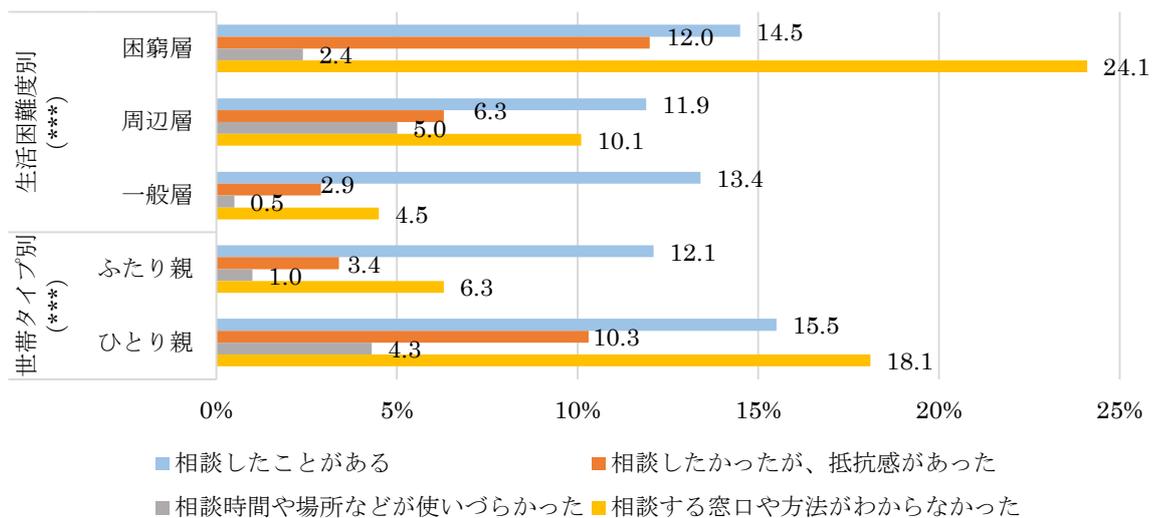


- 「B-2 子育てひろば」について、「相談する窓口や方法がわからなかった」を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層で 22.0%となっており、世帯タイプ別にみると、ひとり親で 16.0%となっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談する窓口や方法がわからなかった」を、生活困難度別にみると、困窮層で 24.1%、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」で 18.1%となっている。

図表 9-3-7 子育てひろば(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

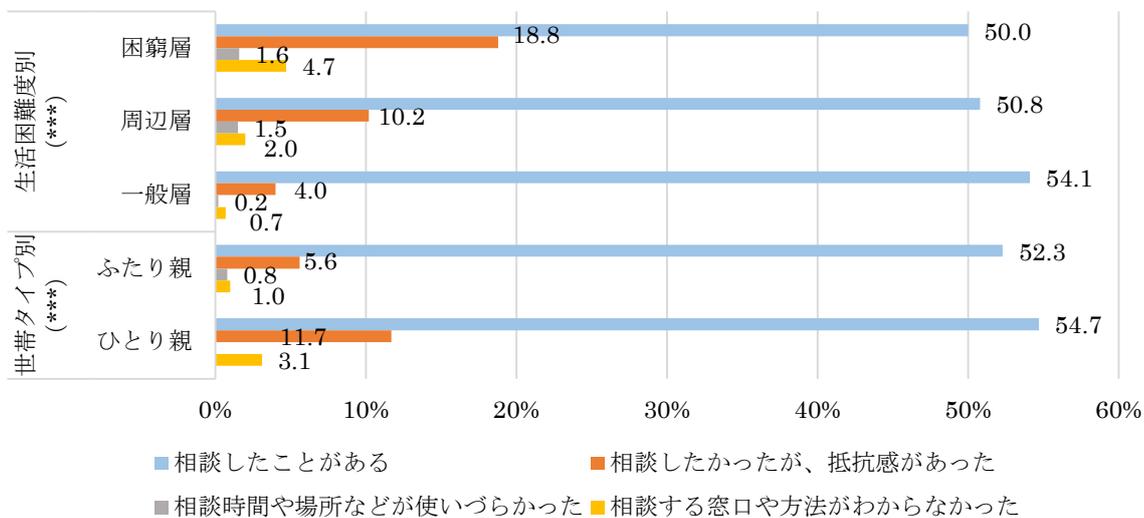


図表 9-3-8 子育てひろば(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

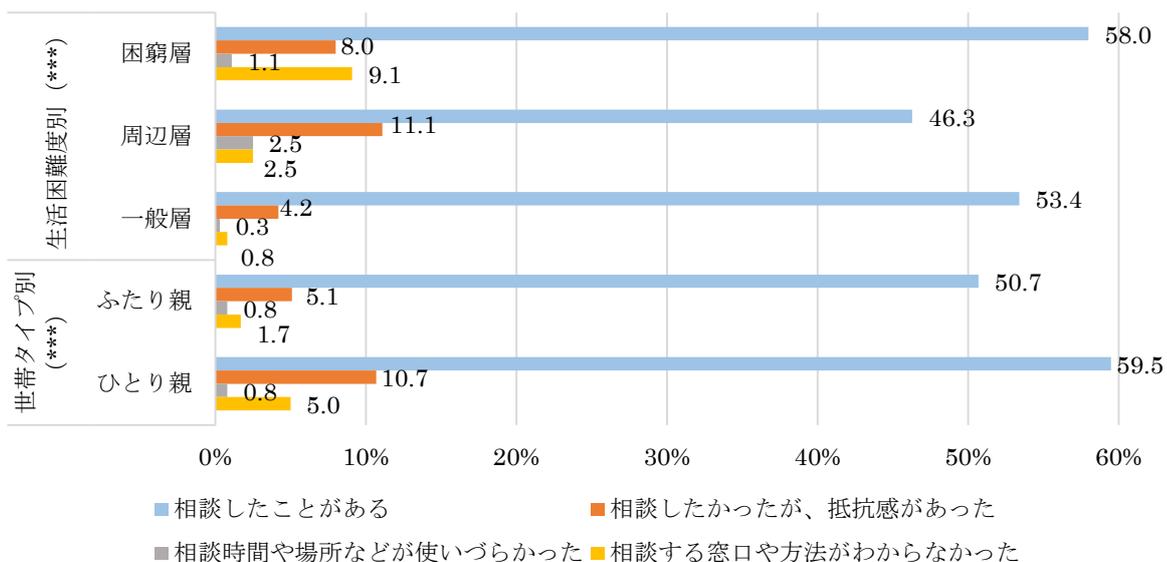


- 「C-1 学校の先生」については、「相談したことがある」を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、いずれの層も50%以上となっている。
- 「相談する窓口や方法がわからなかった」割合は、困窮層（4.7%）で、他の層よりも高くなっている。また、「相談したかったが、抵抗感があった」割合も、困窮層（18.8%）で、他の層よりも高い。
- 世帯タイプ別にみると、「相談したかったが、抵抗感があった」の割合は、「ひとり親」（11.7%）で、「ふたり親」（5.6%）よりも2倍程度高い。
- 中学2年生の保護者においても、「相談したことがある」は、困窮層（58.0%）、周辺層（46.3%）、一般層（53.4%）のすべての層で高くなっている。
- 「相談する窓口や方法がわからなかった」割合は、困窮層（9.1%）で、他の層より高くなっている。

図表 9-3-9 C-1 学校の先生(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



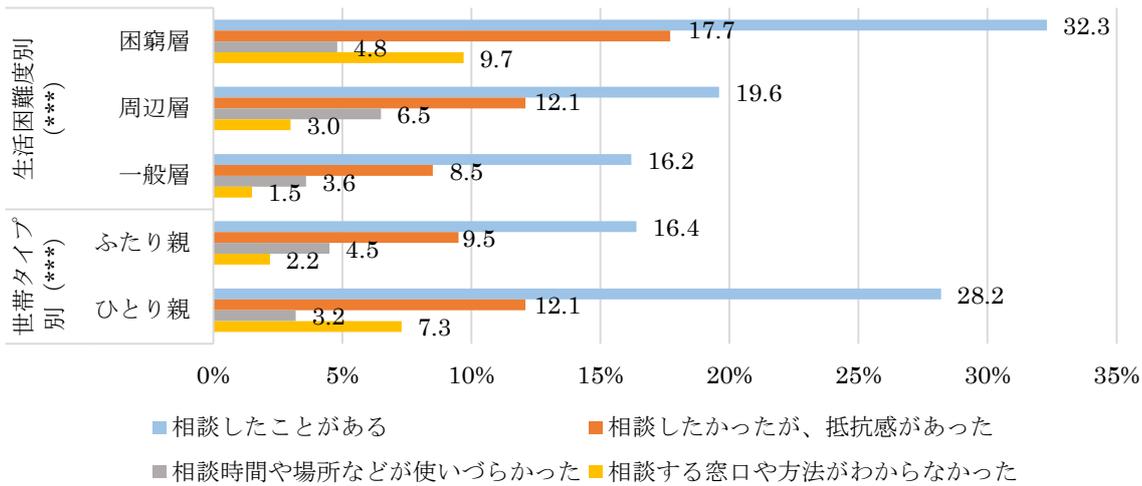
図表 9-3-10 C-1 学校の先生(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



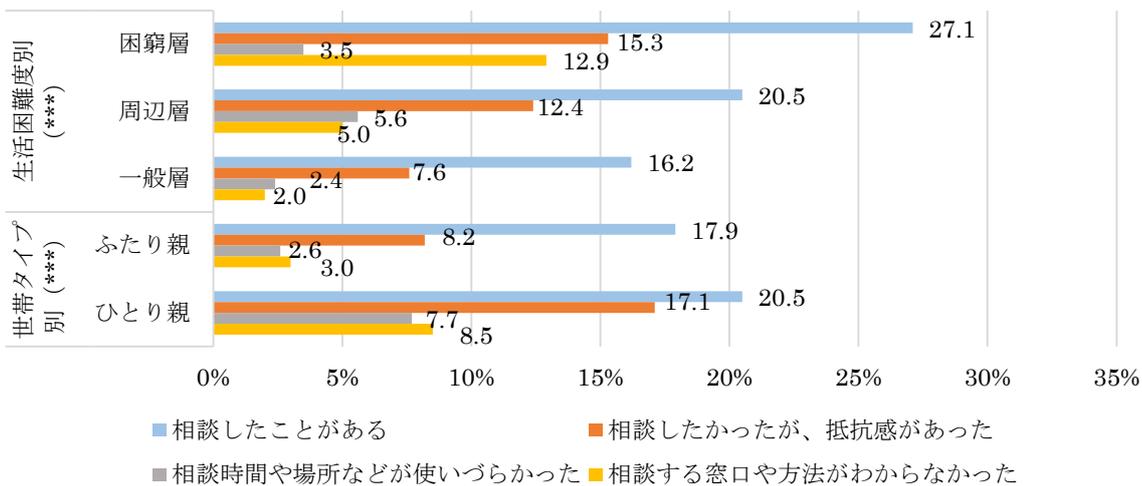
- 「C-2 スクールカウンセラー」について、「C-1 学校の先生」と比較して、両学年とも、「相談したことがある」割合は、低くなっている。

- 「相談したかったが、抵抗感があった」割合を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層(17.7%)で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」(12.1%)で、「ふたり親」(9.5%)よりも高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談したかったが、抵抗感があった」割合を、生活困難度別にみると、困窮層(15.3%)で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」(17.1%)で、「ふたり親」(8.2%)よりも高くなっている。

図表 9-3-11 C-2 スクールカウンセラー(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

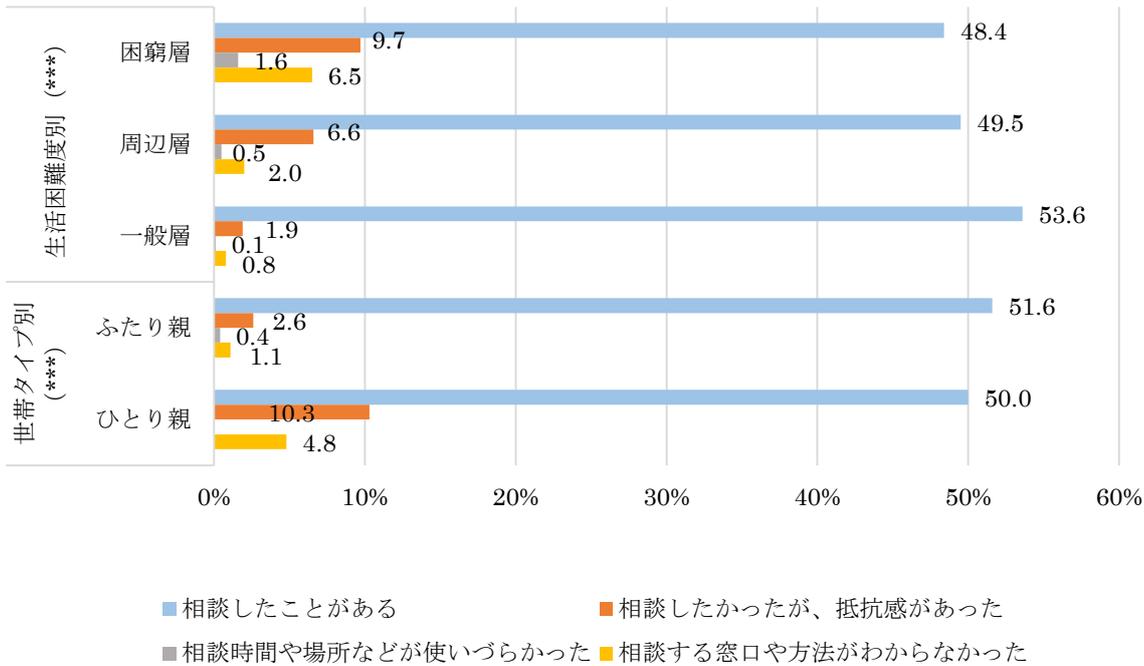


図表 9-3-12 C-2 スクールカウンセラー(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

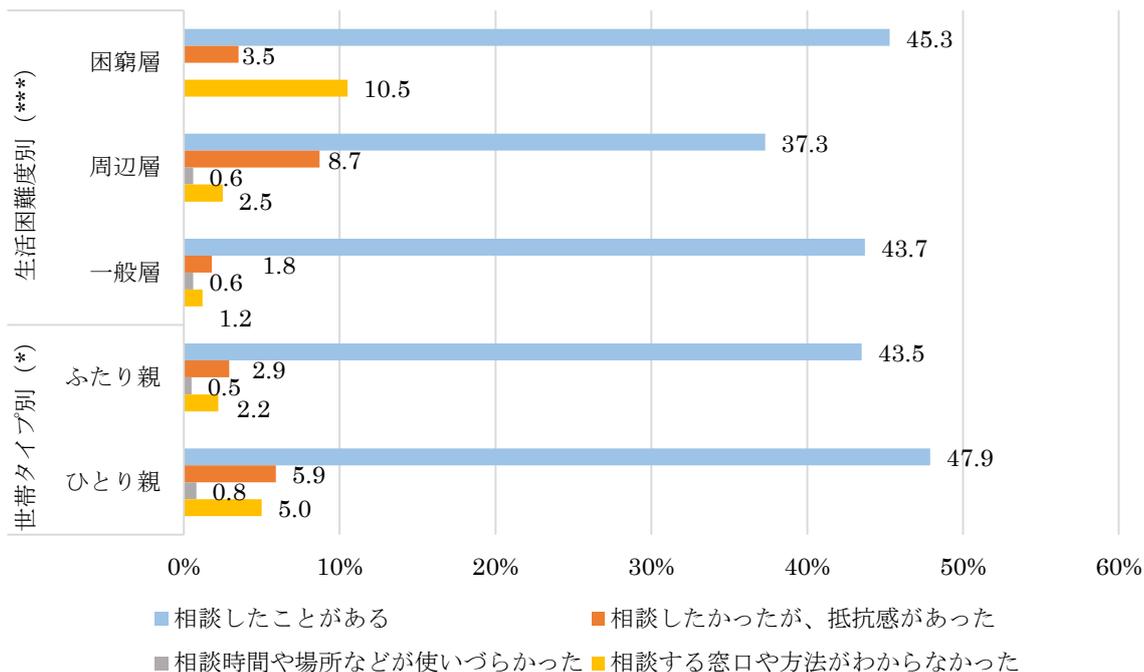


- 「D 保育所・幼稚園の先生」について、「相談したことがある」を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層（48.4%）、周辺層（49.5%）、一般層（53.6%）のいずれの層でも高くなっている。
- 中学2年生の保護者においても、同様の傾向が見られる。

図表 9-3-13 保育所・幼稚園の先生(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

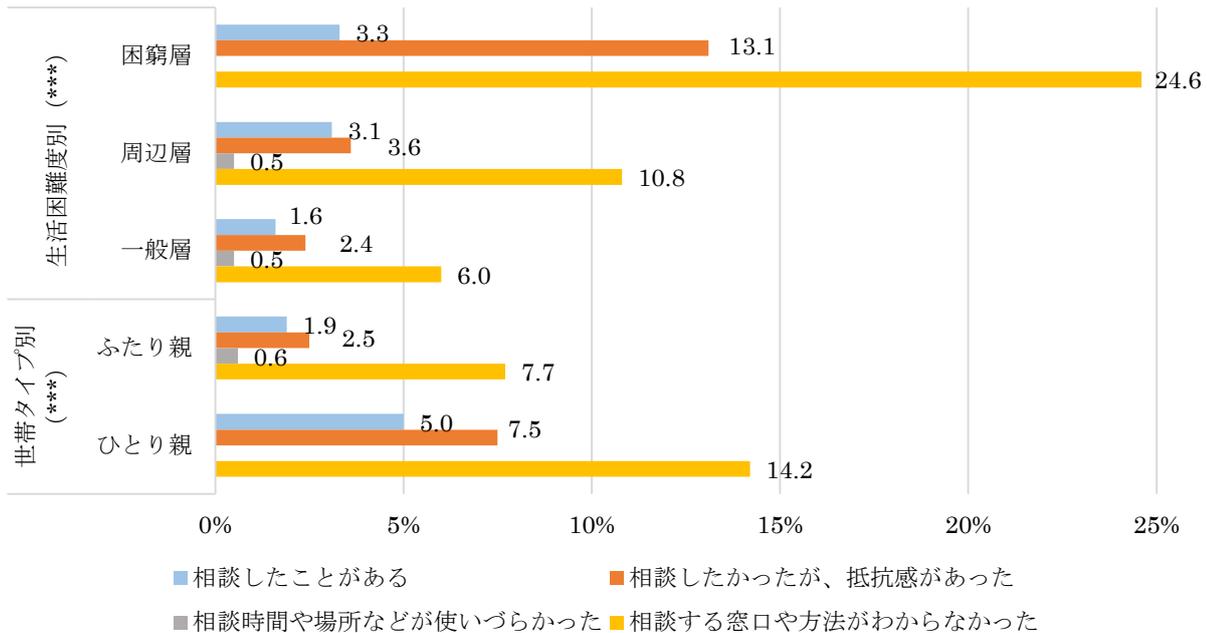


図表 9-3-14 保育所・幼稚園の先生(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

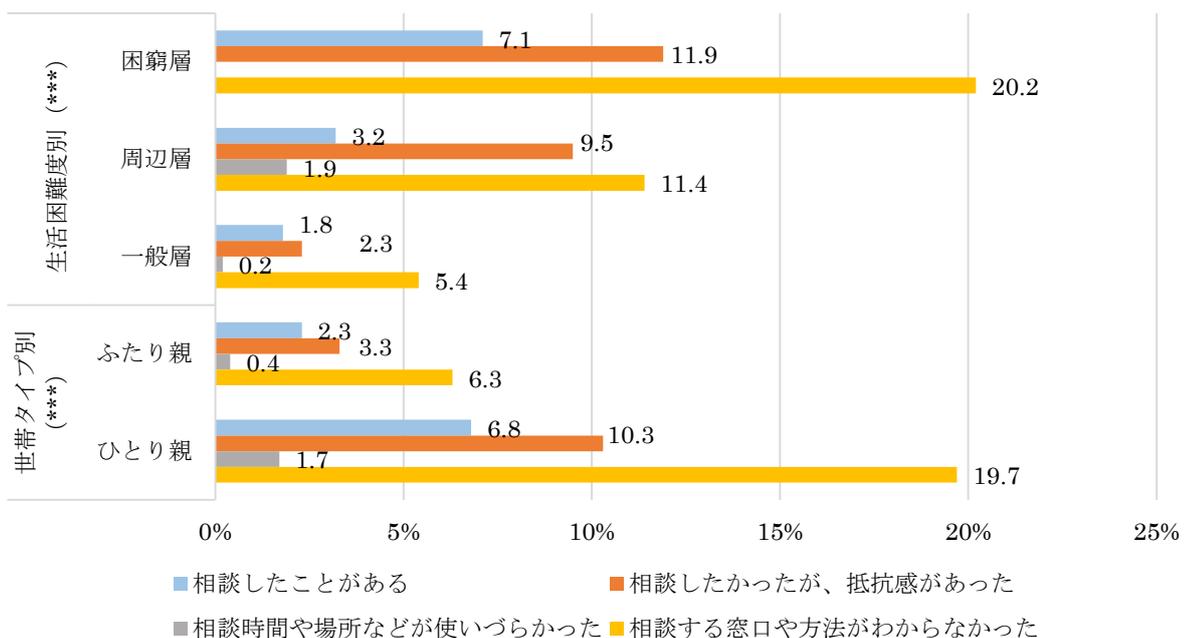


- 「E 民生委員・児童委員」について、「相談する窓口や方法がわからなかった」割合を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層（24.6%）で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」（14.2%）で「ふたり親」よりも、高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談する窓口や方法がわからなかった」割合を、生活困難度別にみると、小学5年生の保護者と同様、困窮層（20.2%）で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」（19.7%）で「ふたり親」（6.3%）よりも、高くなっている。

図表 9-3-15 民生委員・児童委員(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

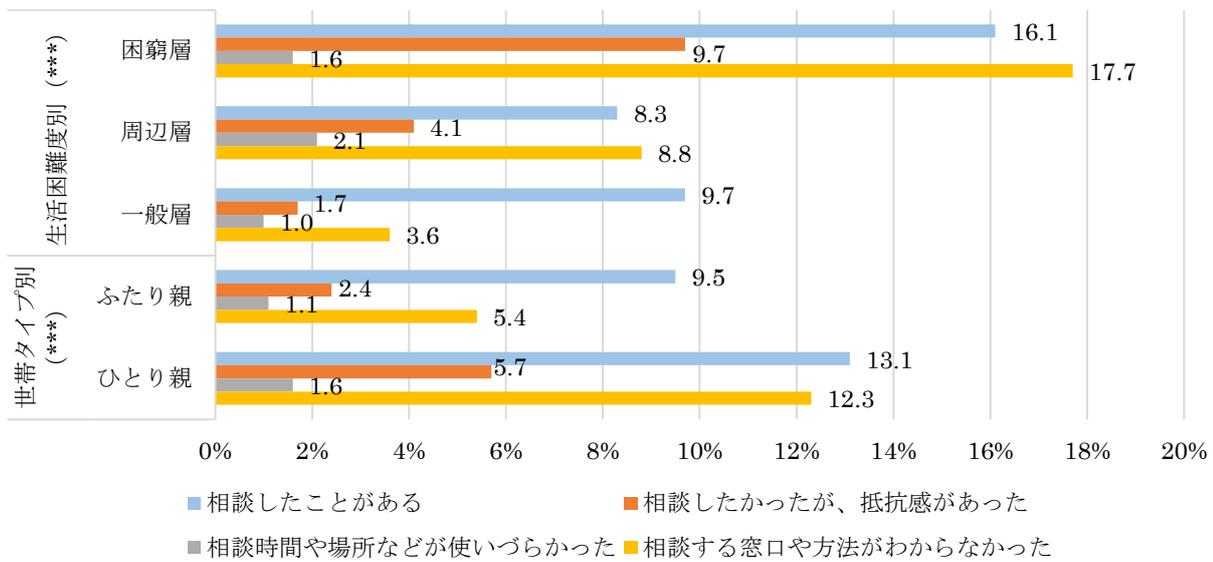


図表 9-3-16 民生委員・児童委員(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

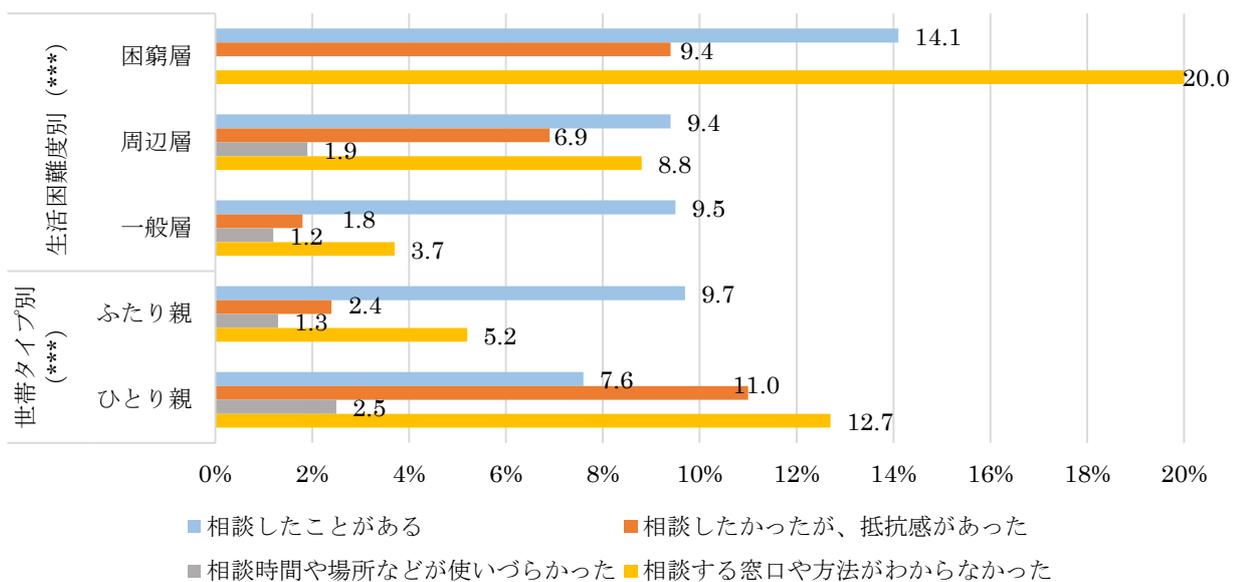


- 「F 保健所」について、「相談する窓口や方法がわからなかった」を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層で17.7%、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」で12.3%となっている。
- 「相談したかったが、抵抗感があった」を、生活困難度別にみると、困窮層で9.7%となっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談する窓口や方法がわからなかった」を生活困難度別にみると、困窮層で20.0%、世帯タイプ別にみると、ひとり親で12.7%となっている。
- 「相談したかったが、抵抗感があった」割合は、困窮層で9.4%となっている。

図表 9-3-17 F 保健所(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

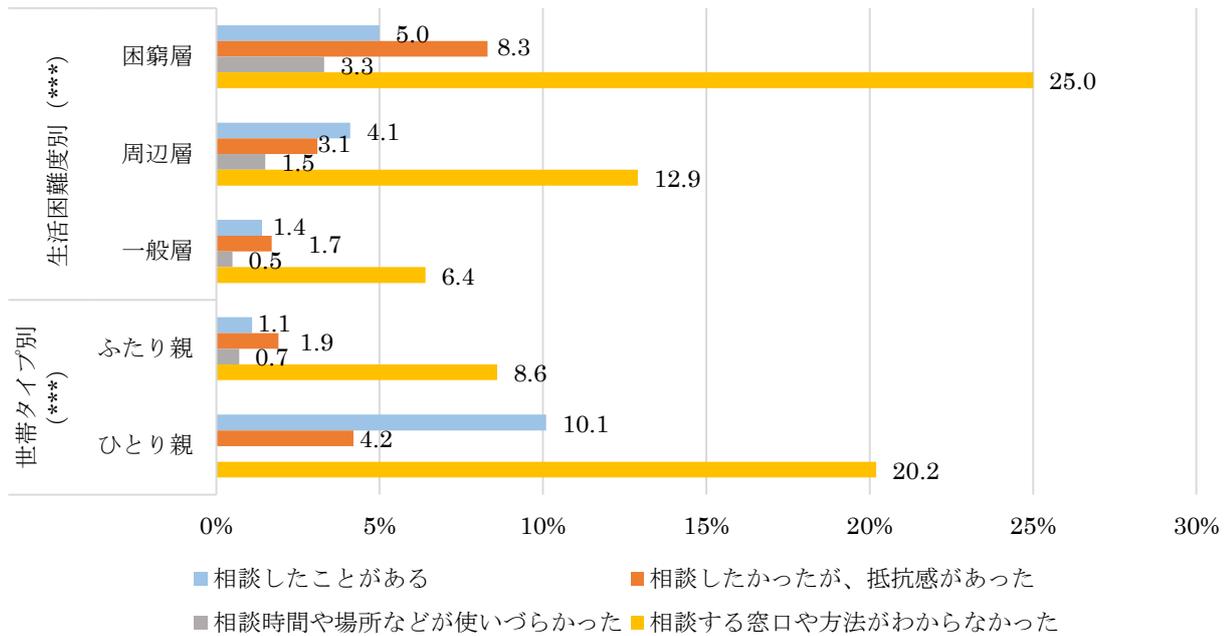


図表 9-3-18 F 保健所 (中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

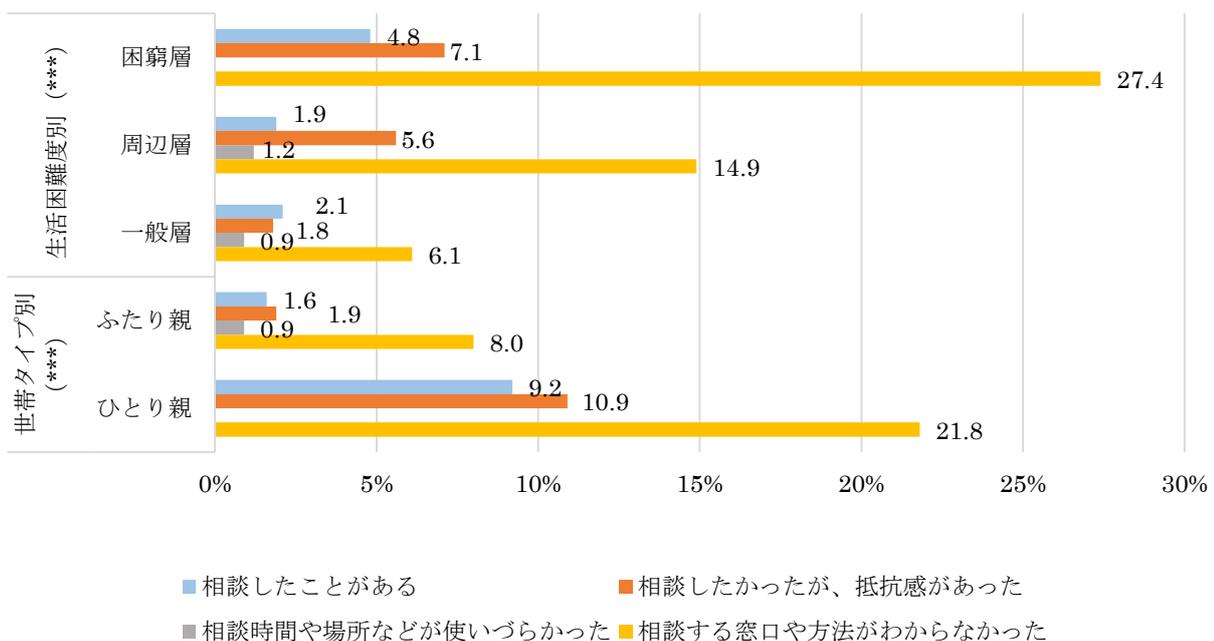


- 「G 男女共同参画センター」について、「相談したことがある」割合を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層（5.0%）、周辺層（4.1%）、一般層（1.4%）のいずれの層も、低くなっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談したことがある」割合を生活困難度別にみると、小学5年生の保護者と同様、困窮層（4.8%）、周辺層（1.9%）、一般層（2.1%）のいずれの層も、低くなっている。

図表 9-3-19 G 男女共同参画センター(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

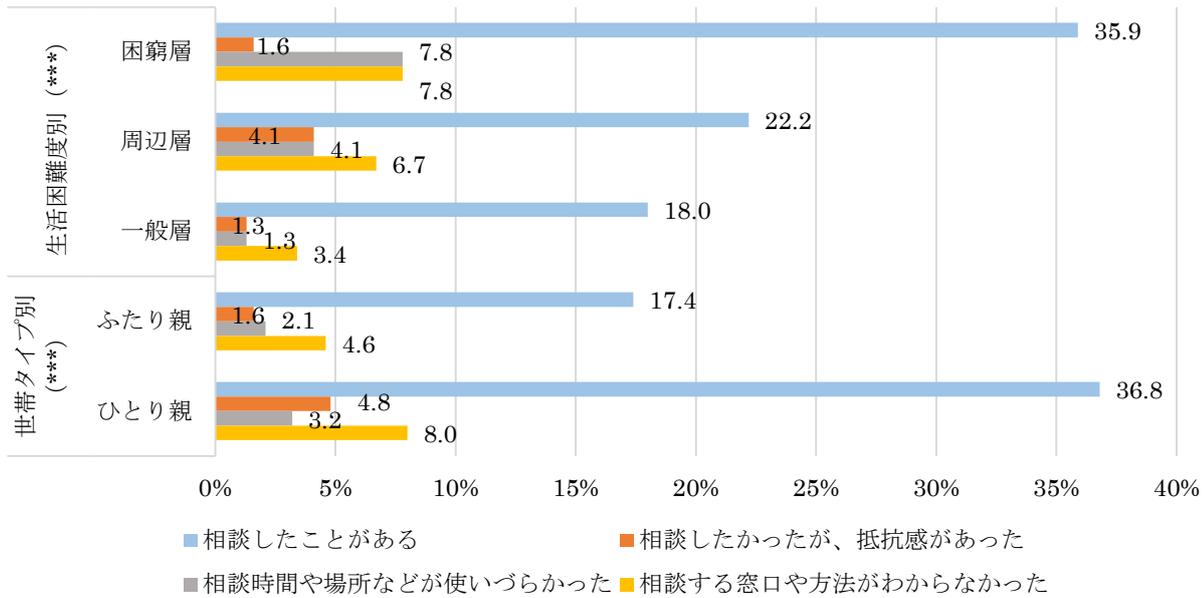


図表 9-3-20 G 男女共同参画センター(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

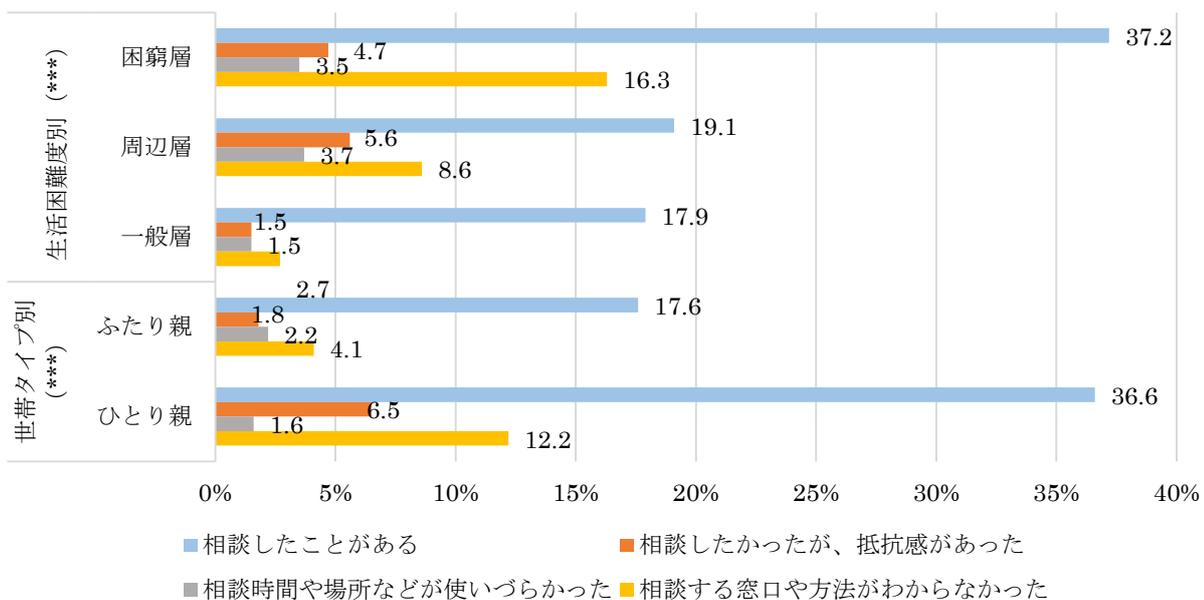


- 「H ハローワーク」について、「相談したことがある」割合を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層（35.9%）で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別にみると、「ひとり親」（36.8%）で、「ふたり親」（17.4%）よりも高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談したことがある」割合を、生活困難度別にみると、困窮層（37.2%）で、他の層よりも高くなっており、「ひとり親」（36.6%）で、「ふたり親」（17.6%）よりも高くなっている。

図表 9-3-21 H ハローワーク(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別

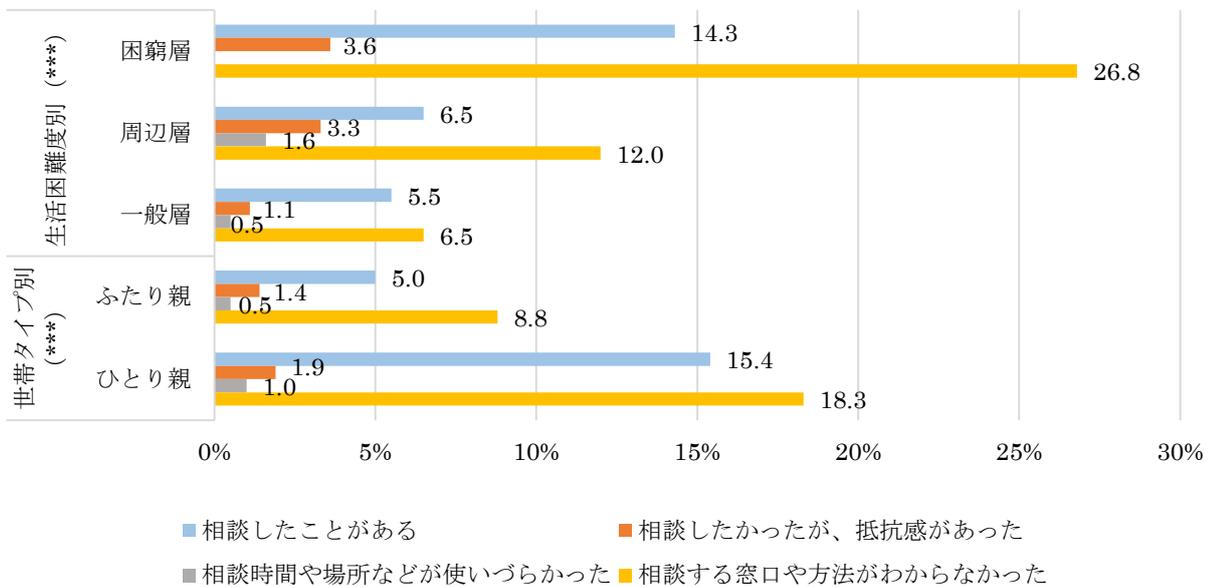


図表 9-3-22 H ハローワーク(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

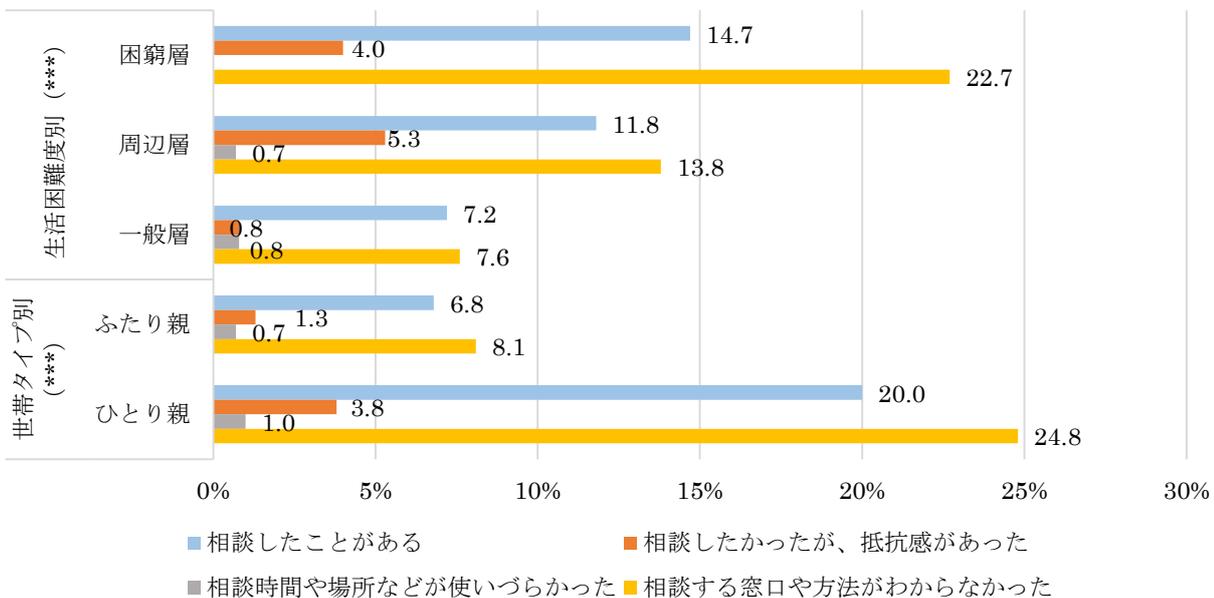


- 「上記以外の公的機関」について、「相談する窓口や方法がわからなかった」割合を、小学5年生の保護者において、生活困難度別にみると、困窮層（26.8%）で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別に見ると、「ひとり親」（18.3%）で、「ふたり親」（8.8%）よりも高くなっている。
- 中学2年生の保護者において、「相談する窓口や方法がわからなかった」割合を生活困難度別にみると、困窮層（22.7%）で、他の層よりも高くなっており、世帯タイプ別に見ると、「ひとり親」（24.8%）で、「ふたり親」（8.1%）よりも高くなっている。

図表 9-3-23 | 上記以外の公的機関(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 9-3-24 | 上記以外の公的機関(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



「子どもの生活実態調査」報告書

平成 30 年 6 月発行

発行/八王子市

作成/総合経営部 経営計画第二課

〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号

E-mail: b410600@city.hachioji.tokyo.jp